

国立民族学博物館 調査報告

153

片倉もところフィールド調査資料の研究

西尾哲夫・縄田浩志 編

国立民族学博物館

2021

はじめに

西尾哲夫¹⁾・縄田浩志²⁾³⁾

1) 国立民族学博物館, 2) 秋田大学, 3) 片倉もここ記念沙漠文化財団

国立民族学博物館名誉教授の片倉もここ(1937~2013)は、文化人類学者・人文地理学者として、サウディ・アラビアをはじめとする中東地域の遊牧民やイスラーム文化の研究に従事した。グローバル化による「人間の移動」が人文社会科学の重要テーマとなる前から、片倉はアラビア半島の沙漠でベドウィン(アラブ遊牧民)と生活をともにし、その経験を通じて「移動文化」の想を得て、生活空間に明瞭な境界を引かない移動文化が育んだ集団意識を反映する分析概念として「ゆとろぎ」という造語を試みた。グローバル化した世界が一つの価値観で覆われようとしている現在、移動による世界観をもつ人々が他者集団との共生戦略として発動させてきた文化をめぐる片倉の仕事が大きなヒントとなるであろう。

片倉もこの集約的なフィールド調査時期(1968年~1970年)は、サウディ・アラビアにおいて定住化が進み同地に社会変化の波が到達した時期と重なり、そのフィールド調査資料は当時の人々の生活状況を記録した貴重な文化遺産といえる。

本書の目的は、片倉もここによるフィールド調査資料(文書資料として野帳が4冊、メモ手帳が11冊、図面資料として手書きの地図が11点、標本資料として生活用具が243点、音響資料としてマイクロカセットが200点、カセットテープが57点、映像資料としてビデオテープが55点、8mmフィルムが9点、画像資料として写真が61,989点、計62,579点)ならびに収集による本館所蔵資料(国立民族学博物館在籍中に収集して登録・保管されている国立民族学博物館所蔵分189件、また随時収集した個人所蔵分が片倉もここ記念沙漠財団で委託管理されている243件、計432件に関する調査ならびにデータベース化を実施)と、サウディ・アラビア現地での再調査・再研究(2018年4月~5月、12月、2019年9月)を結びつけることにより、片倉もここフィールド調査資料全体の学術的特徴ならびに社会的特徴、また研究活用の具体例を明らかにすることにある。

本書の前半では、片倉もここフィールド調査資料全体の学術的特徴と社会的特徴を示し、写真資料を中心としたアーカイブ登録の意義と課題について論じる。最初の章では、片倉もここフィールド調査写真の学術的価値がいかに高く、それに応じて再調査への社会的期待がどれほど高まってこようとも、調査対象国の人々、現地社会、特に調査コミュニティとの信頼関係なしには、写真の整理と公表は続けていけないと判断され、調査コミュニティと新たな関係を構築することにより、フィールド調査資料の持つ社会的側面を認識したことが、写真資料整理そしてデジタル・ファイルのアーカイブ登録、すなわち「地域研究画像デジタルライブラリ」(略称DiPLAS)への登録へとつながって

いったことを示す。

次章では、片倉もとこフィールド調査写真を登録する際に、学術的価値と社会的価値の両方との折り合いをつけられるか、つまり先人が遺したフィールド調査資料を活用するための技術的また理論的な諸課題について議論し、元の調査者の資料収集の考え方や姿勢に寄り添いつつ、調査チームによる調査地の再訪、そして同資料の再分析・二次的利用を推進して研究成果の公開およびアーカイブ登録にこぎつけることができたのは、ワーディ・ファーティマ地域の人々との新たな信頼関係の醸成であったことを示す。

本書の後半では、片倉もとこフィールド調査資料の研究活用の具体的な道筋を示す。現地機関に収集されている生活用具との比較研究、またアーカイブ登録を行った写真資料を活用しての物質文化と景観変遷の検証を行う。後半の最初の章では、片倉もとこが収集し、現在日本で保管されている物質文化資料と、ワーディ・ファーティマ社会開発センターやジッダの私立の展示施設で保管、展示されている物質文化資料の多くは使用年代等が共通しているため、相互の情報量を増やすには比較研究を進める必要があること、そして物質文化資料は、地域文化の保存や文化多様性の維持に寄与できる情報となるため、現地の博物館学芸員や研究者の協力のもと、日本の博物館収蔵資料と同質の情報や、写真、計測、3Dデータ等を現地の研究者を中心として記録できれば、情報を共有して比較研究を推進できることを示す。

次章では、サウディ・アラビア、マッカ州、ワーディ・ファーティマ地域の過去半世紀にわたる景観変化の検証を目的として、片倉もとこフィールド調査写真の撮影地点の同定およびリピート写真撮影を実施した研究手法を概説し評価するとともに、そのデータセットに基づいて行った衛星画像との比較や、現地での聞き取り調査や、対象地域におけるおよそ半世紀の景観変化の検証について議論する。

その次の章では、ワーディ・ファーティマ地域における伝統衣服を対象として、国立民族学博物館、片倉もとこ記念沙漠文化財団のコレクションおよび個人コレクションの衣服資料についての新たな情報を得るために、現地にて保管もしくは現在も使用されている半世紀前の衣服についての情報収集、さらには半世紀前の衣服と保管者もしくは使用者の人々との関係を調査し、衣服の変化とその名称の変化およびバリエーションをまとめた結果、ワーディ・ファーティマ地域における衣服が血縁・地縁の影響を受けながら、とくに女性の衣服は個人の人生の変化と結びついて多様な変遷をたどっていることを明らかにする。

最終章では、半世紀前のワーディ・ファーティマを記録した片倉もとこの資料のなかにある映像の分析を通して、写真と比較すると片倉の調査の様子や人々との交流を感じ取ることができる点で価値が高いことを指摘する。例えば映像記録への片倉自身の意図や考えは明示されていないもののインタビュー映像との対照分析によって、片倉が被調査者と全人的にかかわりながら調査者として客観的にみつめる視点をもっていたことを

推察することができた。また、そのような画像・映像資料を一般社会に公開する意味についても議論を進め、企画展示でのアンケートの分析によって日本の一般社会の興味を引き出すことに成功したと評価する。映像作成をめぐる作成者と対象者、さらには受容者との関係性が映像記録の民族誌において重要なテーマとなっている現在、片倉の調査における映像記録の分析は重要な意味を持って来るだろう。

以上のような議論を通じて本書では、先人が収集した民族誌的なフィールド調査資料 (ethnographic fieldwork materials) に対して、フィールド調査資料を収集した最初の調査研究者による調査研究内容や資料収集・整理法の特徴を踏まえながら、次世代の調査研究者が再分析して二次的利用を行うことを目的として、同一の調査地において次世代の調査研究者が学際的な調査グループを形成して実施する再研究というアプローチの可能性とその意義について明らかにする。

なお本研究は、2016～2019 (H28～R元) 年度に国立民族学博物館客員教員として縄田浩志が「中東における自然資源の管理と物質文化の変容に関する研究」に取り組んだ研究成果の一部であり、縄田が主導して行った以下の6つの研究プロジェクトの成果にもとづいている。

- 1 国立民族学博物館共同研究会「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」(研究期間：2016年10月～2020年3月, 研究代表者：縄田浩志)

人文社会科学や理学, 工学を専門とする共同研究者と, 人間の拡散と適応, 社会組織の可変性と開放性, 物質加工の技術と担い手の交流という三つの観点から沙漠社会の移動戦略を解明した。

- 2 新学術領域研究(研究領域提案型)『学術研究支援基盤形成』研究基盤リソース支援プログラム「地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化」(中核機関：国立民族学博物館, 支援機能名「地域研究画像デジタルライブラリ(略称：DiPLAS)」)

片倉もところが中東で撮影した15,428点をアーカイブ化し, サウディ・アラビア等で約半世紀前に撮影された61,989点の写真について, 関係者から情報を集めると同時に, 利用許諾の確認をした。

- 3 国立民族学博物館「フォーラム型情報ミュージアムプロジェクト」中東地域民衆文化資料コレクションを中心とするフォーラム型情報データベース(研究期間：2017年4月～2019年3月, 研究代表者：西尾哲夫)

片倉もところが収集した資料を含む国立民族学博物館が所蔵する中東地域の民衆文化

に関する資料について、収集地域で使用してきた現地の人々と共同でデータベースを作成した。

- 4 片倉もとこ記念沙漠文化財団とアラムコ・アジア・ジャパン(株)との間で締結された「アラムコ・片倉沙漠文化協賛金」事業（研究期間：2015年1月～2019年12月）
片倉もとこ撮影写真の整理、サウディ・アラビアのワーディ・ファーティマ地域における再調査、現地に収集されている物質文化の記録等を行った。
- 5 人間文化研究機構基盤研究プロジェクト「現代中東地域研究」国立民族学博物館拠点・秋田大学拠点（研究期間：2016年4月～2022年3月，研究代表者：縄田浩志）
国内外の関係大学・機関と協力連携して、現代中東地域の文化、社会、政治、経済、環境等の現状について、学術的・総合的に調査研究を進める5つの研究拠点のうち、「中東地域における文化資源の現代的変容と個人空間の再世界化」をテーマとする国立民族学博物館拠点と「中東地域の環境問題と多面的資源観」をテーマとする秋田大学拠点の間で緊密な研究ネットワークを構築しながら、研究を推進している。
- 6 日本学術振興会科学研究費基盤研究（B）（海外学術調査）「半世紀に及ぶアラビア半島とサハラ沙漠オアシスの社会的紐帯の変化に関する実証的研究」（研究期間：2016年4月～2020年3月，研究代表者：縄田浩志）
サハラ沙漠とアラビア半島のオアシスで半世紀前から、日本の地理学、文化人類学者が収集した標本資料と研究内容を発展的に継承することにより、土地利用、生業形態、資源管理法、物質文化との関係から現代の社会的ネットワークを実証的に検証した。

サウディ・アラビアにおける現地調査は、サウディ・アラビア遺産観光庁（当時）と片倉もとこ記念沙漠文化財団の間で締結された合意書に基づいて実施された。現地調査開始当初、遺産観光庁長官（当時）として調査内容についてご理解、ご支援をいただいたスルターン・ビン・サルマーン・アブドゥルアジーズ・アールサウード殿下に万謝申し上げる。調査団を受け入れていただいたサウディ・アラビア遺産観光庁長官（当時）アフマド・ビン・アキール・アル＝ハティブ氏に深謝の意を表す。また、調査アレンジから写真利用許諾取得の方法まであらゆる面において貴重な教示をいただいた同庁研究部長アブドゥッラー・ビン・アリー・アッ＝ザフラーニー博士、そして現地調査を担当いただいたアイマン・アル＝イーターニー博士、ウマル・アル＝ハルビー氏、アブドゥッラー・アル＝アリーフィー氏に心からのお礼を申し述べたい。

ワーディ・ファーティマ地域における調査活動に対しては、マッカ州知事ハーリド・

アル＝ファイサル殿下，アル＝ジュムーム市長（当時）ウムラーン・ビン・ハサン・アッ＝ザフラーニー氏からさまざまなサポートをいただいたことに感謝の意を表す。サウディ・アラビア労働社会発展省マッカ支部長（当時）アブドゥッラー・ビン・アフマド・アールターウィ氏，アフマド・ビン・ヤヒア・サフヒー氏には，調査を支援いただき深謝する。ワーディ・ファーティマ社会開発センターの皆さまには，同センター所蔵の生活用具の撮影・資料化についての許可をいただいたのみならず，同地域のさまざまな関係者を紹介くださり，とくに半世紀前に片倉もとこが写真撮影した現地への案内，また被写体の方がたからの写真利用許諾において，多大な尽力をいただいた。センター長のファーイズ・ビン・ファウザーン・アル＝ウタイビー氏，また職員のジャーファル・アル＝ムタワッキル氏，ヤシーン・アル＝ハルビー氏に心より感謝する。

研究成果のとりまとめにあたっては，キング・ファイサル・センター研究部長サウード・ビン・サーリフ・アッ＝サルハーン博士，またファリーダ・アル＝フサイニー学芸員らから貴重な教示をいただいた。そしてワーディ・ファーティマ地域においては，アリー・アル＝ムタワッキル氏，ウサーマ・ザイニー氏，ジャミール・ザイニー氏，イーダ・アル＝ブシュリー氏，アティーン・アル＝ブシュリー氏，ファワーズ・アル＝ブシュリー氏，マージド・アッ＝サフリー氏，サーリフ・アッ＝リフヤーニー氏，ムハンマド・アブドゥッラフマーン・メレー氏をはじめ，片倉もとこ先生が結ばれた縁が半世紀を経て一層強固なものとなったことへの感慨とともに深く感謝したい。

また，ジッダにおける調査においては，服飾に関してはジッダ女子大学学長ナダ・ザルヌキー博士ならびに職員のライア・ムハンマド・メレー氏，伝統文化全般については元ワーディ・ファーティマ社会開発センター所長アブドゥッラヒーム・アル＝アフマディ氏，芸術家のサフィーヤ・ビンザグル氏に多くのご教示をいただいた。日本留学経験のあるアルワ・ウスマーン・アフマド氏とサーラ・タハ・ヌール氏，またウマル・アル＝ムルシド氏，ムハンマド・ヤーシル・アッ＝ダイバーナー氏には，メンバーへの通訳の労をとっていただいた。

片倉もとこ記念沙漠文化財団とアラムコ・アジア・ジャパン（株）との間で締結された「アラムコ・片倉沙漠文化協賛金」事業の一環として，サウディ・アラビアにおける活動をサポートいただき，いつも温かく見守っていただいたアハマド・アル＝クネイニ元代表取締役，アンワール・ヒジャズイ元代表取締役，オマール・アル＝アムーディ現代表取締役には，感謝の意を表す。サウジアラムコ附属のキング・アブドゥルアジーズ世界文化センターのライラ・アル＝ファッターグ館長（当時），イドリース・トレバサン氏には，文化遺産保護および展示方法について教示いただき感謝する。

イマーム・ムハンマド・イブン・サウード・イスラーム大学東京分校アラブ・イスラーム学院の学院長アブドゥッラー・アル＝ムバーラク博士には，物質文化の調査成果の企画展示と出版に際してご協力いただき，厚く御礼申しあげる。

ムスリム世界連盟のムハンマド・ビン・アブドゥルカリーム・アル＝イーサ事務総長には、サウディ・アラビアと日本の文化を通じた交流への理解と支援をいただき、感謝の念に堪えない。そして、アブドゥッラー国王奨学金プログラム第1期生として来日以来10年以上をかけて日本語を習得し日本社会に馴染んで勉学に勤しみつつ現在は同連盟日本支部（MWL）代表理事としてマルチに活躍されているアナス・ムハンマド・メレー博士は、マッカ生まれでワーディ・ファーティマ地域にゆかりがあることもあり、本調査の学術的意義への深い理解にもとづき、現地調査のあらゆる側面において貢献いただいた。あらためてお礼を申し述べる。

また本書におけるアラビア語のブラシュアップにおいては、シャクラ大学のスルターン・アル＝ハティーブ博士に大変お世話になった。

目 次

はじめに	西尾哲夫・縄田浩志	i
片倉もところによるサウディ・アラビア，ワーディ・ファーティマ地域を対象とする フィールド調査資料の学術的特徴について	縄田浩志・藤本悠子・河田尚子・片倉邦雄・ 古澤 文・渡邊三津子・遠藤 仁・石山 俊	1
片倉もところによるサウディ・アラビア，ワーディ・ファーティマ地域を対象とする フィールド調査資料，特に写真資料の社会的特徴について	縄田浩志・片倉邦雄・藤本悠子・河田尚子・郡司みさお・ 古澤 文・渡邊三津子・遠藤 仁・石山 俊	31
片倉もところによるサウディ・アラビア，ワーディ・ファーティマ地域を対象とする フィールド調査写真のアーカイブ登録について	縄田浩志・西尾哲夫・片倉邦雄・藤本悠子・河田尚子・ 古澤 文・渡邊三津子・遠藤 仁・石山 俊	63
国立民族学博物館収蔵片倉もところ収集資料とサウディ・アラビア，ワーディ・ファーティマ 社会開発センター所蔵生活用具との比較研究	遠藤 仁・渡邊三津子・藤本悠子・古澤 文・郡司みさお/ アナス・ムハンマド・メレー／黒田賢治・西尾哲夫・縄田浩志	87
サウディ・アラビア，ワーディ・ファーティマ地域における 衣服の変化とリバイバル	郡司みさお・藤本悠子・渡邊三津子・遠藤 仁/ アナス・ムハンマド・メレー／縄田浩志	139
片倉もところフィールド調査写真によるリピート写真撮影と新旧比較写真の作成	渡邊三津子・古澤 文・遠藤 仁・片倉邦雄・藤本悠子・ 河田尚子／アナス・ムハンマド・メレー／石山 俊・縄田浩志	173
ワーディ・ファーティマ8mm映像と片倉もところインタビュー	藤本悠子・渡邊三津子・縄田浩志	209

片倉もとこによるサウディ・アラビア、 ワーディ・ファーティマ地域を対象とする フィールド調査資料の学術的特徴について

縄田浩志¹⁾²⁾・藤本悠子²⁾・河田尚子²⁾・片倉邦雄²⁾・
古澤 文²⁾・渡邊三津子²⁾³⁾・遠藤 仁¹⁾⁴⁾・石山 俊⁵⁾

1) 秋田大学, 2) 片倉もとこ記念沙漠文化財団, 3) 奈良女子大学,
4) 人間文化研究機構, 5) 国立民族学博物館

1 長期フィールド調査研究の意義とは

同じ調査研究者が同一地域で100年以上の時間幅でフィールド調査研究を継続することは無理である。地域コミュニティ、特に伝統的共同体の集落を中心として1年以上の住み込みによる集約的なフィールド調査を実施するという方法論的特徴をもつ人類学分野では、同一地域で数十年以上の時間幅をもって持続的に調査研究を実施していくことの意義を議論し始めて久しい (Foster et al. eds. 1979; Kemper and Royce eds. 2002)。「境界を持った」コミュニティという神話と同じくらい、「典型的な」年は存在しないと言える。自然や人間の出来事は、いつでも「典型的な」年から「普通ではない」年になりうる。それ故に、1年という期間を超えて見ることは、えてして表面的な理解にとどまりやすい仮説を通してではなく、少なくとも人々が暮らしている時間幅をもって生活に寄り添い、考察することを重視する。なぜならば、人間が何年も何十年もかけてやっている実際の生活が興味深いからである (Kemper and Royce 2002a: xvii)。

Kemper and Royce (2002a) は「長期フィールド調査研究 (long-term field research)」の特徴を簡潔に以下のようにまとめている。「長期フィールド調査研究は、変化と持続 (change and persistence) を人間社会の通常特性として示し、両者の複雑さを浮き彫りにしてきた。一定期間の訪問にとどまる民族誌 (single-visit ethnography) では把握ができないやり方を通じて、倫理的な課題を慎重に取り扱い、責任感をもって活動してきた。主に応用人類学や開発学の分野へ多大な貢献をしてきた。また調査国や調査地出身の学者の参加に喜んで応じながら、学際的なアプローチを促進してきた。人類学が向きあうべき新たな研究上の問いをもたらし、新しい方法論を開拓してきた。また研究対象とする社会との時間をかけた関わりあいによって、人類学者自身も変貌することを自覚し、故に、人類学者の役割についてまた対象社会への人類学の影響について、包括的な議論をリードしてきた。要するに、フィールド調査の性質そのものを変化させてきたと言ってよい」 (Kemper and Royce 2002a: xvi)。

「長期フィールド調査研究」は「持続的な民族誌的調査研究 (sustained ethnographic

research)」と言い換えることもできるが (Kemper and Royce eds. 2002: x), 人類学的・民族学的なフィールド調査研究である点を明確にしている用語法としては、後者の方が実態を想像しやすいかもしれない。ただ、同一地域で長期的、持続的に行われてきた調査研究であっても、同じ調査研究者であるかにかかわらず調査研究が一定期間継続していることを意味する「継続研究 (continuing studies)」と、最初の調査研究者から別の調査研究者らによって引き継がれた「再研究 (restudies)」とを呼び分ける用語法があるように (Corti and Thompson 2004), 「長期」もしくは「持続的」といっても、調査研究者の関わり方の観点からいくつかのタイプに整理することができる (Kemper and Royce 2002a, 2002b; Sbriccoli 2016)。(1) 最初の調査研究者 (個人もしくは夫婦) は当初意図していたわけではないが、追跡調査 (follow-up study) を継続する中で、その調査研究者の学生や共同研究者を本人の意思で巻き込んでいって、結果として調査が継続されたケース (A. P. Royceによるメキシコ Juchitán 調査, W. Pendletonによるナミビア Katutura 調査, T. S. Epsteinによるインド Mysore 調査等), (2) 最初の調査研究者 (個人もしくは夫婦) は調査初期の段階から調査を長期的に継続することを意図しており、自身らが追跡調査を継続しつつ、主体的に調査グループを形成して共同研究を推進し、後継者に引き継いでいったケース (E. Z. Vogtによるメキシコ Chiapas 調査, G. M. Foster, R. V. Kemper, P. S. Cahnによるメキシコ Tzintzuntzan 調査, T. Scudder, E. Colson, L. Cliggettによるザンビア Gwembe 調査等), (3) 最初の調査研究者の意図や目論見というよりも、むしろ後の調査研究者が最初の調査研究者と交流を持ちつつ再研究を志向したため、結果的に継続されているケース (U. C. Johansen, R. Whiteによるトルコ Aydınlı 調査, A. C. Mayer, T. Sbriccoliによるインド Jamgod 調査等), (4) 最初の調査研究者とは時代が異なり交流できない故、最初の調査研究者の残した調査資料や研究成果を再分析しながら、次世代の調査研究者による再研究が行われて、結果的に継続されているケース (C. Kluckhohn, L. Lamphereによる米国 Navajo 調査等), がある。

他方、社会学分野を中心として、同一の個人や集団を対象にして一定の時間間隔において繰り返し質的 (定性的) 調査を行う研究は「質的縦断調査研究 (qualitative longitudinal research)」と名づけられ、その方法論的認識は深まってきている (Neale 2019; Seale et al. eds. 2004)。ただし人類学的・民族学的な継続研究の場合は、一定の時間間隔をあらかじめ設定するケースはほとんど確認できない。

他の研究者によって収集された質的データ (qualitative data) を再利用 (re-use), 再研究 (restudy) する場合、いくつかの異なった研究の方向性がある。質的データのアーカイブ化の課題についての多くの優れた論考を発表している Corti and Thompson(2004) は、(1) 記述として (description), (2) 比較調査, 再研究もしくは追跡調査として (comparative research, restudy or follow-up study), (3) 再分析もしくは二次的分析として (re-analysis or secondary analysis), (4) 調査デザインと方法論的な進展として

(research design and methodological development), (5) 検証として (verification), (6) 教育と学習として (teaching and learning), という6つにまとめている。

本稿では、先人が収集した民族誌的なフィールド調査資料 (ethnographic fieldwork materials) に対して、フィールド調査資料を収集した最初の調査研究者による調査研究内容や資料収集・整理法の特徴を踏まえながら、次世代の調査研究者が再分析して二次的利用を行うことを目的として、同一の調査地において次世代の調査研究者が学際的な調査グループを形成して実施する再研究というアプローチの可能性とその意義について議論する。再研究においては、データへの解釈をし直し、データへの新たな問いを生み出しつつ、新しいテーマを研究していくことになる。また、一定の時間が経過したが故に、元データ分析当時は可能ではなかった新しい方法を開拓することも出来る。フィールド調査資料の再分析、二次的利用に立ちはだかる課題は、対象となるフィールド調査資料の特質に大きく左右されてしまう点にある。したがって、いつ、どこで、どのような問題意識のもとに、どうやって収集されたのかといったフィールド調査資料にそなわっている学術的特徴を把握することから始めなければならない。

このような観点から、サウディ・アラビアの一定地域において数十年にわたり継続して収集された片倉もところフィールド調査資料 (The Motoko Katakura Fieldwork Materials) を対象として、その学術的特徴を明らかにしたい。

2 片倉もところフィールド調査資料の整理と再分析に向けた課題抽出

2.1 文化人類学者・人文地理学者、片倉もところ

2.1.1 片倉もところの研究歴と人物像

片倉もところ (1937~2013) は (写真1), 文化人類学者・人文地理学者として、サウディ・アラビアをはじめとする中東地域の遊牧民やイスラーム文化の研究に従事した (表1)。津田塾大学在学中のアメリカ留学の際に中東からの留学生たちと出会い、それをきっかけに、アラブ・イスラーム研究を目指した。1963年から2年間エジプト、カイロ大学文学部アラビア語学科に留学して現地語の習得に努め、1974年に東京大学大学院理学系研究科地理学専門課程博士課程を修了し理学博士を取得した。津田塾大学、国立民族学博物館、中央大学の教授を経て、国際日本文化研究センター所長を歴任した。国立民族学博物館には1981年4月から1993年3月までの12年間在籍した。国立民族学博物館、総合研究大学院大学、国際日本文化研究センターから名誉教授の称号を授与されている (河田・藤本 2019)。

片倉もところは、アラブ地域についての既存研究が都市社会もしくは沙漠の部族社会を別個に扱い、包括的なアプローチに欠けているという問題意識を持ち (片倉 1979: 28-



写真1 仔ヤギを抱いた片倉もとこ
撮影：不明，1970～1974年，ダフ・ザイニー村，KM_5571

表1 サウディ・アラビアの社会変化と片倉もとこのフィールド調査 (■印はサウディ・アラビア国内の出来事)

<p>中東とサウディ・アラビアの主要な出来事</p> <p>1932 ■サウディ・アラビア王国建国 ■初代アブドゥルアズィーズ（アブドルアジーズ）国王即位</p> <p>1938 ■アッダンマーム（ダンマン）油田の発見</p> <p>1945 第2次世界大戦終戦</p> <p>1948 第1次中東戦争</p> <p>1953 ■第2代サウード国王即位，女子教育導入，女学校設立</p> <p>1956 第2次中東戦争</p> <p>1957 ■キング・サウード大学設立</p> <p>1960 OPEC(石油輸出国機構) 設立</p> <p>1964 ■第3代ファイサル国王即位</p> <p>1965 ■テレビ放送開始</p> <p>1967 第3次中東戦争</p>	<p>片倉もとこの略歴とサウディ・アラビア調査暦</p> <p>1937年10月17日 奈良県にて誕生，上海で，幼少時から第2次大戦末期まで過ごす</p> <p>1956 津田塾大学文学部英文科入学</p> <p>1959 米国，チャタム女子大学に留学，中東，アルジェリア等からの留学生に出会い，イスラームに興味をもつ</p> <p>1962 津田塾大学卒業</p> <p>1963 エジプト，カイロ大学文学部アラビア語学科に留学（～1965） アラビスト外交官の片倉邦雄と結婚</p> <p>1960年代中頃 サウディ・アラビア，パスコ株式会社三角点測量隊に同行</p> <p>1968 中央大学大学院修士課程修了（社会学） 片倉邦雄の駐サ大使館赴任（1968年9月～1971年4月，駐サウディ・アラビア大使館1等書記官）に同行して，サウディ・アラビアへ</p> <p>1968～1970 最初のワーディ・ファーティマ地域における集約的な現地調査</p>
---	--

1969	イスラーム諸国会議機構発足 (2011「イスラーム協力機構」に改称)	1971	米国コロンビア大学中東研究所客員研究員
1973	第4次中東戦争 第1次オイルショック	1971~1975	毎年ワーディ・ファーティマ地域を訪れて調査を継続
1975	■第4代ハーリド国王即位	1974	東京大学大学院博士課程(地理学)修了・理学博士 ワーディ・ファーティマ地域での調査研究成果を博士論文にまとめる
1979	イラン・イスラーム革命 第2次オイルショック	1977	英文著書“ <i>Bedouin Village</i> ”出版
1980	イラン・イラク戦争 ■政府がアラムコ(アラビアン・アメリカン・オイル・カンパニー)を完全国有化	1978	津田塾大学学芸学部教授
1982	第5次中東戦争 ■第5代ファハド国王即位	1981	国立民族学博物館教授
1986	■国王の称号が「二聖モスクの守護者」となる	1982~1983	ワーディ・ファーティマ地域再訪、物質文化資料収集
1989	マルタ会談により冷戦終結	1985~1986	カナダ、プリティッシュ・コロンビア大学客員教授
1990	湾岸戦争開戦(1991停戦)	1987~1988	ワーディ・ファーティマ地域再訪、物質文化資料収集
1992	■統治基本法、諮問評議会及び地方制度法の制定	1987~1989	アラブ首長国連邦アブー・ザビー、アラブ文献研究センター客員研究員
2000	■観光委員会(のちの遺産観光庁)発足	1993	国立民族学博物館退職、以後名誉教授に。中央大学総合政策学部教授
2001	アメリカ同時多発テロ事件	1996	アラビア語著書“ <i>Ahal al-Wādī</i> ”出版
2003	イラク戦争	2003	ワーディ・ファーティマ地域再訪
2005	■第6代アブドゥッラー(アブドゥラー)国王即位、地方議会選挙開始国王奨学金プログラム開始(2007年~日本への留学開始)	2005~2008	国際日本文化研究センター所長
2010	チュニジアでジャスミン革命(アラブの春~2013)	2008	サウディ・アラビア首都アッリヤード(リヤド)で開催の第6回日本・アラブ対話フォーラム参加
2011	■国立総合女子大学プリンセス・ヌーラ・ビント・アブドゥッラフマーン大学設立	2013年2月23日	永遠のフィールドワークへ旅だつ
2012	■ロンドン五輪、初めてサウディ・アラビア女性選手が参加	2015年3月	片倉もところ記念沙漠文化財団メンバーがワーディ・ファーティマ地域を訪問
2013	■諮問評議会に女性議員30名任命	2018年4月~5月	ワーディ・ファーティマ地域再調査(第1回)
2015	■第7代サルマーン(サルマン)国王即位	2018年12月~2019年1月	ワーディ・ファーティマ地域再調査(第2回)
2016	■「ビジョン2030」発表	2019年6月	企画展「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年」を大阪、国立民族学博物館にて開催(~2019年9月)
2018	■映画館が35年ぶりに復活	2019年9月	ワーディ・ファーティマ地域再調査(第3回)
2018	■女性の運転免許解禁	2019年10月	企画展「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年」を横浜ユーラシア文化館にて開催(~2019年12月)
2019	■アッリヤード(リヤド)国際マラソンに女性も初めて参加可能に		



図1 サウディ・アラビアとワーディ・ファーティマ地域 (出典：渡邊・縄田 2019)



写真2 緑しげるワーディ・ファーティマにたたずむ片倉もとこ
 撮影：不明，1975年2～3月，ワーディ・ファーティマ，KM_3910

29), 両者が関わり合う地域としてサウディ・アラビア, マッカ州のワーディ・ファーティマ地域を調査地として選定した(図1)。男性と女性の生活空間が厳重に分かれている社会において, 女性が単身で調査研究を行うのは大変困難であるとされたが, 片倉もところは1968年12月~1970年8月にかけての20ヶ月間にわたり, 集約的なフィールド調査をなしとげ, その後も1971~1975年にかけて毎年のように同地を訪れ, 1982~1983年, 1988年, そして2003年にも再訪している(写真2)。片倉もところの集約的なフィールド調査時期は, サウディ・アラビア社会に変化の波が到達した時期と重なり, 片倉もところのフィールド調査資料は当時の人々の生活状況を記録した貴重な文化遺産となっている(河田・藤本 2019; 片倉/メレー 2019)。

2.1.2 主な著作と考察

片倉もところの主な著作と考察は, 以下のようにまとめられる。

サウディ・アラビア, ワーディ・ファーティマ地域を対象とした調査は, 英文単著『*Bedouin Village, A Study of Saudi Arabian People in Transition*』(Katakura 1977, アラビア語版は1996年)として出版されており, 片倉もところの研究業績の主軸となるものである。アラビア半島の遊牧社会での長期フィールド調査の成果に基づいて執筆した学位論文をもとにしており, 定住化がすすむ遊牧民社会を記録した文化人類学的・人文地理学的研究として, 国際的に高い評価を受けた (James 1978)。サウディ・アラビア西部ワーディ・ファーティマ地域の歴史的背景, 経済システムの変容, 親族関係等の社会的側面を, 特に女性人類学者の視点で初めて明らかにした民族誌情報によって, 現在では当該分野の古典となっている(牧野 1979: 157-160; 宮治 1977: 84; Altorki and Cole 1989: 3; Eid, Fallatah, and Yamada 2020: 2)。アラビア語版は, 現地の大学で教科書としても長年利用されてきた。

片倉もところ自身の言葉を借りれば(片倉 1979: 5), 同書を定量的データによる「骨」とすれば, 定性的データによる「肉づけ」として日本語で一般向けに書き下ろしたのが『アラビア・ノート』(片倉 1979)であった。日本においてほとんど知られていなかったアラビアの人々の普段着の生きいきとした生活や独自の文化を, やわらかな日本語でわかりやすく紹介した画期的な作品として, 複数の学術賞を受賞した(河田他 2019)。

また, 中東各地でのフィールドワークで得た知見をもとに, 世界に広がったムスリムの日常生活, 価値観, 人間観をわかりやすくまとめ, 「イスラーム的近代化」について展望した『イスラームの日常世界』(片倉 1991)は, 日本におけるイスラーム理解の醸成に多大な貢献をし, 今もなお広く読み継がれている。朝鮮語にも翻訳, 出版された。同年, アラブ・イスラーム研究に新境地を開拓したことが評価され, 大同生命地域研究奨励賞(1991)が授与された。

アラビアの沙漠から海に出て行った「海のベドウィン」の存在を明らかにした論考(片

倉 1988) は、「学問的スクープ」と評された (安東 1989)。イスラーム世界における「動」の文化について考察を深めた『移動文化』考』(片倉 1998) においては、イスラーム世界のみならず日本における「動」の文化についても考察を広げた。

半世紀ちかくにわたる研究生活の中で、片倉もところは人々の生活と文化に密着した、しなやかな実証研究を独自のスタイルで築きあげてきた。人間への優しいまなざしと、文化、文明への洞察の深さに満ちたその仕事は、アラブ、イスラーム世界に限らず、概して非欧米社会への偏見と誤解に縛られやすい日本において、異文化理解と比較文明への社会的な関心を引き寄せた (後藤 1992)。

なかでも片倉もところの造語である「ゆとろぎ」は、日本社会に新たな生き方を提起した (片倉 2008; 2009)。アラビア語で「休息」を意味する「ラーハ」を片倉もところが日本語に訳した造語が「ゆとろぎ」で、「ゆとり」と「くつろぎ」を足して「りくつ (理屈)」をひいたものである。片倉もところは、数十年にわたる世界各地でのフィールドワークから、アラビアの遊牧民が人生で最も大事にしているのが「ラーハ」であると気がついたという (片倉 2009: 101-106)。とかく「りくつ」に縛られがちな日本で「ゆとり」や「くつろぎ」というと、受動的なニュアンスが感じられるが、アラビアでの「ラーハ」は、暮らしのなかで能動的に掴み取るといった積極的な意味合いで用いられる (片倉 2008: 8)。

病に倒れながらも、自分自身をあらゆる角度から見つめ直してフィールドワークし続けた『旅だちの記』(2013) が遺作となった。自身の死をも考察対象としつつ、人々に語り伝えた内容は、孤高の人類学者が到達しえた、唯一無二の輝きを放っている。

日本語の著作において「荒野に生きる女たち」、「遊牧の女性」、「アラビアの砂漠に生きる人たち」、「沙漠に生きるベドウィン」等の表題の下に紹介されている民族誌的なエピソードのほとんどは、ワーディ・ファーティマ地域で実施したフィールドワークに基づいている。ワーディ・ファーティマ地域における民族誌もしくは地誌としての記述と考察は、英語・アラビア語の著作としてまとまった形で公表された一方、日本語においては同様の形態ではまとめられることはなかった。日本語では、例えば集落の成立 (片倉 1974)、住居のタイプ (片倉 1982)、族的結合 (片倉 1985) といった個別のテーマごとに公表されたのである。結果として、定性的データの「肉づけ」の内容は日本において広く知られ評価が定まっているが (清水 2004)、定量的データの「骨」の部分は学術的には未評価の部分が残されていると判断できる。他方、少なくとも国際的にみて、また調査対象地の関係者からは、英語とアラビア語で執筆された著作における記述と考察こそが、片倉もところの主な研究成果であると認識、評価されていることは紛れのない事実である。

2.2 サウディ・アラビア，ワーディ・ファーティマ地域

2.2.1 オアシス社会の歴史

アラビア半島は世界最大の半島で、その面積はおよそ324万 km²におよぶ。半島のおよそ3分の2をサウディ・アラビアが占め、その南方から東方に、イエメン、オマーン、アラブ首長国連邦、カタール、クウェート、バーレーンが接する。アラビア半島西部には紅海、南部にはアラビア海、東部にはペルシャ湾（アラビア湾）がある。その地勢は、西が高く東が低い傾向を示し、紅海沿岸地域にはヒジャーズ山地、アシール山地等が連なり、山地の東側には台地が広がっている（Stacey International and al-Trurath 2006）。

アラビア半島を流れる河川は、総じて雨が降った時だけ水が流れる季節河川であるが、ひとたび上流や山地のどこかで雨が降ると一気に水が流れ下ってくるため、沙漠では洪水により人や家畜が溺死するケースも多い。このように雨が降った時に水が流れる渓谷や谷筋のことを、アラビア語でワーディ（涸れ谷、涸れ川）と呼ぶ。流れる水は伏流して地下水を涵養するため、ワーディは、降水量の少ない乾燥地にあつて比較的水に恵まれた場所であり、アラビア半島では、このような場所に緑のオアシスが形成される（渡邊・縄田 2019）。

アラビア半島西部に位置する調査地ワーディ・ファーティマは、水と緑に恵まれたオアシス社会が長期にわたり形成された地域として知られる（図2）。イスラームの聖地マッカやマディーナと紅海に臨む港町ジッダを結ぶ交通路の途上に位置する。約3,000年前

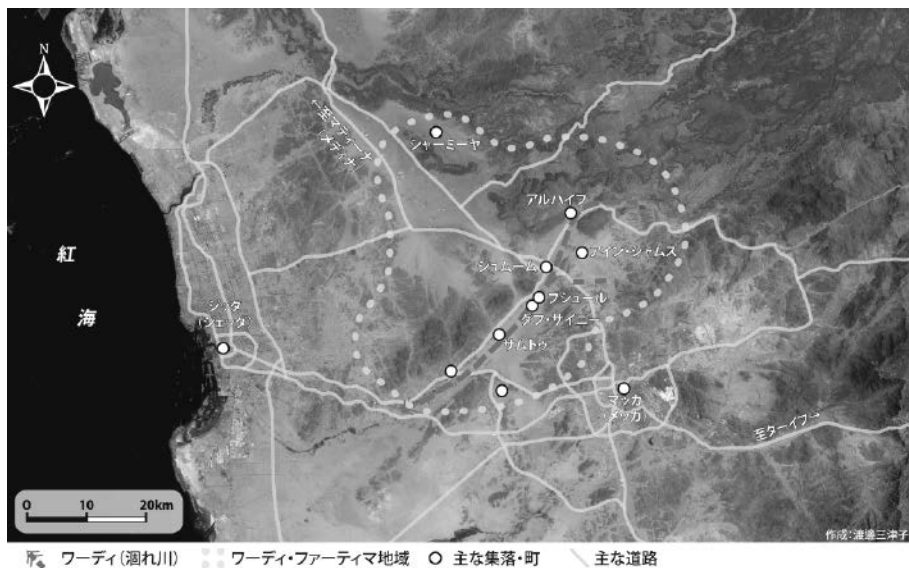


図2 ワーディ・ファーティマ地域と片倉もところの主な調査地（出典：縄田・渡邊他 2019）

から同地を訪れる商人たちでにぎわう一大市場スーク・ムジャンナが築かれ、交易の通り道として栄え、イスラーム時代以降は、マッカへの巡礼の道として、多くの人々に利用されてきた（東京国立博物館他編 2018）。11世紀の地理学者バクリーによればイスラームの成立前、この地域は水が多少苦い（マッラ）というイメージがあり、「マッラ・ダハラーン（水が多少苦いワーディ）」の呼び名で知られていたという（Al-Bakrī 1983）。最近では、旧石器時代や交易路沿いの遺跡の発掘も進んでおり、数千年以上の時間幅での人間活動の痕跡が認められる地域である（縄田・渡邊他 2019）。

1932年のサウディ・アラビア建国、そして1950年代から1970年代初めにかけて、化石燃料資源の採掘に経済を大きく依存し始めることにより生活全般が急激に変容していった。その渦中にある伝統的共同体、村社会に住み込んで実施された民族誌的なフィールド調査研究の例は限定される（コウル 1982; Dickson 1949）。アラビア半島全体をみわたしても、特に、男女の生活空間の分離が明確なムスリム社会において、女性人類学者として女性たちと生活を共にしつつ収集したアラブ遊牧民やオアシス社会に関する一次調査資料の稀少性は際立っており、1980年代に実施されたサウディ・アラビア北部オアシス社会に関する研究（Altorki and Cole 1989）、また1990年代になってオマーンで調査した女性人類学者による遊牧社会の変化と開発計画に関する研究（Chatty 1996）を除いて、他に類例がない。

地名の由来については、その昔、フザーア族のファーティマという勇ましい女性騎士がいて、ワーディのある沙漠の一角を占領した。それ以来、ワーディ・ファーティマと呼ばれてきたという（片倉 1987: 14-15）。

2.2.2 遊牧民集落の存在

片倉もこの最初の調査時1968～1970年頃にはワーディ・ファーティマ地域には31の集落があり、人口は20,000人弱であった（Katakura 1977: 58）。当時、定着集落に成りつつあったブシュール村周辺において、部族（アシーラもしくはガビエラ）の領地意識が残っていた。クライシュの子孫であるというアシュラーフ族、アンサールの子孫であるというシュユーフ族、他にもハルブ族またフザーア族の集まりがあり、自分たちの領域とか牧草地に対する占有権を持っていた。ただし、一つの大きな領地を持っているというのではなくて、むしろ飛び地が非常に多かった。また同時に、例えば方言だとか衣服、挨拶の仕方、昔からの詩のスタイル、織物のスタイル等には、文化的な共通性が見られたという（片倉 1974）。

さらに部族自体の中に、支族（アーイラもしくはアシーラ）単位の集団としてブシュリー、ムアッパディ、ラヒーリ等が、ハルブ族の場合にはあり、お互いに社会的な関係を持ちつつも、住みわけもしていた（図3）。部族間・支族間には、社会的関係が強い場合と弱い場合があり、また社会的関係とは全く分離した形でもって、経済的関係を取り

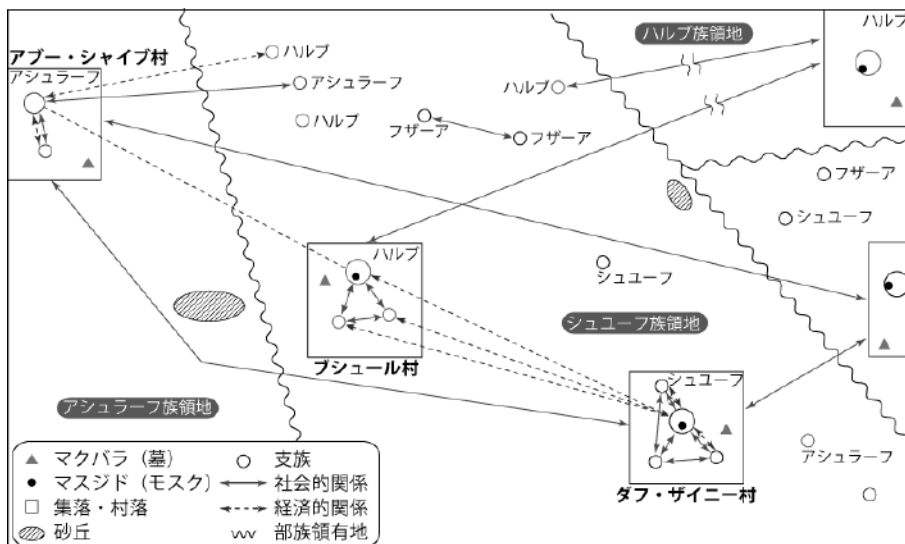


図3 ワーディ・ファーティマ地域フシュール村周辺において1968～1970年頃に観察された部族の領地意識と支族間の社会的・経済的関係性についての概略 (出典：Katakura 1977; 片倉 1974; 縄田編 2019)

持つ場合とそうでない場合があったのである (片倉 1974)。また、そのような定住化した人たちの間には、方言や衣服という場合には、支族さらには部族単位にとどまらない、地域性と呼べる重なり合いも観察されたという。近くに住むものたちは割合よく似た服装をし、お互いに影響し合い、流行の服装を取り入れることもあったのである (片倉 1985)。

片倉もところは当時のサウディ・アラビアにおける遊牧民を、生活、換金物、家畜、地域 (地形や自然要因のこと) のそれぞれの特色に基づいて、「完全遊牧民」／「半遊牧民」／「定着遊牧民」／「都市定着民」にわけて、それぞれの間の可変性について考察した (図4)。ワーディ・ファーティマ地域において集約的な調査対象とした人々は、井戸に依存する農業を行い、定着集落をつくり、副業としてはナツメヤシ製のうちわや敷物等を製作する「定着遊牧民」であり、「遊牧民集落」(すなわち Bedouin village) を形成していると概念化したのである。「遊牧民集落という時、完全または半遊牧民であったものが定着した集落という意味ではなく、将来において、定着から移動生活への可逆性をもっていることも同時に意味」(片倉 1974: 134) している (縄田 2019)。

	生活手段	換金物	家畜 (1世帯平均)	地域
完全遊牧民 ↑	・牧畜（水、草を追って遊牧移動）	・サムナ（ガナムの乳脂） ・マディーレ （ガナム、ラクダの乳のかす*を干したもの） ・スーフ（ガナムの毛） ・ワフル（ラクダの毛） ・ラクダ ・ガナム（ヤギ、ヒツジ）	・ラクダ20頭以上 ・ガナム（ヤギ、ヒツジ） 100頭以上	・砂沙漠 ・岩石沙漠 （アンナフード地方に多い）
半遊牧民 ↑	・降雨に依存する農業（アサリ） ・出かせぎ ・猟（鳥等自給用） ・養蜂（山岳地のみ） ・牧畜	・農作物（スイカ、飼料） ・労働力 ・養蜂 ・牛ふん（肥料用） ・ウシ（食肉用）	・ラクダ3頭以下 ・ガナム50頭以下 ・ウシ1~2頭	・ワーディ ・山岳地帯 ・都市近郊（ヒジャーズ地方、 東部地方に多い）
定着牧民 ↑	・オアシス、井戸に依存する農業 （定住集落をつくる） ・副業（ナツメヤシのうちわ、 敷物等の製作）	・農作物 ・ウシ（食肉用） ・ロバ ・ハト、ニワトリ、卵 ・労働力（農業労働者として） ・ナツメヤシのうちわ、ナツメヤシの敷物	・ガナム2~10頭 ・ロバ1~2頭 ・ウシ1~2頭 ・ウサギ、ハト、ニワトリ	・オアシス ・ワーディ （半島南部、東部に多い）
都市定住民	・給料所得 ・商業	・労働力 ・商品 ・土地	・ハト、ニワトリ、ウサギ	・海岸地帯 ・盆地 ・オアシス近郊

1968-70年頃サウディ・アラビアにおける遊牧民の生活様式の変化の図式

出典：片倉 1974、表1をもとに加筆修正 *「ラクダの乳のかす」とは、おそらく酸乳の沈殿を乾固させたもの

⇕可逆性を示す

図4 1968~1970年頃のサウディ・アラビアにおける遊牧民の生活様式の変化の図式（出典：縄田編 2019）

2.2.3 地名／民族集団名／人名に対する実名／仮名／匿名表記の選択

片倉もとこがワーディ・ファーティマでのフィールド調査の成果をまとめた主要3点の著作を対象に、まず地名の取扱いという観点から特徴を整理してみる。3点はすべて1968~1970年の調査に基づくが、人文地理学の問題意識とアプローチによる博士論文をもとに出版した英語版（Katakura 1977）、日本の読者向けに文化人類学的なモノグラフとして伝えた日本語版（片倉 1979）、そしてサウディ・アラビア、とくに現地ワーディ・ファーティマの人々に向けて出版したアラビア語版（Katakura 1996）において、書名の選び方、地名の記述の仕方が異なっている。

英語版タイトルは『遊牧民集落』、アラビア語版タイトルは『ワーディの人々』、日本語版タイトルは『アラビア・ノート』である。

たとえば調査地であった「ワーディ・ファーティマ」について、片倉もとこは英語版およびアラビア語版では“Wādi Fātima”と“Wādī Fātīma”を使用した。一方、日本語版では「ワーディ・ハディージャ」と別名を付している。ファーティマという人名の部分を、日本語版では当地で一般的な女性名の一つハディージャに置き換えることにより、実名を匿名化しているのである（片倉 1979: 13）。また、英語版およびアラビア語版において、ワーディ・ファーティマ地域の一角を占め片倉もとこの主な調査対象の集落の1つであった「ダフ・ザイニー（Daf Zayny）」という村名についても、『アラビア・ノート』では「ダフ・ズバイダ」と仮名をあてているが（片倉 1979: 13）、ザイニーは、民

族集団の名称であることから、他の民族集団名ズバイダを代用したと考えられる。日本語における他の論文においても、「ダフ・ザイナー」は「ダフ・ズバイダ」に、また「ブシュール (Bushūr)」という集落名については「ウサイダ」という仮名に替えられている (片倉 1974)。

片倉もところは英語版およびアラビア語版の序文において「調査した集落とそのメンバーの名称は架空である」としている。また日本語版の序文においては「地名、人名は、その名前自体に意味のあることでもあり、実名で記しておきたい誘惑にかられたが、愛する人たちに迷惑がかかってはならないと、すべて仮名にした」と述べている。つまり、英語版およびアラビア語版においては、集落名とそのメンバーの人名が、日本語版においては全ての地名と人名は実名ではないこと、つまり匿名化していることを明確にしているのである。ただし、日本語の他の論文においては、実際は実名ではない「ワーディ・ハディージャ」、 「ダフ・ズバイダ」、 「ウサイダ」といった仮名を用いている場合に、それらが実名ではないと著作や論文の中で明記しているわけではないため (片倉 1974; 1979)、実名が匿名化された記述であると読者は必ずしも認識することはできない形になっている。また地域名「ワーディ・ファーティマ」が実名で表記されている場合もあるので、少なくとも集落レベルの地名や人名に関しては仮名としていると判断できる。

よって基本的に片倉もところは、著作において地域名を記述する際、人文地理学的な報告においては基本的に実名を使用し、文化人類学的にまとめる場合は、たとえ日本語で記述する際でも社会関係に重点をおいた記述が多いため、集落名に加えて地域名も仮名とすることで調査対象社会に配慮していたと推測される (縄田・藤本他 印刷中)。

次に、部族もしくは支族単位の民族集団名について検討してみると、英語版およびアラビア語版では、基本的に実名を用いていると考えられる。日本語版においても、上記のように調査地域や集落名、また人名を仮名にした上で、民族集団名は実名を示していると思われる。

一方、人名については、基本的に匿名化しているものの、使用言語、著作、人物によっては、実名と仮名と匿名を併用していると判断される。親交の深かった、ある女性 (ここではAとする) のケースをみると以下ようになる。

英語版では、ワーディ・ファーティマの祭事に関する記述の中で、毎年断食月明けに既婚女性たちが数名で仲間のもとを訪れ、楽器をいきなり鳴らし詩の合戦をするという「乙女のまつり」を取りあげ、中心人物を「アーティガ (‘Ātīga)」, 訪問される側を「ファーティマ (Fātima)」としている (Katakura 1977: 99)。一方、日本語版では、訪問される側は同じファーティマだが、訪問側の中心はAの実名をあげており (実名であることは、2018年に実施したワーディ・ファーティマ地域再調査において確認した。), 片倉も一緒に加わっていたエピソードが加えられている (片倉 1979: 156-158)。

一方、縁談のエピソードを記述する際に、英語版は、主役の女性を「ある少女」とし

て匿名で登場させ、結婚に最適な相手である父方のいとこからの結婚の申込を断わり、幼いころから相思の仲であった母方のいとこの結婚を成就させた例として挙げている (Katakura 1977: 83-84)。同じ例が日本語版においても言及されているが、少女は「浅黒い顔に利発そうな瞳をやどしたA」と表現され、縁談が実っていく様子が生きいきと描きだされている (片倉 1979: 85-86)。

両エピソードとも特徴的なライフイベントであり、モノグラフにおいて肉づけされた記述は、片倉もとこがコミュニティーに入りこみ、地域の中でもとくにこの女性 (A) と醸成していった信頼関係があってこそ観察し、記録、分析することができた内容といえる。そのため、著書に写真を掲載する場合と同様に、この女性自身から許可を得た上で、日本語版では実名で表記したのではないかと想像できる余地が残されている。ただしアラビア語においては、自身の名前に続き、父や祖父や父祖の名と続くことにより、いわゆるフルネームとなるため、自身の名前がたとえ本人の実名であったとしても、個人が同定できるものではない。したがって、たとえAという自身の名前が実名であったとしても、個人同定ができるものではないため、実質、仮名にとどまっているとも判断される。

また場合によっては一個人、もしくは何人かのエピソードをさしきわりのない程度に一つの仮名を用いて再構成することもあったと考えられる。例えば、日本語版ではスウスウという名の子供が何度か登場するが、これは特定の子供の名前ではなく、子供によくつけられるあだ名のようなものであるため、一人の仮名の下に実際は複数の子供のエピソードを記述したと推測できる。

本稿では上記のように、「ある女性」を「A」と表記する方法をとったが、片倉もとこは実名を仮名に置き換えることはあっても、「A集落」や「B部族」や「C氏」といったようにアルファベット記号を用いて、文章の中では地名、民族集団名、人名のいずれも匿名化することは皆無であった。ただし図表を用いて集落の世帯別、世帯主別に集落の形成過程等进行分析する際には、それぞれを番号で示したり、地名や民族集団名の略号としてアルファベット記号をあてる方法は、英語版、アラビア語また日本語論文 (片倉 1974) のいずれにおいても採用している。

このように、片倉もとこの人物名の取扱いについては、地名と異なり、人文地理学的報告においても文化人類学的報告においても仮名とすることが基本であったが、ある少女と匿名化して記述することもあり、場合によっては実名を用いた可能性さえも残されている。とはいっても、文化人類学的アプローチによる記述においては、自身が見聞きした光景や経験をもとに、対象となる人物との信頼関係をそこなわないことを第一優先として最大限の注意を払っていたと考えられる (藤本他 印刷中)。

2.3 片倉もところフィールド調査資料の再分析にいたる経緯

2.3.1 片倉もところの遺志による片倉もところ記念沙漠文化財団の設立

アラビア半島から世界に広がるアラブ・ムスリム社会を追いかけてきた片倉もところだが、晩年には、「沙漠が自分の原点である」として、不毛の地、緑化や開発をするべき土地としてではなく、沙漠そのものの美しさをひきだしたい、沙漠に住む人々の文化を大切にしたいと強く願うようになった（片倉 2008: 159-164; 2013: 183）。とくに若手研究者に「沙漠そのもののうつくしさをひきだす」研究をと願い、その支援として財団の設立に遺産を使ってほしいと遺言を作成した。その遺言に則り、2013年11月に「片倉もところ記念沙漠文化財団」が設立された。(1) 沙漠文化に関する調査および学際的研究の支援、(2) 沙漠文化に関する芸術活動支援、(3) 沙漠文化に関する講演会、展示会、研究発表会、セミナーシンポジウム、学校への出張授業等の開催、(4) 沙漠文化に関する国内外出版物の刊行支援、(5) 片倉もところ研究資料の整理・公表寄贈に関する事業、等の活動を行い、現在にいたっている（片倉もところ記念沙漠文化財団事務局 2013）。

強調しておきたいのは、同財団の設立によって、片倉もところ調査資料に基づくワーディ・ファーティマ地域再調査への道が拓かれたことである。ただし同時に明確にしなければならないことは、片倉もところの遺言の中に、自身の調査研究資料を若手研究者に引き継いでもらい、ワーディ・ファーティマ地域を対象にした調査研究をこれからも続けてほしいという遺志は必ずしも読み取れなかった点である。むしろ、広く「沙漠そのもののうつくしさをひきだす」研究の発展を願っていたと思える。もちろん財団は遺志に基づいて、「若手研究助成」と「一般活動助成」を創設し、次世代による沙漠文化研究の活性化に力を注いでいる。

それでも片倉もところ記念沙漠文化財団の活動が、ワーディ・ファーティマ地域の再調査へとつながっていったのには、複数の背景がある。その大きなきっかけは、当時の調査研究の最大の協力者であったサウディ・アラビアの方との交流の再開にあり、さらにその方の尽力によって、新しい調査グループがワーディ・ファーティマ地域を再訪する機会が創出されたことにある。

2.3.2 フィールド調査関係者との交流再開

一周忌にあたる2014年2月に、片倉もところ記念沙漠文化財団の設立披露パーティーが東京で開催された。それにあわせてサウディ・アラビアより、片倉もところフィールド調査における最大の協力者アブドゥッラヒーム・アル＝アフマディ氏と、その娘であり現在は議員（2013年、国王勅令により選ばれた30名、全体の20%に当たる諮問評議会初の女性議員）の1人として活躍しているハナーン・アル＝アフマディ博士、そして彼女の夫で共に公衆衛生の学位保持者であるタラール・アル＝アフマディ博士を招聘した（写真3）。



写真3 片倉もとこ記念沙漠文化財団設立披露パーティーにおいて片倉邦雄（右）とアブドゥッラヒーム・アル＝アフマディ（左）両氏がこれまでの交流について語る
 撮影：藤本悠子，2014年2月21日，東京

アブドゥッラヒーム氏は、帰国して直ちに印象記を地元メディアに投稿した。終始一貫して応援してきた片倉もとこフィールド調査を回想するとともに、日本の研究者たちが、1万kmも離れた、しかも沙漠文化には程遠い湿潤な文化環境の中で、地元のわれわれが圧倒的な石油文明の中でほぼ忘れかけているアラブの伝統と文化をこんなに熱心に追究しようとするのは誠に新鮮な驚きだったと述懐している（アル・アフマディ 2014）。ハナーン博士は、片倉もとこがサウディ・アラビアでフィールド調査をしていたころ自分はまだ子供だったが、「アンティエ・モトコ」（もとおばちゃん）と呼んで慕っていたこと、また米国留学中に大学の図書館で『*Bedouin Village*』を発見し夢中で読んだこと等、思い出話を温かく語った（郡司 2014）。

アブドゥッラヒーム氏は、片倉もとこが調査した当時のワーディ・ファーティマ社会開発センター所長として、彼女のフィールド調査を様々な角度から支援した。片倉もとこ・片倉邦雄夫妻との交流は終わることなく、1977年には渡日したこともあったが、手紙・電子メールを通じた交流は絶やさず続いていた。退職後は、アラビア語詩やエッセイの執筆に没頭して何冊かの著書をアラビア語で著わすと同時に、若手文学者のサポートに力を注いでいた。このようにアラビア語にも造詣が深かったアブドゥッラヒーム氏は、片倉もとこが「ゆとろぎ」という造語を生み出した際のアラビア語の原語「ラーハ」という言葉について、2016年11月に開催された「ゆとろぎ賞第2回授賞式対談」におい

て、以下のように語っている。

アラビア語の“ラーハ”という言葉について言うと、日本語への翻訳ということもあるでしょうが、人が何事かを成し遂げた時に感じるもの、というのを“ラーハ”であると私は捉えています。すごく疲れていて、それから解放されて楽になったとか、そういった意味での“ラーハ”というよりも、何かを成し遂げた時に覚えるものではないかと思います。

もところさんはワーディ・ファーティマで、日本と違う環境、自然や宗教も違う村、しかも女性として、その村の社会に入っていくなか、日本と違う環境で、非常に困難に直面したと思いますが、努力して乗り越えました。そしてついにサウディ・アラビアの女性たちとも友人になりました。男性たちにも歓迎され、学びたいことを学び取っていくことができた訳です。

“ラーハ”は、その疲れから解放されたというよりも、何事かを成し遂げたことで心が安らぎ、誰も傷つけることなく、みんなのために何事かをなし得たという、そういう時に感じるものだと考えます。私がサウディ・アラビアの学者たちに、ラーハ賞（ゆとろぎ賞）が設けられたということを話すと、彼らはびっくりしました。それはすごく斬新だからです。新しい賞でこれは非常に評価に値するたぐいまれな賞だというふうに思います（藤本 2019: 48）。

以上のように、「ラーハ」はアブドゥッラヒーム氏によれば「達成感」として解釈され、前述の片倉もところが創りだした「ゆとろぎ」の指す意味と解釈の違いはみられる。しかし、人生のなかで大事なものとしてその能動性を積極的に評価する点で両者は通じている。片倉もところによるフィールド調査とそれに基づく研究活動は、サウディ・アラビア関係者によってその真髄が多面的にまた的確に理解されていることをうかがい知ることができる。

その後、アブドゥッラヒーム氏はおよそ一年をかけて、片倉邦雄を中心とする財団メンバーがワーディ・ファーティマ地域を再訪できるように、受入機関とのアレンジ、ビザ取得に熱意をもって努力し、訪問を現実のものとしたのである（縄田・片倉他 2021）。

2.3.3 既発表文献資料の整理・検証・デジタル化の開始

片倉もところの主な調査地であった、ワーディ・ファーティマ地域への再訪の前に、財団関係者からなる調査グループが行った準備作業は、既発表文献資料の整理、検証、デジタル化の作業と、また、遺された民族誌的フィールド調査資料の全体像の把握とその整理であった（写真4）。

二次利用者（調査グループ）は第一に、元の調査者でありフィールド調査資料収集者（片倉もところ）の興味・問題意識に寄り添わなければならない。そこで、発表された著書・論文・その他エッセイ等を可能な限りすべてPDF化してOCR（光学文字認識）をかけてテキスト認識可能な状態にした。2014年1月から2019年1月にかけておよそ5年をかけてPDF化した文献は、編著書、論文、エッセイ等、片倉もところが執筆したものが193点、講演・対談・インタビュー等が98点にのぼった。その中から、著書を中心として重



写真4 片倉もとが残した民族誌的フィールド調査資料
撮影：藤本悠子，2020年8月3日，東京

要度が高いと判断された13文献についてはテキストを Word 文章に変換し、653,896字分のテキスト・データとした。このような研究内容のテキスト化・デジタル化作業により、キーワード検索を可能とした。同時に、デジタル化したテキスト群と文献に掲載されていた写真群を対応させることにより、写真一枚一枚にメタ・データとしてのテキスト情報を付与していく作業も開始した。

このような整理作業を通して、片倉もとの論考に向き合った結果、フィールド調査資料収集における姿勢を調査者自身が表現している以下の記述にたどり着いた。

ハリーム（既婚の女たち）の夜会では、どっきりするような猥談をきゃっきゃっと、とりかわしたりもする。手ぶり身ぶりもはいることがあって、ひどく生々しい。わたしが恥ずかしがると、おもしろがって、「あんたはビント（未婚女性）みたい」と、よけいに話をエスカレートさせてわたしをからかう。（中略）わたしのきょうだい分のようなヌールやマリウムなどは、「かまわないよ」といつてくれるが、いろいろな女性がたくさん集まってくる夜会の写真は、とうとう一枚も撮らなかつた。あの色彩ゆたかなファッション、うたい踊り笑いざめく女たちの集いは、荒野の夜に、夢のような美しい絵巻物を展開しているのであるが、それをカメラやカセットレコーダーのようなちゃちな文明器具で撮りおさめるよりは、彼女たちのわたしへ

の信頼と好感のほうを大事にすべきだということは、はっきりしていた（片倉 1987: 20）。

またカラー写真を豊富に掲載する『季刊民族学』の論考には、以下のような記述がある。

彼女たちのわたしへの信頼と好感のほうを大事にすべきだということは、はっきりしていた。「あなたたちの思い出に、わたしだけがみるのだから」といって撮らしてもらった写真は、約束を守って人にはみせていない。この『季刊民族学』は、いい写真を豊富に提供するので有名であるから、ほんとうは、もっと良いものを読者におみせしたい。しかし、ここにおみせした写真でも彼女たちはいやがるかもしれないと思う。じつは、内心おどおどしているのである（片倉 1984: 15）。

この記述により、現地の人々にどのような考え方や姿勢でもって向きあい、つきあい、フィールド調査資料を収集していたのか理解される。ワーディ・ファーティマ地域のコミュニティに入りこみ、女性たちと醸成していった好感と信頼関係があつてこそ、観察し、記録し、分析することができたことは間違いない。そのため、被調査者である村人（インフォーマント）たちとの関係構築を最優先し、とりわけ女性同士のコミュニケーションの場での撮影や録音はあえて行わないという姿勢を貫いたと考えられる。

また英文単著『*Bedouin Village*』の序文において、女性の画像・映像資料を残すことは社会的なタブーとされる慣習を尊重しつつ、自身に対して完全な信頼を寄せてもらった後に撮影した写真だけが同書に掲載されている旨を明記している（Katakura 1977: xv）。

したがって、この記述から推察されることは、信頼関係を第一にしたからこそ記録・記述できたフィールド調査資料が遺されているという点である。他方、調査資料としては収集しながらも公表することや議論することを避けた内容もあるだろうし、撮影した写真であっても発表を控えたものもあったことが予想される。このような調査者の考え方や姿勢、さらには当時のサウディ・アラビアの社会状況や慣習も念頭におきつつ、どのような興味や問題意識のもとフィールド調査資料が蓄積されていったのかについて、最大限の想像力を働かせなければならない。

2.3.4 民族誌的フィールド調査資料の整理開始

片倉もところが遺した膨大な研究資料は、フィールド調査写真、論文・著作物執筆に際してのアイデアや構成等を記したメモ帳やカード類、現地で収集した生活用具類等多岐にわたる。2014年1月から2020年3月にかけて6年以上を費やし、遺族の全面的なサポートのもと把握した。2020年3月現在での片倉もところフィールド調査資料の媒体と種類ごとの点数は、以下ようになる。文書資料として手書きの野帳が4冊、手書きのメモ手帳が11冊、図面資料として手書きの地図が11点、標本資料として生活用具が243点、音響資料としてマイクロカセットが200点、カセットテープが57点、映像資料としてビデオ

オテープが55点、8 mmフィルムが9点、画像資料として写真が61,989点、合計62,579点であった（表2）。

フィールド調査写真として、61,989シーン分の存在をおよそ6年の期間を費やし確認したが、2014年2月時点では、片倉もとこ本人が著作で利用したり口頭発表の際に利用するためにデジタル化していたファイル100シーン程度を確認していたにすぎなかった。まず気づいたのは、著作においてはモノクロで掲載されたが元のファイルはカラーのものが多いこと、同時に著作で利用されていた写真はほんの一部にとどまっていることであった。一目でこれらフィールド調査写真群の学術的価値の高さが理解された（写真5）。

並んで、手書きのメモ手帳の中に、人名の実名表記による貴重な調査資料を発見できたことは、再研究に向けての大きな動機づけとなった。片倉もとは、1960年代末時点

表2 片倉もとこフィールド調査資料の媒体・種類・点数（2020年3月現在）

媒体	種類	点数
文書資料（手書き）	野帳	4
文書資料（手書き）	メモ帳	11
図面資料（手書き）	地図	11
標本資料	生活用具*	243
音響資料	マイクロカセット	200
音響資料	カセットテープ	57
映像資料	ビデオテープ	55
映像資料	8 mmフィルム	9
画像資料	写真**	61,989
合計		62,579

（出典：縄田他 印刷中）

* 標本資料としては、他にも片倉もとこにより収集されて国立民族学博物館に登録・保管されているものが189点あるため、全部では434点となる。生活用具の種類別点数と割合については遠藤他（2021）を参照。

**写真のフォーマットごとの点数については表3を参照。

表3 片倉もとこフィールド調査写真のフォーマットごとのシーン数と登録されたデジタルファイルの点数（2020年3月現在）

片倉もとこフィールド調査写真のフォーマット	フォーマットごとのシーン数	「片倉もとこ中東コレクション」(DiPLAS)に登録されたデジタルファイルの点数
35mm ネガティブ・フィルム	18,890	5,316
35mm リバーサル・フィルム	30,410	9,707
120 mmフィルム（プロローニー版）	11	4
紙焼き写真（1シーンごと）	10,508	401
コンタクトプリント（複数シーン含む）	2,170	0
合計	61,989	15,428

（出典：縄田他 印刷中）



写真5 片倉もところが残した民族誌的フィールド調査写真のファイル群
 撮影：藤本悠子，2020年8月3日，東京

におけるワーディ・ファーティマ地域のブシュール村に焦点をあてて、父系、母系、婚姻関係という社会的紐帯について、また1950～1970年代の村への出入りを具体的に記載している。合わせて、用水量、家畜数、農地面積、農耕歴、食生活等を示しつつ、家計の支出入、市場の物価を一覧表にすると同時に、井戸の維持管理や農作業を担う農業労働者と土地所有者の関係についてもソシオグラムとして示している (Katakura 1977: 105-163)。社会的紐帯をソシオグラムとして分析する際には、当然のことながら、個々人の氏名については匿名表記となっており、この場合は番号で示されている。その番号と実名の対応が復元できそうなオリジナルの調査資料を発見できた。この時点では仮に実名が把握できたとしても、ワーディ・ファーティマ地域を訪問して、その方々に会うことができるとは夢にも思っていなかった。その後の2018～2019年にかけて実施することとなった3回に及ぶ現地調査では(表1)、ブシュール村において何人かの人物を実際に特定することができた。このようにして、片倉もところフィールド調査資料を一つ一つ整理していく作業を通じて、資料を再分析して、再研究するための具体的で大きな展望が開けたのである。

2.3.5 アラムコ・片倉もとこ沙漠文化協賛金の締結

2014年2月に開催された片倉もとこ記念沙漠文化財団の設立披露パーティーには、生前の片倉もとこ縁のあった方々を多方面から招き、104名の参加があった。様々な反響があり、多くの参加者から財団の活動についての励ましの言葉をいただいた。サウディ・アラビアの関係者からサウディ・アラビアとの財団のさらなる文化交流を期待する声があったが、なかでも驚きと喜びをもって受けとめたのが、招待者の中から協賛金事業への声掛けをいただいたことであった。

2014年12月、片倉もとこ記念沙漠文化財団は、サウディ・アラビアの国営石油会社サウジアラムコの日本法人アラムコ・アジア・ジャパン株式会社との間で、「アラムコ・片倉もとこ沙漠文化協賛金 (Aramco Motoko Katakura Desert Culture Fund)」に関する協定を締結した(写真6)。本協定に基づき、アラムコ・アジア・ジャパンより提供された協賛金20万ドルの運用を2015年1月～2019年12月の5年間行った。サウジアラムコとは、サウディ・アラビア王国の国営石油会社で、炭化水素資源の探鉱、生産、精製、流通、輸送、販売におけるグローバルな石油・化学企業として、また、世界最大の原油および天然ガス液(NGL)輸出企業として、世界の石油市場における供給者としてきわめて重要な役割を果たしている。アラムコ・アジア・ジャパン株式会社は、日本・台湾におけるサウジアラムコの事業に対し、マーケティング、資材調達、ロジスティクス、品質保証、IT、新規事業開発等のサポートサービスを提供しているサウジアラムコの関連会社である。

協定調印式において、アルクネイニ代表取締役社長より「貴財団の活動がサウディ・アラビアと日本双方にとって意義深いものであるということ、そして貴財団の活動が今



写真6 片倉もとこ記念沙漠文化財団とアラムコ・アジア・ジャパン株式会社との間で「アラムコ・片倉もとこ沙漠文化協賛金」に関する協定を締結

撮影：アラムコ・アジア・ジャパン，2014年12月18日，東京

後大きく発展していくことを望みそれに向けた支援をしていきたい」との激励があり、片倉邦雄評議員会議長は、サウジアラムコおよびアラムコ・アジア・ジャパンの片倉もところの業績に対する評価に深く感謝し、沙漠文化研究、沙漠文化芸術への支援・育成のために協賛金を最大限に活用していくことを表明した (Saudi Aramco 2015)。

本協賛金の締結により、潤沢な資金的裏付けをもって、片倉もところフィールド調査資料の整理、またサウディ・アラビアのワーディ・ファーティマ地域における再調査の準備が加速していったのである。

3 片倉もところによるワーディ・ファーティマ地域を対象とするフィールド調査資料の学術的特徴

片倉もところによるワーディ・ファーティマ地域を対象とするフィールド調査資料の学術的特徴として、再調査開始前の段階では、以下の5点について把握することができた。

3.1 最初の調査研究者は継続調査を実施したが、自身の調査研究資料を他の研究者が再分析することは想定していなかった点

中東地域の遊牧民やイスラーム文化の研究に従事した文化人類学者・人文地理学者、片倉もところは、サウディ・アラビアのワーディ・ファーティマ地域において1968～1970年にかけて集約的なフィールド調査をなしとげ、その後も1971～1975年、1982～1983年、1988年、そして2003年にも再訪して継続調査を実施した。しかし調査地であるワーディ・ファーティマ地域に自身の指導学生や同僚研究者を案内して学際的な共同研究を実施したことはなく、同時に、自身が収集した調査研究資料を他の研究者が再利用や再分析することはほとんど全く想定していなかったと考えられる。またワーディ・ファーティマ地域における現地調査を若手研究者に継続してほしいという積極的な気持ちはなかったと判断される。したがって、長期フィールド調査研究や持続的な民族誌的調査研究を調査資料収集者自身が志向し計画していたわけではない。

ただし、再調査・再研究を実施した調査グループのメンバーには、片倉もところの指導学生・研究補助員 (河田尚子、藤本悠子)、1968～1970年の調査時には現地に同行することもあった片倉もところの夫 (片倉邦雄) が含まれていたため、最初の調査研究者から後継者に受け継がれたという継続調査の側面が全くないわけではない (縄田・片倉他 2021)。それでも基本的には、最初の調査研究者の残した研究資料や研究成果を再分析しながら、次世代の別の調査研究者が再研究を新たに行ったタイプの一つに位置づけられる。

3.2 調査時期・調査場所・調査対象という側面において高い学術的価値をもった民族誌的なフィールド調査資料である点

沙漠の地域コミュニティー、特に伝統的共同体が化石燃料資源の採掘に経済を大きく依存し始めることにより生活全般が急激に変容していったサウディ・アラビアにおいて、女性たちと生活を共にしつつ収集したワーディ・ファーティマ地域を対象とする片倉もとこフィールド調査資料の稀少性は際立っている。調査時期（1960～1970年代）、調査場所（サウディ・アラビアのオアシス社会）、そして調査対象（遊牧民集落における女性の生活）といった全ての側面において高い学術的価値が認められる民族誌的なフィールド調査資料であり、当時の人々の生活状況を記録した貴重な文化遺産といえる。調査対象国の関係者による片倉もとこの業績に対する評価は高く、それ故「アラムコ・片倉もとこ沙漠文化協賛金」という形で、資金調達につながっていった。

一方、日本における文化人類学研究また一般社会への影響という観点からは、『アラビア・ノート』、『イスラームの日常世界』、『「移動文化」考』、『ゆとろぎ』といった著作群の内容の価値が的確に位置づけられている一方、英語とアラビア語で執筆された『*Bedouin Village*』、『*Ahal al-Wādī*』における民族誌的・地誌的なフィールド調査内容の細部については、必ずしも明確な学術的評価がなされないままに現在に至っていると判断される。その点では調査対象国の関係者による評価の方が高いとさえ言える（縄田・片倉他 2021）。

3.3 次世代の調査研究者にとってフィールド調査資料の「時空間的な同定作業」に困難を伴う点

先人が収集した質的（定性的）データに対して、次世代の調査研究者が再分析による二次的利用を行うに際して、一群のフィールド調査資料の基礎的情報をどう整備するかが大きな課題となる。とりわけ本調査資料の場合、いつ、どこで集められたのかという「時空間的な同定作業」の難しさを伴っていた（縄田他 印刷中；縄田・西尾他 2021）。その理由は、調査資料収集者自身が他者の利用を想定していなかったという点だけに帰されるわけではなく、一言で形容するとすれば、サウディ・アラビアのイスラム女性に関する情報であった点にあると考えられる。例えば、地域名や民族集団名を記述する際、人文地理学的な報告においては基本的に実名を使用し、文化人類学的に社会関係に重点をおいた記述においては匿名とすることで調査対象社会に最大限配慮していたことが推測されるが、その配慮は学術的な観点からだけでなく、当時のサウディ・アラビアの社会状況や慣習を考慮に入れる必要がある。

Cliggett (2016: 233) によれば、時間をかけてコミュニティーをフォローするという縦断的なプロジェクトの基本は、ある調査から次の調査へ、また一つの時間の区切りから過去と未来の両方の区切りへとデータをリンクさせる能力にあるという。それができない限り、縦断的なプロジェクトは単に同じコミュニティーで同じフィールド・サイトで

調査研究プロジェクトを単に時間を経て行ったにすぎなくなってしまうからである。それぞれのプロジェクトが特色を持つには、時間的なつながりを欠くすべての箇所をどう埋めているかについて、深い思索が求められるのである。その点で、片倉もところフィールド調査資料は、全般的には時空間的な同定に困難を伴う資料が多い反面、集約的な調査を行ったブシュール村の社会調査データに関しては、氏名、性別、年齢、収入、親族関係、雇用関係について、実名で記録されたデータを確認できたため、その資料を糸口として、時間的なつながりを具体的に追っていく目途がついたことは特筆に値する。

3.4 社会的紐帯を表したソシオグラムを実名で表記した元資料が確認された点

再分析、二次的利用を念頭に資料整理を進めていく中で、片倉もところフィールド調査資料の学術的価値が最も具体的な形で浮かび上がってきたのが、社会的紐帯を表したソシオグラム分析の際に用いた実名表記による未公表の一次調査資料の存在である。かつその後の現地調査によって、ワーディ・ファーティマ地域において何人かの人物が特定できたことによって、具体的な調査資料に基づく研究の発展について大きな展望を持つことができた。

これからの研究の方向性として参考にしたいのは、トルコの遊牧民 Aydınlı の社会ネットワーク分析である (Kemper and Royce 2002a; Johansen and White 2002)。最初の調査研究者 U. C. Johansen は、1957～1958年の調査を皮切りに、1964、1970、1982、1989、1995年と継続調査を実施し遊牧社会の系譜データを体系的に収集していた。1997年に社会ネットワーク分析が専門の R. White が共同研究の提案をして、U. C. Johansen が長期収集してきたデータを継承することの同意をえて、洗練した社会ネットワーク分析へと高めた。その一方、U. C. Johansen は R. White の協力をへて、日付と時間等の注釈をつけたデジタルデータによる写真コレクションの整理とウェブサイトの構築を開始した。そこでは、存命の人物を除く世代の系譜図と対応できるようにすることにより、歴史的なデータ群となることを目指したと言う。2014年に「Ulla Johansen Anatolian Ethnology Collection」としてトルコの Koç 大学に資料が寄贈され、2015年からウェブサイトで公開されている (Koç University Suna Kıraç Library 2015)。片倉もところフィールド調査資料の研究、公開の方向性として、この先例は目指すべきモデルの一つとなるであろう。

3.5 フィールド調査写真の学術的価値が突出している点

抜きだした学術的価値の高さを見出すことができたのは、フィールド調査写真群であった。片倉もところは、被調査者である村人（インフォーマント）たちとの関係構築を最優先し、とりわけ女性同士のコミュニケーションの場での撮影や録音はあえて行わない

という姿勢を貫いたことがわかった。ワーディ・ファーティマのコミュニティーに入りこみ、女性たちと醸成していった好感と信頼関係があつてこそ、観察し、記録し、分析することができた貴重な調査資料である。データ収集しながらも公表することや議論することを避けた内容や、撮影した写真であっても発表を控えた場合について最大限考慮する必要がある。

ワーディ・ファーティマ地域を対象とする片倉もとこフィールド調査写真を扱う際に、まず明確に意識しなければいけないことは、いつ、どこで、何を、誰を対象として撮影したのか、という基礎情報の重要度であった。再分析による二次的利用を行うことを計画していた私たち調査グループが、その点について認識することができたのは、片倉もとこ記念沙漠文化財団の設立披露パーティー終了後に、サウディ・アラビアの複数の関係者から指摘された写真の取り扱いに関する注意事項にあつた（縄田・片倉他 2021）。

したがって、ワーディ・ファーティマ地域を対象とする片倉もとこフィールド調査写真の学術的価値がいかに高くあろうとも、調査コミュニティーとの信頼関係なしには、写真の整理を続けて公表に繋げることはできないと判断された。このような認識を大前提としつつ、調査コミュニティーと新たな関係を構築することにより、フィールド調査資料が社会的価値も有していることを認識したことが、写真資料整理そしてデジタルファイルのアーカイブ登録、すなわち「地域研究画像デジタルライブラリ」（略称 DiPLAS）への登録へとつながっていったのである（縄田・西尾他 2021）。

参考文献

〈日本語〉

アル・アフマディ、アブドゥッラヒーム

- 2014 「片倉もとこ沙漠文化」片倉邦雄訳『片倉もとこ記念沙漠文化財団ニューズレター』1: 7（アル・リヤド新聞 2014年2月27日（<http://www.alriyadh.com/91357>））。

安東美佐子

- 1989 「砂漠の民に魅かれ」『毎日新聞』p.1, 1月25日夕刊。

片倉邦雄／アナス・ムハンマド・メレー

- 2019 「サウジアラビア——国家の成り立ちと社会変化」縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」』pp.18-19, 東京：河出書房新社。

片倉もとこ

- 1974 「遊牧民集落の成立とその態容——サウディ・アラビア、ウサイダの事例」『東洋文化』54: 130-164。
- 1979 『アラビア・ノート——アラブの原像を求めて』東京：NHK 出版。
- 1982 「沙漠に生きるベドウィンのテント」梅棹忠夫監修『住む・憩う——民具と家具、そして人の営み』（世界旅行——民族の暮らし3）pp.110-119, 東京：日本交通公社出版社

務局。

- 1984 「荒野に生きる女たち」『季刊民族学』28: 6-23。
- 1985 「アラビアにおける族的結合の性格」川床睦夫編『中近東・イスラーム社会における族的結合——シンポジウム』（中近東文化センター研究会報告6）pp.79-88, 東京：中近東文化センター。
- 1987 『沙漠へ、のびやかに』東京：筑摩書房。
- 1988 「海のベドウィン」森本哲郎・片倉もところ・日本放送協会取材班『ハッピーアラビア——帆走、シンドバッドの船』（NHK 海のシルクロード2）pp.233-276, 東京：日本放送出版協会。
- 1991 『イスラームの日常世界』（岩波新書 154）東京：岩波書店。
- 1998 『「移動文化」考——イスラームの世界をたずねて』（同時代ライブラリー 350）東京：岩波書店。
- 2008 『ゆとろぎ——イスラームの豊かな時間』東京：岩波書店。
- 2009 『やすむ元気もたない勇氣——「ゆとろぎ」の思想に学ぶ生きる知恵』東京：祥伝社。
- 2013 『旅立ちの記』東京：中央公論新社。
- 片倉もところ記念沙漠文化財団事務局
- 2013 「財団について」<http://moko-f.com/introduction/>（2020年8月7日閲覧）
- 河田尚子・藤本悠子
- 2019 「文化人類学者・人文地理学者、片倉もところ 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』pp.24-25, 東京：河出書房新社。
- 河田尚子・藤本悠子・縄田浩志
- 2019 「片倉もところの著作と考察」縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』pp.28-29, 東京：河出書房新社。
- 郡司みさお
- 2014 「片倉もところ沙漠文化財団設立披露パーティー開催報告」『片倉もところ記念沙漠文化財団ニューズレター』1: 4-5。
- コウル, D. P.
- 1982 『遊牧の民ベドウィン』（現代教養文庫 1062）片倉もところ訳, 東京：社会思想社（Cole, D. P. 1974 *Nomads of the Nomads: The Āl-Murrah Bedouin of the Empty Quarter*. Chicago: Aldine Publishing Company）。
- 後藤明
- 1992 「片倉もところ著『イスラームの日常世界』」『民博通信』55: 36-40。
- 清水芳見
- 2004 「片倉もところ『アラビア・ノート』——アラブの原像を求めて」小松和彦・田中雅一・谷泰・原毅彦・渡辺公三編『文化人類学文献事典』p.382, 東京：弘文堂。
- 東京国立博物館・サウジアラビア国家遺産観光庁・日本放送協会・朝日新聞社編
- 2018 『アラビアの道——サウジアラビア王国の至宝』東京：東京国立博物館・サウジアラビア国家遺産観光庁・日本放送協会・朝日新聞社。
- 縄田浩志
- 2019 「片倉もところが調べた人びと——定着遊牧民」縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』pp.30-31, 東京：河出書

房新社。

縄田浩志・片倉邦雄・吹田靖子・郡司みさお・河田尚子・藤本悠子

2015 「2015年アラムコ・片倉沙漠文化協賛金 サウジアラビア事前現地調査報告」『片倉もところ記念沙漠文化財団ニューズレター』2: 3-18。

縄田浩志・片倉邦雄・藤本悠子・河田尚子・郡司みさお・古澤文・渡邊三津子・遠藤仁・石山俊

2021 「片倉もところによるサウディ・アラビア，ワーディ・ファーティマ地域を対象とするフィールド調査資料，特に写真資料の社会的特徴について」『片倉もところフィールド調査資料の研究』西尾哲夫・縄田浩志編（国立民族学博物館調査報告153）pp. 31-61，大阪：国立民族学博物館。

縄田浩志・西尾哲夫・片倉邦雄・藤本悠子・河田尚子・古澤文・渡邊三津子・遠藤仁・石山俊

2021 「片倉もところによるサウディ・アラビア，ワーディ・ファーティマ地域を対象とするフィールド調査写真のアーカイブ登録について」『片倉もところフィールド調査資料の研究』西尾哲夫・縄田浩志編（国立民族学博物館調査報告153）pp. 63-86，大阪：国立民族学博物館。

縄田浩志・藤本悠子・河田尚子・古澤文・渡邊三津子・遠藤仁・片倉邦雄

印刷中 「片倉もところフィールド調査資料の資料的特質と整理プロセス：民族誌的な質的データの二次利用のための方法的かつ実践的な課題抽出として」『沙漠研究』。

縄田浩志・渡邊三津子／アナス・ムハンマド・メレー

2019 「オアシス，ワーディ・ファーティマの歴史」縄田浩志編『サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」』pp. 20-21，東京：河出書房新社。

藤本悠子

2019 「『ラーハ』とは」縄田浩志編『サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」』p. 48，東京：河出書房新社。

藤本悠子・河田尚子・郡司みさお・Anas Mohammed Melih・渡邊三津子・遠藤仁・縄田浩志

印刷中 「片倉もところフィールド調査写真を用いた半世紀前の被写体女性同定プロセス：サウディ・アラビア，ワーディ・ファーティマ地域における生活変化の考察に向けて」『沙漠研究』。

牧野信也

1979 『アラブ的思考様式』東京：講談社。

宮治美江子

1977 「書評 片倉もところ著『Bedouin Village—A Study of a Saudi Arabia People in Transition』」『現代中東研究』1(2): 84-88。

渡邊三津子・縄田浩志

2019 「アラビア半島——自然環境」縄田浩志編『サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」』pp. 16-17，東京：河出書房新社。

〈外国語〉

Al-Bakrī, Abū 'Ubayd 'Abdallāh ibn 'Abd al-'Azīz ibn Mu'ammad

1983 *Mu'jam mā Ista'jama min Asmā al-Bilād wa-al-Mawāḍi'*. Bayrūt: 'Alam al-Kutub. (in Arabic)

- Altorki, S. and D. P. Cole
1989 *Arabian Oasis City: The Transformation of 'Unayzah'*. Austin: University of Texas Press.
- Chatty, D.
1996 *Mobile Pastoralists: Development Planning and Social Change in Oman*. New York: Columbia University Press.
- Cliggett, L.
2016 Preservation, Sharing, and Technological Challenges of Longitudinal Research in the Digital Age. In R. Sanjek and S. W. Tratner (eds.) *eFieldnotes: The Making of Anthropology in the Digital World*, pp.231-250. Philadelphia, PA: University of Pennsylvania Press.
- Corti, L. and P. Thompson
2004 Secondary Analysis of Archive data. In C. Seale, G. Gobo, F. Gubrium, and D. Silverman (eds.) *Qualitative Research Practice*, pp.1-21. London: Sage Publications.
- Dickson, H. R. P.
1949 *The Arab of the Desert: A Glimpse into Badawin Life in Kuwait and Sau'di Arabia*. London: George Allen and Unwin.
- Eid, C., M. Fallatah, and M. Yamada
2020 *The Return of Women: A Post-Rentier Rediscovery of the Arabian Heritage of Female Workforce Participation*, King Faisal Center for Research and Islamic Studies. <http://kfcris.com/en/view/post/291> (accessed August 7, 2020)
- Foster, G. M., T. Scudder, E. Colson, and R. V. Kemper (eds.)
1979 *Long-Term Field Research in Social Anthropology*. New York: Academic Press.
- James, G.
1978 The People of the Desert. *Financial Times*. 17th April: 31.
- Johansen, U. C. and D. R. White
2002 Collaborative Long-term Ethnography and Longitudinal Social Analysis of a Nomadic Clan in Southeastern Turkey. In R. V. Kemper and A. P. Royce (eds.) *Chronicling Cultures: Long-Term Field Research in Anthropology*, pp.81-99. Walnut Creek, CA: A Division of Rowman & Littlefield Publishers.
- Katakura, M.
1977 *Bedouin Village, A Study of a Saudi Arabian People in Transition*. Tokyo: University of Tokyo Press.
1996 *Ahal al-Wādī, Dār al-Qārī al-'Arabī*. (in Arabic)
- Kemper, R. V. and A. P. Royce
2002a Long-Term Field Research: Metaphors, Paradigms, and Themes. In R. V. Kemper and A. P. Royce (eds.) *Chronicling Cultures: Long-Term Field Research in Anthropology*, pp. xiii-xxxviii. Walnut Creek, CA: A Division of Rowman & Littlefield Publishers.
2002b Restudies and Revisits: Styles of Collaborative Research. In R. V. Kemper and A. P. Royce (eds.) *Chronicling Cultures: Long-Term Field Research in Anthropology*, pp. 1-7. Walnut Creek, CA: A Division of Rowman & Littlefield Publishers.
- Kemper, R. V. and A. P. Royce (eds.)
2002 *Chronicling Cultures: Long-Term Field Research in Anthropology*. Walnut Creek, CA: A

Division of Rowman & Littlefield Publishers.

Koç University Suna Kiraç Library

2015 Ulla Johansen Anatolian Ethnology Collection, <https://librarydigitalcollections.ku.edu.tr/en/collection/ulla-johansen-anatolian-ethnology-collection/> (accessed August 7, 2020)

Neale, B.

2019 *What is Qualitative Longitudinal Research?* London: Bloomsbury Academic.

Saudi Aramco

2015 *Arabian Sun*, February 11.

Sbriccoli, T.

2016 Between the Archive and the Village: The Lives of Photographs in Time and Space. *Visual Studies* 31(4): 295-309.

Seale, C., G. Gobo, J. F. Gubrium, and D. Silverman (eds.)

2004 *Qualitative Research Practice*. London: SAGE Publications.

Stacey International and al-Trurath

2006 *The Kingdom of Saudi Arabia*. London: Stacey International and al-Trurath.

片倉もとこによるサウディ・アラビア、 ワーディ・ファーティマ地域を対象とする フィールド調査資料, 特に写真資料の社会的特徴について

縄田浩志¹⁾²⁾・片倉邦雄²⁾・藤本悠子²⁾・河田尚子²⁾・郡司みさお²⁾・
古澤 文²⁾・渡邊三津子²⁾³⁾・遠藤 仁¹⁾⁴⁾・石山 俊⁵⁾

1) 秋田大学, 2) 片倉もとこ記念沙漠文化財団, 3) 奈良女子大学,
4) 人間文化研究機構, 5) 国立民族学博物館

1 中東社会を対象とする写真撮影の歴史 — 写真の利用目的と 説明文をめぐる

中東(西アジア, 北アフリカを含む)ムスリム社会における写真撮影の歴史を理解しようとする時, 西洋によるオリエンタリズム(サイード 1986)の文脈に沿って紐解いていかねばならない(Alloula 1986)。

1798年, ナポレオンによるエジプト侵攻が, 西洋のオリエンタリズムに火をつけた。古代の不思議とミステリーに満ち溢れたエジプト, また聖書の舞台としての聖地パレスチナへの興味を皮切りに, 中東全般の生活, 思想, 文化, 慣習に対する知的な好奇心が芽生え, 芸術的な魅惑に人々は惹きつけられていった。1839年に, 日中野外であれば感光時間が数十分でポジティブ画像を固定づける実用的なダゲレオタイプの写真撮影法が発明されると, 写真撮影は瞬間に広まった。発明から50年の間にプロとアマあわせて250人に達する宣教師, 外交官, 考古学者らが撮影機材を持ってオリエンタ世界に赴き, 旅, 景観, 市場, 通り, 建築, 遺跡, 衣装などを撮影の対象としはじめたのである(Stapp 2008; Özendes 2008)。

1860年代から1890年代にエジプトを中心として観光客向けに多くの写真を生産したギリシア出身の商業写真家Zangaki兄弟の作品群は, よく知られている(Perez 1998)。ナイル川に浮かぶ舟, ナイル川沿いを歩くラクダ・キャラバン, ピラミッドとナツメヤシ, ピラミッドにのぼる観光客とガイド, ピラミッドとスフィンクスをバックにラクダにのった観光客等, 現在でも多くの人々に好まれる主題と構図の写真を多数撮影した。中には, ナイル川上流のアスワンハイダム建設以降は見られなくなってしまった構図すなわち, ピラミッドをバックに氾濫したナイル川に水没するナツメヤシと人々, といった貴重な風景をおさめた写真もある。また野外で人々が実際に営む生活の一端を写しとったと考えられる写真群としては, アズハル・モスクに集まる人々, 髪をそる床屋, パザールの人々, 水つぼを頭にのせた女性たち, 水売りの男性と水がめと女性たち, ロバと少年, ラクダにのったビシャーリーン族(上エジプトからスーダン北部の紅海沿岸にかけ

て居住する民族)の男性や女性、ヌビア族(上エジプトからスーダン北部にかけてのナイル河岸に居住する民族)の男性、といったタイトルが冠されて残されており、ある意味、これは民族誌的なフィールド調査写真の先駆けと位置づけることも可能であろう。

その一方、室内のスタジオで撮影された写真群もある。アラビア語教師の肖像写真、2人のアラブ女性(1人は椅子に座って水がめを膝の上ののせ、もう1人はその女性の肩に手をかけている。2人とも鼻・口は布で隠しているが、髪を覆っているのは1人の女性のみである)、トルコ人の踊り子(手に動きがあるので踊りを再現している感じが感じられる)、水たばこを片手にコーチにもたれかかるトルコ女性、といったタイトルの写真があるが、その撮影にあたっては、どの程度まで演出が施されたのかは今となっては想像するしかない。

Zangaki兄弟撮影のエジプト写真の利用目的は、観光客向けの商業販売であった。またポーズをとらせた肖像写真が多く含まれているにもかかわらず、主題・構図・記録といった点において歴史的な評価は定まっている。現在、そのコレクションはプリンストン大学、ケンブリッジ大学、ボストン美術館、アムステルダム国立美術館等に保管されると同時に、一般公開されている写真アーカイブLuminous-Lint(3,634のコレクションから103,264シーンの写真を掲載)にも104シーンが登録されているため、誰もが簡単にウェブ上で見ることが出来る(Luminous-Lint 2020)。

Zangaki兄弟はエジプトのポート・サイドにスタジオを持っていたが、すでに1850年代には、オスマン帝国の主要な都市であったベイルート、エルサレム、コンスタンティノーブル(現在のイスタンブールの前身)を中心として、現地に多くの写真スタジオがつくられるようになっていた。最初の写真スタジオは、アルメニア人とギリシア人によってコンスタンティノーブルにつくられたと考えられる。当時のムスリム社会の受けとめ方としては「宮廷関係者の間では肖像画を描かせる伝統が存在していたにもかかわらず、人物を画像化することを認めないイスラームの正統派的慣行に従って、ムスリムは写真に撮られることを嫌がった」(Özandes 2008)と説明されている。

当時の新しい技術による写真撮影は「本当のオリент」を記録する機会を提供するはずであったが、写真家は西洋人が事前に思い描いている「オリентのイメージ」を増幅させるようなシーンを作りあげることが多かったとされる。西洋人はとりわけ東方の女性に魅了されていたので、この要求に答える形で「トルコ女性」や「若いトルコ少女」といった魅惑的なタイトルを冠した新しいカテゴリーの写真が生まれ出された。ただし肖像にされた女性は外国人もしくは現地の売春婦がほとんどであったという。なぜならば、この類の写真のためにポーズをとる一般のトルコ人やムスリム女性は存在しないからである。写真家がモデル女性を見つけるのに苦労した場合は、男性が女性の衣装をまもって撮影することさえあったという(Özandes 2008)。

スイスに生まれたJean Geiser(1848~1923)は、幼少期に家族でフランス植民地下の

アルジェリアへ移住し首都アルジェに住みはじめたが、母とそのパートナーのアトリエを引き継ぐ形で1860年代後半には写真スタジオを持つこととなった。アルジェリア全土の様々な景観、暮らし、植民地支配の様子を記録するだけでなく、オリエンタリストの夢想でしかないハーレムを渴望するマーケットに応じて、スタジオで撮影したセミヌードやエロティックなポーズをとった女性の偶像写真をポストカードとして大量生産し、19世紀末にかけて写真スタジオは大成功をおさめた (Schmidt and La Rock 2019)。やがてこのアルジェリア女性のイメージは、1900～1930年を中心としてキャビネット・カードやポストカードとしてフランス中に広まり、植民地政策においてアルジェリア人を支配することを正当化する意識の強化へともつながっていったと考えられている (Alloula 1986; Howe 2008)。

それでは、現地出身の写真家、もしくは女性の写真家は、写真史上初期の19世紀後半から20世紀初頭には存在しなかったのだろうか。

ごく最近になって、少数ながら存在したことが明らかになってきた (Verde 2019)。後期オスマン朝から第一次世界大戦後にかけて、現地写真家の歴史が埋もれていた理由は、地域の不安定な政治と紛争等によって写真スタジオから写真や文書が失われることが多かったからで、また、家族経営も多かった写真スタジオにおいて、多くの女性が現像、艶出し、色付けといった舞台裏で働いていたことが想像されるが、記録にはあまり残っていないからである。女性の名が確認される貴重な例としては、ウクライナ生まれの写真家 Shlomo Narinsky と Sonia Narinsky 夫妻の例がある。夫妻は、19世紀後半にパレスチナにおいて同地で生まれたユダヤ人を被写体として販売目的の写真を多数撮影していた Jamal Brothers のパートナーであった。他にも、フランス出身の Lydie Bonfils は、夫の Felix とともに1867年からベイルートで写真スタジオを営んでいたが、1885年に死んだ夫 Felix の後を継いで数十年間1人で経営し続けた。彼女が撮影したと思われる現地の女性を被写体とするスタジオ写真は、女性写真家の前でポーズをとっているからか、被写体女性は自然体のように感じられる (Sheehi 2019) とされる。

20世紀にはいると「パレスチナの唯一の国民的女性写真家」と自称する現地女性写真家 Karimeh Abbud が現れた。彼女の父 Said Abbud は、ベツレヘムのルーテル派の牧師で、Galilee 地域 (現在の南レバノン) の Khayam 村の出身であったが、フランスとイギリスによって第一次世界大戦後にパレスチナとレバノンの国境が定められる前のオスマン帝国下の領土であった時のエルサレムの Schneller Orphanage で学んだ。娘の Karimeh Abbud は1893年に生まれ、1899年には家族でベツレヘム地域に移ってそこで彼女は人生のほとんどを過ごした。1860年代はじめには、彼女の家の近くの Cathedral of Saint James があるアルメニア人地区にエルサレムで最初の写真学校が設立されていた。ベツレヘム地域で活躍していた5人のルーテル派の写真家の誰かから彼女は訓練を受けたと推測されている。Karimeh Abbud のスタジオはベツレヘムの彼女の故郷にあり、当時の男性写

真家よりも家族の家庭生活や女性の活動にアクセスしやすい環境に恵まれていた。彼女はほとんどの仕事を室内での肖像写真に捧げたが、野外に繰り出した家族の小旅行や社会的行事の写真も残されている。彼女のコレクションの中には自身の姉妹や従妹の写真も多く見つけることができるので、彼らをトレーニングの被写体としたと考えられている。彼女の肖像写真では、当時一般的であったポーズと背景を用いて、例えば被写体には花を手にもたせて座らせ撮影している。しかしながら、被写体は安心しており、陽気にさえ見えることが多く、そのおかげで、そう見えてほしいであろう中流階級のパレスチナ人の姿を覗き見ることができると評価されている (Nassar 2019)。

それでは、遊牧民社会やオアシス社会の人々の生活そのものを記録した写真のはじまりは、いつに遡ることができるのであろうか。

「沙漠の女王」の異名をとった考古学者、登山家、紀行作家にして英国諜報員でもあったガートルード・ベル (1868~1926) は、第一次世界大戦勃発直前の1913~1914年にアラビア半島北部を旅した。ダマスカスからハイルをへてバグダードに向ってダマスカスに戻った。その間に撮影された写真は当時の人々の生活を切り取った貴重な記録であり、かつ日記と対応できるため (Bell 2020)、撮影地、撮影内容に関する一定の情報が整っている。例えば現在のサウディ・アラビア北西部ヨルダン国境近くのアッ=トゥバイクを訪れた時の写真として「テントの外でたたずむシャラーリー族の女性と子供」、ムハンマド・アブー・タイイの野営地のテントの中の男性たち、コーヒーをつくっているのはサウード」、ガートルード・ベルのキャラバンのメンバーのムハンマド・アル=マアラウィーとムハンマド・アブー・タイイの野営地にいた部族の女性」等がある。ジャウフ近くのワーディ・ファジュールでは「ガートルード・ベルのキャラバンと共にキャンプ中のシャンマル族の女性とテント」といった写真もあり、テント暮らしの遊牧民社会の男性、女性、子供を写真に収めている。マッカへの隊商ルート沿いのオアシス都市として栄えたハイルを訪問した折には、「ハイルの子どもたち」、「ハイルの女の子たち」、「座っている女性」のように人々の様子を収めた写真があるが、中でも被写体とした女性に関する詳しい記述が残されている1914年3月に撮影された「トゥルキーヤ」というタイトルの写真からは多くの情報を読みとることができる。日記には「スルタンからムハンマド・アル=ラーシドへの贈り物となったチェルケス人に会った。彼女の名前はトゥルキーヤという。全ての女性はしっかりとベールで覆われていたが、彼女は深紫の外着の中には鮮やかな赤と紫の綿布のローブを着ており、首にはきめの粗い真珠の紐を巻いていた。彼女は自身の体重と同じ重さの金ほどの価値とされている、ということを知ってくれた。彼女はおしゃべり好きな人で、一緒にすばらしい驚嘆すべき時間を過ごした」とある。モノクロ写真なので色合いまではわからないものの、室内に置かれた絨毯やひじ置き、衣服や装身具、顔をあらわにしているトゥルキーヤという女性の表情やたたずまいの細部まで知ることができる貴重な記録写真である (Gertrude Bell Archive

2020)。ベルによって撮影された写真群は、中東における民族誌的フィールド調査写真と位置づけることが可能な最も初期の一つと考えられる。

体系的な民族誌的記録として豊富な写真を掲載している作品としては、エルサレム生まれのアラブ活動家で英国委任統治領パレスチナの何か所かでディストリクト・オフィサーも務めた‘Ārif al-‘Ārifによるものを待たなければならない。1944年にアラビア語で出版され、その英訳はメルボルンの新聞社編集長とオーストラリア赤十字のサポートを得て1974年に出版されている (al-‘Ārif 1974)。本の冒頭を飾る肖像写真には、「典型的なベドウィン」という名の下に、「Sheikh Jaddu’ El-‘Atham」と被写体となった人物の実名が掲載されていることからわかるように、南部のベエルシェバ (Beersheba) の実在の遊牧民社会の暮らしを記述した民族誌と形容できる力作である。服装、食べ物・飲み物、宗教、女性の日常生活、財産、結婚・複婚・離婚、慣習法、もてなし、口頭伝承、家畜、交易、水・土地利用、部族組織などについての記述とともに、写真26シーンと地図1枚を掲載している。写真26シーンのうち7シーンは女性を対象としたもので、「花嫁はラクダに、花婿はロバに」(ラクダに乗る花嫁とロバをひく花婿、また数十頭のラクダの群れが確認できるシーン)、「子供を養育するベドウィン女性」(母親が赤ん坊に母乳をあげているシーン、女性は顔を覆っていない)、「洗濯をするベドウィン女性」(水たまりの横で服を洗っている1女性のシーン)、「小麦をきれいにするベドウィン女性」(ふるいの上に広げた小麦からおそらく穀粒を選んでいる3女性のシーン)、「小麦を挽くベドウィン女性」(石臼をまわしている2女性のシーン)、「家畜を水場に連れて行く」(水つぼをロバに振り分けまた手に持ってその上にまたがる女性と水場周辺に男性や複数のロバが確認できるシーン)、「視察中にベドウィンの女性たちに話しかける筆者」(筆者男性が5人の女性うち2人は少女、1人は幼女、と共に写っている写真、顔を覆っているのは1女性のみ)である。どの写真に写っている女性もすべて髪を覆っているが、顔を覆っていない女性は母乳をあげる母親と筆者と共に写っている女性1人に限定される。このような状況から想像されることは、‘Ārif al-‘Ārifはおそらく被写体の女性(もしくはその男性親族)から承諾をえて、写真を撮影したことである。ただし残念ながら、それを証明できる記述はない。また、父や祖父や父祖の名と共に、つまりいわゆるフルネームで本文に実名が記載されていると判断される人物の記述が多数あるが、女性の場合はフルネームは明らかにされていない。

以上のように、中東社会を対象として撮影された写真、特にフィールド調査写真のはじまりにまで遡ってその歴史を振り返ってみても、判然としないことがある。それは、ムスリム女性は自身が写真の被写体となることをどのようにして認めていたのか、もしくは認めていなかったのか、またその写真の利用のされ方やその範囲を果たしてどこまで意識していたのか、という点である。民族学、文化人類学の発展に伴い、中東社会においても、その後、写真による記録が多数残されるようになって、このような疑問に

明確に答えている記述は非常に少ない。もちろん現時点では、中東社会を対象とする植民地時代の記録やそれ以降の民族誌を網羅的に探索できたわけではないが、写真の被写体の肖像権をめぐる諸課題は、今後検討していかねばならない重要事項と考える。

本稿では、サウディ・アラビア、ワーディ・ファーティマ地域を対象とするフィールド調査資料の中でも、特にフィールド調査写真を中心として、調査対象もしくは撮影対象であった人々の側から見て、同調査資料がどのような価値や意義を持ちうるのかといった点を、検討していきたい。

2 片倉もとこフィールド調査写真の公開に向けた問題発見

2.1 片倉もとこフィールド調査写真の初公開

片倉もとこの一周忌にあたる2014年2月に開催された片倉もとこ記念沙漠文化財団の設立披露パーティーでは(郡司 2014)、スライドショーとパネルディスカッションの時間を設けて、片倉もとこによるサウディ・アラビアにおけるフィールド調査開始のいきさつ、ワーディ・ファーティマ地域の紹介、人々の日常生活、「ゆとろぎ」の世界、結婚風景、生活の変化、の順に片倉もとこの著作の主だった考察を引用また解説しながら、フィールド調査写真を100シーンほど紹介していった。

パネルディスカッション終了後に、サウディ・アラビアの複数の関係者の方々から、写真の記録を高く評価する言葉をいただいた。が同時に、写真の取り扱いについての示唆と注意を受けた。その内容は、財団関係者にとって大きな財産となった。

片倉もとこフィールド調査写真を紹介する際に、財団関係者が気にしていたことがある。それは、イスラーム社会では一般的に成人女性の写真を家族以外に公開することは認められない、という点、とりわけ現代サウディ・アラビアにおいては、公共の場で女性が顔全体を見せることはない、という点であった。そのため写真を選択する際には、プライベートな家族写真もしくは成人女性の顔が写っている写真は基本的に除外した。それでも様々な観点から吟味して公開にふみきった写真があった。

しかしながら、そのような考え方だけでは、まったく十分でないことがわかった。会場で公開した写真の何枚かについて、不適切であった具体的な理由をサウディ・アラビアの方々から以下のように説明された。

2.2 公開すべきでなかったと指摘を受けた写真

最初に取り上げる写真は、女性が衣装を身に着ける様子で、外着の巻きつけ方の順序がわかるように連続で撮影された写真である。縄田浩志(第1筆者)は、サウディ・アラビアやエジプト、スーダンにおいて長期フィールド調査の経験があるものの、男性であるため、女性が衣装を着る際の手順をなかなか理解することが難しかったという経験

を持ち合わせていたので、この写真の民族誌的価値が非常に高いことを理解していた。また河田尚子（第4著者）はムスリム女性の身だしなみとして、しっかりと髪は覆われているし、体のラインも出ていないので問題はないと判断していた。また藤本悠子（第3著者）は、この写真は片倉もところ本人によりすでに公開済みであることを確認したため（片倉他編 2002: 318）、問題はないであろうと考えたのである。しかしながら注意を受けたのは、女性の手首や足首が出ていることは問題ないとしても、足や手の一部、また顔が見えている状態は良くないし、そもそも着替えは私的空間で行われるもので他人に見せるものではないから、公の場での表象は認められないというのである。またこの写真を会場で示した折に撮影された写真を見返してみると（写真1）、会場の参加者の中には、この写真が投影されている画面をスマートフォンやデジタルカメラで撮影している人々を確認することができ、会場で公開した写真の撮影やその二次利用が厳禁であることをあらかじめしっかりと伝えなかったことについても、反省すべき点と考える。この写真の扱いに関連して、その後の2018～2019年にかけてのワーディ・ファーティマ地域を訪問して実施された再調査を通じて、私たち調査グループはその写真の被写体であった女性の子息との交流を始めることができたが、片倉もところがこの写真を著作で公開した理由としては、被写体女性との信頼関係そして写真利用に関する承諾がおそらくあ



写真1 片倉もところ記念沙漠文化財団設立披露パーティーにおいて片倉もところフィールド写真を披露した際に、公開における課題を指摘された写真
撮影：藤本悠子，2014年2月21日，東京

ったことを、知ることになった。とはいえ、この写真の公開が不適切であるという指摘を真摯に受けとめなければならない。

次に取り上げる、女性が水たばこをくゆらせている写真は、さらに問題があると注意された。基本的に女性の私的空間での活動を他人の眼前にさらすことは許されず、特に水たばこを女性が吸うことは、ある地域、ある時代にはあったとしても、それを公の場に顔が見える形で個人が特定される形で示すことはあってはならない、ということであった。その写真は、女性はスカーフで髪の毛をしっかりと覆っているものの顔は出ており、外着ではなく明らかに内着で、肘置きにもたれかかって、くつろいでいる様子をとらえたものであった。加えて、プレゼンテーションと説明の仕方にも不手際があった。ムスリム女性の「ゆとろぎ」の世界が感じられる好例として、片倉もこの文章とともに女性がくつろいでいる様子を解説することを目的としてこの写真を選んではまったのであるが、これはサウディ・アラビアではなく中東の別の国において撮影された写真であった。その写真をサウディ・アラビアで撮影された一連の写真と連続して示してしまったので、来場者に大きな誤解をもたらす結果となってしまったのである。またこの写真は確認できた限り、片倉もどこ自身でさえ出版物では公表していなかった。タバコやアルコール飲料といった嗜好品に対するイスラームの考え方も、法学派、時代、地域、国家、個人によって大きく異なるが故に、最大限の注意を払うべきであることを痛感した。

写真の取り扱いについての指摘は、女性が被写体である写真だけにとどまらなかった。婚姻契約時に集まった男性親族の中で花嫁の父と花婿がちょうど握手を交わしている瞬間をとらえた写真を紹介した。イスラームでは婚姻は、イスラーム法に則り人間同士の契約として結ばれ、契約式の光景の記録は大変稀少である。被写体は男性だけの写真であるし、出版物においてすでに公開されていたので（片倉 1979: 89-90; 1984: 14-15）、その記録的価値を説明した上で使用することに全く問題がないと考えていた。しかしそうではなかったのである。誰と誰が契約をしているのか、男性たちの顔が写っているので個人を特定することができるし、そこから花嫁個人の特定も可能である。花嫁本人は写り込んでいないものの、結婚の契約を結んだ夫婦を特定できるコミュニティーのメンバーの前では、この写真を示すのは不適切である、という指摘であった。この写真はサウディ・アラビア、ワーディ・ファーティマ地域で撮影されたものと想定していたが、その地域の当時の様子を知っている関係者が参加する今回の場では、示すことは不適切であったと考えられる。ただしその後の私たち調査グループによるワーディ・ファーティマ地域の再調査では、今のところ、この写真の被写体の家族のことを知る関係者に会うことはできていない。インタビューをした人の中には、ワーディ・ファーティマ地域ではなく、さらに南の地域で撮影されたのではないかという意見もあった。この写真を、サウディ・アラビアの関係者がいないところで、個人が特定できない形で示されるのであれば、それほど問題になることはないであろう、という見解もあわせて当時会場にい

たサウディ・アラビアの関係者から教示された。つまり、写真を公開する際、その写真の被写体である人物と、その写真を目にするであろう人物との間の関係性、また公開の媒体とその媒体を通じてアクセスが可能となる人々の範囲についても、最大限留意しなければならない、という点にはじめて思いがいたった。

そして最も重要な考え方として念押しされたのは、私的空間や室内で撮影された写真は、基本的にはプライベートな家族写真であり、その被写体本人とその家族以外の人々には原則見せるものではなく、一般公開することは適切ではない、という点であった。

2.3 フィールド調査写真の公開をめぐる課題認識

写真公開の準備に携わった財団関係者は、中東を中心としてアラブ・ムスリム社会の田舎や都市においても滞在経験を持ち、女性も男性も、イスラーム教徒も含むメンバーではあったが、それでも写真一枚一枚についてしっかりと多角的に検討しなければ、適切な公表にはつながらないことを痛感し、様々な点で深く反省した。

この時点では、片倉もところフィールド調査資料の全貌はまだつかめておらず、会場で公開した全ての写真について、いつ、どこで、何を、誰を対象として撮影したのか、という情報を正確に把握することはできていなかった。公開に際して、これらの点は非常に重要な基礎情報であることをあらためて認識した。また、被写体の性別にかかわらず、被写体の人物とその写真を見るであろう人々との社会的な関係性を強く意識して、公開の範囲と媒体や公開手段を限定しなければならないということを認識した。そして最も注意しなければならないのは、やはり女性を被写体とする写真群であり、その公開の可否は、おそらく決して単純な限定された基準で計れるものではなく、時代や地域、また社会や個人によっても異なる可能性を十分想定しなければならない、という点についてであった。

遺された片倉もところフィールド調査写真には、片倉もところ本人が明確に述べていたように「約束を守って人にはみせていない」(片倉 1984: 15) 写真が含まれており、調査対象であった地域コミュニティとの信頼関係を第一にしなければならないことが明確である。その観点からは、片倉もところフィールド調査写真の学術的価値がいかに高くあろうとも、現地社会との新たな信頼関係の構築なしには、写真の整理を続けて公開に結びつけていくことはできないと判断された。

このような認識を大前提としつつ、以下で述べるように、現地社会や調査対象であった地域コミュニティにとっても片倉もところフィールド調査資料が社会的価値を有していることを認識したことが、フィールド写真資料の整理そしてデジタルファイルのアーカイブ登録へとつながっていったのである。

3 ワーディ・ファーティマ地域の再訪とフィールド調査写真の持つ社会的価値の認識

3.1 ワーディ・ファーティマ地域への再訪

3.1.1 再訪となぜ言えるのか

2015年3月、ワーディ・ファーティマ地域を訪問した財団メンバーは、片倉邦雄評議員会議長（元駐アラブ首長国連邦、駐イラク、駐エジプト大使）、吹田靖子評議員（「ハナエモリ・スタジオ」アドバイザー）、郡司みさお理事（G-プランニング主宰）、河田尚子理事（世界宗教者平和会義（WCRP）日本委員会婦人部会委員）、縄田浩志理事（秋田大学大学院国際資源学研究科教授）、藤本悠子財団事務局秘書（東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了）の6名であった。

メンバーは、性別、年齢、専門、そして片倉もとこ（元の調査者）との関係性という点で、多彩でバランスがとれていた。男性2名、女性4名のうち、夫（遺族）であり調査当時共に村入りすることもあった片倉邦雄（80歳代）、片倉もとこの大学時代の親友として共に女性が活躍する場を切り拓いたいわば同志としての交流が続いていた吹田靖子（70歳代）、指導学生であり研究補助員も務めた河田尚子（60歳代）と藤本悠子（30歳代）、夫の赴任地であったサウディ・アラビアの長期滞在中に経験した生活を著作に著わしたという点で共通点を持ち面識もあった郡司みさお（50歳代）、また指導学生ではないが研究の影響を受け交流があった縄田浩志（40歳代）で構成された。最初のワーディ・ファーティマ調査当時に妻・片倉もとこに同行することもあった夫・片倉邦雄が参加したため、この訪問は再訪と位置づけることが可能であろう。「私は半世紀前の『ワーディの昔』を知る唯一の生き証人、そして『添乗員・浦島太郎』として参加した」と片倉邦雄は述べている（片倉 2015: 15）。

また、2014年3月に国立民族学博物館において、同博物館・国際日本文化研究センター・比較文明学会関西支部共催の公開シンポジウム「片倉もとこ先生をフィールドワークする」が開催された折、片倉邦雄は片倉もとこがサウディ・アラビアのワーディ・ファーティマを調査地として定めて手がけたフィールド調査手法の特徴として、(1) 遊牧民の人たちとの信頼感の醸成（情解）、(2) コミュニケーションの手段としての口語アラビア語の駆使、(3) 写真撮影やKJ法によるカード作成等綿密な資料収集、(4) 調査村の人々と生活を共にしたこと、(5) 調査村への訪問を反復したこと、の5点をあげた（河田 2014: 8）。

また「片倉もとこの人間像」として、どのようにワーディ・ファーティマで調査を実施できるようになったのか、以下のように述べている。

その頃、同王国は紅海沿岸のジッダからマッカ方向に出れば道路の両側斜面に遊牧民の黒い

テントが点在し、翌日にはさっと消えている風景が常だった。もところは移動する彼らを辛抱強く追跡し、羊群を追う遊牧民の少女に話しかけようと近寄り、砂をぶつけられたりしながらも、70キロ離れたワーディ・ファーティマにたどりついた。調査の手がかりを掴んでからは、ジープでも沈没する沙漠の悪路にも慣れ、何度も通った。

当時は人口調査等も進んでおらず、厳しい宗教的戒律や閉鎖性から情報提供者の確保は困難だったが、ワーディ・ファーティマ社会開発センター所長の温かい庇護を得て、もところは家族構成、家畜保有数、定着化、土地所有、水利灌漑の実態等を綿密に調査した。本人がいつも述べていたが、自分が女性であるのみならず、既婚者であり母親であることが遊牧民の信頼を得る大切な要素となった。結婚式に夫婦で招かれることもあったが、男女のテントは隔離されており、私は男衆に囲まれ、ジュースと羊肉でおなかいっぱい。もところは女性と男性のテントの間を往来し、華やかな衣装と歌や踊りの様子を伝えてくれた。

ただし村民から「友人」としての付き合いなのか、「研究者」としての情報収集なのか、疑問を抱かれることもあった。研究者の宿命とはいうものの、妻、母親、研究者という、ひとり三役のジレンマに悩みながら、一研究者として「和して同ぜず」を貫き通し、生涯イスラームの理解に努めつつも一定の距離を置くようにしていた。これは「情の人」、もところにとって辛い試練であったかもしれない（片倉 2019: 26-27）。

ワーディ・ファーティマ地域への訪問が実現した最も大きな理由は、ワーディ・ファーティマ地域における調査の苦楽を共にした片倉もところ・片倉邦雄夫妻と、ワーディ・ファーティマ社会開発センター元所長アブドゥッラヒーム・アル＝アフマディ氏との長年にわたる交流が続いていたからこそであり、アブドゥッラヒーム氏が片倉もところによるフィールド調査の学術的特徴また社会的価値を的確に理解していたからであった（アル＝アフマディ 2014; 縄田・藤本他 2021）。

片倉もところによるワーディ・ファーティマ地域における調査を時間軸に沿って整理するとすれば（図1）、集約的な調査期間（1968年～1970年）、その後も継続された追跡調査期間（1971年～2003年）、そして新たな調査グループによる再調査期間（2015年～2019年）に分けることができるが、アブドゥッラヒーム・アル＝アフマディ氏から見れば、

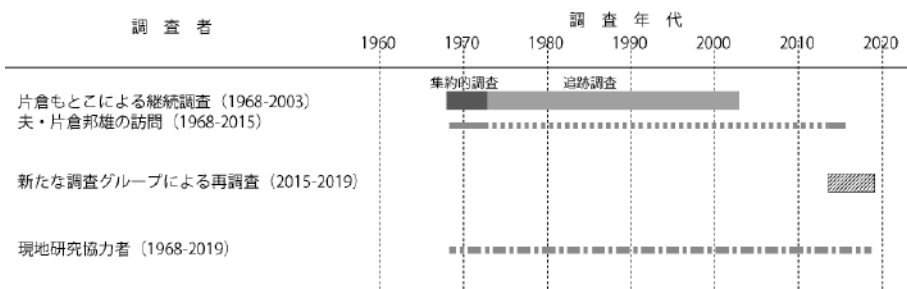


図1 片倉もところによるサウディ・アラビア、ワーディ・ファーティマ地域の継続調査（集約的調査、追跡調査）期間、新たな調査グループによる再調査期間、また、最初の調査研究者の夫と現地研究協力者の関わり

ワーディ・ファーティマ地域におけるフィールド調査のサポートは、1968年から2019年にかけて継続的に行ってきたと言える。アブドゥッラヒーム氏は片倉夫妻との途切れない交流の一環として、およそ半世紀後の再調査をも支援したことは特筆に値する。その結果として、片倉もこの夫・片倉邦雄が、集約的な調査期間（1968～1970年）のみならず、再調査を開始した最初の訪問時（2015年）にも同行できたのであるから、片倉邦雄を最初の調査研究グループの一人と見なすことが許されるのであれば、調査対象国の関係者の一貫したサポートのもと、半世紀以上の期間にわたり途切れずワーディ・ファーティマ地域におけるフィールド調査研究を継続してきたと形容することも可能である。その場合は、再調査（re-study）も、ある意味では追跡調査（follow-up study）と位置づけられる。事実、調査対象国の関係者・関係機関は、夫が再訪したことに心からの敬意を払い、これまでの関係を忘れることなく、さらに発展させようとする新たな調査グループの希望に応えようとする姿勢が感じられる。

3.1.2 ワーディ・ファーティマ社会開発センターの協力

アブドゥッラヒーム・アル＝アフマディ氏は、自身が培った人的ネットワークを駆使して、元の所属先ワーディ・ファーティマ社会開発センターが、今回の訪問の受け入れ先となるように、ワーディ・ファーティマ社会開発センターが所属する本省の社会開発省を通じた手続きを完了させ、ワーディ・ファーティマ地域への再訪が実現された（写真2）。またワーディ・ファーティマ地域では、現所長他同センターの関係者がホスト役を担い、同センターの活動の紹介、情報交換のためのシンポジウムの開催、地域住民の紹介を行った（写真3）。

ワーディ・ファーティマ地域は1960年代から本格的に行政が整備され、1961年に労働省、社会問題省、農業水産省、教育省、そして保健省の共同事業で16の機関を設けることになり、地域における社会、文化、教育、農業、健康の水準を高めることを目的に、社会開発センター（以下、センター）が開設された。地域が抱える社会問題についても調査を行い、学校教育、食品衛生の見直し、病院での予防接種や治療を推奨した。

センターは住民から学校開設の申請を受けると、教育省を通じて教師を雇い、持ち運び可能な黒板とチョークを提供した。慣習的に子供たちは机や椅子を使わず、布やナツメヤシ製のマットを床に敷いて座り、膝の上で書いて学んできたが、ダフ・ザイニー村の小学校では、住民の協力で早くから高学年向けに机のある教室が設けられた。出生登録や学校登録が進むに連れ、民族集団同士の交流が進んだ他、若者は大工等の職業訓練を受けるようになった。センターは女子や母親に対して、効率的な家事や手仕事について訓練する機会や読み書きの授業を提供し、外国人女性を雇い診療所を設け、女性専用の医療体制を整えていった（藤本 2019a）。片倉もここは当時、子供たちにアラビア語を教える教師役を担ったこともあった（Katakura 1977; 藤本 2019b）。



写真2 ワーディ・ファーティマ社会開発センター関係者との記念写真
撮影：縄田浩志，2015年3月25日，アル＝ジュムーム市



写真3 ワーディ・ファーティマ社会開発センター長から歓迎を受ける片倉邦雄
撮影：縄田浩志，2015年3月25日，アル＝ジュムーム市

半世紀を経た今回の訪問で、中心都市のアル＝ジュームに大学が2校できる等地域は発展し、センターも講演用のホールやプールなど設備を設置、拡大していることを案内された。また職員は女性と男性が建物内で完全に仕切られたスペースで働き、女性部門では絵画等を飾る展示室をはじめ、パソコンルーム、美容室、スポーツジム等、すべて女性専用設置されていた。サッカー場、体育館、プール等は時間制で男性も女性も利用することができる。女性たちが手作りの品を売るコーナーも設け、アル＝ジュームで現在建設中の公園の一角でも販売予定であるということであった。地域に密着し女性の社会進出を支えるセンターの存在感は大きかった（藤本 2019a）。

学術的な観点から注目されたのは、センターに収集・保管されている数百点に及ぶ物質文化コレクションであった（写真4・5）。未来世代にとっての研究資料としての活用を地域住民との共同作業により行い、物質文化を中心とした民族的・文化人類学的学術資料の現代的活用の道を切り拓くことができるのでは、という展望を得ることができた（縄田 2017; 遠藤他 2021）。

同センターが企画したシンポジウムでは、片倉もとこフィールド調査資料の中から、景観写真を何枚か紹介したところ、同センター職員をはじめ、地元の郷土史家、新聞記者は強い興味を示し、発表に用いたデジタル写真のファイルを共有させてもらえないかという要望を受けた他、今後の継続調査を望む旨の提案をされた（写真6）。



写真4 ワーディ・ファーティマ社会開発センターに収集・保管されている物質文化コレクションを見学
撮影：縄田浩志，2015年3月25日，アル＝ジューム市



写真5 ワーディ・ファーティマ社会開発センターに収集・保管されている
物質文化コレクションについて職員から説明をうける
撮影：縄田浩志，2015年3月25日，アル＝ジュムーム市



写真6 ワーディ・ファーティマ社会開発センターで開催されたシンポジウムで片倉もところフィールド調査資料のお披露目を行う
撮影：縄田浩志，2015年3月25日，アル＝ジュムーム市

また、近年ワーディ・ファーティマ地域において実施された学術研究の資料を提供され、考古学分野の調査 (Norman et al. 1988) と土地利用と環境影響に関する調査 (Judas and Hoja 2007) が実施されていたことがわかった。ただし文化人類学的もしくは人文地理学的な社会調査は行われていないと判断された。

3.1.3 村人との再会によるフィールド調査写真の社会的価値の再発見と撮影場所の同定

ワーディ・ファーティマ社会開発センター職員により、片倉もとこが1980年代に滞在した際に居候していた教師一家のイード・アル＝ブシュリー氏宅に案内された (写真7)。イード氏と片倉邦雄は再会を喜びあい旧交を温めた。用意した数十枚の主に山並みや農地また村の様子の景観写真を、集まっていたいた古老3人に見ていただき、どの辺りで撮影されたと思うか聞いてみた (写真8)。何枚かの写真に対して、この写真はあそこだろうと示唆を受けた。その中でも、場所が明確ですぐ案内できると言われたのは、井戸で水くみをする人々が写り込んだ写真が撮影された場所であった。その井戸の名は、ビイル・シャーヒルという。翌日案内いただけることとなった。

そのあと女性メンバーは、片倉もとこをよく覚えている長寿女性の家を訪ねた。体調が良くないと聞いていたので心配していたのだが、顔を合わせると久しぶりに見る日本人に大喜びしてくださり、「Moko, Moko」と本当にうれしそうだった。女性メンバーはアラビア語を完全に操ることができなかったのでコミュニケーションには苦勞したが、最初の話題は「誰が片倉もとこの娘なのか」という問いであった。太鼓を打ち鳴らし、歌を唄い、姉妹、娘、孫たちにダンスを踊らせて歓迎してくださった。楽しいひと時はあっという間に過ぎ、片倉もとこがワーディ・ファーティマの衣装姿で写っている写真を綴じこんだアルバムを土産とした。すると、彼女は急に懐かしいかつての暮らしを思い出したのか、思い立ったように古い飾面ブルグアを持ってこさせ、慣れた手つきでひもを結び、さっと着替えて見せてくださった。この方にとっては、その昔、東洋から突然現れた片倉もとこは今も心に深く残る懐かしい存在なのだろうと強く感じられた (縄田他 2015)。

この方こそ、人名の匿名表記について解説した際に例としてあげた (縄田・藤本他 2021)、片倉もとこと親交が深く著作に何度も登場していたAであることを、その後、知ることとなった。しかし無念なことに、翌年Aは他界し、再会はかなわなかった。(本稿でAと匿名にしているのは、Aの遺族の要望に基づいており、A本人の希望があったわけではない。)

翌日、ビイル・シャーヒルに案内された。後ろに見えるシドゥル山の山並みはまさに写真のとおり、井戸はすでに使われなくなって久しいようだが、間違いなく、その写真が撮影された場所であることを確認した (写真9)。写真には、セメントで補強された井戸口に少年少女を含む複数の人々が集まり、手前には頭に一斗缶をのせて井戸に向かっ



写真7 片倉もところが調査当時居候していたイド・アル＝ブシュリー氏宅を再訪する片倉邦雄とアブドゥッラヒーム・アル＝アフマディ氏他片倉もところ記念沙漠文化財団メンバー
撮影：縄田浩志，2015年3月25日，ブシュール村



写真8 片倉もところが調査当時居候していたイド・アル＝ブシュリー氏宅にて片倉もところフィールド写真を示し，撮影場所を聞き取る
撮影：縄田浩志，2015年3月25日，ブシュール村

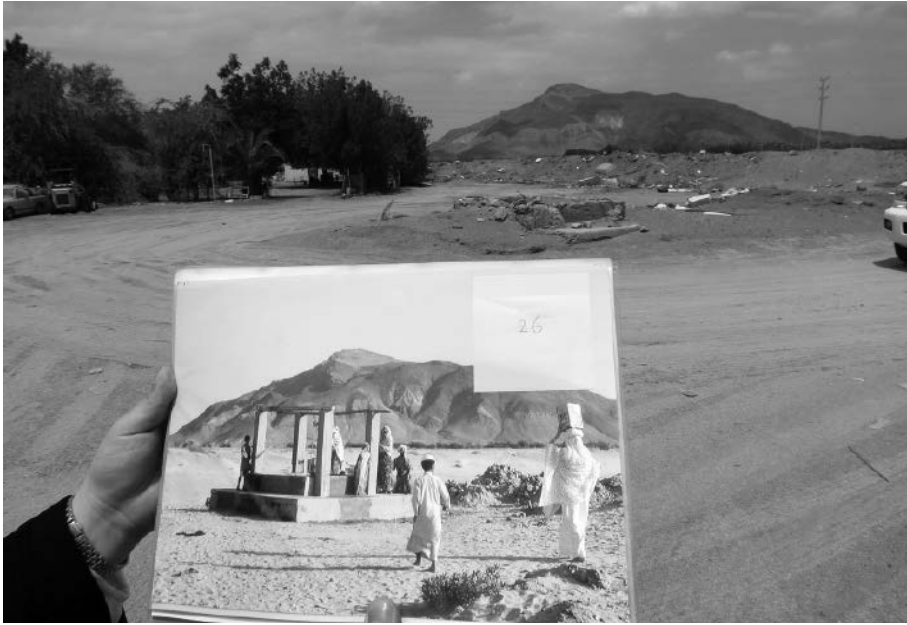


写真9 片倉もとこフィールド写真に撮影されていた井戸ビル・シャーヒルを訪問して、新たな写真を撮影
撮影：縄田浩志，2015年3月26日，ブシュール村

ている女性の姿が見える。この写真は後に「地域研究画像デジタルライブラリ」(略称 DiPLAS) に登録され、KM_5579という番号が付与されることになった写真であり、頭に一斗缶をのせている女性は、片倉もとこであると村人が教えてくれた。当時撮影したのと同じフレームで、新たな写真を撮影してみた。そうすると気づいたことは、以前の写真には何も写り込んでいなかった所に、緑の樹木を確認できることであった。そこで撮影範囲を広げて、その辺りを認識し直すと、複数の樹木が覆う林のようにになっていることがわかった。その場所には、当時の写真には写り込んでいない樹木に囲まれた農地が、今は存在していたのである。

農地をイード氏に案内いただいた(写真10)。まず興味を持ったのは、電動ポンプにより水がくみあげられていることであった。写真に写し込まれた井戸は使われなくなってしまったが、そこから100mも離れていないワーディの一角で、新たな形での水利用は継続されていたのである。それも電動ポンプは複数台あり、水量も十分に見受けられた。その水を使って、オクラやモロヘイヤといった野菜が栽培されていた。農作業に従事するのは、パキスタンやインドから出稼ぎに来ている外国人労働者であった。

ワーディ・ファーティマ地域への再訪は、わずか数日でしかなかったが、得られたものは大きかった。現地の行政組織であるワーディ・ファーティマ社会開発センターの協力はもとより、何にもまして、片倉もとこ調査当時に交流があり当時の関係の延長とし



写真10 ビイル・シャーヒル近くの農地にあるポンプ設備を案内するイド・アル＝ブシュリー氏
撮影：縄田浩志，2015年3月26日，ブシュール村

て新たなメンバーを迎え入れてくれる村人が多数存在しているということがわかったことがすばらしかった。

さらにメンバーが持ち込んだ過去のフィールド調査写真はほんの数十枚であったが、人々の興味を引きつけるには十分すぎるほどの効果があった。研究や報道の観点からの興味、自身や親族の姿が写し込まれているという点からの興味、そしてその写真を持って日本から再度訪問してきた私たちメンバーに対する興味、といったところを感じられた。フィールド調査写真はまぎれもなく、撮影された時の被写体であった地域の人々にとって、一定の社会的な価値を有していることを認識できた。

また具体的な活動として、過去のフィールド調査写真の撮影場所を同定すること、また被写体の人物を特定するということは、今後しっかりと時間をとって訪問し直せば、数十枚の写真に限らず十分な対応をしてもらえる、という確かな自信が得られた。

同時に強く感じられたのは、片倉もところによる最初の現地調査からちょうど50年、つまりおよそ半世紀が経過しているということは、当時交流していた人々、またそのことを記憶にとどめている人々は当然、わずかな数になっているということである。もしかしたら、あと10年いやあと数年もしたら、多くの関係者に会うことがかなわなくなってしまうことを強く危惧した。

以上のように、調査地ワーディ・ファーティマ地域を訪れ、生活や農地の現状を観察

すると共に現地関係者や研究者と議論を開始し、同地で継続調査が可能なことを確認できた。日本人がおよそ半世紀前に実施したフィールド調査を高く評価し、その発展的継承を強く願っていることも知った。同地において少しでも早く再調査を開始しない限り、現代につながる古老の知見や情報が記録されないまま永遠に失われかねないことを強く認識したため、本格的な学術調査計画を練ることとした。

3.2 新たな調査グループによるフィールド調査の計画と実施

3.2.1 調査テーマ策定

片倉もとは、1960年代末時点におけるワーディ・ファーティマ地域の父系、母系、婚姻関係という社会的紐帯について、また1950～1970年代の村への出入りを具体的に記載している。合わせて、用水量、家畜数、農地面積、農耕歴、食生活等を示しつつ、家計の支出入、市場の物価を一覧表にすると同時に、井戸の維持管理や農作業を担う農業労働者と土地所有者の関係についてもソシオグラムとして示している。くわえてワーディ沿いの耕作地と用水形態が詳細に記述され、住居域や家屋タイプについても地図に落とし込まれている。テントの構造、家屋のタイプ、室内の家具・台所用品等のスケッチといった物質文化の記録も豊富である (Katakura 1977)。

2015年3月にワーディ・ファーティマを訪れ、生活や農地の現状を観察し、当時のインフォーマントや関係者にコンタクトをとり、同地での再研究が可能なことが確認できた。現地の行政組織であるワーディ・ファーティマ社会開発センターに収集・保管されている数百点に及ぶ物質文化コレクションにアクセスできることも魅力的であった。また、現地の古老やリーダー達は日本人がおよそ半世紀前から継続して実施していた現地調査を高く評価し、その発展的継承を強く願っていることを知ることができた。

そこで、片倉もともフィールド調査資料を整理・再分析しつつ、衛星画像の解析や社会調査の手法を用いた新たな現地調査を実現すれば、当地域においてドラスティックな現象として観察される生活様式や資源利用形態の変化や世代間ギャップに具体的に迫ることができると考えた。そこで、現代の社会的紐帯を、土地利用、生業形態、資源管理、物質文化との関係から把握し、「社会共通資本としての水資源」に注目して、他のオアシス社会と比較しつつ、グローバル化後の変化を具体的に追うことを中心的テーマと定めた (図2)。

3.2.2 調査グループのメンバー編成

調査グループは、文化人類学・社会生態学の縄田浩志 (40歳代) を代表に、環境人類学・農村開発学の石山俊 (50歳代)、人文地理学の古澤文 (40歳代) と渡邊三津子 (40歳代)、また考古学の遠藤仁 (40歳代) をメンバーとして、日本学術振興会の科学研究費助成事業に申請した。幸い、「半世紀に及ぶアラビア半島とサハラ沙漠オアシスの社会的

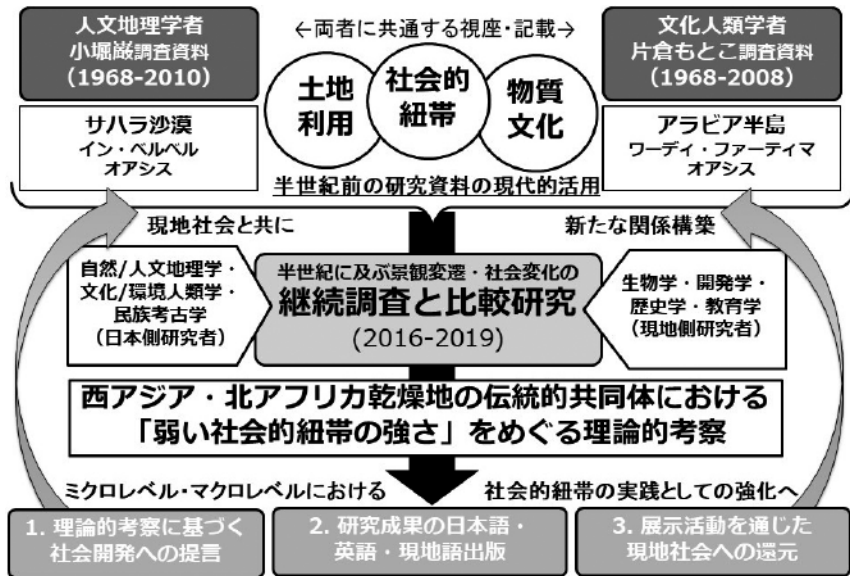


図2 片倉もところフィールド調査資料を活用した研究テーマの策定 (出典：縄田 2020)

「紐帯の変化に関する実証的研究」(基盤研究 (B), 課題番号 JP16H05658, 研究期間: 2016~2019年度)が採択された(縄田 2020)。また「アラムコ・片倉もところ沙漠文化協賛金」に基づく財団メンバーとして、郡司みさお、藤本悠子に加わり、ワーディ・ファーティマ地域再調査として、2018年4月~5月に第1回、2018年12月~2019年1月に第2回、2019年9月に第3回を実施した。特筆すべきは、第2回・第3回には、サウディ・アラビアからの第一期国費留学生として訪日して以来、10年以上の滞在をしつつ、日本の非鉄金属の会社に勤めながら、日本工業大学の大学院生として博士課程に在籍していたアナス・ムハンマド・メレー氏が、祖先がワーディ・ファーティマ地域出身であるという縁から、本調査グループに加わったことが挙げられる。アナス氏は現地におけるコーディネートから通訳までを一手に担い、的確なコミュニケーションでワーディ・ファーティマ地域の関係者との懸け橋となり、次第に私たち調査グループの共同研究者ともなっていくた。

まず科学研究費助成事業に採択されたことにより、「地域研究画像デジタルライブラリ」へ申請する資格を得てデジタル画像登録につながったことこそが、片倉もところフィールド調査資料のなかでも特に写真資料の再分析が主要な研究活動となった理由である。ただあらためてここで確認しておきたいことは、DiPLASへの採択により写真のデジタル化を開始したわけではなく、遺された片倉もところフィールド調査資料の全体像を把握して、整理優先順位を定めて、写真のデジタル化を開始したのは、片倉もところ記念沙漠

文化財団の事業の一環として、それ以前に開始されていたことである（縄田・西尾他 2021）。

3.2.3 調査受け入れ機関の決定と調査への期待

調査グループは、2015年の現地調査から新たに繋がった人的ネットワークを手がかりに（片倉 2015）、サウディ・アラビア国家遺産観光庁の正式な受け入れによって、まずは2018年4月～5月の3週間、半世紀に及ぶ社会の変遷を本格的に追跡するフィールド調査にこぎつけることができた（縄田 2019b）。

在日サウディ・アラビア大使館を通じて、調査計画書を提出してから計画が許可された2017年10月までおよそ2年がかかったが、サウディ・アラビア国家遺産観光庁が受入機関と定められたことは、サウディ・アラビア関係者・関係機関による辛抱強い協力と適切な判断があった。本調査を管轄して共同研究を行うことになったサウディ・アラビアの首都アッリヤードにある国立博物館考古研究部長のアブドゥッラー・ビン・アリー・アッ＝ザフラーニー博士は、同国で日本人研究者を中心として実施される発掘調査隊を管轄する責任者でもあり、また、彼が大学院生時代には、JICA(当時の国際協力機構)事業「サウディ・アラビア考古学調査プロジェクト」にも携わった経験があった。同時に縄田浩志も1999～2000年にかけて同事業に短期派遣専門家として携わった経験があり、ザフラーニー博士とも面識があったことは、幸いであった。

またワーディ・ファティマ地域での調査研究活動は、中央政府の正式な受入機関のみならず、片倉もとこ調査時から関係が深かった地元の社会開発センターに加えて、マッカ州知事やアル＝ジュムーム市長からも全面的なサポートを得た。あわせてサウジ国営情報局をはじめとした複数のウェブ新聞が取り上げるなど、大きな関心が寄せられた（サウジ国営情報局電子版 2018）。その背景の一つとして、2016年4月にサウディ・アラビア政府が発表した「ビジョン2030」において示された文化、歴史、観光関連産業への期待が大きな後押しになっているように感じられた。

2018年12月、人間文化研究機構「現代中東地域研究」秋田大学拠点・国立民族学博物館拠点と片倉もとこ記念沙漠文化財団が協力して、首都にあるキング・ファイサル・センターならびにダハラーンにあるサウジアラムコ附属のキング・アブドゥルアジーズ世界文化センター、通称ithraから学芸員を招いて「アラビア半島の文化遺産保護の現状と展開—サウディ・アラビアを中心として」と題した国際シンポジウムを横浜で開催した。あわせて、国立民族学博物館の収蔵庫、収蔵品の保管方法などを視察いただいた。

そのような交流のいかにもあり、片倉もとこ記念沙漠文化財団は2018年5月にキング・ファイサル・センターと覚書を締結して、今後、学術コレクション・展示・研究等において連携し、日本とサウディ・アラビアの文化の相互理解を深め協働していくことで合意した。キング・ファイサル・センターは1983年に設立され、16,000点を超える古書・

古文書を保管し、サウディ・アラビアの各地域における歴史・文化のデジタルアーカイブ化を推進してきたサウジ有数の研究組織である。

もうひとつの大きな収穫は、ithraの訪問にあった。片倉もところ記念沙漠文化財団がアラムコ・アジア・ジャパン株式会社との間で、「アラムコ・片倉もところ沙漠文化協賛金」に関する協定を結んでいる縁から、一般公開直前、特別に中を案内していただいた。総敷地面積100,000㎡に及ぶサウディ・アラビア初の総合文化施設と呼べるもので、博物館、図書館、講堂、劇場、映画館などを備えている。20万冊収蔵の図書館はアラビア半島一の蔵書を数え、映画館は首都に次いで同国2番目の施設になると言う。地域性豊かなイスラーム文明史、またアラビア半島における自然科学から現代アートまで幅広い展示を行う博物館は、今後世界から高い評価を得るであろう。そして最新の技術を用いた体験型・インラークション型の子供用レクリエーションまた教育フロアでは、楽しみ学べる多くの工夫を体感することができた。この充実した完成度の高い文化施設、特にその洗練された展示内容に、多くを触発された。

同時に私たちはまた、ithraの展示責任者らを前にして、片倉もところによるフィールド調査資料の価値、またそれを軸に準備中の日本開催の展示案などを説明するプレゼンの機会をいただいた。ある学芸員は「あなたたちは、私たちが手にすることができない貴重なコンテンツを持っている」と褒めていただいた。将来的にithraを会場として、共同で展示を企画できないか、という話にまでこぎつけることができたのである。

ワーディ・ファーティマ地域において被写体の人々に写真を確認してもらう過程で、調査研究を飛躍的に前進させる印象的な出来事があった。その写真は建物を中心として村の様子を撮影した写真であったが、その手前に少年の姿が認められた(写真11)。少年が自分であることに気づいた村人アリー・ザイニー氏は大いに喜び、写真を感じ深げに眺めて「この撮影場所を案内してあげよう」と積極的に提案された。当時の家屋は取り壊されたり大幅な増改築がほどこされ、面影をほとんど残していなかったが、この写真が撮影された場所を同定した(写真12, 渡邊他 2021: 写真31)。これをきっかけとして、その前後に撮影されたと考えられる村の景観の一連の写真の撮影場所を次々と同定できた。「50年後のアリーさんも一緒に写真を撮ってもよいか」とお願いすると快諾いただいた(縄田 2019a; 2019c)。アリー氏と出会い、新たな関係を構築することができたのは、半世紀前の一枚の写真が取り持った縁であり、日本人研究者とサウディ・アラビアの村人を繋ぐたった一本の新たな関係ではあるが、多方面に波及する社会連携の大きな扉を開けることができたことを実感した。

アリー・ザイニー氏との交流はその後の調査でも続き、私たちが撮影した写真の出版物への掲載、展示会場での利用について快諾いただいた。また新聞連載の際にも、このエピソードを紹介したが(縄田 2019d)、その新聞記事を早く見せてほしいと懇願されている。



写真11 子供の頃の自分が写りこんでいた写真を感慨深げに眺めるアリー・ザイニー氏
撮影：縄田浩志，2018年5月2日，ダフ・ザイニー村



写真12 1960年代に撮影された写真の撮影場所で当時の様子を再現する撮影を快諾したアリー・ザイニー氏
撮影：縄田浩志，2018年5月2日，ダフ・ザイニー村

4 片倉もところフィールド調査資料、特に写真資料の社会的特徴

4.1 再調査・再研究を可能にした資金調達、人間関係、受入機関

片倉もところの遺志による片倉もところ沙漠文化財団の設立によって、片倉もところフィールド調査資料に基づくサウディ・アラビア、ワーディ・ファーティマ地域再調査への道が拓かれた。具体的には、資金調達、人間関係、受入機関に恵まれたことにある。

資金調達においては、片倉もところ沙漠文化財団とアラムコ・アジア・ジャパン株式会社との間で締結された「アラムコ・片倉もところ沙漠文化協賛金」の貢献度が高い。本基金により、潤沢な資金的裏付けをもって、ワーディ・ファーティマ地域における再調査の準備が加速していった。片倉もところの夫、片倉邦雄を中心とする財団メンバーによって2015年にワーディ・ファーティマ地域への再訪がかなったことによって、実際に実現可能性が高い具体的な調査計画の立案、すなわち片倉もところフィールド調査資料のなかでも写真資料を用いた研究へとつながっていった。

そして何といてもワーディ・ファーティマ地域への再訪や再調査が実現した最も大きな理由は、ワーディ・ファーティマ地域における調査の苦楽を共にした片倉もところ・片倉邦雄夫妻と、ワーディ・ファーティマ社会開発センター元所長アブドゥッラヒーム・アル＝アフマディ氏との長年にわたる交流が続いていたことであった。半世紀以上に及んで継続し醸成されてきた日本とサウディ・アラビア両国をまたぐ人間関係を基盤として、自然な形で新たな世代を中心とした人間関係へとつながり、調査対象国であるサウディ・アラビアの人々と関係機関による理解、受入、協力、共創へと発展する本格的な調査研究プロジェクトが形成された。

新たな調査研究活動は、サウディ・アラビア国家遺産観光庁が受け入れ機関となることにより、2018年に正式に開始された。国立博物館考古研究部長アブドゥッラー・ビン・アリー・アッ＝ザフラーニー博士は、考古学を専門とする研究者であるが同時に、いやだからこそ、およそ半世紀前サウディ・アラビアの地域コミュニティーに入り込んで収集された片倉もところフィールド調査資料の学術的特質を的確に理解し、1960年代後半から1970年代前半という時期に撮影、記録されたフィールド調査写真を中心として、サウディ・アラビアの歴史史料また生活記録の観点からほとんど同類の資料は存在しないという点について、高く評価した。したがって、同地で再調査を試みようとする私たち調査グループの計画への最大限の協力と協働を約束してくれたのであった。

くわえて、結果論ではあるが、本調査計画が立案された時期がまさに時を得ていたと言える。サウディ・アラビア政府が「ビジョン2030」を示したのは2016年4月のことであったが、そこでは文化、歴史、観光関連産業の発展が明記されていた。ワーディ・ファーティマ地域を対象として50年の変化をすくいあげる私たちの学術的調査は、これまでも増して文化遺産に光をあて観光に力を注いでいこうとするサウディ・アラビア政

府や民間組織による直近の方向性といみじくも道を交えることになったといえよう（縄田 2019b）。私たち調査グループによる再調査の開始について、サウジ国営情報局をはじめとした複数のウェブ新聞が取り上げるなど、大きな関心が寄せられたことから理解されるように、現代のサウディ・アラビア社会にとって、サウディ・アラビアを調査対象国として収集された片倉もとこフィールド調査資料は、高い歴史的、社会的価値を有する学術資料と認識されはじめたと考えられる。

4.2 調査対象であった地域コミュニティが期待すること

ワーディ・ファーティマ地域への訪問は、最初のワーディ・ファーティマ地域調査当時に妻・片倉もとこに同行することもあった夫・片倉邦雄が調査メンバーとして参加したため、再訪ということになり、片倉もとこ交流のあった村人との再会をすることができた。片倉もとこの重要なインフォーマントであった女性、片倉もとこ調査時の居候先の家族、そして片倉もとこが撮影した写真に写り込んでいた子供との出会い、といったように、片倉もとこ調査当時に交流があり当時の関係の延長として、新たなメンバーを迎え入れてくれる村人との新たな関係の構築につながっていることの実感を得た。

同時に強く意識したのは、片倉もとこによる最初のフィールド調査からおよそ半世紀が経過しているため、当時交流していた人々、またそのことを記憶にとどめている人々は、わずかな数になっていることであった。この数年を逃してしまったら、最初の研究者と村人の中で構築された人間関係、信頼関係を継続する機会を永遠に失うことになってしまうという現実に向きあうことになったといえる。

その後の本格的な調査活動として、過去のフィールド調査写真の撮影場所を同定すること、また被写体の人物を特定するということができる、という確かな自信が得られた。なぜならば、具体的には、片倉もとこが撮影した、あるフィールド写真の場所をビル・シャーヒルと同定して現在の様子を比較して記録することができたからであり、片倉もとこの居候先であったイード・アル＝ブシュリー氏が声をかけてくださった古老たちへ実際にインタビューすることができたからであり、また、片倉もとこの深い親交があった長寿女性に再会することができ、片倉もとこ縁のある新たな世代の私たちへの温かい気持ちを強く感じることもできたからであった。

アブドゥッラヒーム・アル＝アフマディ氏の努力により、現地の行政組織であるワーディ・ファーティマ社会開発センターが現地での受入機関として協力してもらえることとなった。またワーディ・ファーティマ社会開発センターに収集・保管されている数百点に及ぶ物質文化コレクションを利用できる許可を得ることができたため、フィールド調査写真の再分析と物質文化コレクションの研究を調査活動の柱とする目的をつけることができた。さらには、ワーディ・ファーティマ社会開発センターが主催で、情報交換のためのシンポジウムを同地で開催したことによって、地元の郷土史家らがフィールド

調査写真を中心とした調査資料に興味を示すと同時に今後の継続調査を望む旨の提案を受けたため、現地における再調査に対する協力、また将来的な共同調査へとつなげることができる感触を得た。

以上のように、調査地ワーディ・ファーティマ地域を実際に訪れて、実現性を伴った本格的な学術調査計画を練りあげることができた。そして、片倉もところフィールド調査写真の社会的価値を、調査地ワーディ・ファーティマ地域において確認できたことが、科学研究費助成事業による学術調査へと発展させる原動力となったのである。

4.3 フィールド調査写真の整理・公開・利用に向けた社会的課題

集約的なフィールド調査を行い、また継続的に調査研究を実施していくなかで、調査対象であるコミュニティとの関係が深まっていく。その過程において、調査者が撮影した写真をコミュニティのメンバーにプレゼントすることは、頻繁にあるというより、人類学的なフィールド調査を目指すほとんど全員が実践していることだろう。場合によっては、調査コミュニティにおいてフィールド調査写真を用いた写真展を開催したり (Kemper and Royce 2002)、最初の調査研究者が撮影したアーカイブ写真の再利用による展示会を実施したり (Sbriccoli 2016)、フィールド調査写真という学術資料を使って、時にはある種の商業性を伴って、社会に向けた公開活動をしていくことがある。その際、フィールド調査写真を公開して利用することに対して、ほとんど社会的な支障が存在しないことも多いかと思われる。

しかしながらその一方、最大限の注意を払い、解決方法への道筋をつけない限り、利用がままならないケースもある。ワーディ・ファーティマ地域を対象とする片倉もところフィールド調査写真を扱う際に、まず強く意識しなければいけないことは、いつ、どこで、何を、誰を対象として撮影したのか、という基礎情報の重要度であった。再分析による二次的利用を計画することになった私たち調査グループが、その点について明確に認識することができたのは、本格的な再調査を開始する前、片倉もところ記念沙漠文化財団の設立披露パーティー終了後に、サウディ・アラビアの複数の関係者から指摘された写真の取り扱いに関する注意事項にあった。

イスラーム社会では一般的に成人女性の写真を家族以外に公開することは認められない、といった考え方だけでは、まったく十分ではないことを意識できた。被写体の性別にかかわらず、被写体の人物とその写真を見ることになる人物との社会的関係性を強く意識して、公表の範囲と媒体手段を限定しなければならないということ、女性を被写体とする写真群の公表の可否は、時代や地域、また社会や個人によっても異なる可能性を想定しなければならない、という点にはじめて思いが至るようになったのである。

後になって、中東社会を対象とする写真撮影の歴史を紐解いていくにつれて認識するようになったことは、私たちの心の奥底に潜んでいるオリエンタリズムとも呼べる潜在

意識であった。公開について最大限の注意を払わなければならないと指摘された、伝統的な衣装をまとった女性、また女性の喫煙シーン、といった写真こそ、実は観光客やオリエンタリストたちが好んだ主題と構図でもあったのである (Alloula 1986; Grotenhuis 2017)。もちろん私たちの意図は、そのようなものとは一切関係なかったと思いたいが、少なくともその写真を見た受け手に違和感や不快な気持ちを抱かせることがあったのなら、そこに大きな問題点が横たわっていたことを認めざるをえない。

したがって、ワーディ・ファーティマ地域を対象とする片倉もとこフィールド調査写真の学術的価値がいかに高くあろうとも、また再調査への社会的期待がどれほど高まってこようとも、調査対象国の人々、現地社会、特に調査コミュニティとの信頼関係なしには、写真の整理と公表は続けていけないと判断された。このような認識を大前提としつつ、調査コミュニティと新たな関係を構築することにより、フィールド調査資料の持つ社会的側面を認識したことが、写真資料整理そしてデジタルファイルのアーカイブ登録、すなわち「地域研究画像デジタルライブラリ」(略称DiPLAS)への登録へとつながっていった。ワーディ・ファーティマ地域を対象とする片倉もとこフィールド調査写真を登録する際に、学術的価値と社会的価値の両方との折り合いをつけられるかという課題が、第一の障壁として立ちはだかったが、その点についての技術的また理論的な諸課題については、次稿で議論していきたい(縄田・西尾他 2021)。

参考文献

〈日本語〉

アル・アフマディ、アブドゥッラヒーム

2014 「片倉もとこと沙漠文化」片倉邦雄訳『片倉もとこ記念沙漠文化財団ニューズレター』1: 7 (アル・リヤド新聞 2014年2月27日 (<http://www.alriyadh.com/91357>) にも寄稿)。

遠藤仁・渡邊三津子・藤本悠子・古澤文・郡司みさお／アナス・ムハンマド・メレー／黒田賢治・西尾哲夫・縄田浩志

2021 「国立民族学博物館収蔵片倉もとこ収集資料とサウディ・アラビア、ワーディ・ファーティマ社会開発センター所蔵生活用具との比較研究」『片倉もとこフィールド調査資料の研究』西尾哲夫・縄田浩志編(国立民族学博物館調査報告153) pp. 87-138, 大阪: 国立民族学博物館。

片倉邦雄

2015 「半世紀後のワーディ・ファーティマ」『季刊アラブ』153: 20-21。

2019 「片倉もとこの人間像——ひとり三役をふり返る」縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」』pp. 26-27, 東京: 河出書房新社。

片倉もとこ

1979 『アラビア・ノート——アラブの原像を求めて』東京: NHK 出版。

- 1984 「荒野に生きる女性たち」『季刊民族学』28: 6-23。
 片倉もところ・後藤明・中村光男・加賀屋寛・内藤正典編
 2002 『イスラーム世界事典』東京：明石書店。
- 河田尚子
 2014 「公開シンポジウム『片倉もところ先生をフィールドワークする』開催報告」『片倉もところ記念沙漠文化財団ニューズレター』1: 8。
- 郡司みさお
 2014 「片倉もところ記念沙漠文化財団設立披露パーティー開催報告」『片倉もところ記念沙漠文化財団ニューズレター』1: 4-5。
- サイド, E. W.
 1986 『オリエンタリズム』今沢紀子訳, 東京：平凡社。
- サウジ国営情報局電子版
 2018 「日本人研究者によるワーディ・ファーティマ調査について 2018年5月4日」<http://www.spa.gov.sa/1759614> (2020年7月1日閲覧)
- 縄田浩志
 2017 「移動戦略を沙漠の物質文化から探る」『民博通信』157: 18-19。
 2019a 「ワーディ・ファーティマの人びと——半世紀の変化をおって」『月刊みんぱく』43(6): 2-3。
 2019b 「ワーディ・ファーティマで本格的に再調査——国を豊かにする“文化”資源の可能性」『季刊アラブ』166: 23-24。
 2019c 「一枚の写真が取りもつ縁」縄田浩志編『サウジアラビア, オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」』pp.40-41, 東京：河出書房新社。
 2019d 「サウジアラビア, オアシスに生きる女性たちの50年——『みられる私』より『みる私』⑤写真 村も少年も様変わり」『毎日新聞』12月14日朝刊(神奈川版)。
 2020 『科学研究費助成事業研究成果報告書「半世紀に及ぶアラビア半島とサハラ沙漠オアシスの社会的紐帯の変化に関する実証的研究」(基盤研究(B), 課題番号JP16H05658, 研究期間: 2016~2019年度)』URL: <https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-16H05658/16H05658seika.pdf> (2020年8月7日閲覧)
- 縄田浩志・片倉邦雄・吹田靖子・郡司みさお・河田尚子・藤本悠子
 2015 「2015年アラムコ・片倉沙漠文化協賛金 サウジアラビア事前現地調査報告」『片倉もところ記念沙漠文化財団ニューズレター』2: 3-18。
- 縄田浩志・西尾哲夫・片倉邦雄・藤本悠子・河田尚子・古澤文・渡邊三津子・遠藤仁・石山俊
 2021 「片倉もところによるサウディ・アラビア, ワーディ・ファーティマ地域を対象とするフィールド調査写真のアーカイブ登録について」『片倉もところフィールド調査資料の研究』西尾哲夫・縄田浩志編(国立民族学博物館調査報告153) pp.63-86, 大阪：国立民族学博物館。
- 縄田浩志・藤本悠子・河田尚子・片倉邦雄・郡司みさお・古澤文・渡邊三津子・遠藤仁・石山俊
 2021 「片倉もところによるサウディ・アラビア, ワーディ・ファーティマ地域を対象とするフィールド調査資料の学術的特徴について」『片倉もところフィールド調査資料の研究』西尾哲夫・縄田浩志編(国立民族学博物館調査報告153) pp.1-30, 大阪：国立民族学博物館。

藤本悠子

- 2019a 「ワーディ・ファーティマ社会開発センターの影響と役割」 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.148-149, 東京：河出書房新社。
- 2019b 「外国人労働者との関係」 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.150-151, 東京：河出書房新社。

〈外国語〉

Alloula, M.

1986 *The Colonial Harem*. Minneapolis: University of Minnesota Press.

‘Ārif al-‘Ārif

1974 *Bedouin Love, Law and Legend*. Jerusalem: Cosmos Publishign.

Bell, G.

2000 *Gertrude Bell : The Arabian diaries, 1913-1914*. Edited by Rosemary O’Brien, with photographs by Gertrude Bell, Syracuse, NY: Syracuse University Press.

Gertrude Bell Archive

2020 Gertrude Bell Archive, University Library, Newcastle University. <http://gertrudebell.ncl.ac.uk/> (accessed August 7, 2020)

Grotenhuis, L.

2017 Smoking Hot: The Odelisque’s eroticizing Cigarette. <https://doi.org/10.4000/viatourism.1842> (accessed August 7, 2020)

Howe, K. S.

2008 Africa North. In J. Hannwavy (ed.) *Encyclopedia of Nineteenth-Century Photography*, Vol. 1, pp. 18-20. New York: Routledge.

Judas, J. and A. Khoja

2007 *Land Management in Ayn Shams (Meccah Emirate)*, Riyadh: National Commission for Wildlife Conservation & Development (NCWCD).

Katakura, M.

1977 *Bedouin Village, A Study of a Saudi Arabian People in Transition*. Tokyo: University of Tokyo Press.

Kemper, R. V. and A. P. Royce

2002 Restudies and Revisits: Styles of Collaborative Research. In R. V. Kemper and A. P. Royce (eds.) *Chronicling Cultures: Long-Term Field Research in Anthropology*, pp.1-7. Walnut Creek, CA: A Division of Rowman & Littlefield Publishers.

Luminous-Lit

2020 Photography: History, Evolution and Analysis. <http://www.luminous-lint.com/app/home/H1/> (accessed August 7, 2020)

Nassar, I.

2019 Karimeh Abbud: First Female Photographer of Palestine. In T. Verde (ed.) *Women behind the Lens: The Middle East’s First Female Photographers*. *AramcoWorld* 70(2): 28-31.

Norman, M. W., J. Siraj-Ali, O. S. Hassan, W. P. David, and A. B. Muhammad

1988 A Complex of Sites in the Jeddah: Wadi Fatimah Area. *ATLAL: The Journal of Saudi*

- Arabian Archaeology* 11 (2): 77-85.
- Özandes, E.
2008 Ottoman Empire: Asia and Persia (Turkey, the Levant, Arabia, Iraq, Iran). In J. Hannwavy (ed.) *Encyclopedia of Nineteenth-Century Photography*, Vol. 2, pp. 1034-1037. New York: Routledge.
- Perez, N.
1998 *Focus East: Early Photography in the Near East (1839-1885)*. New York: Abrams.
- Sbriccoli, T.
2016 Between the Archive and the Village: The Lives of Photographs in Time and Space. *Visual Studies* 31 (4): 295-309.
- Schmidt, H. and G. La Rock
2019 Boudoir Card: Vintage Postcards of the Belle Epoque. <http://www.helmut-schmidt-online.de/Boudoir-Cards/bc-introduction.html> (accessed August 7, 2020)
- Sheehi, S.
2019 Behind Every Male Photographer: The Invisible History of Local Women Photographers in the Middle East. In T. Verde (ed.) *Women behind the Lens: The Middle East's First Female Photographers*. *AramcoWorld* 70 (2): 28-31.
- Stapp, W.
2008 Egypt and Palestine. In J. Hannwavy (ed.) *Encyclopedia of Nineteenth-Century Photography*, Vol. 1, pp. 475-478. New York: Routledge.
- Verde, T.
2019 Women behind the Lens: The Middle East's First Female Photographers. *AramcoWorld* 70 (2): 28-31.

片倉もここによるサウディ・アラビア， ワーディ・ファーティマ地域を対象とする フィールド調査写真のアーカイブ登録について

縄田浩志¹⁾²⁾・西尾哲夫³⁾・片倉邦雄²⁾・藤本悠子²⁾・河田尚子²⁾・
古澤 文²⁾・渡邊三津子²⁾⁴⁾・遠藤 仁¹⁾⁵⁾・石山 俊³⁾

1) 秋田大学，2) 片倉もここ記念沙漠文化財団，3) 国立民族学博物館，
4) 奈良女子大学，5) 人間文化研究機構

1 中東ムスリム社会を対象とした民族誌的フィールド調査資料 のアーカイブ登録の現状

中東ムスリム社会で実施されたフィールド調査研究とくにフィールド写真がアーカイブに登録され公開されている先例として数例が確認される。

第一は、ウェブ上に公開された最初のまとまった試みと考えられる英国ケント大学教授ポール・スターリング (Paul Stirling, 1920～1998) によるトルコの2村落に関する45年間に及ぶフィールド調査研究資料のアーカイブである (Zeitlyn 2000)。このデータベースの目的は、(1) 大きな社会変化を経験した時期のトルコ村落社会についてのデータを、将来世代の研究者が利用するためであり、(2) 一調査者によるフィールド調査研究のまとまった資料を使った教育のためであり、何といても、(3) 民族誌的な調査がどのように実施されて、どのようなデータが収集されたかについて、その深さと透明性を調査者本人が例示したかったからである (The Center for Social Anthropology and Computing, University of Kent at Canterbury 2020)。

このアーカイブでは、1949～1994年にかけて実施されたフィールド調査研究のデータと研究結果が保存公開されている。縦断的フィールド調査期間は、主に1949～1952年の集約的調査研究と1985～1986年の追跡調査という2つの期間からなるが、300世帯3,000人近くの村落住民の系譜図や社会関係、数十年を経たそれらの追跡、そして移民に関するデータが充実している。数百枚の写真、映像テープ、音声テープ、本人による28冊のタイプされた野帳に加えて、妻の野帳 (1949～1952年) と Emine Onaran Incirlioglu を主とする共同調査者の野帳 (1985～1993年) が含まれる。またトルコで出版・印刷された全ての研究資料、主著『Turkish Village』(Stirling 1965) の全文・図表・写真も公開されている。ただし、これらのすべてがオンラインで閲覧可能というわけではなく、申請があった資格を有する学者のみが利用可能である。その理由は、著作権、また被調査者の秘匿性を保つためである。野帳に記載された全ての個人名は匿名化され、資料における個人名は一貫して別名に置き換えられているが、野帳を相互参照することによって

個人をたどれるし、データベースとのマッチングも可能であるという。写真の注釈は、本人の早すぎる死によって、残念ながらあまり充実しないまま残された (The Center for Social Anthropology and Computing, University of Kent at Canterbury 2020; Zeitlyn 2000)。

第二は、トルコの遊牧民 Aydınlı を研究したドイツのケルン大学教授 Ulla C. Johansen のフィールド調査研究資料のアーカイブである。ウラ・C・ヨハンスン (Ulla C. Johansen, 1927~2021) は1957~1958年の調査を皮切りに、1964, 1970, 1982, 1989, 1995年と追跡調査を実施して遊牧社会の系譜データを体系的に収集する継続調査を行った。1997年に社会ネットワーク分析が専門の米国の文化人類学者ダグラス・R・ホワイト (Douglas R. White) から共同研究の提案をされたことをきっかけとして、時空間情報の注釈をつけたデジタルデータによる写真コレクションの整理と、野帳や日記を含むウェブサイトの構築に着手した。そこでは、存命の人物を除く複数世代の系譜図とその他の情報とのつながりが追えるようにすることで、歴史的なデータ群となることが目指された (Johansen and White 2002)。2014年に「ウラ・ヨハンスン・アナトリア民族学コレクション (Ulla Johansen Anatolian Ethnology Collection)」として現地トルコのコチ (Koç) 大学に資料が寄贈され、2015年からウェブサイトで公開されている (Johansen 2015)。写真キャプションの記述は充実しており、撮影年と撮影対象、緯度経度を含む撮影場所、そしてデータ形式が明記されている。また被写体と系譜データとの対照も可能となっている。ウェブ上で一般閲覧可能なデジタル・ファイルは、低い解像度でかつ透かしスタンプが入ったもので、そのままでは無断転用できないように制限がかかっている。検索可能な1,641シーンの写真群には、数多くの家族写真が含まれており、テントの中でくつろぐ夫婦や、テントの中で立ってこちらを向く3人姉妹の姿、室内で髪を覆うことなくくつろぐ都会の女性たちの姿、スカーフで髪を覆って木陰に立つ女性で「チャーミングな若い Yörök 女性」と題されたシーン等も含まれている。

アーカイブ・データ利用の実践的な経験の積み重ねの中から指摘されている主だった理論的また倫理的課題としては、守秘義務、匿名に関する配慮、データの著作権や所有権、知的財産権の侵害、コンテキストの喪失、データ共有基盤の欠如、といった点が挙げられているが (Corti and Thompson 2004)、そのほとんどを解決した上で、上記2つのアーカイブは運営されていると考えられ、極めて優れた民族誌的フィールド調査研究資料のアーカイブと評価できる。ただし、この2つのアーカイブであってさえ、アーカイブ構築に際して調査地を訪問して再調査を実施してないからなのか、被写体となった人物もしくはその家族や遺族から写真の利用許諾を得ているのか、肖像権につながる課題にどう対応したかについては、明確ではない。

本稿で扱う、片倉もとこフィールド調査資料は、調査時期 (1960~1970年代)、調査場所 (サウディ・アラビアのオアシス社会)、そして調査対象 (遊牧民集落における女性

の生活)といった側面において高い学術的価値が認められる民族誌的なフィールド調査資料であり(縄田・藤本他 2021), その中でも片倉もところフィールド調査写真の学術的かつ社会的価値は際立っているものの, データ利用の倫理的かつ社会的側面において多くの課題が存在している(縄田・片倉他 2021)。

片倉もところフィールド調査写真のアーカイブ登録になぜ踏み切ったのか, その背景と理由, そして登録後の課題について, 本稿では論じてみたい。

2 「片倉もところ中東コレクション」としての「地域研究画像デジタルライブラリ」登録へのプロセス

2.1 遺された片倉もところフィールド調査資料の全体像の把握と整理優先順位の策定

2.1.1 遺された資料の全体像を把握する

2020年3月時点で把握されている片倉もところフィールド調査資料の種類と点数は, 文書資料として野帳が4冊, メモ手帳が11冊, 図面資料として手書きの地図が11点, 標本資料として生活用具が243点, 音響資料としてマイクロカセットが200点, カセットテープが57点, 映像資料としてビデオテープが55点, 8mmフィルムが9点, 画像資料として写真が61,989点であった(縄田・藤本他 2021)。他にも, カード類, 日記, 手紙, 絵葉書, フロッピーディスク, パンフレット, チラシ等が確認されたが, フィールド調査資料としての学術機関への登録は現時点では見送っている。

文書資料, 図面資料と比べて, 劣化が危惧された音響資料, 映像資料のうち, 写真のデジタル化を最も優先し, 画像資料の埃・カビを除去しながら, 整理作業を進めた。ついで, 8mmフィルムのデジタル化に着手した。また並行して, 生活用具の整理を進めていった。

2.1.2 写真資料の「時空間的同定作業」の難しさ

写真整理そしてデジタル化の過程で, 保存や整理の状況が必ずしも良好ではないという認識にいたった。とくに写真をいつ, どこで撮影したのかといった基本情報を引き出すことが困難な点を課題として把握した。撮影順あるいはテーマ別等写真群によって整理・保管方法が異なること, 著作や講演等に利用するために収納ケースから抜き取られている場合があること, 著作等での記述はあるものの, 野帳等から撮影当時の状況と対応できる資料が少なく, 写真自体に附随するメモが多い写真と少ない写真の差も顕著であった。

その一方, 写真に対して様々な情報が付加された貴重なデータセット群が見つかった。オリジナルのフィルムから, コンタクトプリントと紙焼き写真を作成し, それらをメモ

やキーワードごとに封筒に分類するという方法をとっていることを把握し、データをカードに記載し、情報量が多く重要度が高いそれらをグループごとにまとめていることが明らかとなった。この方法は、梅棹忠夫による知的生産の技術（梅棹 1969）や川喜田二郎が開発したKJ法（川喜田 1967）等に触発されて実践していたフィールド調査資料のまとめ方と判断される（縄田他 印刷中；渡邊他 2019）。

つまり、資料に向きあいはじめてまず浮かびあがってきたのは、一群のフィールド調査資料がいつ、どこで集められたのかという基礎的情報をどう整備するかという点、つまり資料の「時空間的な同定作業」の難しさであった。現在であれば、撮影したデジタル写真に自動的に位置、年月日の情報を付加することもできるが、当時は別途情報をアナログで付加しなければならなかったことは言うまでもない。ただし課題は、時代が左右する技術的制約が生み出したものに必ずしも限定されるわけではなく、ある個人が収集したフィールド調査資料に他者が向き合う際に直面せざるをえない、その資料自体が内包している資料収集・保管・分析における個性ともよべる特徴であった。

2.1.3 写真資料のフォーマット・保管状況・撮影対象を吟味する

フィールド調査写真の原本には、35mmのネガティブ・フィルム、リバーサル・フィルム（ポジティブ・フィルム）の他に、120mmフィルム（ブローニー版）、紙焼き写真、コンタクトプリント等があり、2020年3月現在で61,989シーン分の存在が確認されている。その内訳は、ネガティブ・フィルム18,890シーン、リバーサル・フィルム30,410シーン、ブローニー版11シーン、紙焼き10,508シーン、コンタクトプリント2,170シーンである（縄田・藤本他 2021）。

写真が撮影された国や地域としては、サウディ・アラビア、アラブ首長国連邦、オマーン、カタール、バーレーン、イエメン、シリア、イラン、イラク、エジプト、アルジェリア、モロッコ、リビア等の中東、北アフリカ地域を中心として、インドやキューバ、イタリア、フランス、オーストラリア、カナダ他、多地域にわたる。撮影シーン数として最も多いのは、サウディ・アラビアを中心とした中東地域であった。

フィルムの埃やカビを可能な限り除去した後に、ネガティブ・フィルムとリバーサル・フィルムは3,600dpi カラーで、紙焼き写真はモノクロ、カラーにかかわらず1,200dpi カラーで専用機器を用いてスキャニングを行い、無圧縮の画像形式 TIFF と汎用性が高い JPEG の2つの形式で保存した。

2014年1月から開始された写真資料の整理とデジタル化は、当初の目的は、2015年3月に実施されたワーディ・ファータイマ地域訪問のための資料整理にあった（縄田・片倉他 2021）。あわよくば被写体本人や家族に会うことができ写真を差し上げる機会も想定していた。したがって、様々なフォーマットの写真資料をあたりつつ、優先的に整理しようとしていたのはワーディ・ファータイマ地域で撮影されたもの、またサウディ・

アラビア、そして広くアラビア半島で撮影された写真であった。作業を通じて、現地調査の際に参考にできる写真を見つけ出し、デジタル化することによって、印刷して現地で見せたり、もしくはプレゼンテーションの際にそれらをパワーポイントファイルに張りつけて関係者に示すことを念頭において資料整理を始めたのである。ただし先に説明したように、その訪問が実現したことによって、片倉もところ調査資料の再分析と本格的なフィールド調査による再調査の道を選ぶこととなった。したがってフィールド調査の準備という観点からも、写真のデジタル化の優先順位は高かったのである。その後、科学研究費助成事業が採択され、そして「地域研究画像デジタルライブラリ（略称 DiPLAS）」に応募することへとつながっていった。このような経緯があったため、2016年9月にDiPLASに応募した時点で、すでに9,000シーン近くのデジタル化作業は終了しつつあったのである。

2.1.4 写真への整理番号付与とデータベース作成

片倉もところフィールド調査写真の整理作業と並行して、すべてのシーンに番号を付与して順次デジタル化作業を進めていった。具体的な整理方法は以下の通りである。

まず、写真の保存ケース（封筒や箱，ファイル）ごとに、番号を付与した。さらに、保存ケース内で写真がさらに小分けされている場合は、小分けのケースごとに枝番号を付与した。デジタル化とデータベース作成は、これらの保存ケースごとに行った。なお、写真のデジタル化に際しては、片倉もところ自身による保管・整理作業状況を崩さず、収納ケース、小分けケース内での並び順はそのままに、連番で写真番号を付与し、デジタル化した。ただし、保存ケース（封筒や箱，ファイル）は、自宅や研究スペースのさまざまな場所に収納されていたため、保存ケース番号の順番には、特に意味がない。

リバーサル・フィルムの内、マウントされたもののいくつかは片倉もところによりデュープ（コピー）された結果、画像の表裏がわからなくなっているものがあり、デジタル化した画像の中には左右反転しているものを確認した。そのため、連続した画像や類似画像を検証し、オリジナルと考えられるリバーサル・フィルム画像と被写体の服装や利き手、風景等を比較し、正しいと判断される表裏・左右を特定し、不適切なデジタル化画像については左右の向きを画像処理ソフトで反転させて、元の状態に戻した。

デジタル化したすべての写真に対し、収納ケース番号、収納ケースの上蓋や背表紙、マウントの余白や紙焼き写真の裏等に書かれたメモの情報も合わせて入力し、エクセルでデータベースを作成した。

2.1.5 「地域研究画像デジタルライブラリ」（略称 DiPLAS）登録のプロセス

新学術領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』研究基盤リソース支援プログラム「地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化」（課題番号

JP16H06281, 中核機関：国立民族学博物館)の支援による資料整理「地域研究画像デジタルライブラリ(略称DiPLAS)」の初年度である2016(平成28)年度の公募に採択され、2017年1月から登録に向けた実際のやりとりが開始された。資料の保存状態の確認後、デジタル画像の所有権譲渡の手続きを行い、ワーディ・ファーティマ地域を中心とした約9,000シーンについて登録した。続く2017(平成29)年度に連続採択され、まだデジタル化が完了していなかったもののうち、サウディ・アラビアの他地域、またアラブ首長国連邦、イエメン、オマーン、バーレーン、ヨルダン等で撮影された約5,000シーンを対象としてデジタル化と登録を行った。続く2018(平成30)年度は前年度までに枚数の関係上申請しなかったデジタル化済画像やデジタル化をしていないブローニー版フィルム、またフィルム原本との対応が済んでいないがワーディ・ファーティマ地域で撮影されたと考えられる紙焼き写真を、補完的にデジタル化し登録した。

そのため、最終的にはネガティブ・フィルム5,316シーン、リバーサル・フィルム9,707シーン、ブローニー版4シーン、紙焼き写真401シーンの合計15,428点のデジタル・ファイルを「片倉もと中東コレクション(The Motoko Katakura Middle East Collection)」という名のもと国立民族学博物館が運営する「地域研究画像デジタルライブラリ」(略称DiPLAS)において、デジタル写真の保存・活用を目的としてアーカイブ登録することになったのである。ID番号は「KM」として、その後に5桁の番号をふった。

ちなみに、DiPLAS登録以前に、片倉もとこ記念沙漠文化財団としてデジタル・ファイルを活用した例がある。2014~2015年にかけて7回にわたり、『季刊アラブ』の表紙を飾った。およそ半世紀前にサウディ・アラビアのワーディ・ファーティマ地域における「アラブ庶民」の生きいきとした様子をとらえた貴重な写真を活用したいという申し出があり、同財団として快諾したものである。公表と利用は問題ないだろうと総合的に判断したものであったが、その後の現地調査において写真利用許諾を取得する過程で、『季刊アラブ』154号の表紙を飾った、手遊びをする少女たちの一人(現在は成人女性)から、個人が特定できないように顔の部分にぼかしを入れて欲しいという要望を受けた。そのため、DiPLASにはKM_5575として後に登録することになった写真は、邦文著書(縄田編 2019: 139)においてはデジタル加工を施した上で、掲載することとした。

2.1.6 写真デジタルデータの所有権譲渡を決断した理由

「片倉もとこ中東コレクション」としてアーカイブ化された片倉もとこ調査写真の原本(ネガティブ・フィルム、リバーサル・フィルム、120mmフィルム、紙焼き写真等)は、撮影者・片倉もとの夫(遺族)である片倉邦雄が所有権を有し、片倉もとこ記念沙漠文化財団が管理を委託されている。一方、デジタル化データの所有権に関しては、国立民族学博物館に譲渡された。

なぜ、写真デジタルデータの所有権を国立民族学博物館に譲渡する決断をしたのか。

それは主に以下の理由がある。

最も大きな理由は、国立民族学博物館という国立の研究博物館が責任をもって半恒久的に民族誌的写真資料のデジタルデータを管理・活用するアーカイブの理念に賛同したからである。次の理由は、国立民族学博物館は片倉もところが所属し、名誉教授も授与されている組織だからである。かつ片倉もところによる研究成果を最も確に評価できる研究者が所属する組織だからである。また、データの管理・活用という点で遺族にかかる負担や、学術的観点と無関係に第三者に委ねられる可能性等を考えると、適切な運用を期待できる。一方、片倉もところ記念沙漠文化財団が存在するとはいえ、活動の持続性と組織としての恒久性を考慮すれば、間違いなく最適な選択であったと考える。以上の理由に加えて、デジタル写真のアーカイブ登録に限定されない多くの研究連携と活動計画が国立民族学博物館との間で複数存在していたからである。

以下では、国立民族学博物館との研究連携と活動成果の詳細について概説することにより、デジタル写真アーカイブの運用の実例を、片倉もところフィールド調査写真の立場から例示してみたい。

2.2 国立民族学博物館との多面的な研究連携

2.2.1 「現代中東地域研究」——研究拠点間の協力体制

片倉もところ記念沙漠文化財団の代表理事を2015年10月から務める縄田浩志の本属先は、秋田大学であり、我が国における中東研究の国際拠点ネットワーク構築を目的とした人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「現代中東地域研究」（2016～2021年）秋田大学拠点（拠点代表者：藤井光秋田大学大学院国際資源学研究所長）の研究代表者を務めている。自然資源を対象として「多元的資源観」の醸成による環境問題解決志向の学際的／超学際的研究を切り拓くことにより文理融合による地域研究の一層の躍進に努めている。

人間文化研究機構「現代中東地域研究」では、「地球規模の変動の中の中東の人間と文化——多元的価値共創社会の可能性」を共通テーマとし、西尾哲夫を拠点代表者とする国立民族学博物館拠点では「個人空間の再世界化」をテーマとした文化知識の資源化に焦点をあてた研究を推進しており、その点で片倉もところフィールド調査資料の研究とも密接に関連している。

片倉もところ西尾哲夫との交流も長く、西尾が大学院生時代に博物館の特別共同利用研究員として勤めた初日からの付き合いであった。片倉の日常の人となりや、上司としての組織に対する観察眼、また研究者としての鋭い考察に触れながら、学術的にも片倉が「ゆとろぎ」と翻訳したアラビア語の「ラーハ」について、エジプトのシナイ半島での調査から得たベドウィンの社会において異邦者を迎え入れる「ダヒール」制度と通じ合う概念として考察している（西尾 2019）。そのため、西尾哲夫は、密な協力体制を築

きながら関連プロジェクトと有機的な結合を図り、人類の文化遺産継承のための国際的かつ学際的共同研究を進めていく中で、片倉もここフィールド調査資料の価値を最も的確に理解し、その活用を期待したのである。

2.2.2 共同研究「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」——物質文化の地域比較研究としての位置づけ

西尾哲夫を受入教員として採択された「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」（研究代表者：縄田浩志，研究期間：2016～2020年）では、アフロ・ユーラシア乾燥地全域を対象としつつ、とりわけサハラ沙漠、ナイル河岸、紅海沿岸、アラビア半島、イランに位置する5つの異なるオアシスにおける生活の持続と変容について、物質文化に焦点をあてて検証することにより、沙漠社会の移動戦略の解明を目指した。注目する物質文化は、(1)ラクダと船に関わるモノ（陸域と海域の連続性）、(2)飲料と食料に関わるモノ（食品保存と運搬性）、(3)衣装と住居に関わるモノ（熱帯と温帯・寒帯の対称性）である。これらの物質文化の検討をもとに、人類の進化と適応、社会組織の変異性と開放性、物質加工の技術と担い手の交流という3つの観点から沙漠社会の移動戦略に光をあてた。並行して、片倉もここによるアラビア半島における現地調査資料（1968～2008）、小堀巖（地理学者）によるアルジェリア・サハラ沙漠における現地調査資料（1968～2010）といったおよそ半世紀前に記録・収集された学術資料を活用して、生活空間・物質文化・移動戦略の関係性とその変化について検証していった。

3年半の共同研究の研究成果は、主に(1)およそ半世紀前に記録・収集された民族誌的学術資料を活用して、衣食住を中心とした物質文化に関する文理協働（人文学、理学、工学、農学）の共同研究体制によって、アラビア半島ワーディ・ファーティマ地域における事例研究を格段に深化させたこと（縄田編 2019）、(2)その研究内容を企画展示「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——『みられる私』より『みる私』』として迅速にアウトリーチしたこと、また、(3)生活空間・物質文化・移動戦略の関係性とその変化について異なるオアシスにおいて比較検証し、人類の進化と適応、社会組織の変異性と開放性、物質加工の技術と担い手の交流という3つの側面に注目しつつ、沙漠社会の適応戦略と移動戦略に関していくつかの新たな視点や論点を獲得したこと、である（縄田 2017; 2018a; 2020）。

例えば、乾燥熱帯の高温沙漠における衣服を、特に女性の下半身肌着の形態に注目して、人類の進化と適応の側面から分析した。暑い沙漠では、頭や体を広く覆える形の衣装が一般的である。地面からの照り返しによる体への熱の流入を防ぐ必要から適している。女性は男性よりも汗をかきにくく、かいた汗がながれおちる割合が男性よりも小さい。したがって、同じ量の汗をかいても女性は男性よりも気化熱によって熱をすてるの

に使える汗の割合が多く、その結果、効率よく体温をさげることができる。また、暑くなると女性は太ももの皮下の血流を増やして、汗をかかなくても、伝導や輻射で熱をすることができる。そのため、女性の肌着は太ももの部分がゆったりとしていて、この部分からの放熱がしやすくできていたのである（縄田編 2019: 50-53）。

ワーディ・ファーティマ・オアシスにおいても、男性と女性の衣服を比較すると、白を基調とした衣服は男性、黒や色柄を基調とした衣服は女性という点での差は明確であった。こうした男女差は、エジプト、スーダン、アルジェリア等の他のオアシスの事例と共通しており、放牧や耕作を中心として炎天下における作業に長時間従事する男性にとって、可視光線を反射する白地で頭部や頸部を覆うことが必須だからである。ただし色合い以外の点では、男性用の衣服の形態や種類は概して変わっていないのに対して、女性用の衣服は外着・内着・肌着、頭・髪覆い、飾面ともに変化した点が多かった（縄田編 2019: 68-73）。

女性用の伝統的な晴れ着マハーリードの生地 of 裁ち方と縫製を分析すると、一枚布を効率よく使い、裾はリサイクルしつつ、裏打ちしたキルトで棘から女性の足を守っていたことがわかったが、現在は利用する人は少なくなった。一方、黒い外着アバーヤが主流となったのは1980年代から90年代はじめであることを写真との対応により把握した。外着はカラフルから黒へ、アバーヤの形は四角から袖・装飾がつく動きやすいものへと変化してきた（縄田編 2019: 74-91）。このように半世紀に及ぶ飾面と外着の種類や形態



写真1 祭りの日に着飾った女性
撮影：片倉もところ，1970-1971年，シャームーヤ村，KM_0586

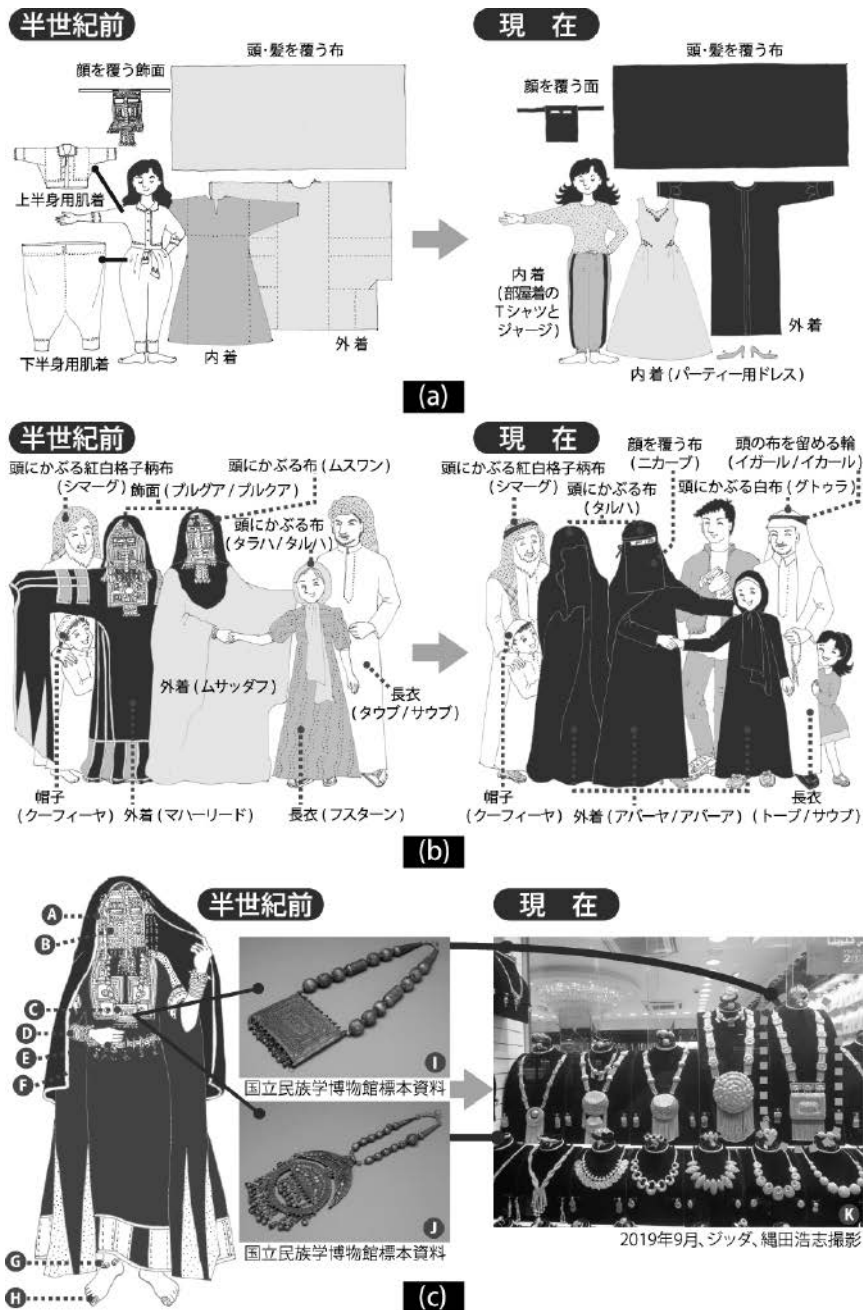


図1 サウディ・アラビアのワーディ・ファーティマ・オアシスにおける男女の衣装の半世紀の変化：(a) 女性の外着，内着，肌着の変化；(b) 男女の衣装の形態・種類・名称の変化；(c) 女性用装身具の変化。A：頭飾り，B：飾面，C：首飾り，D：腕輪，E：指輪，F：腰飾り，G：足輪，H：足指輪，I：護符をかたどった首飾り (H0100442)，J：ヒラルを含む幾何学模様装飾がほどこされた首飾り (H0100443)。図a～cのスケッチは郡司みさお，遠藤仁作成 (縄田編 2019: 73; 79; 103)。 (出典：縄田 2020)

を丹念に追うと「黒のベールで顔まで覆い隠されている女性」という一面的なイメージはあてはまらず、色柄から黒が基調へと絶えず変化を伴ってきたことがわかった（縄田編 2019: 11）。

女性にまつわる物質文化として次に注目されるのは、金製・銀製の装身具の社会的意義である（写真1）。既婚女性が身につける装身具は、芸術的な価値や歴史的・文化的意味に留まらず、危機的な状況に遭遇した時に市場で現金化して当座をしのぐための家族の財産にするといった意義があったと考えられる。その代表格は、価値の安定性が高い貴金属の金であった。金という財産を身につけるものは、女性に限定され、かつ他者が気づきにくい肌着のボタンにしたり歯に埋め込んだりする等して財産保護を第一としていた（片倉 1979）。資源の稀少性・変動性・偏在性が高い自然環境に成立した沙漠社会は、安定した生活様式を模索してきた。そのためには開放性をもった商業ネットワークに加わり、持ち運びが容易な貴金属という財産に依存しつつ、自然環境と社会環境の変化に柔軟に対応してきたと考えられる。

現在では、他者の目に触れる外側に華やかな金製の首飾り、腕輪、指輪をつけるのが好まれるようになった。一方、銀製の装身具は重いこともあり、ほとんど利用されなくなる等、女性による財産保護の意味合いは薄れてきた（縄田編 2019: 114-115）。ただし、イスラームの護符や三日月ヒラルをかたどったデザインは継承されており、現在の価格にして30万円ほどもする金製のネックレスが販売されている（図1）。このように物質文化に「生活様式と資源利用の世代間ギャップ」が認められた（縄田 2020）。

2.2.3 「中東地域民衆文化資料コレクションを中心とするフォーラム型情報データベース」

— 標本資料のデータベース化, 国際シンポジウム開催, 新情報に基づく研究進展

上記の共同研究会メンバーまた片倉もところ記念沙漠文化財団メンバーが連携して、国立民族学博物館「中東地域民衆文化資料コレクションを中心とするフォーラム型情報データベース」における片倉もところ調査資料の432件の標本資料のデータベース化に協力した。

国内外の研究機関や大学、博物館および現地社会と連携しながら国立民族学博物館および連携機関が所蔵する多様な文化資源について国際共同研究を推進し、その成果を個々の文化資源に関する基礎情報に加味して記録化するとともに、フォーラム型情報ミュージアム（多言語によるフォーラム機能をもつマルチメディア対応のデジタルアーカイブズ）から発信することを目的としている（Kishigami 2016）。

片倉もところがアラビア半島において収集した資料コレクションとしては、国立民族学博物館在籍中に収集して登録・保管されている国立民族学博物館所蔵分189件、また随時収集した個人所蔵分が片倉もところ記念沙漠文化財団で委託管理されている243件、計432件に関する調査ならびにデータベース化を実施した。上記共同研究ならびに、片倉

もこの記念沙漠文化財団が関係を築いたサウディ・アラビアの現地研究機関、さらには現地社会の人々との国際的な協業によって、すでにデータベース化されている基本情報について、必要に応じて標本資料を実際に熟覧しながら、精査する。これをもとにデータを整理し、日本語、アラビア語（現地方言形も含む）、英語による情報を付加していく。同時にDiPLASによる画像データベースの中に収集品や物質文化に関連して撮影された画像情報を整理して、最終的にはデータベースにリンクするかたちでフォーラム型情報データベースの高次化を図ることが計画された。

このようにして、片倉もとこが収集した資料コレクションにかかるデータベースについては、現地社会の人々との協業によって情報を付加し、収集時期の画像データベースもリンクさせることで、地域コミュニティーの社会変化を探る物質文化に関する資料として活用することができる。さらなる展開として、フォーラム型情報データベースをもとにした企画展示を現地サウディ・アラビアで巡回させることにより、国立民族学博物館所蔵資料に現地社会での文化伝承の機能をもたせることも念頭において行われた。

2017年12月にはアラビア半島の文化遺産保護に関する研究者・研究機関および一般参加者を対象とした、国際シンポジウム「アラビア半島の文化遺産保護の現状と展開——サウディ・アラビアを中心として」を「現代中東地域研究」と国立民族学博物館「フォ



写真2 「フォーラム型情報ミュージアムプロジェクト」のワークショップにて、標本資料写真をもとに新たな情報を得る
撮影：縄田浩志，2017年12月19日，国立民族学博物館

ーラム型情報ミュージアム」プロジェクト，同「地域研究画像デジタルライブラリ（略称 DiPLAS）」，また片倉もところ沙漠文化財団との共催で横浜情報文化センターにて開催した。サウディ・アラビアのキング・ファイサルセンターとキング・アブドゥルアジズ世界文化センターより学芸員を招へいし議論した。また両者と共にサウディ・アラビアの関連収藏品にかかる情報収集のために「フォーラム型情報ミュージアムプロジェクト」のワークショップを国立民族学博物館にて開催した（写真2）。

特筆すべき研究成果は，現地の関連研究者を招いての熟覧と情報付加を行う過程で明らかとなった銀製指輪の構造と用途であった。日本で標本資料として登録されている筒状の装飾がついた特徴的な銀製指輪（標本番号 H0100424）は，サウディ・アラビアで1980年代初頭に収集されたということはわかっていたが，それ以上の情報はなく，収集者である片倉もところの著作物にも，同資料に対する具体的な言及はないことを確認していた。そこでサウディ・アラビアから招いた研究者を交えて行った標本資料の写真をもとにした情報収集の際に，同資料はおそらくアラビア半島西部に存在するものではないか，という情報を得た。そしてその後，ワーディ・ファーティマでフィールド調査（2018年4～5月）を行った際に，上記の銀製指輪と類似する資料をワーディ・ファーティマ社会開発センターの収藏品の中に発見し，さらに大きな筒状の座が音を鳴らすことがわ



写真3 標本資料の銀製指輪（H0100424）と同タイプの指輪をワーディ・ファーティマ社会開発センターに収集・保管されている物質文化コレクションに確認する
撮影：縄田浩志，2018年5月2日，アル＝ジュムーム市

かった(写真3)。筒状の座は中空で、内部に何らかの固形物が入れられており、そのために振ると音を鳴らす構造となっている。また本標本は、片倉もところがおそらくワーディ・ファータィマで収集したものであろうと、現地の複数人から意見を得た。さらに聞き取りにより、音を奏でる理由は女性が自分の存在を知らせ、男女間の不用意な摩擦を避ける社会的意味を持っていることが明らかとなったのである(遠藤他 印刷中; 遠藤・郡司 2019; 遠藤/メレー 2019)。

この標本資料、銀製指輪と音を奏でる様子を撮影した音声付きの画像は、企画展示の冒頭を飾るメインの展示品の一つとなった。

2.2.4 企画展示「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年」開催

国立民族学博物館、横浜ユーラシア文化館、片倉もところ記念沙漠文化財団が共催した、企画展示「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年—『みられる私』より『みる私』」(2019年6月6日～9月10日に大阪の国立民族学博物館、また同年10月5日～12月22日に横浜ユーラシア文化館で開催)における中心的展示内容として、研究成果をアウトリーチした(縄田 2019a, 2019c; Nawata 2019)。またその内容は企画展示と同タイトルの邦文著書としてまとめ、日本語・英語・アラビア語での標本資料リストをつけた(縄田編 2019)。

片倉もところが撮影したモノクロ写真に、手作業をする女性の姿をとらえた一枚がある(図2)。女性が顔を覆う飾面、体にまとう衣装、床に置かれた生活用品、そして手作業



図2 女性の日常生活の写真(撮影:片倉もところ, 1968-1970年, ダフ・サイニー村, KM_2397)に写り込んだモノを同定する(左上:飾面, 右上:クッション(ひじかけ兼まくら), 左下:女性用頭・髪覆い, 右下:ナツメヤシ製のござ)(出典:縄田 2019c)

によりつくりあげているモノ等その日の彼女をとりまく日常風景が写し撮られている。よく見ると、飾面であれば鼻の部分にコインが配置されていること、頭や髪を覆う一枚布は、少し透過性があり、所どころに花柄が付いていること、床に置かれたのはひじかけにも枕にもなるクッションであること、ナツメヤシの葉を带状に編み込んで敷物をつくっていること等を、さらに読み取ることができる（縄田 2019b）。

本企画展示・出版物では、民族誌的フィールド調査写真とそれに写り込んだモノが何であるかを同定し、物質文化としての詳細な特徴を研究した。半世紀前の暮らしを記録した貴重な写真である反面、白黒ゆえにわかりにくいこともある被写体のディーテールも、ある時期、ある場所に生きた、ある女性の等身大の日常生活の一断面として蘇らせた。物質文化という切り口から生活世界の全体像と一人ひとりの人物像を照らし出していく。その研究プロセスを、来場者・読者と共有することを目指した。

企画展示会場では、写真パネル（60×90cmが12シーン、90×150cmが2シーン）として片倉もところ撮影写真でDiPLAS登録済みの14シーン（13シーンは人物写真、1シーンは景観写真）に説明キャプションをつけて展示した。また解説パネルにおいても、51シーンの写真を用いたが、片倉もところ撮影写真でDiPLAS登録済みのシーンは42シーンあり、そのうち人物写真は35シーン、景観写真は7シーンであった。私たち調査グループの再調査時に撮影した写真8シーンも用いた。またDiPLASに未登録の片倉もところ撮影写真を解説パネルで1シーン用いた。

出版物においては、片倉もところ撮影写真でDiPLAS登録済みの80シーン（65シーンは人物写真、15シーンは景観写真）、未登録の2シーンを用いた。

「片倉もところ中東コレクション」としてデジタル画像の登録を行った15,428点のうち、4,000点以上に達する画像には人物が写し込まれていた。その利用、また公開／非公開について肖像権に関する個別事情を考慮した検討を積み重ねた。その結果、半世紀前に写真の被写体であった村人もしくはその家族と新たな信頼関係を結ぶことにより、現地語アラビア語での書面への署名により写真一枚ごとの写真利用許諾を取得する方法を採用した。200点弱の人物写真一枚ごとに合意を書面で取りつけて出版物や展示会場で公開したことは、管見では世界初の先駆的事例と考えられる。展示パネルまた展示関連出版物として書籍において、デジタル加工技術を最大限活かして体の一部にぼかしを入れる等して、個人／家族の意思／遺志に沿うかたちで、女性を被写体とする写真を計33点掲載できた反面、本国サウディ・アラビア国内での公開合意に至ったのは18点と約半数に限定された（縄田他 2019）。

出版物においては、片倉もところが50年前からサウディ・アラビアにおいて継続的に撮影した写真を利用している。一般に写真を公開して利用する場合には、撮影者の権利と並んで被写体となっている人物の権利を考慮しなければいけない。

さまざまな立場の関係者とともに多角的な検討を行った結果、企画展示のチラシやポ



写真4 ある女性の家族写真を公開用に画像処理を施したもの
撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ブシュール村，KM_2238（出典：縄田・遠藤他 2019: 39）

スター／展示会場／出版物での利用，日本／サウディ・アラビアでの公開・出版において異なった条件がしめされた。使用範囲および公開時の画像利用条件（顔をぼかす，手をぼかす等画像処理の必要性の有無）について，最終的には，写真1点ごとに被写体本人もしくはその家族や関係者に利用許諾のサインをもらった。

写真4の場合，左側の飾面姿は民族誌写真として貴重である。これを公開利用するためには，すでに本人は亡くなっているため，現在成人となった娘（中央の赤ん坊）から承諾を得た。右側の女性（赤ん坊の姉）も亡くなっているが，存命中の家族からは承諾を得ることが残念ながらできなかった。このような写真を利用する場合には，人物特定ができないように顔の部分をぼかす処理をしている。

それでもこの写真は，日本における展示会場での公開と，日本語での出版における掲載についてのみ，関係者により利用が許可された。その一方，企画展示のチラシやポスター，ウェブを使った宣伝には用いないでほしいという強い要望があった。加えてサウディ・アラビア国内における展示会場での公開や出版における掲載は許可されなかった。

以上のような理由から，掲載された写真の二次利用が厳禁であることについて，あらためて理解をいただきたい旨を，展示パネルまた書籍において明示，明記した（縄田他 2019）。

3 片倉もところによるワーディ・ファーティマ地域を対象とする フィールド調査写真のアーカイブ登録の意義と運営上の課題

3.1 国立民族学博物館「地域研究画像デジタルライブラリ」(略称DiPLAS) 登録の意義

科学研究費助成事業の採択により、「地域研究画像デジタルライブラリ」(略称DiPLAS)へ申請する資格を得てデジタル画像登録につながったことこそが、片倉もところフィールド調査資料のなかでも特に写真資料の活用が主要な研究活動となった大きな理由である。ただし、DiPLASへの採択により写真資料のデジタル化を開始したわけではなく、遺された片倉もところフィールド調査資料の全体像を把握して、整理優先順位を定めて、写真のデジタル化を開始したのは、片倉もところ記念沙漠文化財団の事業の一環としてであった。2016年度に科学研究費助成事業が採択され、そしてDiPLASに応募することになった2016年9月の申請時点で、すでに9,000シーン近くのデジタル化は終了しつつあった。

2016～2018年にかけて登録することにより、最終的にはネガティブ・フィルム5,316シーン、リバーサル・フィルム9,707シーン、ブローニー版4シーン、紙焼き写真401シーンの合計15,428点のデジタル・ファイルを「片倉もところ中東コレクション」という名のもと国立民族学博物館が運営するDiPLASにおいて、デジタル写真の保存・活用を目的としてアーカイブ化した。

写真デジタルデータの所有権を国立民族学博物館に譲渡する決断をした主な理由はすでに述べたとおり以下の5つにまとめられる。(1) 国立民族学博物館という国立の研究博物館が責任をもって半恒久的に民族誌的写真資料のデジタルデータを管理・活用するアーカイブの理念に賛同したから、(2) 国立民族学博物館は片倉もところが所属し、名誉教授も授与されている組織であり、かつ片倉もところによる研究成果を最も的確に評価できる研究者が所属する組織だから、(3) データの管理・活用という点で、最新の世界的な動向を踏まえて適切な運用を期待できるから、(4) 片倉もところ記念沙漠文化財団と比較した場合、活動の持続性と組織としての恒久性において優れているから、(5) デジタル写真のアーカイブ登録に限定されない多くの研究連携と活動計画が国立民族学博物館との間で複数存在していたからである。

研究環境について、より踏み込んだ記述をすれば、国立民族学博物館において片倉もところの当時の同僚研究者として、片倉もところの研究内容に対する敬意と深い理解がある吉田憲司、西尾哲夫、岸上伸啓、野林厚志、またDiPLAS責任者の飯田卓といった国立民族学博物館所属の現役研究者による全面的なサポートがあったからこそである。具体的な活動としては、人間文化研究機構「現代中東地域研究」に基づく研究拠点間の協力体制、「中東地域民衆文化資料コレクションを中心とするフォーラム型情報データベース」による標本資料のデータベース化の協働、共同研究「物質文化から見るアフ

ロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」を通じての地域比較研究としての深化、そして何にもまして企画展示「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年」の開催計画・準備と同時並行的にこれら諸々のプロジェクトを有機的にリンクさせながらデジタル写真の活用を推進することができた。

私たち調査グループとほとんど同時期に、アーカイブ写真を再利用して実施した民族誌的なフィールド調査に基づいて展示活動に結びつけた興味深い事例がある (Sbriccoli 2016)。イタリアのシエナ大学の社会人類学者 Tommaso Sbriccoli は、著作『Caste and Kinship in Central India』(Mayer 1960) で知られるロンドン大学オリエント・アフリカ研究所 (SOAS) の英国の人類学者エイドリアン・C・メイヤー (Adrian C. Mayer) が私的に整理して所有していたフィールド調査写真を引き継いで、1950年代に撮影された写真を手がかりに2012～2014年にインドの Jamgod 村に赴き、写真家の Daniela Neri と共に同地で再調査を実施した。Mayer 自身は1950年代の最初のフィールド調査以来、Jamgod 村を訪れる度に親戚や祖先の写真を被写体の家族にプレゼントしており、2007年には村の村落集会にまとめてプリント写真を寄贈もしていたという。

私たち調査グループと最も異なり、正直羨ましい点は、調査に赴く前に次世代の研究者 Sbriccoli は最初の研究者 Mayer と共に写真のデジタル化を進め、その過程で Mayer 自身から論文、野帳また写真に記録された人物や場所について、様々な情報を受け取ることができたという点である。現地ではラップトップで Mayer が撮影した写真を見せながら、個人もしくは集団インタビューを行った。Jamgod 村で Mayer が撮影したほとんどの写真のデジタルバージョンが一つにまとまって Sbriccoli のラップトップにあることから、一種のデジタル・メタ・アーカイブが、次世代の調査者自身を通じて多くの村人に利用可能となり、彼らの記憶を呼び起こすきっかけとなっただけでなく、過去と現在をつなげる語りの場を生み出したという。「現在における過去」と名づけられた彼らのプロジェクト成果は、2015年にロンドンのブルネイ・ギャラリーにおいて「田舎世界の将来」という大きなテーマ展示群の一角をなした。展示における写真表象の仕方は、昔の白黒写真を手に持った現在の人々の写真をカラーで示す方法で統一しながら、変化した暮らしについての語りを解説するという展示法であった。例えば、父が写し込まれた写真を60年後に手に持った娘の写真では、他の人が写っている部分は切り取って父の姿のみ残して、現在では家族の祭壇に飾られて、先祖崇拜の儀礼の際に利用されていることが解説された。「過去と現在、個人と家族、写真家と人類学者、年長の人類学者と年少の人類学者、観察者と被観察者、といった間に、複雑な相互作用が生まれた。デジタル・メタ・アーカイブの存在によって生まれ出た議論と記憶と語りが、多くの異なった瞬間と分裂した現在を一緒にしようと補完しあいながら発展していくようなプロジェクト」(Sbriccoli 2016: 306) であったと総括されている。

この事例は、私たち調査グループの調査研究と展示活動によるアウトプットのプロセ

スと重なり合う共通の問題意識を見出すことができ、DiPLASの活用の一方向としても示唆的な論点を含んでいる。ただ片倉もところフィールド調査写真に向き合う私たちは、過去のフィールド調査写真を出版や展示を通じて再利用する際に、どのようにして現地社会の同意を取りつけることができるか、ということが目前の一番の課題であったが、その点はインドのJamgod村のケースでは問題にはならなかったようである。

3.2 再調査を通じての写真利用許諾取得という新たな方法論の模索

企画展示「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年—『みられる私』より『みる私』」における中心的展示内容として、また『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年—「みられる私」より「みる私』』邦文著書として、DiPLASに登録されたデジタル写真は、研究成果の一環としてはじめて公開された。企画展示会場では、写真パネルとして片倉もところ撮影写真DiPLAS登録済みの14シーンに説明キャプションをつけて展示した。また写真つき解説パネルにおいても、DiPLAS登録済みの42シーン、そのうち人物写真35シーン、景観写真7シーンを活用した。出版物においては、DiPLAS登録済みの片倉もところ撮影写真80シーンを用いた。

これら展示と出版を通じた研究成果のアウトリーチは、ワーディ・ファーティマ地域を対象とする片倉もところフィールド調査写真の学術的価値と社会的価値の両方を最大限に活かして成し遂げられたものであった。

調査対象社会にとっての学術的調査報告の受けとめ方には、これからも最大限、留意しなければならないと考える。ワーディ・ファーティマ地域を訪問した調査グループは、アラビア語版『*Ahal al-Wādī*』(Katakura 1996)がワーディ・ファーティマ地域の学校で教材として今でも利用されており、その価値が高く評価されていることを複数の関係者から感謝された。それでも、著作の一部の内容、また何枚かの女性が写り込んでいる写真の一部は、黒塗りをされていた。人物を黒く塗った理由は、個人を特定できてしまう可能性があったから、という説明をうけた。

文献資料によれば、サウディ・アラビアで公立の男子校・女子校において1926年以来使用されてきた教科書には、女性のイラストは掲載されることはあっても女性を被写体とする写真は全く掲載されてこなかったようである。ところが、最近になって外国語英語の教科書に女性の写真が含まれるものが見られるようになったものの、使用された写真は医療分野で働く女性で、目とおでこを除いてベールで被われているという(Sulaimani 2017)。教育現場の標準がこのようなものであるとすれば、『*Ahal al-Wādī*』が教育現場で用いられる時には、女性の写真が黒塗りにされていたことは納得がいく。

ワーディ・ファーティマ地域を対象とする片倉もところフィールド調査写真を展示・出版物で活用できたのは、再調査を通じて写真利用許諾取得という新たな方法を採用したからであった。半世紀前に写真の被写体であった村人もしくはその家族と新たな信頼関

係を結ぶことにより、現地語アラビア語での書面への署名により写真一枚ごとの写真利用許諾を取得する方法を採用した。200点弱の人物写真一枚ごとに合意を書面で取りつけて展示・出版物で公開したことは、管見では世界初の先駆的事例と考えられる。

写真の著作権と肖像権のあらましや具体的な契約書のマニュアルが検討されているが（日本写真家協会 2020）、民族誌的な現地調査写真の取り扱いの議論は未だ尽くされていない。写真利用許諾取得という方法に至ったのは、これもまたサウディ・アラビア現地研究者の示唆と協力があってこそであったが、その詳細については稿をあらためて記述し議論してみたい。また、写真一枚ごとまた個人／故人もしくはその家族の意思／遺志に差異がある理由は、調査を継続し今後焦点をあてるべき重要な研究テーマと考える。

3.3 デジタル写真の一般公開に向けた課題

偶像崇拜を認めないイスラームは、唯一神アッラーの彫像・画像の作成を禁止した（小田 2002）。預言者ムハンマドを図像化することは例外的で、写真という技術が発達してからも不特定多数の人に自身の姿をさらすことを嫌い、特に女性の場合は厳しい（Speelman 2010）。現代イスラーム社会では一般的に成人女性の写真を家族以外に公開することは認められない、といえる。とりわけ人物特定が可能な画像に関しては注意が必要である。

片倉もここは次のように述べていた。「女性を写真撮影することは社会的タブーであったため、詳細な映像資料として記録することはあまりできなかった。優雅な衣装を身にまったり、皆で生きいきと暮らす様子、とりわけ結婚式のために着飾っている女性たちの写真を撮りたいという強い誘惑にさいなまれた時があったが、その際は、現地のアーダート（‘adat: 慣習や習慣を意味するアラビア語）に従うこととした。細心の注意を払って築き上げた信頼関係を失うことがあっては元も子もなかったからである。本書に掲載されている女性の写真は、彼女たちから完全な信頼を得たものである」（Katakura 1977: xv）。「彼女たちのわたしへの信頼と好感のほうを大事にすべきだということは、はっきりしていた。『あなたたちの思い出に、わたしだけがみるのだから』といって撮らしてもらった写真は、約束を守って人にはみせていない」（片倉 1984: 15）。

しかしおよそ半世紀がたった現在、新たに村の人々との関係が深まり、被写体となった人物が特定され、本人もしくはその関係者の許可を得ることができれば、公開に踏み切ることができる判断し、展示・出版物に写真を掲載した。調査資料の扱いに詳しい現地の専門家にも協力をあおぎ、研究資料なかでもデジタル画像の共有化を進めている過程である（縄田 2018b）。

先に紹介した、1949～1994年のトルコの2村落に関する Paul Stirling によるフィールド調査研究資料のアーカイブは、将来世代の研究者が利用できるようにすることが目的の一つであった。それでも、すべての資料がオンラインで閲覧可能というわけではなく、

申請があった資格を有する学者のみに利用を限定していた。また、被調査者の秘匿性を保つため、野帳に記載された全ての個人名は匿名化され公開されていた。また、1957～1995年のトルコの遊牧民 Aydinli に関する Ulla C. Johansen によるフィールド調査研究資料のアーカイブでは、公開されている写真群のキャプションの記述は充実しており、撮影年と撮影対象、緯度経度を含む撮影場所、そしてデータ形式が明記され、また被写体と系譜データとの対照も可能となっている。誰でも写真画像を見ることはできるが、低い解像度でかつ透かしスタンプが入ったデジタルファイルのみの限定公開であり、そのままでは無断転用できない。

これらのデジタルアーカイブの運営方法を参考にすれば、片倉もところフィールド調査資料のうち、文書資料（野帳、メモ手帳）、図面資料（地図）、音響資料（マイクロカセット、カセットテープ）、映像資料（ビデオテープ、8mmフィルム）のいずれも、オンラインですべてを閲覧可能にはせず、研究者に利用を限定すべきと考える。そして、画像資料（写真）については、写真の内容によって、公開の可否を決定するとともに、公表する場合でも低解像のデジタルファイルのみを公表するのが適切である。特に慎重に検討したいのは人物写真で、場合によっては写真の一部にぼかしを入れる等のデジタル処理を施した上で公開の道を探っていきたい。その際に原則となるルールは、写真の被写体であった村人もしくはその家族と新たな信頼関係を結ぶことにより、写真利用許諾に基づく公開条件が整っていることである。結果として写真の一部をデジタル加工したバージョンを公開する場合は、その理由についても丁寧に解説することが肝要である。なぜならば、写真利用許諾者ではない人が別の解釈や考え方を持つ場合も十分に想定されるからである。写真に付随する情報については、氏名や個人情報（場合によっては部族名）を除いて、一般公開する際には、概要についてはオープン・アクセスとしていきたい。他の資料とも相互参照できるような関連づけも充実させる必要がある。標本資料（生活用具）については個人情報等を除いて基本的にすべての情報を公開しつつ、収蔵品画像との対応、またその他の資料との関連づけを明確にする姿勢が求められる。いずれにしても、使用言語は日本語や英語のみならず、調査対象地の現地語アラビア語を含む多言語による記載を目指さなければならない。

そして将来的には、ワーディ・ファーティマ地域で再調査を行っている私たち調査グループのフィールド調査資料もあわせて、整理・保存・公開への道筋をつけていくことにより、「片倉もところ中東コレクション」の価値は一層高まると考える。片倉もところフィールド調査写真は学術的価値が高く、かつ現地の地域コミュニティーによる評価も高い。それでも、調査対象地の社会状況は日々変化していく。民族誌的フィールド写真の価値を活かすためには、100年単位の未来に向けた長期的展望のもとに、人類の共有財産としてのデジタル写真アーカイブの運用が必須と考えられる。そのためには、国立民族学博物館と共創していく姿勢をこれからも持ち続け、最大限の協力を惜しまないと同時に、

現時点の担当者・関係者から未来世代にバトンタッチできる研究資源の管理体制を共に構築していくことを心がけていきたい。

以上、ワーディ・ファーティマ地域で半世紀前から収集されはじめたフィールド調査資料を活かして実施した再調査の研究成果としての第一歩を示し、先人が遺したフィールド調査資料を活用するための技術的また理論的諸課題を議論してきた。元の調査者の資料収集の考え方と姿勢に寄り添いつつ、調査チームによる調査地の再訪、そして同資料の再分析・二次的利用を推進することができ、研究成果の公開そしてアーカイブ登録にこぎつけることができたのは、ワーディ・ファーティマ地域の人々との新たな信頼関係の醸成であったことを、強調したい。

参考文献

〈日本語〉

梅棹忠夫

1969 『知的生産の技術』東京：岩波書店。

遠藤仁・Anas Mohammed Melih・渡邊三津子・藤本悠子・郡司みさお・黒田賢治・西尾哲夫・縄田浩志

印刷中「片倉もこのサウディ・アラビア収集品の同定に関する研究——銀製指輪の音を鳴らす機能とその役割」『沙漠研究』。

遠藤仁・郡司みさお

2019 「腕輪、足輪、指輪」縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」』pp.106-107, 東京：河出書房新社。

遠藤仁／アナス・ムハンマド・メレー

2020 「指輪の構造と社会的機能」縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」』pp.108-109, 東京：河出書房新社。

小田淑子

2002 「偶像」大塚和夫・小杉泰・小松久男・東長靖・羽田正・山内昌之編『岩波 イスラーム辞典』pp.326-327, 東京：岩波書店。

片倉もところ

1979 『アラビア・ノート——アラブの原像を求めて』東京：NHK出版。

1984 「荒野に生きる女性たち」『季刊民族学』28: 6-23。

川喜田二郎

1967 『発想法』東京：中央公論社。

縄田浩志

2017 「移動戦略を沙漠の物質文化から探る」『民博通信』157: 18-19。

2018a 「コーヒー文化から、移動戦略を浮き彫りにする」『民博通信』161: 22-23。

2018b 「アラビア半島オアシス生活の半世紀——片倉もところ『アラブ社会』コレクション」『月刊みんぱく』42(8): 7-8。

2019a 「ワーディ・ファーティマの人びと——半世紀の変化をおって」『月刊みんぱく』43(6):

2-3。

- 2019b 「写し撮られた生活世界」 縄田浩志編 『サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.36-37, 東京：河出書房新社。
- 2019c 「アラビア半島のオアシスに生きる女性たちの50年——文化人類学者，片倉もところ現地調査資料から」『横浜ユーラシア文化館ニュース』32: 4-5。
- 2020 「沙漠社会にみる適応と移動——アラビア半島の衣装と住居から考える」『民博通信Online』2: 20-21。

縄田浩志編

- 2019 『サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 東京：河出書房新社。

縄田浩志・遠藤仁・渡邊三津子・石山俊・藤本悠子／アナス・ムハンマド・メレー

- 2019 「写真の利用許諾をとる」 縄田浩志編 『サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.38-39, 東京：河出書房新社。

縄田浩志・片倉邦雄・藤本悠子・河田尚子・郡司みさお・古澤文・渡邊三津子・遠藤仁・石山俊

- 2021 「片倉もところによるサウディ・アラビア，ワーディ・ファーティマ地域を対象とするフィールド調査資料，特に写真資料の社会的特徴について」『片倉もところフィールド調査資料の研究』西尾哲夫・縄田浩志編（国立民族学博物館調査報告153）pp.31-61, 大阪：国立民族学博物館。

縄田浩志・藤本悠子・河田尚子・片倉邦雄・郡司みさお・古澤文・渡邊三津子・遠藤仁・石山俊

- 2021 「片倉もところによるサウディ・アラビア，ワーディ・ファーティマ地域を対象とするフィールド調査資料の学術的特徴について」『片倉もところフィールド調査資料の研究』西尾哲夫・縄田浩志編（国立民族学博物館調査報告153）pp.1-30, 大阪：国立民族学博物館。

縄田浩志・藤本悠子・河田尚子・古澤文・渡邊三津子・遠藤仁・片倉邦雄

印刷中 「片倉もところフィールド調査資料の資料的特質と整理プロセス：民族誌的な質的データの二次利用のための方法論的かつ実践的な課題抽出として」『沙漠研究』。

日本写真家協会

- 2020 「写真著作権と肖像権」 <https://www.jps.gr.jp/rights-2/>（閲覧 2020年8月7日）

西尾哲夫

- 2019 「『ゆとろぎ』とは」 縄田浩志編 『サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.46-47, 東京：河出書房新社。

渡邊三津子・古澤文・遠藤仁・縄田浩志

- 2019 「片倉もところのフィールド資料を読み解く」 縄田浩志編 『サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.32-33, 東京：河出書房新社。

〈外国語〉

Corti, L. and P. Thompson

- 2004 Secondary Analysis of Archive Data. In C. Seale, G. Gobo, F. Gubrium, and D. Silverman (eds.) *Qualitative Research Practice*, pp.1-21. London: Sage Publications.

Johansen, U. C.

- 2015 Ulla Johansen Anatolian Ethnology Collection, Koç University, Suna Kıraç Library, Special

- Collections and Archives. <https://librarydigitalcollections.ku.edu.tr/en/collection/ulla-johansen-anatolian-ethnology-collection/> (accessed August 7, 2020)
- Johansen, U. C. and D. R. White
 2002 Collaborative Long-term Ethnography and Longitudinal Social Analysis of a Nomadic Clan in Southeastern Turkey. In R. V. Kemper and A. P. Royce (eds.) *Chronicling Cultures: Long-Term Field Research in Anthropology*, pp.81–99. Walnut Creek, CA: A Division of Rowman & Littlefield Publishers.
- Katakura, M.
 1977 *Bedouin Village, A Study of a Saudi Arabian People in Transition*. Tokyo: Unidversity of Tokyo Press.
 1996 *Ahal al-Wādī*. Dār al-Qārī al-‘Arabī. (in Arabic)
- Kishigami, N.
 2016 An Info-Forum Museum for Cultural Resources of the World: A New Development at the National Museum of Ethnology. In A. Ito (ed.) *Re-Collection and Sharing Traditional Knowledge, Memories, Information, and Images: Challenges and the Prospects on Creating Collaborative Catalog* (Senri Ethnological Reports 137), pp.25–33, Osaka: National Museum of Ethnology.
- Mayer, A. C.
 1960 *Cast and Kingship in Central India*. Berkeley and Los Angeles: University of California Press.
- Nawata, H.
 2019 Exploring 50 Years of Livelihood and Landscape Change in Wadi Fatima, Saudi Arabia: Ethnographic Collections of Motoko Katakura, a Japanese Female Anthropologist. *MINPAKU Anthropology Newsletter* 49: 11–12.
- Sbriccoli, T.
 2016 Between the Archive and the Village: The Lives of Photographs in Time and Space. *Visual Studies* 31(4): 295–309.
- Speelman, G.
 2010 Islamic Tradition and the Prohibition of Images. In V. Kuster and G. Speelman (eds.) *Islam in the Netherlands. Between Religious Studies and Interreligious Dialogue*, pp. 135–148. Berlin: Berlin Lit.
- Stirling, P.
 1965 *Turkish Village*. New York: John Wiley and Sons.
- Sulaimani, A.
 2017 Gender Representation in EFL Textbooks in Saudi Arabia: A Fair Deal? *English Language Teaching* 10(6): 44–52.
- The Center for Social Anthropology and Computing, University of Kent at Canterbury
 2020 Forty-five Years in Turkish Villages 1949–1994: Paul Stirling’s Ethnographic Date Archives. http://era.anthropology.ac.uk/Era_Resources/Era/Stirling/index.html (accessed August 7, 2020)
- Zeitlyn, D.
 2000 Archiving Anthropology. *Forum: Qualitative Social Research* 1(3): Art. 17.

国立民族学博物館収蔵片倉もところ収集資料と サウディ・アラビア、ワーディ・ファーティマ 社会開発センター所蔵生活用具との比較研究

遠藤 仁¹⁾²⁾・渡邊三津子³⁾⁴⁾・藤本悠子⁴⁾・古澤 文⁴⁾・郡司みさお⁴⁾／
アナス・ムハンマド・メレー⁴⁾⁵⁾／黒田賢治¹⁾⁶⁾・西尾哲夫⁶⁾・縄田浩志²⁾⁴⁾

1) 人間文化研究機構, 2) 秋田大学, 3) 奈良女子大学, 4) 片倉もところ記念沙漠文化財団,
5) ムスリム世界連盟日本支部, 6) 国立民族学博物館

1 サウディ・アラビアにおける近代以降の物質文化資料の位置づけ

サウディ・アラビアにおいて、物質文化資料の扱いは博物館で管理、保管し次世代へと継承していく方向であることは、日本を含む世界各国と同様に基本的には変わりがない (Maisel 2016)。なかでも「二聖モスクの守護者」である国王のリーダーシップのもと、イスラーム関連の物質文化資料の扱いは手厚く、国立博物館を筆頭に同国各地の私立の施設でも保管、公開がなされている。また、イスラーム成立以前の物質文化資料に関しても同様に大切に扱われ、いわゆる考古資料と呼ばれる発掘出土品等も厳密に保管、公開がなされている (東京国立博物館他編 2018)。

本稿で対象とする物質文化資料は、近代以降の民具や衣類といった生活用具で、数十年前までは広く用いられていたが、現在はその姿を消しつつある一般民衆の身の回りの品々が中心となる。それらの物質文化資料が、サウディ・アラビアにおいてどの様な扱いがなされているか、近代以降の物質文化資料の公開を行っているいくつかの展示施設の事例を以下にまず紹介する。

国立の博物館では、首都アッリヤード (リヤド, al-Riyādh) にあるサウディ・アラビア国立博物館 (National Museum of Saudi Arabia / King Abdulaziz Historical Centre) には、考古資料や美術・工芸品と並び、近代以降の民具や衣類等の生活用具も幅広く保管、展示され、アラビア語と英語で詳細な解説がある。近代以降の展示は、20世紀初頭の同国の町の様子を地域ごとに、町中にあった商店や工房、住居を復元展示しつつ、各住居に関連する物質文化資料をその室内に多数配置し、直感的に物質文化資料の用途等が想像できる構成となっており、幅広い年齢層に理解しやすいと思われる。また、収蔵されている近代以降の物質文化資料は、アラビア語書籍『サウディ・アラビア王国における民衆遺産百科—原野に育まれた遊牧生活に見る慣習』として遊牧民の道具や手工芸品、女性の衣服や装飾等、全7巻に網羅的にまとめられ、物質文化資料の写真の他にそれぞれの名称や使用場所、使用方法が簡潔に記載されている (al-'Īsa' 1998)。

私立の施設としては、例えば、サウディ・アラビア西部マッカ州の都市ジッダ（ジェッダ, Jiddah）やターイフ（al-Ṭā'if）において、精力的に物質文化を収集し、展示を行っている施設がいくつか存在する。紅海に面する主要な港湾都市であるジッダ市内に位置する Al Tayibat City Museum for International Civilization は、伝統的な建造物からなる都市区画全体を復元した様相を呈しており、中心的な建造物は4階建ての大規模な博物館となっている。国内各地から収集した膨大な数の個人所有のコレクションの工芸品や古い写本、コイン、武器、家具、陶器、伝統的衣服等が各階に展示されている。また、各地域の一般的な部屋が復元されており、そこで使われていた物質文化資料も一緒に展示されている。アラビア語と英語の解説パネルは充実しており、非常に理解しやすい展示構成となっている。展示物の一部は、写真と名称や用途等の情報が記載された図録として出版もされているが（Al Tayibat City Museum for International Civilization n.d.）、収蔵品の全貌は学芸員でさえ把握できていないと言う。

ジッダ市内には他にも Darat Safeya Binzagr という施設があり、著名な女性画家である Safeya Binzagr 氏の作品（絵画）と共に、装身具や衣服等を中心とした個人コレクションが収められている。この施設は、銀行業を中心として営む地域の名士を父に持つ Binzagr 氏がサウディ・アラビアの多様な伝統文化を記録し保存するために作ったものである（Binzagr 1999）。当地において写真撮影の対象とすることが難しい、女性を中心とした日常生活や結婚式・葬式といった儀式の様子を絵画で伝えている。代表的な各部族の女性用衣服や装身具、生活用具といった物質文化資料が展示されている。絵画の多くは、画集として出版され（Binzagr 1979）、展示室内の様子と一部展示品の写真を掲載した図録も出版されている（Binzagr 1999）。ジッダ生まれの Binzagr 氏はエジプトや英国で暮らした後、故郷へ戻ると急速に変わりつつある伝統文化を目の当たりにし、芸術（絵画）として記録することを決意し、エジプトや英国で技術を学んだ後、サウディ・アラビアの人々の暮らしを絵画として記録する活動を始めた。その中で自分と同様にサウディ・アラビアの文化を愛し、研究活動続ける外国人女性研究者である片倉もこの研究姿勢に感銘を受け、家族ぐるみの交流が育まれた（縄田編 2019; 藤本他 2021）。

一方、内陸の避暑地として著名な都市ターイフには、Al Sharif Museum という私立博物館がある。1階建てではあるが、約5,000m²と大規模な面積の展示施設で、およそ30年かけて全国から収集された工芸品や武器、農具、装身具、日用品、クラシックカー等の膨大な数の個人コレクションが展示されている。基本的には生活用具の種類ごとに展示コーナーが形成され、商店や工房が再現された一角も設けられている。なお、図録等は出版されていない。

以上の例が示すように、サウディ・アラビアでは、近代以降の物質文化資料は公設、私設を問わず博物館等で、展示や出版により広く公開されている。また、現地調査時には、自宅に簡易な展示室を作り、知人等に公開している在野の収集家や、母親の婚礼衣装や

装身具，古い身の回りの品々を大切に保管している方と知りあう機会もあった。消えつつある身近なものを大切に保管していこうという意識は一般市民にも広く共有されていることを実感した。しかし一方で，サウディ・アラビアはこの半世紀で急速に経済発展を遂げたことで，伝統的な物質文化に対する考え方も様々となり，古い物質文化がなおざりにされてしまうことも多いようである。したがって，当地の文化遺産としての物質文化の価値を認識している者同士が，国内外を問わず協力していくことが重要である。

2 片倉もとこ収集の中東物質文化コレクションについて

文化人類学者・人文地理学者であった片倉もとこ国立民族学博物館名誉教授（1937～2013）は，1960年代末以降，サウディ・アラビアを中心にアラブ首長国連邦，クウェート，イラン，エジプト等主に中東地域でフィールドワークを行い，様々な物質文化資料を収集した。収集された資料は，1981～1993年に在籍していた国立民族学博物館に189点が収蔵されている他（表2），片倉の没後，2013年11月にその遺志を継いで設立された片倉もとこ記念沙漠文化財団に243点（2020年9月現在の集計）が保管されている（表3）。それらの資料は主に1960年代末～1980年代に収集されたもので，中にはすでに現地で使われなくなったものも含まれる貴重な物質文化コレクションとなっている。

片倉の収集した資料は，大別すると，衣類・履物，装身具，生活雑貨・日用品，信仰関連用品，造船・漁撈関連用品，香料・民間薬，その他に分類できる。それらの内訳は，衣類・履物が136点（31.48%），装身具が46点（10.65%），生活雑貨・日用品が128点（29.63%），信仰関連用品が32点（7.41%），造船・漁撈関連用品が16点（3.70%），香料・民間薬が35点（8.10%），その他が39点（9.03%）となり，衣類や生活雑貨・日用品が全体の6割強を占める。片倉の主な関心が一般庶民の身の回りの品々にあったことがうかがえる（図1，表1）。

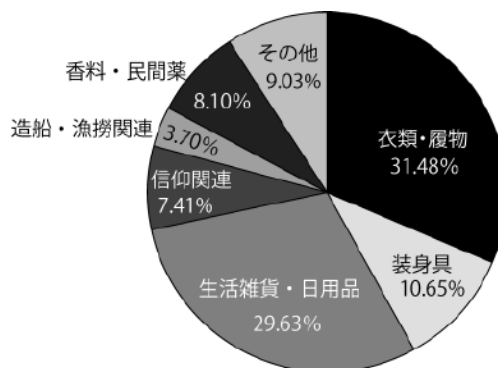


図1 片倉もとこが収集した生活用具・物質文化資料の種類別の割合

表1 片倉もとこが収集した国立民族学博物館収蔵・片倉もとこ記念沙漠文化財団所蔵の生活用具・物質文化資料の種類別の点数と割合

種類	国立民族学博物館 収蔵の点数	片倉もとこ記念沙漠 文化財団所蔵の点数	両組織の合計点数	割合 (%)
衣類・履物	63	73	136	31.48%
装身具	28	18	46	10.65%
生活雑貨・日用品	62	66	128	29.63%
信仰関連用品	15	17	32	7.41%
造船・漁撈関連用品	16	0	16	3.70%
香料・民間薬	0	35	35	8.10%
その他	5	34	39	9.03%
合計	189	243	432	100.00%

本稿では、片倉が収集した資料の個別の詳細に関しては踏み込まず、まず網羅的に資料の全体像を提示し、その活用のために現在行っている再調査の進捗状況について報告する。

3 片倉もとこ収集の中東物質文化コレクションの公開と再調査

片倉が収集し、国立民族学博物館及び片倉もとこ記念沙漠文化財団に保管されている物質文化資料には、必ずしも詳細な収集地や収集年月日、使用や製作に関する情報がすべてに付加されているわけではない。国立民族学博物館収蔵資料の全資料には、収集国や収集年、使用者の民族名等の情報が整備されているものの、中には詳細な収集地等が確認できないものもある。片倉もとこ記念沙漠文化財団保管資料に関しては、片倉個人が手元に保管していた資料ということもあり、その多くには詳細な収集地や収集年月日、使用地、使用民族等の付加情報が欠如しているが、一部資料には片倉本人によるメモ書きが添付されている。

保管状況に関しては、国立民族学博物館収蔵資料に関しては、厳密に保管場所が決められ、適切な温湿度が保たれた状況下で最適な保存がなされている。一方、片倉もとこ記念沙漠文化財団保管資料に関しては、特別な収蔵施設をもたないため、同財団事務所に日光や湿度による影響を可能な限り受けない状況で大切に保管されてはいるものの、収集から半世紀近く経つ資料もあり、経年劣化を防ぐためには今後、保存方法を考え直さなければならない。

そこで、片倉の収集した資料を今後活用していくために、これらの資料の詳細情報を補完する調査研究を以下の6件のプロジェクトを通じて行った。

(1) 国立民族学博物館「フォーラム型情報ミュージアムプロジェクト」中東地域民衆文

- 化資料コレクションを中心とするフォーラム型情報データベース（研究期間：2017年4月～2019年3月，研究代表者：西尾哲夫）
- (2) 国立民族学博物館共同研究会「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」（研究期間：2016年10月～2020年3月，研究代表者：縄田浩志）
- (3) 日本学術振興会科学研究費基盤研究（B）（海外学術調査）「半世紀に及ぶアラビア半島とサハラ沙漠オアシスの社会的紐帯の変化に関する実証的研究」（研究期間：2016年4月～2020年3月，研究代表者：縄田浩志）
- (4) 新学術領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』研究基盤リソース支援プログラム「地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化」（中核機関：国立民族学博物館，支援機能名「地域研究画像デジタルライブラリ（略称：DiPLAS）」）
- (5) 人間文化研究機構基盤研究プロジェクト「現代中東地域研究」国立民族学博物館拠点・秋田大学拠点（研究期間：2016年4月～2022年3月，研究代表者：縄田浩志）
- (6) 片倉もとこ記念沙漠文化財団とアラムコ・アジア・ジャパン(株)との間で締結された「アラムコ・片倉沙漠文化協賛金」事業（研究期間：2015年1月～2019年12月）
- 片倉もとこの調査地であったサウディ・アラビア西部のワーディ・ファーティマ（Wādī Fātīma）地域において，2018年4～5月，2018年12月～2019年1月，2019年9月の3回にわたる再調査を実施した。これらの現地調査を踏まえたプロジェクトの成果として，片倉もとこ収集資料を中心とした以下の展示を企画し，実施した。
- (1) 国立民族学博物館企画展「サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年——『みられる私』より『みる私』」（展示期間：2019年6月6日～9月10日）
- (2) 横浜ユーラシア文化館企画展「サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年——『みられる私』より『みる私』」（展示期間：2019年10月5日～12月22日）
- また，上記展示の図録に相当する関連出版物「サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年——『みられる私』より『みる私』」（縄田編 2019）を出版し，その中には実際に展示した全資料を掲載しているが，その他にも展示には至らなかったが関連する国立民族学博物館や片倉もとこ記念沙漠文化財団に保管されている片倉もとこ収集した全資料（表2・3），片倉もとこ記念沙漠文化財団理事の郡司みさおがサウディ・アラビアで収集した衣類や装身具（表5），そして後述するワーディ・ファーティマ社会開発センター（Wādī Fātīma Social Development Center）が収集した生活用具の内2019年9月時点までに確認できた全資料（表6）の一部も利用した。そのため，今回関連する全資料の一覧表を提示している。また，実際に出版物に掲載した物質文化資料の一覧表も提示している（表4）。片倉もとこ記念沙漠文化財団保管資料（写真1・2）と，郡司みさお収集資料（写真3～5）の一部はこの展示のために，国立民族学博物館の撮影設備を用いて撮影したため，それらをあわせて本稿で提示する。

3回にわたる再調査では、片倉もとこが物質文化資料を収集した主な地域と考えられる、サウディ・アラビア西部のワーディ・ファーティマ地域やジッダにおいて、国立民族学博物館や片倉もとこ記念沙漠文化財団に登録された資料の類似品を探した。同時に、片倉もとこの調査対象であったワーディ・ファーティマ地域の人々に資料の写真を見せ、その名称や用途等の聞き取り調査を行った。特に、後述のワーディ・ファーティマ社会開発センターが収集した民具等のコレクションの調査により、片倉もとこ収集資料と現地で収集された資料との比較検討ができた。現時点で、すべての資料の詳細情報を整備できてはいないが、資料の名称の更新等、一定の成果を得ることができた。具体的には、表2のグレートーンの箇所が、再調査で情報を更新した部分になる。

4 片倉もとこ収集の中東物質文化コレクションの記録方法に関して

片倉もとこ収集の中東物質文化コレクションの内、国立民族学博物館収蔵資料は、インターネット上で「民博所蔵標本資料目録データベース」として標本資料の写真や情報等を外部からアクセスし、閲覧することが可能となっている。また、同博物館の「中東地域民衆文化資料データベース」においても、同様の標本資料の写真や、「フォーラム型情報ミュージアムプロジェクト」において更新された情報についても外部からアクセスし、閲覧することが可能となっている。一方、片倉もとこ記念沙漠文化財団保管資料は自由に閲覧可能なデータベースはまだ整備されていない。

標本資料の写真（一部資料に関しては写真情報なし）や表2で示した情報は、上記のデータベースから誰でも閲覧することは可能である。ただし公開されている写真は、標本資料を斜め上方や真上から撮影したものに限定され、スケールやカラーチャートが写しこまれておらず、正確な大きさや色調等詳細な情報が表現しきれていないものが多い。これらの写真は、資料の概要を示すもので、物質文化資料の詳細研究のために提供されたものではないため、データベース上に載せる写真としては全く問題はないが、詳細な物質文化研究を志向する研究者にとっては、情報量に不足がある。

より詳細な情報の提示方法として、現在一部の考古学、埋蔵文化財の調査研究や博物館等で資料を三次元データ（以下、3Dデータ）として公開することが進められているが、それには費用や時間が相当かかるため（野口 2020）、すぐにデータ作成や公開を行うことは現実的ではないと言ってよい。物質文化資料の場合、3Dデータはレーザースキャナーや3D写真計測で得られた、X・Y・Z座標で指示される三次元的な位置や、点・線の集合体としてのかたちの情報として記録され（野口 2020）、あらゆる角度から資料を観察することが可能となる。中東の物質文化資料としては、例えばロンドン大学のピートリー・エジプト考古学博物館は先駆的に、2009年から同博物館の所蔵するエジプト

の考古資料の3Dデータをインターネット上で公開しており (Petrie Museum of Egyptian Archaeology “3D Petrie Museum”), 実物を閲覧することが困難な環境下でも多くの情報を得ることが可能となっている。近年では3Dデータ作成の手順等が、デジタルデータ技術の進展により簡易化されてきたため、個人レベルでも身近な技術になりつつある (野口 2020; 水戸部 2020)。

以上のように、3Dデータの利点を述べたが、本稿のような紙媒体での報告では、3Dデータはその利点を発揮できず、二次元に変換した一部のデータを表現するに留まってしまう。そして、3Dデータより情報量は少ないが、比較的安易に作成できるものとして実測図がある。実測図とは、対象を正確に計測し、立体であるものの素材、形態、構造、技術に関わる情報を、科学的な製図法を応用して平面的な図形に置き換えたものである (名久井 2003)。主に考古学や民俗学の分野で利用されているもので、技術習得に若干の難はあるものの、日本の埋蔵文化財行政に携わる多くの者が作図技術を身につけている。

実測図作成にも、ある程度の時間を要するため、すべての資料の図化はできていないが、国立民族学博物館収蔵標本資料に関して、図化が完了しているものを例示する (図2)。実測図は一面的な情報だけではなく、多面的に展開させ表現することができ、3Dデータでは表現し難い断面情報等も加えることができるため、特に紙媒体での報告資料では簡潔に多くの情報を表現することが可能である。そのため、ワーディ・ファーティマ地域における再調査では、日本国内にある片倉収集資料と比較検討して研究の進展が見込まれる資料を中心に、可能な限り現地資料の実測図も作成した。

また、資料閲覧上の制限や、時間的制約により実測図作成が困難であった資料に関しては、スケール等を写し込み計測可能な状況にして高解像度写真撮影を行った。この撮影画像は画像処理ソフトでレンズによる歪みや色調等を補正後、外形を切抜き、同じ縮尺で正面、側面、背面等同じ画像上に配置することにより、実測図データと類似した状態にする。そのようにして作成された写真展開図は、3Dデータや実測図とも比較検討が可能な資料となる。ただし、3Dデータから作成したオルソ (正射投影) 画像ではないため、画像から細部を計測する場合は、3Dデータや実測図よりは精度は劣り、実物を正確に計測しておくことが必要である。

次節で述べるワーディ・ファーティマ社会開発センター所蔵資料の一部は、上記の方法で写真撮影を行い記録している (写真7~12)。海外調査においては、時間や機材といった様々な制約から常に最適な記録方法を採用できるとは限らないため、今回はこのような方法を採用しているが、状況次第で様々な記録方法を選択できる手段を用意しておくことが重要である。

5 ワーディ・ファーティマ社会開発センター所蔵の物質文化資料に関して

サウディ・アラビア西部マッカ州の都市アル＝ジウムームに所在するワーディ・ファーティマ社会開発センター (Wadi Fatima Social Development Center, 以下、センター) は、1961年に、地域における社会、文化、教育、農業、健康の水準を高めることを目的に開設された政府系機関である。センターは、地域が抱える社会問題についても調査を行い、学校教育、食品衛生の見直し、病院での予防接種や治療を推奨している (Katakura 1977; 縄田編 2019)。片倉はワーディ・ファーティマ地域の調査時に、センターを繰り返し訪れており、当時のセンター所長とも深い交流をもち、以下に述べる物質文化収集の最初期段階にも関与していた可能性が高い。

詳しい収集開始時期は不明であるが、センターでは、文化、教育活動の一環として、ワーディ・ファーティマ地域やその近隣で使われていた、衣服や装身具、生活雑貨・日用品等を収集し、保管する活動を行っている。専門の収蔵施設や資料を管理する専門知識をもった人員等は配置されていないが、センター建物の2階の一室に約80㎡の保管と展示を兼ねた部屋を設けている。この展示室は常時一般公開を行っているわけではないが、希望に応じて誰でも閲覧可能である。マネキンに衣服を着せ展示したり、ガラスケース内に装身具を展示したりする等、ある程度の展示機能は備えられている (写真6)。センターの展示室は、1節で触れた、首都アッリヤードの国立博物館やジッダやターイフに存在する私立の展示施設とは規模も保管状況も異なるが、同様のコンセプトで収集がなされ、物質文化資料の保管、継承を担っていく施設の1つであると考えられる。

センターで収集された物質文化資料は、残念ながら台帳や目録等が存在しないため、総点数等は不明である。文化・教育活動の一環として、他所に貸し出されたりすることも多いということで、厳密な意味での正確な台帳の作成は難しいようである。2018年4月に調査許可を得た後、主要な所蔵品をカウントし (表6:2019年9月時点の記録)、確認できた全資料の写真撮影を行った。一部の資料に関しては、実測図を作成した。現時点で手書きの実測図データをデジタル化する作業が完了したものを例示した (図3～6)。記録した全資料は、写真展開図を作成できる状況で撮影を行っているが、現状において画像処理が終了している資料も掲載した (写真7～13)。また、記録した資料に関して、センター職員やワーディ・ファーティマ地域の有識者に名称や使用方法等に関して聞き取り調査もあわせて実施した。この聞き取り調査で得られた名称等の情報の一部は、国立民族学博物館「中東地域民衆文化資料データベース」に片倉もとこ収集資料の追加情報として、反映させることができた。今後は、形状や素材、使用方法等についても実測図や写真を活用し、他資料との比較研究を進めていくことを展望している。

センターに所蔵されている物質文化資料は、現在でも近隣の村で使われているものも

多いが、周辺の都市部在住の20代の調査協力者（通訳）によれば、名称や用途がわからないものもあり、物質文化の喪失が現在進行形で起きていることが実感できた。そのため、現地の文化・教育活動を担うセンターがこの様な物質文化資料を収集し、保管、継承していくことは、ワーディ・ファーティマ地域の文化を記録するために非常に重要であると評価できる。同地域には、現時点で日本の郷土資料館のような展示施設が別に存在しているわけではないため、センターがその役割を担うためには、私たち調査グループが調査した物質文化資料の台帳化や撮影データ等を現地に還元し、相互協力していくことが望まれる。そのような観点から今後もさらなる調査データの整備を進めていきたい。

6 片倉もところ収集の中東物質文化コレクションと現地資料の比較研究に向けて

片倉もところが収集し、現在日本で保管されている物質文化資料と、ワーディ・ファーティマ社会開発センターやジッダの私立展示施設で保管、展示されている物質文化資料は、その多くは使用年代等が共通しており、相互の情報量を増やすために比較研究を進めていく必要があると考える。名称や使用方法等に関しては、現地調査を進め情報を補完しなければならないが、材質や形状等に関しては実測図や詳細な写真データから比較研究を実施することが可能である。社会情勢や予算の問題で、いつでも自由に現地調査ができるわけではないため、4節で述べた必要最低限の物質文化資料の情報を取得することによって、その後、どこにいても資料の比較研究を可能とすることに力を注いでいきたい。現時点では、実測図や写真展開図の作成は一部にとどまっているが、対象となる物質文化資料の内、図化の進んでいる装身具やコーヒーポット、カップ等に限定すれば、現状でも比較研究を進めていくことは十分可能である。

物質文化資料は、地域文化の保存や文化多様性の維持に寄与できる情報となるため、最終的には、すべての物質文化資料の比較研究を進めていくことが望ましい。それには、現地の博物館学芸員や研究者の協力が必要不可欠であろう。日本の博物館収蔵資料と同質の情報や、写真、計測、3Dデータ等を現地の研究者を中心として記録できれば、相互に情報を共有して比較研究を推進できる。現在の物質文化資料の記録化を取り巻く状況は、目まぐるしく変化し、3Dデータの作成等は年を追うごとに安易、安価になりつつある。3Dデータからは実測図も比較的容易に作成できるため（水戸部 2020）、これまで蓄積した従来の実測図データも無駄になることはないと思われる。相互の研究者が技術協力をすれば、実現は容易と判断される。

現在、古い物質文化資料の喪失が急速に進んでいるため、基本的な聞き取り調査等を進めていくと同時に、最新の技術を取り入れ、1つでも多くの物質文化資料の記録化を

行っていくことが望まれる。

7 おわりに——今後の研究展望

現在、本稿で紹介した、日本国内やサウディ・アラビアにおいて記録した資料の整理と分析を継続している。

研究として発展することができた特筆すべき成果としては、標本資料目録や片倉もこの著作 (Katakura 1977; 片倉 2002) を確認する限り、おそらく最初の調査者であり物質文化資料の収集者である片倉もどこ自身も認識できていなかったと思われる機能（指輪の内部の空洞に固形物を入れることにより音を鳴らし、女性が自分の存在を周囲に知らせる機能）を国立民族学博物館収蔵標本資料の指輪 (H0100424) が持っていることを、今回の調査研究で明らかにすることができた（遠藤他 印刷中）。

他にも研究に進展できる潜在性がある資料は多数あると考えられるため、様々な興味を持った研究者から広く情報を引き出して意見を得られるように、情報共有が可能な形での資料整理を継続して進めていきたい。

本稿で言及した3Dデータ作成に基づく研究としては、ワーディ・ファーティマ地域において小規模な屋外構造物（小屋）等を対象に、3Dデータ作成を開始することができた。研究成果は今後、別稿にて報告を予定しているが、3Dデータ作成という研究手法の有効性を確認できれば、分析対象を生活用具等、他の物質文化資料にも広げていきたいと考えている。

参考文献

〈日本語〉

遠藤仁・Anas Mohammed Melih・渡邊三津子・藤本悠子・郡司みさお・黒田賢治・西尾哲夫・縄田浩志

印刷中「片倉もこのサウディ・アラビア収集品の同定に関する研究——銀製指輪の音を鳴らす機能とその役割」『沙漠研究』。

片倉もここ

2002 『アラビア・ノート』東京：筑摩書房。

東京国立博物館・サウジアラビア国家遺産観光庁・NHK・朝日新聞社編

2018 『アラビアの道——サウジアラビア王国の至宝』東京：東京国立博物館・サウジアラビア国家遺産観光庁・NHK・朝日新聞社。

名久井芳枝

2003 『増補改訂版 実測図のすすめ——「もの」から学術資料へ』埼玉：物質文化研究所—芦舎。

縄田浩志編

- 2019 『サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」』
東京：河出書房新社。

野口淳

- 2020 「三次元データの可能性——活用と課題」『奈良文化財研究所研究報告第24冊 デジタル
技術による文化財情報の記録と利活用2』 pp. 59-70, 奈良：奈良文化財研究所。

水戸部秀樹

- 2020 「発掘調査から報告書公開までのデジタル技術」『奈良文化財研究所研究報告第24冊 デ
ジタル技術による文化財情報の記録と利活用2』 pp. 77-94, 奈良：奈良文化財研究所。

〈外国語〉

al-Īsa', 'Abbās Muḥammad Zayd

- 1998 *Adawāt al-bādiyah fī al-ḥall wa-al-tarḥāl* 1-7. Riyadh: National Museum of Saudi Arabia
(in Arabic).

Al Tayibat City Museum for International Civilization

- n.d. *Al Tayibat City Museum for International Civilization* (in Arabic and English).

Binzagr, S.

- 1979 *Saudi Arabia: An Artist's View of the Past*. Lausanne: Three Continents Publishers.
1999 *A Three-Decade Jorney with Saudi Arabia*. Jiddah: Darat Safeya Binzagr (in Arabic).

Katakura, M.

- 1977 *Bedouin Village, A Study of Saudi Arabian People in Transition*. Tokyo: University of Tokyo
Press.

Maisel, S.

- 2016 Why Not Go to the Museum Today? On Tourism and Museum Preferences in Saudi
Arabia. In K. Exell and S. Wakefield (eds.) *Museums in Arabia, Transnational Practices
and Regional Processes*. Oxfordshire and New York: Routledge.

参考ウェブサイト

国立民族学博物館

「民博所蔵標本資料目録データベース」<https://htq.minpaku.ac.jp/databases/mo/mocat.html> (2020年9月30日閲覧)

「中東地域民衆文化資料データベース」<https://ifm.minpaku.ac.jp/mepc/top.html> (2020年9月30日閲覧)

Petrie Museum of Egyptian Archaeology

3D Petrie Museum. <https://www.ucl.ac.uk/3dpetriemuseum/> (accessed September 30, 2020)

表2 片倉もとこ収集国立民族学博物館収蔵標本資料一覧

標本資料番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集場所(詳細)	収集/登録年(詳細)	分類	備考(片倉もとこメモ)
H0100191	漁船	fishing vessel	لش	アラブ首長国連邦	Sharja	1982年収集	造船・漁撈	
H0100192	罟	fish trap	جرجور / شبة	アラブ首長国連邦	Sharja	1982年収集	造船・漁撈	
H0100193	罟	fish trap	جرجور / شبة	アラブ首長国連邦	Sharja	1982年収集	造船・漁撈	
H0100194	罟	fish trap	جرجور / شبة	アラブ首長国連邦	Sharja	1982年収集	造船・漁撈	
H0100195	鯛飯(鯛入らず)	food cover	مكة	アラブ首長国連邦	Khor Fakkam	1982年収集	生活雑貨・日用品	食卓の食物の上にかぶせて、砂、蠅を防ぐ
H0100196	鯛飯(鯛入らず)	food cover	مكة	アラブ首長国連邦	Khor Fakkam	1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100197	食事用歌物	table	سرد	アラブ首長国連邦	Khor Fakkam	1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100198	取納箱	closet box	صندوق	アラブ首長国連邦	Sharja	1982年収集	生活雑貨・日用品	文具(時に真珠も)、衣服を入
H0100199	取納箱	closet box	صندوق	アラブ首長国連邦	Sharja	1982年収集	生活雑貨・日用品	れておく
H0100200	料理用鍋	pot for cooking	جدر(افر) / مخلص	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100201	料理用鍋	pot for cooking	جدر(افر) / مخلص	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100202	コーヒーポット	coffee pot	بلة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100203	コーヒーポット	coffee pot	بلة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100204	香炉	incense burner	مبخن / مبخرة	アラブ首長国連邦	Umm al-Qaiwan	1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100205	香炉	incense burner	مبخن / مبخرة	アラブ首長国連邦	Umm al-Qaiwan	1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100206	香炉	incense burner	مبخن / مبخرة	アラブ首長国連邦	Umm al-Qaiwan	1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100207	香炉	incense burner	مبخن / مبخرة	アラブ首長国連邦	Umm al-Qaiwan	1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100208	香炉	incense burner	مبخن / مبخرة	アラブ首長国連邦	Umm al-Qaiwan	1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100209	香炉	incense burner	مبخن / مبخرة	アラブ首長国連邦	Umm al-Qaiwan	1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100210	香炉	incense burner	مبخن / مبخرة	アラブ首長国連邦	Umm al-Qaiwan	1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100211	数珠	prayer-bead chain	سنيج / مسيجة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	信仰関連	
H0100212	数珠	prayer-bead chain	سنيج / مسيجة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	信仰関連	
H0100213	数珠	prayer-bead chain	سنيج / مسيجة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	信仰関連	
H0100214	数珠	prayer-bead chain	سنيج / مسيجة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	信仰関連	
H0100215	数珠	prayer-bead chain	سنيج / مسيجة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	信仰関連	
H0100216	数珠	prayer-bead chain	سنيج / مسيجة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	信仰関連	
H0100217	数珠	prayer-bead chain	سنيج / مسيجة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	信仰関連	
H0100218	数珠	prayer-bead chain	سنيج / مسيجة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	信仰関連	
H0100219	数珠	prayer-bead chain	سنيج / مسيجة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	信仰関連	
H0100220	数珠	prayer-bead chain	سنيج / مسيجة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	信仰関連	
H0100221	数珠	prayer-bead chain	سنيج / مسيجة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	信仰関連	
H0100222	数珠	prayer-bead chain	سنيج / مسيجة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	信仰関連	
H0100223	数珠	prayer-bead chain	سنيج / مسيجة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	信仰関連	
H0100224	数珠	prayer-bead chain	سنيج / مسيجة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	信仰関連	
H0100225	数珠	prayer-bead chain	سنيج / مسيجة	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集	信仰関連	

標本資料番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集場所(詳細)	収集/登録年: 注: 編年(縦行×高さ×長さ×重さ)	分類	備考(片倉もところメモ)
H01000226	料理用鍋	pot for cooking	پوت (pot)	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集 30×29×12/1580	生活雑貨・日用品	
H01000227	料理用鍋	pot for cooking	پوت (pot)	アラブ首長国連邦	Dubai	1982年収集 20×20×28/1190	生活雑貨・日用品	
H01000228	コーヒーポット	coffee pot	قهوة (coffee)	アラブ首長国連邦	Abu Dhabi	1982年収集 15×36×43/2420	生活雑貨・日用品	
H01000229	コーヒーポット	coffee pot	قهوة (coffee)	アラブ首長国連邦	Abu Dhabi	1982年収集 15×31×36/1820	生活雑貨・日用品	
H01000311	女性用 スカーフ	woman's scarf	tarbi'a iskandarāni	エジプト	Alexandria	1982年収集 92×45/62	衣類・服飾	髪を覆うスカーフ。現在では、都市部では少なくなかった。アラブサウディ・アラビア風スカーフ
H01000359	女性用婚礼包装	woman's wedding dress	لباس عروسی زنانه ترکم	イラン	Tehran	1982年収集 203×123/1340	衣類・服飾	女性の晴着。結婚式で着る衣服
H01000360	男性用婚礼包装	man's wedding dress	لباس عروسی مردانه ترکم	イラン	Tehran	1982年収集 47×117/918	衣類・服飾	
H01000361	女性用婚礼包装	woman's wedding dress	لباس عروسی زنانه ترکم	イラン	Tehran	1982年収集 47×136/1300	衣類・服飾	結婚式の夜、花嫁が着用する。部分的に刺繍がしてある
H01000362	腰飾り	waist cord for ornament	کمر بند ترابی	イラン	Tehran	1982年収集 126×0.7×14/30	生活雑貨・日用品	
H01000363	テント用飾り	cord for tent ornament	کمر بند ترابی	イラン	Tehran	1982年収集 1.0×6.5×229	生活雑貨・日用品	
H01000364	駱駝用飾り	camel headress	پوش ترابی شتر	イラン	Tehran	1982年収集 53×68/185	生活雑貨・日用品	
H01000365	女性用ズボン裾	woman's pants hem	پنجه شلوار زنانه	イラン	Tehran	1982年収集 45×42/145	衣類・服飾	
H01000366	女性用ドレス	woman's dress for winter	لباس زمستانی ترکم	イラン	Tehran	1982年収集	衣類・服飾	冬用
H01000367	女性用腰帯	woman's belt for winter	کمر بند زنانه	イラン	Tehran	1982年収集 176×31/85	衣類・服飾	冬用
H01000368	じゅうたん	carpet	سوزن دوری	イラン	Tehran	1982年収集 118×194	生活雑貨・日用品	動物あるいは壁飾りとして用いる
H01000369	化粧箱用覆い	covering cloth for decorative box	پنجه	イラン	Tehran	1982年収集 51×110×59	生活雑貨・日用品	つづらを覆う
H01000370	じゅうたん	carpet	قرش	イラン	Zahedan	1982年収集 253×117/6260	生活雑貨・日用品	動物として用いる
H01000371	じゅうたん	carpet	قالچه	イラン	Tehran	1982年収集 175×107/5550	生活雑貨・日用品	
H01000372	テント用飾り	decorative cloth for tent entrance	اوز ورودی چادر	イラン	Tehran	1982年収集 105×72/1480	生活雑貨・日用品	テントの入口にかける飾り
H01000373	テント用飾り	ornament for tent entrance	اوز ورودی چادر	イラン	Tehran	1982年収集 177×87/825	生活雑貨・日用品	飾布の上にかぶせ、テント入口にかけ、結婚初夜を祝する。その後は、馬の背にかけたりする。
H01000374	ダウ(模型)	dhow (model)	دوم	クウェート		1982年収集 107×28×65/5400	造船・漁撈	
H01000375	造船用手杓	shipbuilding tool (ax)	jedum	クウェート		1982年収集 18×51×13/1000	造船・漁撈	ダウ船を造るのに用いられる
H01000376	造船用鋸	shipbuilding tool (saw)	minshāl	クウェート		1982年収集 16×57×4.1/311	造船・漁撈	ダウ船を造るのに用いられる
H01000377	造船用キリ	shipbuilding tool (gimlet)	majkhada	クウェート		1982年収集 5.2×41×5.7/361	造船・漁撈	ダウ船を造るのに用いられる
H01000378	造船用キリ	shipbuilding tool (gimlet)	majkhada	クウェート		1982年収集 5.6×60×9.1/363	造船・漁撈	ダウ船を造るのに用いられる
H01000379	造船用キリ	shipbuilding tool (gimlet)	majkhada	クウェート		1982年収集 6.0×38×7.1/292	造船・漁撈	ダウ船を造るのに用いられる
H01000380	造船用キリ	shipbuilding tool (gimlet)	majkhada	クウェート		1982年収集 5.0×42×5.4/245	造船・漁撈	ダウ船を造るのに用いられる
H01000381	造船用敷物	shipbuilding tool (carpet)	مساحة	クウェート		1982年収集	造船・漁撈	ダウ船を造る時に敷き、その上で作業をする
H01000382	造船用木材	shipbuilding material	قائده/خشب	クウェート		1982年収集 15×57×20/3250	造船・漁撈	ダウ船を造るのに用いられる
H01000383	クッション(肘掛兼枕)	cushion/support/pillow	مسند سطور	クウェート		1982年収集	生活雑貨・日用品	
H01000384	クッション(肘掛兼枕)	cushion/support/pillow	مسند سطور	クウェート		1982年収集 61×20×42/4490	生活雑貨・日用品	

標本資料番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集場所(詳細)	収集・登録年 <small>（注）法欄欄行×高さ×重量(㎏)</small>	分類	備考(片倉もところメモ)
H0100385	クッション(肘掛兼枕)	cusion/support/pillow	مستند سنبو	クウェート		1982年収集 67×51×26/5800	生活雑貨・日用品	
H0100386	クッション(肘掛兼枕)	cusion/support/pillow	مستند سنبو	クウェート		1982年収集 68×52×22/5550	生活雑貨・日用品	
H0100387	クッション(肘掛兼枕)	cusion/support/pillow	مستند سنبو	クウェート		1982年収集 67×48×20/4940	生活雑貨・日用品	
H0100388	敷物	carpet	زواق سنبو	クウェート		1982年収集 402×176/13800	生活雑貨・日用品	部屋、又は砂の上に敷く
H0100389	敷物	carpet	زواق سنبو	クウェート		1982年収集 415×149/9650	生活雑貨・日用品	砂の上に敷く
H0100390	クッション(肘掛兼枕)	cusion/support/pillow	مستند سنبو	クウェート		1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100391	クッション(肘掛兼枕)	cusion/support/pillow	مستند سنبو	クウェート		1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100392	クッション(肘掛兼枕)	cusion/support/pillow	مستند سنبو	クウェート		1982年収集 73×23×43/4440	生活雑貨・日用品	
H0100393	クッション(肘掛兼枕)	cusion/support/pillow	مستند سنبو	クウェート		1982年収集 73×22×46/5650	生活雑貨・日用品	
H0100394	クッション(肘掛兼枕)	cusion/support/pillow	مستند سنبو	クウェート		1982年収集 71×22×46/5400	生活雑貨・日用品	
H0100395	クッション(肘掛兼枕)	cusion/support/pillow	مستند سنبو	クウェート		1982年収集 76×16×50/5000	生活雑貨・日用品	
H0100396	弦楽器(ラッパバーバ)	stringed instrument	زباجة	クウェート		1982年収集 13×64×1.8/1070	その他	
H0100397	弦楽器(ラッパバーバ)	stringed instrument	زباجة	クウェート		1982年収集 30×14×84/672	その他	
H0100398	敷物	carpet	حزاق سنبو	クウェート		1982年収集 39/6350	生活雑貨・日用品	砂の上、又は床に敷く
H0100399	敷物	carpet	زواق سنبو	クウェート		1982年収集 375×94/5700	生活雑貨・日用品	砂の上、又は床に敷く
H0100400	女性用飾面	woman's face mask	برقع	クウェート		1982年収集 41×40/27	装身具	
H0100401	女性用飾面	woman's face mask	برقع	クウェート		1982年収集	装身具	
H0100402	女性用衣服	female dress	ثوب	クウェート		1982年収集 36×46/16	衣服・服物	暗着として着用する
H0100403	女性用衣服	female dress	ثوب	クウェート		1982年収集	衣服・服物	暗着として着用する
H0100404	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	ثوب	クウェート		1982年収集 131×170/561	衣服・服物	
H0100405	女性用飾面	woman's face mask	شيلة	クウェート		1982年収集 163×84/39	衣服・服物	
H0100406	女性用飾面	woman's face mask	بطولة	クウェート		1982年収集 19×16/10	装身具	
H0100407	女性用飾面	woman's face mask	بطولة	クウェート		1982年収集 20×1×12/8	装身具	
H0100408	女性用飾面	woman's face mask	بطولة	クウェート		1982年収集 18×15/9	装身具	
H0100409	女性用飾面	woman's face mask	بطولة	クウェート		1982年収集 18×1×12/8	装身具	
H0100410	未婚女性用ガウン	unmarried woman's gown	بخنق	クウェート		1982年収集 20×1×14/8	衣服・服物	
H0100411	未婚女性用ガウン	unmarried woman's gown	بخنق	クウェート		1982年収集	衣服・服物	
H0100412	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	شيلة	クウェート		1982年収集 204×81/115	衣服・服物	
H0100413	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	شيلة	クウェート		1982年収集 204×81/131	衣服・服物	
H0100414	駱駝用鞍袋	saddlebag for camel	هود سنبو	クウェート		1982年収集 100×99/427	生活雑貨・日用品	駱駝の背にのせて、荷物を運ぶのに用いる
H0100415	敷物	carpet	زواق سنبو	クウェート		1982年収集 285×93/4500	生活雑貨・日用品	
H0100416	ばら水用水差し	rose-water sprinkler	مرشاة مبرش	クウェート	Wafra	1982年収集 10×10×40/513	生活雑貨・日用品	
H0100417	ばら水用水差し	rose-water sprinkler	مرشاة مبرش	クウェート	Wafra	1982年収集 10×10×40/538	生活雑貨・日用品	
H0100418	ばら水用水差し	rose-water sprinkler	مرشاة مبرش	クウェート	Wafra	1982年収集 8.4×8.4×30/266	生活雑貨・日用品	
H0100419	ばら水用水差し	rose-water sprinkler	مرشاة مبرش	クウェート	Wafra	1982年収集 8.2×8.2×29/293	生活雑貨・日用品	

標本資料番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集場所(詳細)	収集/登録年 <small>(注:法庫年:注法庫年×標本番号×標本番号)</small>	分類	備考(片倉もどこメモ)
H0100420	ばら水用水差し	rose-water sprinkler	رش ماء	クウェート	Wafra	1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100421	ばら水用水差し	rose-water sprinkler	رش ماء	クウェート	Wafra	1982年収集	生活雑貨・日用品	
H0100422	造船用ものさし	ruler	عنان/عصا معزل	クウェート		1982年収集	造船・漁撈	造船に用いる
H0100423	造船用ものさし	ruler	عنان/عصا معزل	クウェート		1982年収集	造船・漁撈	造船に用いる
H0100424	指輪	ring (for finger)	خاتم	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	
H0100425	女性用腕輪	woman's bracelet	سورة	サウディ・アラビア	Hijaz	1982年収集	装身具	
H0100426	女性用腕輪	woman's bracelet	سورة	サウディ・アラビア	Hijaz	1982年収集	装身具	
H0100427	足輪	anklet	خخال	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	
H0100428	足輪	anklet	خخال	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	
H0100429	頭飾り	headdress	خرسان	サウディ・アラビア	Hijaz	1982年収集	装身具	
H0100430	腰飾り	belt	حزام النمل	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	
H0100431	足指輪	toe ring	خاتم ايهام	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	
H0100432	額飾り	forehead ornament	طوق	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	
H0100433	女性用足輪	anklet	خخال	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	足指につけて、飾をならしなから飾る
H0100434	腕輪	bracelet	سُمِيَّة	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	装飾と財産保存用
H0100435	腕輪	bracelet	سُمِيَّة	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	装飾と財産保存用
H0100436	腕輪	bracelet	بحرة مصطفية	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	装飾と財産保存用
H0100437	腕輪	bracelet	بحرة مصطفية	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	装飾と財産保存用
H0100438	首飾り	necklace	قلادة	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	
H0100439	首飾り	necklace	الشعري	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	
H0100440	首飾り	necklace	الجلال	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	
H0100441	首飾り	necklace	الثيان	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	
H0100442	首飾り	necklace	قلادة مرجمية	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	コーラン(の章句)を入れて首にかける
H0100443	首飾り	necklace	الهدال	サウディ・アラビア		1982年収集	装身具	
H0100444	女性用衣服	woman's dress	ثوب حرني	サウディ・アラビア	Jiddah	1982年収集	衣類・服物	
H0100445	女性用衣服	woman's dress	ثوب حرني	サウディ・アラビア	Jiddah	1982年収集	衣類・服物	
H0100446	女性用衣服	woman's dress	ثوب حرني	サウディ・アラビア	Jiddah	1982年収集	衣類・服物	
H0100447	女性用衣服	woman's dress	ثوب حرني * حرمي مزرك *	サウディ・アラビア	Jiddah	1982年収集	衣類・服物	
H0100448	女性用衣服	woman's dress	حرمي مزرك *	サウディ・アラビア	Jiddah	1982年収集	衣類・服物	
H0100449	女性用衣服	woman's dress	جلابية	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	
H0100450	女性用ガウン	woman's gown	جلابية	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	
H0100451	女性用衣服	woman's dress	جلابية	サウディ・アラビア	Hijaz	1982年収集	衣類・服物	
H0100452	女性用衣服	woman's dress	جلابية	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	
H0100453	女性用衣服	woman's dress	ثوب حرني محربي	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	

標本資料番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集場所(詳細)	収集/登録年	分類	備考(片倉もともメモ)
H0100454	女性用衣服	woman's dress	حريمي مرند	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	
H0100455	女性用衣服	woman's dress	جلابية	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	
H0100456	女性用衣服	woman's dress	جلابية	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	36×71/321
H0100457	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	طرحه	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	38×71/332
H0100458	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	طرحه	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	78×46/24
H0100459	女性用ガウン	woman's gown	عباءة	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	80×45/25
H0100460	女性用ガウン	woman's gown	عباءة	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	142×134/167
H0100461	女性用ガウン	woman's gown	عباءة	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	
H0100462	女性用ガウン	woman's gown	عباءة	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	
H0100463	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	طرحه	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	176×89/30
H0100464	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	طرحه	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	155×56/24
H0100465	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	طرحه	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	157×89/27
H0100466	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	طرحه	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	141×42/16
H0100467	女性用衣服	woman's dress	جلابية	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	42×150/1050
H0100468	男性用ガウン	man's gown	منالج	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	166×152/636
H0100469	男性用ガウン	man's gown	منالج	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	87×67/175
H0100470	男性用頭覆い	man's headscarf	منالج	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	131×131/157
H0100471	男性用頭覆い	man's headscarf	عقراة	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	113×111/87
H0100472	男性用頭覆い	man's headscarf	عقراة	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	123×122/101
H0100473	男性用頭飾り紐	man's headscarf band	عقال	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	21×1.5×22/141
H0100474	男性用頭飾り紐	man's headscarf band	عقال	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	43×2.2×4.2/63
H0100475	男性用衣服	man's dress	ثوب	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	160×139/290
H0100476	男性用衣服	man's dress	ثوب	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	
H0100477	男性用帽子	man's headcloth	كوفية	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	17×16×7.7/18
H0100478	男性用帽子	man's headcloth	طاقية	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	15×17×7.3/18
H0100479	男性用帽子	man's headcloth	طاقية	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	17×16×9.1/18
H0100480	男性用帽子	man's headcloth	طاقية	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	13×15×11/17
H0100481	男性用ガウン	man's gown	عباءة	サウディ・アラビア		1982年収集	衣類・服物	外出時に上から着用。正式訪問の時には必ず着用
H0100482	ピストルホルダー	pistol holder	محرم	サウディ・アラビア		1982年収集	その他	99×15×7.6/268
H0100483	ピストルホルダー	pistol holder	محرم	サウディ・アラビア		1982年収集	その他	74×17×6.9/284
H0100484	ピストルホルダー	pistol holder	محرم	サウディ・アラビア		1982年収集	その他	86×16×6.8/345
H0100485	香吸人具(水たばこ)	water pipe	شيشة	サウディ・アラビア		1982年収集	生活雑貨・日用品	22×24×149/428
H0100486	香炬	incense burner	محجرة	サウディ・アラビア		1982年収集	生活雑貨・日用品	14×14×32/1190
H0100487	香炬	incense burner	محجرة	サウディ・アラビア		1982年収集	生活雑貨・日用品	11×10×24/438
H0100488	香炬	incense burner	محجرة	サウディ・アラビア		1982年収集	生活雑貨・日用品	12×11×22

標本資料番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集場所(詳細)	収集/登録年: 日(欄外横書き×高さ×長さ×重さ)	分類	備考(片倉むとこメモ)
H0100489	香炉	incense burner	محمرة	サウディ・アラビア		1982年収集 12×11×23	生活雑貨・日用品	
H0100490	香炉	incense burner	محمرة	サウディ・アラビア		1982年収集 12×12×31/1040	生活雑貨・日用品	
H0100491	ぞうり(男性用)	man's sandals	حذاء شرفية	サウディ・アラビア		1982年収集 13×3.0×27/470	衣類・履物	
H0100492	ぞうり(男性用)	man's sandals	حذاء زهيرية / شرقية	サウディ・アラビア		1982年収集 13×4.0×25/511	衣類・履物	
H0100493	ぞうり(男性用)	man's sandals	حذاء شرفية	サウディ・アラビア		1982年収集 13×7.1×27/503	衣類・履物	
H0100494	ぞうり(男性用)	man's sandals	حذاء زهيرية / شرقية	サウディ・アラビア		1982年収集 14×2.8×28/322	衣類・履物	ペドウィンのもの。この頭では、サウディ・アラビアの都市でも男性がはきははしている
H0100495	ぞうり(男性用)	man's sandals	حذاء زهيرية / شرقية	サウディ・アラビア		1982年収集 14×8.5×27/538	衣類・履物	
H0100496	ぞうり(男性用)	man's sandals	حذاء زهيرية / شرقية	サウディ・アラビア		1982年収集 14×2.2×28/250	衣類・履物	
H0100497	歯みがきブラシ(女性用)	woman's tooth brush	مسواك	サウディ・アラビア		1982年収集 13×5.9×3×3.5	生活雑貨・日用品	女性が、歯をみがき、あわい色を構成につける。さいて用いる
H0100498	女性用飾面	woman's face mask	برقع	サウディ・アラビア		1982年収集 37×53/23	装身具	
H0100499	手綱	rein	لحم	サウディ・アラビア		1982年収集 42×30/400	生活雑貨・日用品	
H0100500	女性用衣服	woman's dress	مديرية	サウディ・アラビア	Hijaz	1982年収集	衣類・履物	
H0100501	女性用衣服	woman's dress	مدرجال خط اللدة	サウディ・アラビア	Hijaz	1982年収集	衣類・履物	
H0100502	女性用衣服	woman's dress	fudum**	サウディ・アラビア	Hijaz	252×101/129	衣類・履物	
H0100503	女性用衣服	woman's dress	محمرة	サウディ・アラビア	Hijaz	98×92/33	衣類・履物	
H0100504	水差し	pitcher	ابرق	サウディ・アラビア		1982年収集 18×21×43/2190	生活雑貨・日用品	食後に手を洗うのに用いる。排便後に用いることもある
H0126909	化粧品容器	eye liner	مكحلة	サウディ・アラビア		1983年収集 9.5×6.5×20/288	生活雑貨・日用品	目の化粧に用いる。使用者(ソファイ・ビン・サンブル)が祖母からもらって使っていたもの
H0126910	香炉	incense burner	محمرة	サウディ・アラビア		1983年収集 11×11×17/363	生活雑貨・日用品	使用者(ソファイ・ビン・サンブル)が祖母からもらって使っていたもの
H0145832	ダウ船(模型)	dhow (model)	بروم	サウディ・アラビア		1986年受入	造船・漁撈	ダウはインド英語。アラビア語では船によって shuai, sambuk, bitim 等と呼ばれる

*再調査(2018-2019年)により名称を変更したものの

女性用衣服 H0100447, H0100448 について、サウディ・アラビア西南部アブハール出身のイマーム・ムハンマド・イブン・サウード・イスラーム大学の学院長アブドゥッラー・アル＝ムバーラク博士より、アシール地域の衣服だと考えられるため、マズナド・アシリー (maznad 'asiri (مأزنة عسيري)) が呼称であることをご教示いただいた。この情報をもとに、さらに調査研究を進めていきたい。

**女性用衣服 H0100502 の標本名(現地語)については、収集者によるアラビア語表記がなく、再調査においても不明であったため、収集者によるアルファベット表記を記載している。

表3 片倉もとこ収集片倉もとこ記念沙漠文化財団収蔵資料一覧

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	取集場所(国名)	取集場所(詳細)	取集・登録年	寸法・重量・発行・高さ(cm)/重量(g)	分類	備考(片倉もとこメモ)
MK FDC_0001	女性用飾面	woman's face mask	برقع	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集	24×19	装身具	
MK FDC_0002	女性用飾面	woman's face mask	برقع	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集	19×17	装身具	
MK FDC_0003	女性用飾面	woman's face mask	برقع	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集	30×21	装身具	
MK FDC_0004	女性用飾面	woman's face mask	برقع	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集	21×10	装身具	
MK FDC_0005	女性用飾面	woman's face mask	برقع	アラブ首長国連邦		1969-1971年取集	21×10	装身具	
MK FDC_0006	女性用飾面	woman's face mask	برقع	アラブ首長国連邦		1969-1971年取集	40×38	装身具	
MK FDC_0007	女性用肌着	woman's underwear		サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集	53×34×80	衣類・履物	
MK FDC_0008	布地	cloth		サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集	106×98	その他	
MK FDC_0009	男性用頭・髪おおい	man's headscarf	عقرا	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集	103×105	衣類・履物	
MK FDC_0010	小物	small objects		サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集	110	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0011	ポットつかみ	potholder	بئر	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集		生活雑貨・日用品	
MK FDC_0012	ポットつかみ	potholder	بئر	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集		生活雑貨・日用品	
MK FDC_0013	ポットつかみ	potholder	بئر	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集		生活雑貨・日用品	
MK FDC_0014	首飾り	necklace	عقرا	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集	8×7×1.6	装身具	
MK FDC_0015	首飾り	necklace	عقرا	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集	60	装身具	
MK FDC_0016	首飾り	necklace	عقرا	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集	27	装身具	
MK FDC_0017	小物	small objects		サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集	4×6×24	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0018	女性用スボン裾	woman's pants hem		イラン		1980-1983年取集	41×48	衣類・履物	
MK FDC_0019	女性用衣服	woman's dress	نوب	サウディ・アラビア		1980-1983年取集	133×155	衣類・履物	
MK FDC_0020	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf		サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1973-1977年取集	128×126	衣類・履物	
MK FDC_0021	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf		サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1973-1977年取集	128×126	衣類・履物	
MK FDC_0022	ござ	mat for meal	منصة / منسفة	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集	87×87	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0023	香炉	incense burner	هجر	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集	30×14	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0024	コーヒーポット	coffee pot	بنة	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集	44×31	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0025	木鍋	wooden pot		サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1969-1971年取集	18×95×45	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0026	女性用衣服	woman's dress	فستان	アラブ首長国連邦	Abu Dhabi	1986-1988年取集		衣類・履物	
MK FDC_0027	女性用衣服	woman's dress	نوب	アラブ首長国連邦	Abu Dhabi	1986-1988年取集		衣類・履物	
MK FDC_0028	女性用衣服	woman's dress	نوب	アラブ首長国連邦	Abu Dhabi	1986-1988年取集		衣類・履物	
MK FDC_0029	女性用衣服	woman's dress	فستان	アラブ首長国連邦	Abu Dhabi	1986-1988年取集		衣類・履物	
MK FDC_0030	女性用衣服	woman's dress	فستان	アラブ首長国連邦	Abu Dhabi	1986-1988年取集		衣類・履物	
MK FDC_0031	女性用衣服	woman's dress	فستان	アラブ首長国連邦	Abu Dhabi	1986-1988年取集		衣類・履物	
MK FDC_0032	布地	cloth		アラブ首長国連邦	Abu Dhabi	1986-1988年取集	110×325	その他	
MK FDC_0033	布地	cloth		アラブ首長国連邦	Abu Dhabi	1986-1988年取集	110×345	その他	
MK FDC_0034	アクセサリー	ornament		アラブ首長国連邦	Abu Dhabi	1986-1988年取集		装身具	
MK FDC_0035	女性用衣服	woman's dress		イラン		1980-1983年取集	103×130	衣類・履物	

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集場所(詳細)	収集/登録年	寸法(縦×横×高さcm)/重量(g)	分類	備考(片倉もここメモ)
MKFDC_0036	女性用衣服	woman's dress		イラン	Gonbad-e Kavus	1980-1983年収集	93×67	衣類・履物	
MKFDC_0037	袋	bag		イラン		1980-1983年収集	22×23	生活雑貨・日用品	
MKFDC_0038	シーア派殉教祭に用いる鎖	chain	zanjeer	イラン		1980-1983年収集		信仰関連	
MKFDC_0039	祈祷用土製品	prayer equipment		イラン		1980-1983年収集	55×55×18	信仰関連	
MKFDC_0040	じゅうたん	carpet		イラン		1980-1983年収集		生活雑貨・日用品	
MKFDC_0041	男性用衣服	man's dress		リビア				衣類・履物	
MKFDC_0042	家具	kuwait chest		クウェート				生活雑貨・日用品	
MKFDC_0043	机	table		エジプト				生活雑貨・日用品	
MKFDC_0044	椅子	chair		エジプト			38×37	生活雑貨・日用品	
MKFDC_0045	女性用衣服	woman's dress		モロッコ			91×123	衣類・履物	
MKFDC_0046	人形	doll		アフガニスタン				その他	
MKFDC_0047	人形	doll						その他	
MKFDC_0048	ベル	bell						その他	
MKFDC_0049	組みひも	braid		サウディ・アラビア	Wadi Fatima			その他	
MKFDC_0050	組みひも	braid		サウディ・アラビア	Wadi Fatima			その他	
MKFDC_0051	数珠	prayer-bead chain	سراج	サウディ・アラビア			29	信仰関連	
MKFDC_0052	数珠	prayer-bead chain	سراج	サウディ・アラビア			26	信仰関連	
MKFDC_0053	護符	charm					17	信仰関連	
MKFDC_0054	護符	charm					14	信仰関連	
MKFDC_0055	護符	charm					15	信仰関連	
MKFDC_0056	護符	charm					2×4	信仰関連	
MKFDC_0057	小物	small objects					77	生活雑貨・日用品	
MKFDC_0058	女性用飾面	woman's face mask					40×38	装身具	
MKFDC_0059	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf					114×194	衣類・履物	
MKFDC_0060	布地	cloth					50×38	その他	
MKFDC_0061	布地	cloth					33×105	その他	
MKFDC_0062	布地	cloth					91×47	その他	
MKFDC_0063	布地	cloth					41×30	その他	
MKFDC_0064	布地	cloth					41×28	その他	
MKFDC_0065	布地	cloth					91×58	その他	
MKFDC_0066	布地	cloth					35×35	その他	
MKFDC_0067	布地	cloth					26×20	その他	
MKFDC_0068	布地	cloth					66×71	その他	
MKFDC_0069	布地	cloth					80×80	その他	
MKFDC_0070	布地	cloth					60×120	その他	
MKFDC_0071	布地	cloth					104×235	その他	

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集場所(詳細)	収集/登録年	寸法(幅×奥行(高さcm)/重量g)	分類	備考(片倉もこメモ)
MK FDC_0072	布地(タチ布)	cloth					100×202	その他	
MK FDC_0073	布地	cloth					174×255	その他	
MK FDC_0074	男性用ガウン	man's gown	عباءة	アラブ首長国連邦	Abu Dhabi		135×161	衣類・履物	
MK FDC_0075	布地	cloth					15×15	その他	
MK FDC_0076	女性用外着	woman's outerwear	سراويل	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1980年代収集	164×189	衣類・履物	
MK FDC_0077	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	مغطاة	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1980年代収集	246×110	衣類・履物	
MK FDC_0078	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	مغطاة	サウディ・アラビア	Wadi Fatima		214×110	衣類・履物	
MK FDC_0079	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	مغطاة	サウディ・アラビア	Wadi Fatima		54×150	衣類・履物	
MK FDC_0080	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	مغطاة	サウディ・アラビア	Wadi Fatima		83×164	衣類・履物	
MK FDC_0081	布地	cloth					69×78	その他	
MK FDC_0082	女性用肌着	woman's underwear	سروال	サウディ・アラビア	Wadi Fatima		96×83	衣類・履物	
MK FDC_0083	女性用肌着	woman's underwear	سروال	サウディ・アラビア	Wadi Fatima		100	衣類・履物	
MK FDC_0084	女性用肌着	woman's underwear	سروال	サウディ・アラビア	Wadi Fatima		103×68	衣類・履物	
MK FDC_0085	女性用衣服	woman's dress					140×214	衣類・履物	
MK FDC_0086	女性用衣服	woman's dress					128×147	衣類・履物	
MK FDC_0087	女性用衣服	woman's dress					96×100	衣類・履物	
MK FDC_0088	男性用帽子	man's headcloth	كوفية	サウディ・アラビア			13×24	衣類・履物	
MK FDC_0089	男性用帽子	man's headcloth	كوفية	サウディ・アラビア			13×26	衣類・履物	
MK FDC_0090	女性用肌着	woman's underwear	مغطاة	サウディ・アラビア	Wadi Fatima		118×79	衣類・履物	
MK FDC_0091	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	مغطاة	サウディ・アラビア			114×220	衣類・履物	
MK FDC_0092	女性用衣服	girls' dress	مغطاة	サウディ・アラビア			120×130	衣類・履物	
MK FDC_0093	女性用衣服	woman's dress	عباءة	サウディ・アラビア			130×115	衣類・履物	
MK FDC_0094	女性用衣服	woman's dress	عباءة	サウディ・アラビア			120×149	衣類・履物	
MK FDC_0095	女性用衣服	woman's dress	عباءة	サウディ・アラビア			150×129	衣類・履物	
MK FDC_0096	じゅうたん	carpet					107×67	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0097	じゅうたん	carpet					107×67	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0098	じゅうたん	carpet					110×67	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0099	布地	cloth					65×40	その他	
MK FDC_0100	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf					93×91	衣類・履物	
MK FDC_0101	じゅうたん	carpet					173×111	その他	
MK FDC_0102	布地	cloth		中国?	新疆?		620×43	その他	
MK FDC_0103	布地	cloth		中国?			250×81	その他	
MK FDC_0104	布地	cloth		イラン?			210×316	衣類・履物	
MK FDC_0105	男性用帽子	man's headcloth	كوفية	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1973-1977年収集	13×21	衣類・履物	
MK FDC_0106	男性用帽子	man's headcloth	كوفية	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1973-1977年収集	13×23	衣類・履物	
MK FDC_0107	男性用帽子	man's headcloth	كوفية	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1973-1977年収集	13×25	衣類・履物	

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集場所(詳細)	収集/登録年	寸法(縦×横×高さcm)/重量(g)	分類	備考(片倉もとこメモ)
MK FDC_0108	男性用頭飾り紐	man's headscarf band	عقال	サウディ・アラビア		1973-1977年収集	93×33	衣類・履物	
MK FDC_0109	男性用頭飾り紐	man's headscarf band	عقال	サウディ・アラビア		1973-1977年収集	73×39	衣類・履物	
MK FDC_0110	男性用頭飾り紐	man's headscarf band	عقال	サウディ・アラビア		1973-1977年収集	35×35	衣類・履物	
MK FDC_0111	男性用ガウン	man's gown	عباءة	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1973-1977年収集	138×157	衣類・履物	
MK FDC_0112	男性用ガウン	man's gown	عباءة	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	1973-1977年収集	141×150	衣類・履物	
MK FDC_0113	布地	cloth					190×34	その他	
MK FDC_0114	鏡	mirror						生活雑貨・日用品	
MK FDC_0115	小物	small objects					14×6	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0116	コーヒーポット	coffee pot					17×15	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0117	コーヒーポット	coffee pot					12×19	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0118	水壺	jar	جدة زلم	サウディ・アラビア				生活雑貨・日用品	
MK FDC_0119	かご	basket	حقلقة خوص	サウディ・アラビア				生活雑貨・日用品	
MK FDC_0120	かご	basket	حقلقة خوص	サウディ・アラビア				生活雑貨・日用品	
MK FDC_0121	コーヒー豆をつぶす臼	mortar	نجر	サウディ・アラビア			22×18	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0122	コーヒー豆をつぶす杵	pestle		サウディ・アラビア			11×13	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0123	収納家具	chest		サウディ・アラビア			19×4	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0124	香炉	incense burner	مبخرة	サウディ・アラビア			17×14	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0125	香炉	incense burner	مبخرة	サウディ・アラビア			17×10	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0126	携帯用コーヒーカップ入れ	basket	مِثْب العاتيل / عجرة	サウディ・アラビア			10×15	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0127	コーヒーカップ	cup	فنجان	サウディ・アラビア			8×6	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0128	コーヒーカップ	cup	فنجان	サウディ・アラビア			7×5	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0129	足輪	anklet	خقلال	サウディ・アラビア			10×2	装身具	
MK FDC_0130	うちわ	fan	مروحة	サウディ・アラビア			38×32	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0131	うちわ	fan	مروحة	サウディ・アラビア			38×19	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0132	うちわ	fan	مروحة	サウディ・アラビア			37×19	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0133	うちわ	fan	مروحة	サウディ・アラビア			36×22	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0134	コーヒー豆用じょうご	measure for coffee beans	مزد	サウディ・アラビア			20×10×5	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0135	水さし	water pitcher		サウディ・アラビア			17×21	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0136	水さし	water pitcher		サウディ・アラビア			24×16	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0137	香炉	incense burner	مبخرة	サウディ・アラビア				生活雑貨・日用品	
MK FDC_0138	網	net						生活雑貨・日用品	
MK FDC_0139	男性用帽子	man's headcloth	كوفية	サウディ・アラビア				衣類・履物	
MK FDC_0140	男性用帽子	man's headcloth	كوفية	サウディ・アラビア			12×21	衣類・履物	
MK FDC_0141	男性用頭飾り紐	man's headscarf band	عقال	サウディ・アラビア			16×22	衣類・履物	
MK FDC_0142	男性用頭飾り紐	man's headscarf band	عقال	サウディ・アラビア			18×22	衣類・履物	
MK FDC_0143	男性用頭飾り紐	man's headscarf band	عقال	サウディ・アラビア			23×19	衣類・履物	

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	取集場所(国名)	取集場所(詳細)	収集/登録年	寸法(幅×奥行×高さ(cm)/重量(g))	分類	備考(片倉もここにメモ)
MK FDC_0144	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	مديرية	サウディ・アラビア			140×140	衣類・履物	
MK FDC_0145	女性用上衣	girl's upper garment	مديرية	サウディ・アラビア	Wadi Fatima		45×80	衣類・履物	
MK FDC_0146	女性用上衣	girl's upper garment	مديرية	サウディ・アラビア	Wadi Fatima		45×80	衣類・履物	
MK FDC_0147	男性用衣服	man's dress	توب	サウディ・アラビア			140×160	衣類・履物	
MK FDC_0148	男性用衣服	boy's dress	توب	サウディ・アラビア			80×90	衣類・履物	
MK FDC_0149	男性用ガウン	boy's gown		サウディ・アラビア			135×170	衣類・履物	
MK FDC_0150	男性用頭覆い	man's headcloth	غرة	サウディ・アラビア			140×140	衣類・履物	
MK FDC_0151	男性用帽子	man's headcloth	كوفية	サウディ・アラビア			14×22	衣類・履物	
MK FDC_0152	男性用帽子	man's headcloth	كوفية	サウディ・アラビア			13×21	衣類・履物	
MK FDC_0153	男性用頭飾り紐	man's headscarf band	عقال	サウディ・アラビア			18×18	衣類・履物	
MK FDC_0154	女性用衣服	girls' dress					90×68	衣類・履物	
MK FDC_0155	女性用衣服	girls' dress		アフガニスタン			150×100	衣類・履物	
MK FDC_0156	女性用衣服	woman's dress		アフガニスタン			150×100	衣類・履物	
MK FDC_0157	女性用衣服	woman's dress		アフガニスタン			50×50	衣類・履物	
MK FDC_0158	かご	basket					20×30	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0159	数珠	prayer-bead chain						信仰関連	
MK FDC_0160	祈禱用土製品	prayer equipment		イラン?				信仰関連	
MK FDC_0161	シーア派殉教祭に用いる鎖	chain	zanjeer	イラン				信仰関連	
MK FDC_0162	シーア派殉教祭に用いる鎖	chain	zanjeer	イラン				信仰関連	
MK FDC_0163	シーア派殉教祭に用いる鎖	chain	zanjeer	イラン				信仰関連	
MK FDC_0164	首飾り	necklace					350	装身具	
MK FDC_0165	ビーズ	beads						装身具	
MK FDC_0166	珪化木	petrified wood						その他	
MK FDC_0167	首飾り	necklace					2.8×2.5	装身具	
MK FDC_0168	笛	whistle					8	その他	
MK FDC_0169	男性用衣服	boys' dress						衣類・履物	
MK FDC_0170	木の皮(医療用)	nuts	عصص					香料・民間薬	crash it.... けむりの上におさ んしたあとでの女性立つと子宮 がしまつてよいという。
MK FDC_0171	化粧用鉛	galena	كحل عين					その他	赤ちゃんを生んだあとに使う ボホール
MK FDC_0172	香料	fragrance	بخور					香料・民間薬	アル・ヤーン・スーン(じんせん)。 サハラのにんじん。memory記 憶が blood natural vitamin hot water 10分:1回/week
MK FDC_0173	人参(医療用)	gmseng	البنسون الأحمر					香料・民間薬	
MK FDC_0174	香料?	fragrance						香料・民間薬	

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集場所(詳細)	収集/登録年	寸法(縦×横×高さcm)/重量(g)	分類	備考(片倉もとこメモ)
MK FDC_0175	砂なつめ							香料・民間薬	砂なつめ。砂丘の防砂に使う
MK FDC_0176	祈祷用土製品	prayer equipment		イラン?				信仰関連	
MK FDC_0177	祈祷用土製品	prayer equipment		イラン	Mashhad			信仰関連	モブホル、カルバラ(少々高価)、マシユハットのモブホルが...っている
MK FDC_0178	祈祷用土製品	prayer equipment		イラン	Mashhad			信仰関連	
MK FDC_0179	祈祷用土製品	prayer equipment		イラン	Mashhad			信仰関連	
MK FDC_0180	香料		سما					香料・民間薬	女もの。庶民の香ジャワから来た
MK FDC_0181	種(医療用)	seeds	حبة الحبة					香料・民間薬	Paradise seeds/eternal seeds Nigella sativa ナイジェラ サテ イーバという植物の種。風邪、 鼻、cough により。布につつま でこする。かく。
MK FDC_0182	種	seeds		イラン	Istfahan			香料・民間薬	
MK FDC_0183	首飾り	necklace						装身具	
MK FDC_0184	首飾り	necklace						装身具	
MK FDC_0185	かご	basket	سلة	サウディ・アラビア		1980年代収集	19×11	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0186	かご	basket					214	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0187	駝鞍用頭飾り	camel headress		サウディ・アラビア			78	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0188	容器	container					13×11	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0189	香炉	incense burner					21×11	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0190	香炉	incense burner					20×9	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0191	香炉	incense burner					17×9	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0192	香炉	incense burner					24×41×28	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0193	かご	basket					42×55×30	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0194	かご	basket					36×50×35	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0195	かご	basket					66×27×16	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0196	家畜口かせ	livestock muzzle					87×70	衣類・履物	
MK FDC_0197	女児用衣服	girls' dress					27×19	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0198	かご	basket					11	装身具	
MK FDC_0199	足輪	anklet						装身具	
MK FDC_0200	女性用ズボン裾	woman's pants hem						衣類・履物	
MK FDC_0201	ポットつかみ	potholder	بند				32×39	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0202	なべしき	pot mat					33×33	生活雑貨・日用品	
MK FDC_0203	女性用衣服	woman's dress					133×138	衣類・履物	
MK FDC_0204	布地	cloth					120×39	その他	
MK FDC_0205	女性用衣服	woman's dress					146×133	衣類・履物	

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集場所(詳細)	収集/登録年	寸法(縦×横×高さcm)/重量(g)	分類	備考(片倉もこメモ)
MKFDC_0206	女性用衣服	woman's dress					138×131	衣類・服物	
MKFDC_0207	布地	cloth					20×32	その他	
MKFDC_0208	男児用衣服	boys' dress					83×92	衣類・服物	
MKFDC_0209	香料(ハバル・ハロワ)							香料・民間薬	米のよい のせて食べる ハウンドでこなにする
MKFDC_0210	香料							香料・民間薬	食物に入れる
MKFDC_0211	香料(レーモン・ナシーフ)							香料・民間薬	つぶして使う ドッグしてから
MKFDC_0212	香料(ローズ・ヒンディール)							香料・民間薬	食物に
MKFDC_0213	香料(シャーフ)							香料・民間薬	食物に ラハム米
MKFDC_0214	香料(フルフル・アスワド)							香料・民間薬	こなにして使う 食物
MKFDC_0215	香料(クスバラ)							香料・民間薬	食物 アクルカ ごはんのよ い ラハムのよ
MKFDC_0216	香料(エルガ・ハイル)							香料・民間薬	食物に つぶして
MKFDC_0217	オイル							香料・民間薬	日やけ用オイル 痛みどめ
MKFDC_0218	オイル							香料・民間薬	日やけあなど…の痛み時に
MKFDC_0219	オイル							香料・民間薬	日やけ用オイル 痛みどめ
MKFDC_0220	香木							香料・民間薬	日やけ用オイル 痛みどめ
MKFDC_0221	ヘナ(ヒンナ)							香料・民間薬	髪の毛を染める
MKFDC_0222	薬							香料・民間薬	ジャータ(ウクライナ) ライ エメン) ハリームの葉
MKFDC_0223	香料							香料・民間薬	薬用スパイス マルミーヤ 茶に入れる
MKFDC_0224	オイル							香料・民間薬	
MKFDC_0225	オイル							香料・民間薬	
MKFDC_0226	棒							香料・民間薬	
MKFDC_0227	香料(サントル)							香料・民間薬	お茶に入れる
MKFDC_0228	香料(マムーン)							香料・民間薬	マムーン Mamuon 1つ 25DH
MKFDC_0229	香料(サンジャビール)							香料・民間薬	サンジャビール アイル ガツワにドッグして
MKFDC_0230	香料							香料・民間薬	
MKFDC_0231	香料							香料・民間薬	
MKFDC_0232	食物							香料・民間薬	クルクム アクル食物 ドッ クしてからたいたいて粉にする
MKFDC_0233	香料(ブホール)			アラブ首長国連邦	Dubai			香料・民間薬	Itura 5DH 3-5冊 ふつうは kgで売る UAEでPopular

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集場所(詳細)	収集/登録年	寸法(縦×横×高さcm)/重量(g)	分類	備考(片倉もとこメモ)
MKFDC_0234	女性用歯磨き							生活雑貨・日用品	ティラーム 女性用 ハリームだけ ミスワーク(男 性用)のように使う 色もつく 唇も赤くなる インドから
MKFDC_0235	歯磨き							生活雑貨・日用品	
MKFDC_0236	歯磨き							生活雑貨・日用品	
MKFDC_0237	歯磨き							生活雑貨・日用品	
MKFDC_0238	歯磨き							生活雑貨・日用品	
MKFDC_0239	歯磨き							生活雑貨・日用品	
MKFDC_0240	歯磨き							生活雑貨・日用品	
MKFDC_0241	歯磨き							生活雑貨・日用品	
MKFDC_0242	薬							香料・民間薬	アシコクダ タウク お薬の ように 下痢の薬
MKFDC_0243	香水							香料・民間薬	ケルファ(サウディ、イエメ ン) だるしーそ クウエイト アイルル
MKFDC参考資料	女性用歯面	woman's face mask	عصابة / عصابة	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	2019年受入			追跡調査により受け入れ
MKFDC参考資料	女性用晒れ着	woman's best outerwear	عصابة / عصابة	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	2019年受入			追跡調査により受け入れ
MKFDC参考資料	ふるしき	wrapping cloth	بقعة	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	2019年受入			追跡調査により受け入れ
MKFDC参考資料	女性用頭紐	woman's headband	عقال النسائي	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	2019年受入			追跡調査により受け入れ
MKFDC参考資料	一斗缶(ブリキ製18L缶)	18L square steel container	نبتة	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	2019年受入			追跡調査により受け入れ
MKFDC参考資料	ウォータージャー	water jug	حفلة ماء	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	2019年受入			追跡調査により受け入れ
MKFDC参考資料	蛇口	water faucet	برونر	サウディ・アラビア	Wadi Fatima	2019年受入			追跡調査により受け入れ

表4 「サウジアラビア, オアシスに生きる女性たちの50年」掲載資料一覧

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	取集場所(国名)	取集/登録年	展示の有無	片倉収集の有無	文庫掲載頁
MK FDC_0077	女性用顔・髪覆い	woman's headscarf	طرحة	サウディ・アラビア	1980年代収集	○	○	37
H0100386	クッション(ひじかけ兼まくら)	cushion/support/pillow	مصد	クウェート	1982年受入	○	○	37, 65
MK FDC_0022	ござ	mat for meal	منطقة/مفرة	サウディ・アラビア	1969-1971年収集	○	○	37, 127
MK FDC参考資料	女性用飾面	woman's face mask	توق	サウディ・アラビア	2019年受入	○	○	37, 97
MK FDC_0013	ポットつかみ	potholder	بزر	サウディ・アラビア	1969-1971年収集	○	○	47
H0168795	出窓	bay window	روشان	エジプト	1989年受入	○		58
H0106527	ランプ覆い	lampshade	فرا جدار	エジプト	1989年受入	○		61
H0168798	腰かけ	chair	كرسي/الكرونة	エジプト	1989年受入	○		61
H0279002	携帯用コーヒーカップ入れ	container for coffee cups	مُث القناطر / عثرة	サウディ・アラビア	2013年受入	○		65
H0279572	コーヒーポット	coffee pot	لَبَّة	サウディ・アラビア	2013年受入	○		65
H0100470	男性用顔・髪おおい	man's headscarf	شماغ	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	69
個人蔵資料	男性用内着	man's dress	ثوب	サウディ・アラビア	2014年収集	○		69
H0100478	男性用帽子	man's headcloth	كوفية	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	69
個人蔵資料	男性用ズボン	man's trousers	سروال	サウディ・アラビア	2014年収集	○		69
H0100491	男性用サンダル	man's sandals	مشيب شرقية	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	69
WFSDC-0110	男性用外着	man's dress	محاريد	サウディ・アラビア	2018年撮影			69
個人蔵資料	女性用外着	woman's gown	محاريد	サウディ・アラビア	2018年撮影			75, 83, 85
個人蔵資料	女性用外着	woman's gown	محاريد	サウディ・アラビア	2018年撮影			75
個人蔵資料	女性用外着	woman's gown	محاريد	サウディ・アラビア	2018年撮影			75
MK FDC_0076	女性用外着	woman's outerwear	مصدح	サウディ・アラビア	1980年代収集	○	○	77
G-C_048	女性用外着	woman's outerwear	مصدح	サウディ・アラビア	2014年収集			78
MK FDC-0218	女性用暗れ着	woman's best outerwear	عباءة / عباءة	サウディ・アラビア	2019年受入			79, 158
個人蔵資料	女性用肌着	woman's underwear	عباءة, سروال	サウディ・アラビア	2018年撮影			79
G-C_046	女性用内着	woman's gown	فستان	サウディ・アラビア	2014年収集			79
G-C_003	女性用内着	woman's gown	فستان	サウディ・アラビア	2014年収集			79
H0100500	女性用肌着	woman's underwear	مصدرية	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	80
H0100501	女性用肌着	woman's underwear	سروال	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	80
G-C_006	女性用内着	woman's gown	فستان	サウディ・アラビア	2014年収集			87
G-C_018	女性用内着	woman's gown	فستان	サウディ・アラビア	2014年収集			87
G-C_004	女性用内着	woman's gown	فستان	サウディ・アラビア	2014年収集	○		89
個人蔵資料	女性用外着	woman's outer garment	عباءة / عباءة	サウディ・アラビア	2017年収集	○		91
H0100461	女性用外着	woman's outer garment	عباءة / عباءة	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	91
G-C_020	女性用内着	woman's gown	فستان	サウディ・アラビア	2014年収集			92
G-C_007	女性用内着	woman's gown	فستان	サウディ・アラビア	2014年収集			92
G-C_021	女性用内着	woman's gown	فستان	サウディ・アラビア	2014年収集			93

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集・登録年	展示の有無	片倉収集の有無	文献掲載頁
G-C_008	女性用内着	woman's gown	فسان	サウディ・アラビア	2014年取集			93
MKFDC_0002	女性用飾面	woman's face mask	برقع	サウディ・アラビア	1970年代取集	○	○	97
個人蔵資料	女性用飾面	woman's face mask	برقع	サウディ・アラビア	2018年撮影			98
MKFDC_0003	女性用飾面	woman's face mask	برقع	サウディ・アラビア	1970年代取集	○	○	99, 115
MKFDC_0001	女性用飾面	woman's face mask	برقع	サウディ・アラビア	1970年代取集	○	○	99
H012609	化粧品容器	eye liner	محلّة	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	101
G-A_019	首飾り	necklace	دبلة	サウディ・アラビア	1989年取集	○	○	102
H010030	腰飾り	belt	حزام	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	103
G-A_020	首飾り	necklace	دبلة	サウディ・アラビア	1989年取集	○	○	104
H010042	首飾り	necklace	دبلة	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	105
H010040	首飾り	necklace	دبلة	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	105
H010043	首飾り	necklace	دبلة	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	105
H010041	首飾り	necklace	دبلة	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	105
H0100429	頭飾り	headdress	خرسان	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	105
H0100432	首飾り	necklace	دبلة	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	105
個人蔵資料	腕輪	bracelet	الضبعة	サウディ・アラビア	2018年撮影			107
H0100427	足輪	anklet	خلخال	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	107
H0100428	足輪	anklet	خلخال	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	107
H0100434	腕輪	bracelet	الضبعة	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	107
H0100435	腕輪	bracelet	الضبعة	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	107
H0100436	腕輪	bracelet	الضبعة	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	107
H0100437	腕輪	bracelet	الضبعة	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	107
H0100431	足指輪	toe ring	حلمة اريهم	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	107
WFSDC_0001	指輪	ring	حلم	サウディ・アラビア	2018年撮影			108
H0100424	指輪	ring	حلم	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	109
個人蔵資料	指輪	ring	حلم	サウディ・アラビア	2018年取集	○	○	109
個人蔵資料	首飾り	necklace	دبلة	サウディ・アラビア	2018年撮影			110
H0100438	首飾り	necklace	دبلة	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	111
G-A_008	首飾り	necklace	دبلة	サウディ・アラビア	1989年取集	○	○	111
G-A_004	首飾り	necklace	دبلة	サウディ・アラビア	1989年取集	○	○	113
G-A_007	首飾り	necklace	دبلة	サウディ・アラビア	1989年取集	○	○	116
WFSDC_0072	水がめ	water jar	جرّة	サウディ・アラビア	2018年撮影			119
MKFDC参考資料	一斗缶(フリキ製18L缶)	18L square steel container	تنكة	サウディ・アラビア	2019年受入	○	○	119
MKFDC参考資料	ウォータージャグ	water jug	محلّة ماء	サウディ・アラビア	2019年受入	○	○	119
MKFDC参考資料	蛇口	water faucet	انريول	サウディ・アラビア	2019年受入	○	○	119
H0278881	やかん	kettle	انريق	サウディ・アラビア	2013年受入	○	○	120

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集/登録年	展示の有無	片倉収集の有無	文獻掲載頁
個人蔵資料	ティーポット	tea pot	البريق الشاي	アラブ首長国連邦	2017年受入			120
H0278092	やかん台	kettle trivet	مركب	サウディ・アラビア	2013年受入	○		120
H0278091	火ばさみ	fire tongs	مِقْط	サウディ・アラビア	2013年受入	○		121
H0278088	コーヒー豆を煎るための浅い鍋	coffee roaster	محملان	サウディ・アラビア	2013年受入	○		121
H0278089	コーヒー豆を煎るための棒	stick for coffee roast	يد الجمالان	サウディ・アラビア	2013年受入	○		121
H0278085	ふいご	bellows	مِطَاح	サウディ・アラビア	2013年受入	○		121
H0278093	コーヒー豆をくたくための鉢と棒	mortar and pestle for coffee beans	هودن و يد الهودن / حجر	サウディ・アラビア	2013年受入	○		121
H0278094	コーヒー豆用じょうご	measure for coffee beans	مِسْرَد	サウディ・アラビア	2013年受入	○		121
個人蔵資料	コーヒーカップ	coffee cup	فِجْجان	サウディ・アラビア	2018年取集	○		123
H0279003	鎌	sickle	محسني	サウディ・アラビア	2013年受入	○		125
H0279004	手鍬	short-handed hoe	فاروع	サウディ・アラビア	2013年受入	○		125
H0279005	手鍬	short-handed hoe	مِصْحات	サウディ・アラビア	2013年受入	○		125
H0279000	かばん	bag	شِمْطَة	サウディ・アラビア	2013年受入	○		125
MK FDC_0185	かご	basket	سِلة	サウディ・アラビア	1980年代取集	○	○	126
H0278973	かご	basket	زَيْتيل	サウディ・アラビア	2013年受入	○	○	127
H0100195	蜘蛛(編入らず)	food cover	قَفَّة	アラブ首長国連邦	1982年取集	○	○	127
MK FDC_0133	うちわ	fan	مِرْجحة / مِهْبة	サウディ・アラビア	1980年代取集	○	○	127
H0278975	なべしき	pot mat	نِيفيه	サウディ・アラビア	2013年受入	○		127
H0278983	オイルランタン	oil lantern	فانوس	サウディ・アラビア	2013年受入			128
WFSDC_0065	オイルランタン	oil lantern	فانوس	サウディ・アラビア	2018年撮影			129
WFSDC_0069	トランジスタラジオ	transistor radio	راديو	サウディ・アラビア	2018年撮影			129, 131
WFSDC_0071	回転ダイヤル式電話機	rotary-dial telephone	تلفون	サウディ・アラビア	2018年撮影			131
WFSDC_0070	炭火アイロン	charcoal iron	مِمْكَة	サウディ・アラビア	2018年撮影			131
H0278987	コーヒーポット	coffee pot	بَلَّة	サウディ・アラビア	2013年受入			132
H0147617	コーヒーカップ	coffee cup	فِجْجان	スーダン	1986年受入			132
MK FDC_0126	携帯用コーヒーカップ入れ	container for coffee cups	ثَلْث الفانيل / مِمْكَة	サウディ・アラビア	1980年代取集	○	○	133
MK FDC_0127	コーヒーカップ	coffee cup	فِجْجان	サウディ・アラビア	1980年代取集	○	○	133
MK FDC_0128	コーヒーカップ	coffee cup	فِجْجان	サウディ・アラビア	1980年代取集	○	○	133
H0126910	香炉	incense burner	مِمْكَة / مِمْجِرة	サウディ・アラビア	1985年受入	○	○	134
H0100486	香炉	incense burner	مِمْكَة / مِمْجِرة	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	134
H0100489	香炉	incense burner	مِمْكَة / مِمْجِرة	サウディ・アラビア	1982年受入	○	○	135
H0100418	バラ水用差し	rose-water sprinkler	مِمْش	クウェート	1982年受入	○		137
H0100420	バラ水用差し	rose-water sprinkler	مِمْش	クウェート	1982年受入	○		137
H0100417	バラ水用差し	rose-water sprinkler	مِمْش	クウェート	1982年受入	○		137
H0100419	バラ水用差し	rose-water sprinkler	مِمْش	クウェート	1982年受入	○		137
H0279010	バラ水用差し	rose-water sprinkler	مِمْش	サウディ・アラビア	2013年受入	○		137

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集/登録年	展示の有無	片倉収集の有無	文献掲載頁
H0278982	鍋	pot	قدر	サウディ・アラビア	2013年受入	○		140
H0278977	菓子入れ	box for confectionery	مطبخية	サウディ・アラビア	2013年受入	○		140
H0278984	ひしゃく	ladle	معرفة / ملحة	サウディ・アラビア	2013年受入	○		141
H0278980	まな板	chopping board	لوحة التقطيع	サウディ・アラビア	2013年受入	○		141
H0278986	ほうき	broom	مقبلة	サウディ・アラビア	2013年受入	○		143
H0279011	通学用かばん	schoolbag	شنطة	サウディ・アラビア	2013年受入	○		147
H0279006	ライフル銃	rifle	بنشقة	サウディ・アラビア	2013年受入	○		147
H0100202	コーヒーポット	coffee pot	بلة	アラブ首長国連邦	1982年受入		○	147
H0279012	ノート	notebook	دفتر	サウディ・アラビア	2013年受入	○		147
H0279013	ノート	notebook	دفتر	サウディ・アラビア	2013年受入	○		147
MKFDC_0011	ポットつかみ	pot holder	بقر	サウディ・アラビア	1969-1971年収集	○	○	147
MKFDC参考資料	ふろしき	wrapping cloth	بقعة	サウディ・アラビア	2019年受入	○		158
MKFDC参考資料	女性用頭紐	woman's headband	عقال المسائي	サウディ・アラビア	2019年受入	○		158

表5 参考資料：郡同みさおサウデイ・アラビア収集資料一覧

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集場所(詳細)	収集/登録年	寸法(幅×高さ:cm)	備考
G-C-001	女性用外着	woman's outer garment	عباءة / عباءة	サウデイ・アラビア		2016年収集	60×140	黒、ベーズリー
G-C-002	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	الحجب	サウデイ・アラビア		2016年収集	70×190	黒、ベーズリー
G-C-003	女性用内着	woman's gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	55×140	赤ビロード刺繍
G-C-004	女性用内着	woman's gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	55×110	女児用、古典柄ハッチワーク
G-C-005	女性用内着	woman's gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	76×140	青、現代柄
G-C-006	女性用内着	woman's gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	88×138	冬用、ビロードハッチワーク、らっぱ袖
G-C-007	女性用内着	woman's gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	88×133	オレンジ色ハッチワーク用
G-C-008	女性用外着	woman's gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	117×136	コードテラとコードビーズ刺繍
G-C-009	女性用外着	woman's outer garment	عباءة / عباءة	サウデイ・アラビア		2016年収集	80×140	冬用、現代、黒
G-C-010	女性用内着	woman's gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	72×120	女児用、かぶりタイプ、緑地金刺繍、古典柄
G-C-011	女性用内着	woman's gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	75×125	女児用、かぶりタイプ、赤地金刺繍、古典柄
G-C-012	女児用肩掛け	girl's scarf	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	100×110	黒地金刺繍、ホレロ風
G-C-013	女性用内着	woman's gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	70×90	古典柄、グリーン花柄刺繍
G-C-014	女性用ズボン	woman's pants	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	100×130	赤
G-C-015	女性用内着	woman's gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	73×132	古典柄、オレンジ・青花柄
G-C-016	女性用ズボン	woman's pants	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	77×97	黒
G-C-017	女性用内着	woman's gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	80×130	古典柄、カラフルベイズリー
G-C-018	女性用内着	woman's gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	83×132	シャイニング生地、コード刺繍立体アローチ付
G-C-019	女性用内着	woman's gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	67×137	縹緋白コード刺繍
G-C-020	女性用内着	woman's gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	96×130	オレンジ・黒コード刺繍、ラッパ袖
G-C-021	女性用外着・内着セット	woman's outer garment and gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	85×143	紫・金刺繍ビーズ
G-C-022	女性用内着	woman's gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	70×140	抹茶グリーンふさ付、胸元ビーズ刺繍
G-C-023	男性用内着	man's dress	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	85×140	黒、銀刺繍
G-C-024	男児用内着	boy's dress	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集		黒、銀刺繍
G-C-025	男児用内着	boy's dress	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集		黒、銀刺繍
G-C-026	男児用内着	boy's dress	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	60×124	緑、銀刺繍
G-C-027	男児用内着	boy's dress	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集		黒、銀刺繍
G-C-028	男児用内着	boy's dress	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集		緑、銀刺繍
G-C-029	男児用外着・内着セット	boy's outer garment and gown	فتن	サウデイ・アラビア		2015年収集	53×80	コートは赤・ベーズリー柄
G-C-030	男性用頭飾り紐	man's headscarf/band	عقال	サウデイ・アラビア		2015年収集		男児用
G-C-031	男性用頭飾り紐	man's headscarf/band	عقال	サウデイ・アラビア		2015年収集		男児用
G-C-032	男性用帽子	man's headcloth	كفية	サウデイ・アラビア		2015年収集		白
G-C-033	男性用頭覆い	man's headscarf	عقرا بيضاء	サウデイ・アラビア		2015年収集		赤・白チェック柄
G-C-034	男性用頭覆い	man's headscarf	عقرا بيضاء	サウデイ・アラビア		2015年収集		赤・白チェック柄
G-C-035	男性用頭覆い	man's headscarf	عقرا بيضاء	サウデイ・アラビア		2015年収集		男児用

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集場所(詳細)	収集/登録年	寸法(幅×高さ:cm)	備考
G-C_036	男性用頭覆い	man's headscarf	عقرا بيضاء	サウディ・アラビア		2015年収集		男児用
G-C_037	男性用頭覆い	man's headscarf	عقرا بيضاء	サウディ・アラビア		2015年収集		男児用
G-C_038	男性用内着	man's dress	ثوب	サウディ・アラビア		2015年収集		白、襟に白い刺繍
G-C_039	女性用外着	woman's outer garment	عباءة / عباءة	サウディ・アラビア		2015年収集	100×135	黒、金刺繍(円)
G-C_040	女性用内着	woman's gown	حقل	サウディ・アラビア		2014年収集	73×129	黒地、赤古典刺繍
G-C_041	女性用内着	woman's gown	حقل	サウディ・アラビア		2015年収集	154×131	黒地、赤金銀刺繍
G-C_042	女性用内着	woman's outer garment	حقل	サウディ・アラビア	ジッダ	2005年収集	70×138	黒地、赤ステッチ刺繍
G-C_043	女性用内着	woman's gown	حقل	サウディ・アラビア		2014年収集	66×136	黒地、茶・シヤンパンベン・ジュ刺繍
G-C_044	女性用内着	woman's gown	حقل	サウディ・アラビア		2014年収集	64×137	黒地、青・ベージュ・茶刺繍
G-C_045	女性用内着	woman's gown	حقل	サウディ・アラビア		1989～90年収集	85×143	黒地、金花刺繍、現代風デザイン
G-C_046	女性用内着	woman's gown	حقل	サウディ・アラビア	アツリヤード	1989～90年収集	85×143	上は金・スパンコール刺繍、下はブルー、現代風デザイン
G-C_047	女性用内着	woman's gown	حقل	サウディ・アラビア		2014年収集	80×145	
G-C_048	伝統花嫁衣裳	traditional wedding dress		サウディ・アラビア	アツリヤード	1989～90年収集	122×186	黒地に金刺繍
G-C_049	男児用肩かけ布	boy's scarf		サウディ・アラビア	アツリヤード	2015年収集	67×35	黒地に金刺繍
G-C_050	女性用外着	woman's outer garment	عباءة / عباءة	サウディ・アラビア	アツリヤード	2017年収集	80×128	背中と裏地が紫地、ベーズリ一柄、現代風
G-C_051	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	عباءة / عباءة	サウディ・アラビア	アツリヤード	2017年収集	66×192	裾にベーズリ一柄
G-C_052	女性用外着	woman's outer garment	عباءة / عباءة	サウディ・アラビア	アツリヤード	1981年収集	94×130	黒無地、古典スタイル、前スナップ止め
G-C_053	女性用外着	woman's outer garment	عباءة / عباءة	サウディ・アラビア	アツリヤード	1988年収集	116×118	黒無地、古典スタイル、前あき、正方形
G-C_054	女性用外着	woman's outer garment	عباءة / عباءة	サウディ・アラビア	アツリヤード	1990年頃収集	104×136	黒無地、フード付き
G-C_055	女性用外着	woman's outer garment	عباءة / عباءة	サウディ・アラビア	アツリヤード	2010年収集	111×130	黒無地、現代風、スナップ止め、三段切替えデザイン
G-C_056	女性用外着	woman's outer garment	عباءة / عباءة	サウディ・アラビア		2013年収集	70×141	黒無地、現代風デザイン、前スナップ止め
G-C_057	女性用フェイスカバー	woman's face cover	عباءة / عباءة	サウディ・アラビア	アツリヤード	1988～92年収集	29×35	黒地、ベーズ刺繍
G-C_058	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	الحجب	サウディ・アラビア	アツリヤード	1988～92年収集	62×128	黒地、金刺繍
G-C_059	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	الحجب	サウディ・アラビア	アツリヤード	1988～92年収集	68×126	黒地、黒光刺繍
G-C_060	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	الحجب	サウディ・アラビア	アツリヤード	1988～92年収集	107×107	黒無地、ガーゼ調、正方形
G-C_061	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	الحجب	サウディ・アラビア	アツリヤード	1988～92年収集	68×H146	黒地、金刺繍、現代風
G-C_062	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	الحجب	サウディ・アラビア	アツリヤード	1988～92年収集	45×153	オーガンジー生地、金銀刺繍赤ベーズ
G-C_063	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	الحجب	サウディ・アラビア	アツリヤード	1988～92年収集	79×170	黒三角、金縁・黒ふさ付
G-C_064	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf	الحجب	サウディ・アラビア	アツリヤード	1988～92年収集	40×126	黒オーガンジー生地、銀ベーズ付
G-Z_001	布	cloth	الحجب	サウディ・アラビア	アツリヤード		110×260	赤・黄・青縦縞模様ふさ付
G-Z_002	布	cloth		サウディ・アラビア			111×182	赤・黒・黄・金縦縞模様ふさ付
G-Z_003	布	cloth		サウディ・アラビア			141×721	赤・黒サウディ・アラビア王国国章(ナツメヤシと2本の刀)
G-Z_004	男性用装身具(半月刀)ベルト付き	belt with dagger	حمايا	サウディ・アラビア			490×106	

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	取集場所(国名)	取集場所(詳細)	収集/登録年	寸法(幅×高さ:cm)	備考
G-Z_005	男性用ベルト	man's belt		サウデイ・アラビア			5×90	
G-Z_010	ティーポット・カップセット	teapot and cup		サウデイ・アラビア			28×19	
G-Z_011	皿	dish		サウデイ・アラビア				黒色
G-Z_014	化粧品容器	eye liner	ألسا	サウデイ・アラビア				
G-Z_015	小物入れ	container		サウデイ・アラビア				
G-A_001	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア			60	赤茶琥珀柱状・銀(一部三連)
G-A_002	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア			61	銀、山吹色琥珀
G-A_003	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア			65	銀、赤・山吹色琥珀
G-A_004	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア			58	銀玉、山吹色琥珀
G-A_005	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア			13×67	珊瑚ビーズ付
G-A_006	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア			11×65	鈴、珊瑚玉入り
G-A_007	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア			4×75	マリァアレジアコイン、赤ビーズ
G-A_008	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア			23	コイン、赤ビーズ
G-A_009	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア			3×71	めのう、ペンダントトップが赤茶
G-A_010	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア			3×73	めのう、ペンダントトップが深緑
G-A_011	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア			3×16	銀製
G-A_012	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア				赤琥珀・銀、縦長ペンダントトップ
G-A_013	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア				銀、赤・オレンジ・山吹色琥珀
G-A_014	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア				赤・オレンジ・山吹色琥珀
G-A_015	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア				山吹色琥珀・銀
G-A_016	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア			76	山吹色琥珀・銀
G-A_017	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア				山吹色琥珀・銀
G-A_018	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア				オレンジめのう・銀
G-A_019	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア				銀玉
G-A_020	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア				銀製、赤・山吹色琥珀、縦長ペンダントトップ
G-A_021	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア				青・派型ペンダントトップ
G-A_022	首飾り	necklace	سلسه	サウデイ・アラビア				暖色系のめのう
G-A_023	男性用装身具(半月刀)	dagger	سيف	サウデイ・アラビア			42/35/29	3本

表6 ワーディ・ファータマ社会開発センター収集資料一覧

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	取集場所(国名)	取集場所(詳細)	備考
WFSDC_0001	指輪	ring	خاتم	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0002	腕輪	bracelet	القميلة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0003	頭飾り	headdress	خرسان	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0004	首飾り	necklace	قلادة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0005	首飾り	necklace	قلادة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0006	耳飾り	earrings		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0007	指輪	ring	خاتم	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0008	コーヒーポット	coffee pot	دلة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0009	コーヒーポット	coffee pot	دلة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0010	コーヒーポット	coffee pot	دلة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0011	コーヒーポット	coffee pot	دلة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0012	コーヒーポット	coffee pot	دلة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0013	コーヒーポット	coffee pot	دلة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0014	コーヒーポット	coffee pot	دلة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0015	コーヒーポット	coffee pot	دلة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0016	コーヒーカップ	coffee cup	فنجان	サウディ・アラビア	マッカ州	6点
WFSDC_0017	コーヒー豆をくたくた めの鉢と棒	mortar and pestle for coffee beans	هوند و يد الهوند / نجر	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0018	ティーポット	tea pot	إبريق الشاي	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0019	ティーポット	tea pot	إبريق الشاي	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0020	碗	bowl		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0021	コーヒーカップ	coffee cup	فنجان	サウディ・アラビア	マッカ州	2点
WFSDC_0022	ティーカップ	tea cup		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0023	盆	tray		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0024	湯沸かし器	samovar		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0025	ティーポット	tea pot	إبريق الشاي	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0026	ティーポット	tea pot	إبريق الشاي	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0027	バラ水用水差し	rose-water sprinkler	مرش	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0028	バラ水用水差し	rose-water sprinkler	مرش	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0029	バラ水用水差し	rose-water sprinkler	مرش	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0030	バラ水用水差し	rose-water sprinkler	مرش	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0031	バラ水用水差し	rose-water sprinkler	مرش	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0032	バラ水用水差し	rose-water sprinkler	مرش	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0033	バラ水用水差し	rose-water sprinkler	مرش	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0034	化粧品容器	eye liner	مكحلة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0035	やかん	kettle	إبريق	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0036	やかん	kettle	إبريق	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0037	やかん	kettle	إبريق	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0038	ティーポット	tea pot	إبريق الشاي	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0039	ポット	pot		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0040	茶漉し	tea strainer		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0041	杯	cup		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0042	碗	bowl		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0043	皿	dish		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0044	皿	dish		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0045	皿	dish		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0046	ござ	mat for meal	منسفة / سفرة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0047	ござ	mat for meal	منسفة / سفرة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0048	ござ	mat for meal	منسفة / سفرة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0049	ござ	mat for meal	منسفة / سفرة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0050	ござ	mat for meal	منسفة / سفرة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0051	ござ	mat for meal	منسفة / سفرة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0052	手揚げかご	basket		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0053	かご	basket		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0054	かご	basket		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0055	かご	basket		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0056	かご	basket		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0057	帽子	hat		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0058	帽子	hat		サウディ・アラビア	マッカ州	

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集場所(詳細)	備考
WFSDC_0059	ほうき	broom	مقشة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0060	ほうき	broom	مقشة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0061	盆	tray		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0062	盟	tub		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0063	鍋	pot	قدر	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0064	石鹸	soup		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0065	オイルランタン	oil lantern	فانوس	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0066	オイルランタン	oil lantern	فانوس	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0067	ガスステープル	gas range		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0068	水タバコ	water pipe	نسيمة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0069	トランジスタラジオ	transistor radio	راديو	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0070	炭火アイロン	charcoal iron	مكوة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0071	回転ダイヤル式電話機	rotary-dial telephone	تلفون	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0072	水瓶	jar		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0073	皮袋	leather bag		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0074	皮袋	leather bag		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0075	バスケット	basket		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0076	鎌	sickle	محشى	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0077	鎌	sickle	محشى	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0078	家畜等口かせ	muzzle		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0079	揺り籠	cradle		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0080	皮袋	leather bag		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0081	弦楽器	stringed instrument		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0082	皮敷物	leather mat		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0083	香炉	incense burner	محرمة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0084	土器	pottery		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0085	土器	pottery		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0086	土器	pottery		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0087	土器	pottery		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0088	土器	pottery		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0089	土器	pottery		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0090	土器	pottery		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0091	土器	pottery		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0092	土器	pottery		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0093	土器	pottery		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0094	土器	pottery		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0095	木器	wooden vessel		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0096	木器	wooden vessel		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0097	木器	wooden vessel		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0098	木器	wooden vessel		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0099	ライフル銃	rifle	بنديقية	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0100	ライフル銃	rifle	بنديقية	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0101	袋	bag		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0102	火ばさみ	fire tongs	مقاط	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0103	コーヒー豆用じょうご	measure for coffee beans	مئرد	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0104	火ばさみ	fire tongs	مقاط	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0105	コーヒー用炉	kiln		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0106	コーヒー用炉	kiln		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0107	鞍型肘掛	cussion/support/ pillow		サウディ・アラビア	マッカ州	2点
WFSDC_0108	男性用衣服一式	man's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	衣服2点、ズボン1点
WFSDC_0109	男性用衣服一式	man's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	衣服2点、ベルト、頭・髪覆い
WFSDC_0110	男性用衣服一式	man's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	衣服2点、ガンベルト
WFSDC_0111	女性用衣服一式	woman's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	衣服、頭・髪覆い、飾面
WFSDC_0112	女性用衣服一式	woman's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	衣服2点、頭・髪覆い

整理番号	標本名	標本名(英語)	標本名(現地語)	収集場所(国名)	収集場所(詳細)	備考
WFSDC_0113	女性用衣服一式	woman's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	衣服, 肌着
WFSDC_0114	女性用衣服一式	woman's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	衣服2点, 肌着
WFSDC_0115	女性用衣服一式	woman's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	衣服, 頭・髪覆い, 飾面, 腰飾り, 頭飾り
WFSDC_0116	女性用衣服一式	woman's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	衣服, 頭・髪覆い, 飾面, 腰飾り
WFSDC_0117	女性用衣服	woman's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0118	女性用衣服	woman's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0119	女性用衣服	woman's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0120	女性用衣服一式	woman's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	衣服, 頭・髪覆い
WFSDC_0121	香炉	incense burner	محرقة	サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0122	女性用衣服	woman's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0123	女性用衣服	woman's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0124	女性用衣服	woman's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0125	女性用衣服	woman's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0126	女性用衣服	woman's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0127	女性用頭・髪覆い	woman's headscarf		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0128	布地	cloth		サウディ・アラビア	マッカ州	
WFSDC_0129	女性用衣服	woman's dress		サウディ・アラビア	マッカ州	

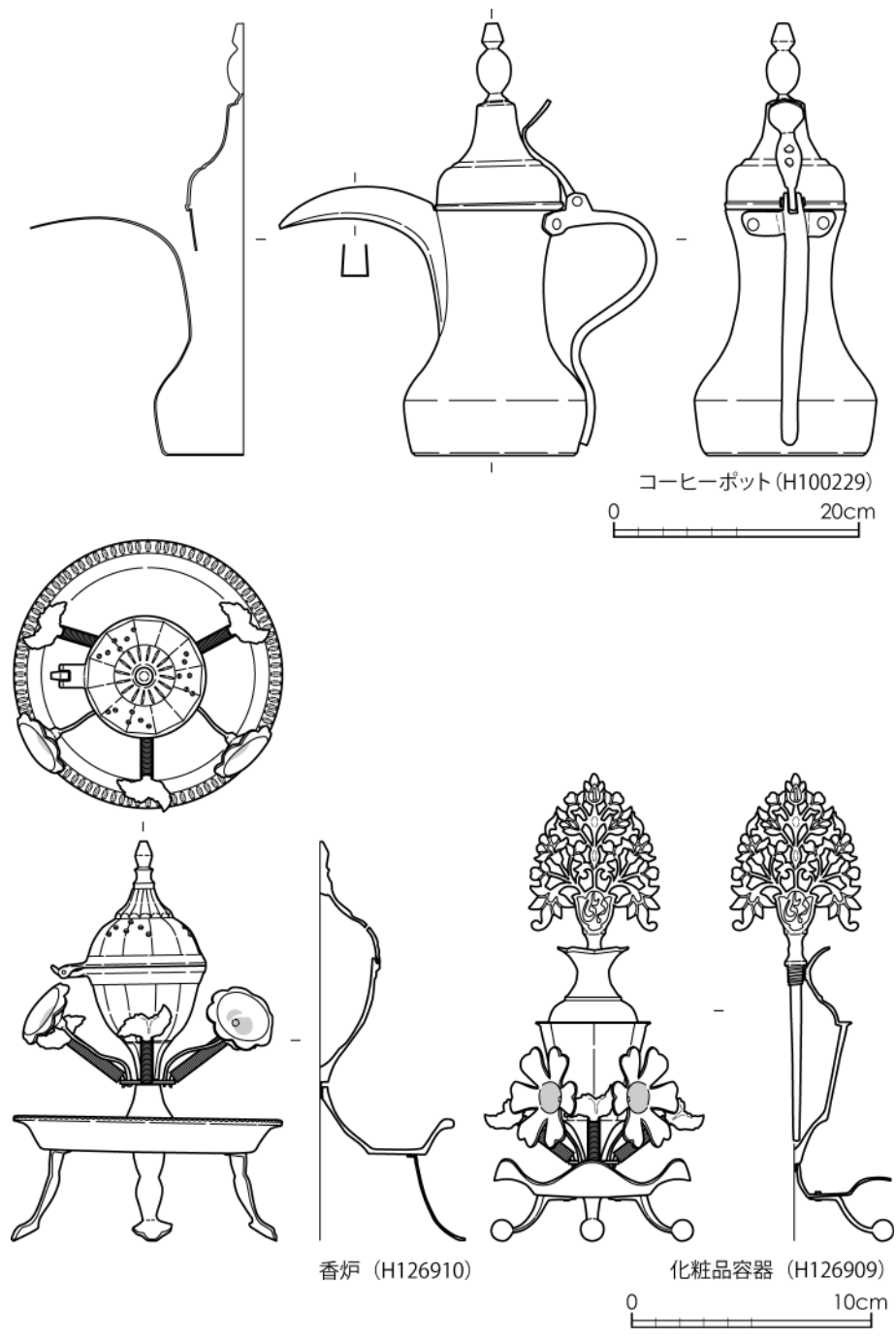


図2 国立民族学博物館所蔵片倉もとこ収集品の実測図 (H100229, H126909, H126910), 作図: 遠藤仁

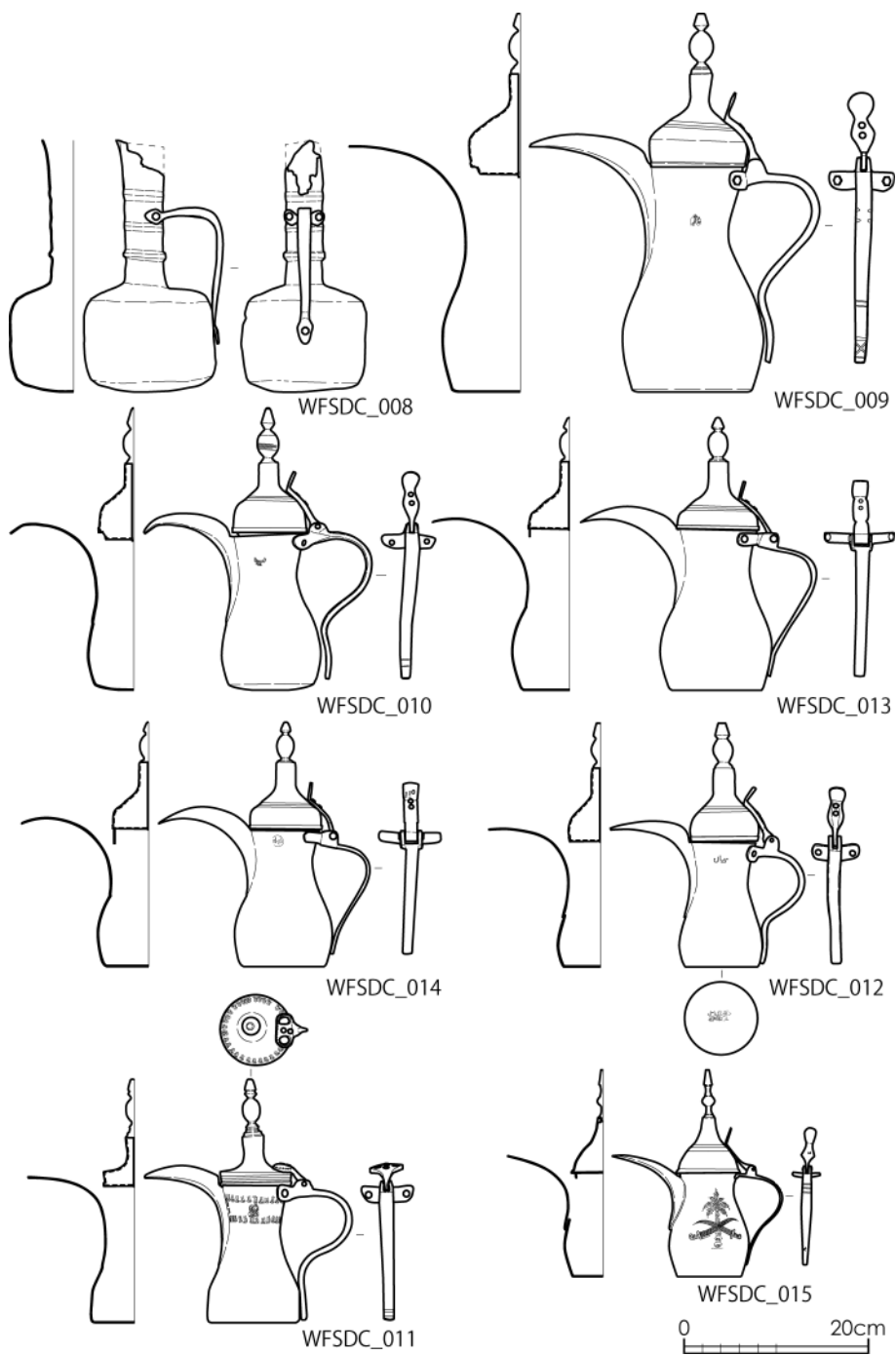


図3 ワーディ・ファータマ社会開発センター所蔵のコーヒーポット，作図：遠藤仁

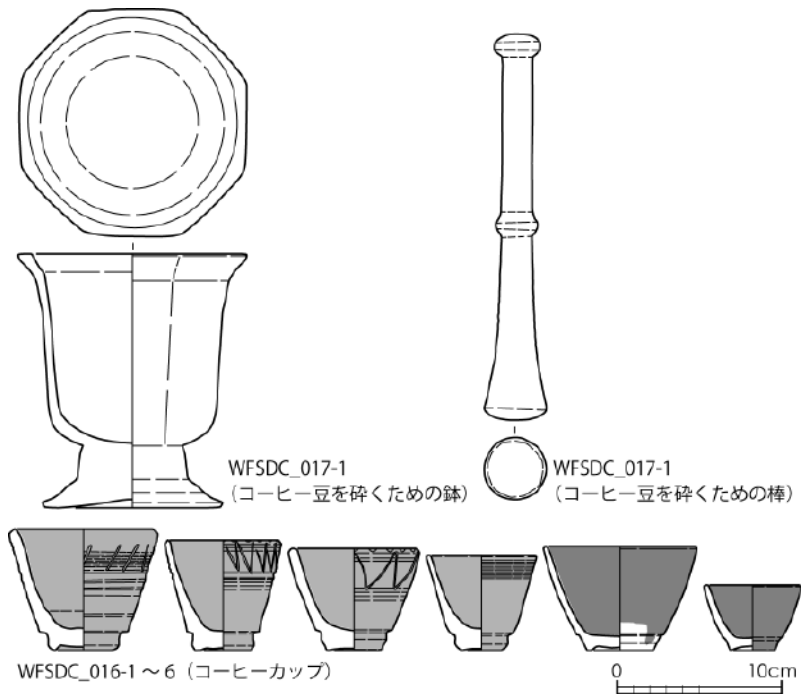


図4 ワーディ・ファーティマ社会開発センター所蔵のコーヒー豆を砕く道具とコーヒーカップ，作図：遠藤仁

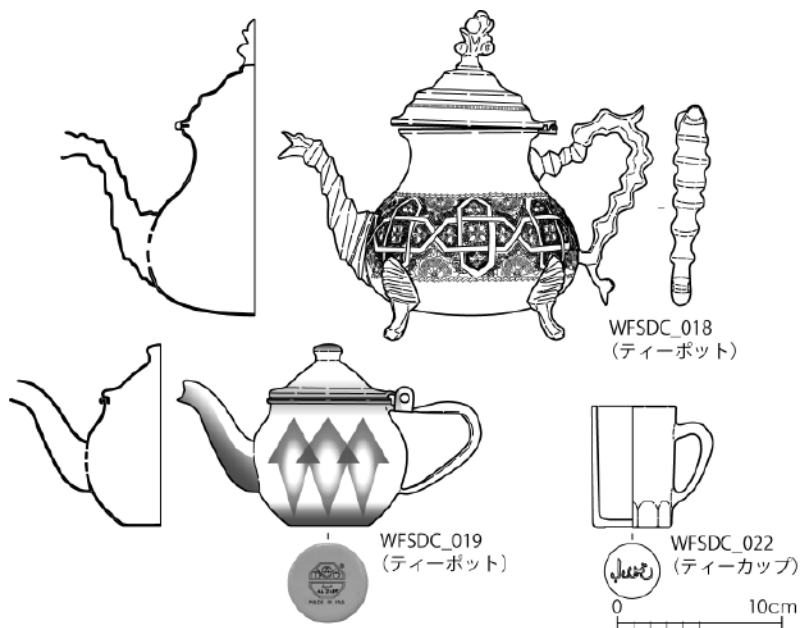


図5 ワーディ・ファーティマ社会開発センター所蔵のティーポットとカップ，作図：遠藤仁

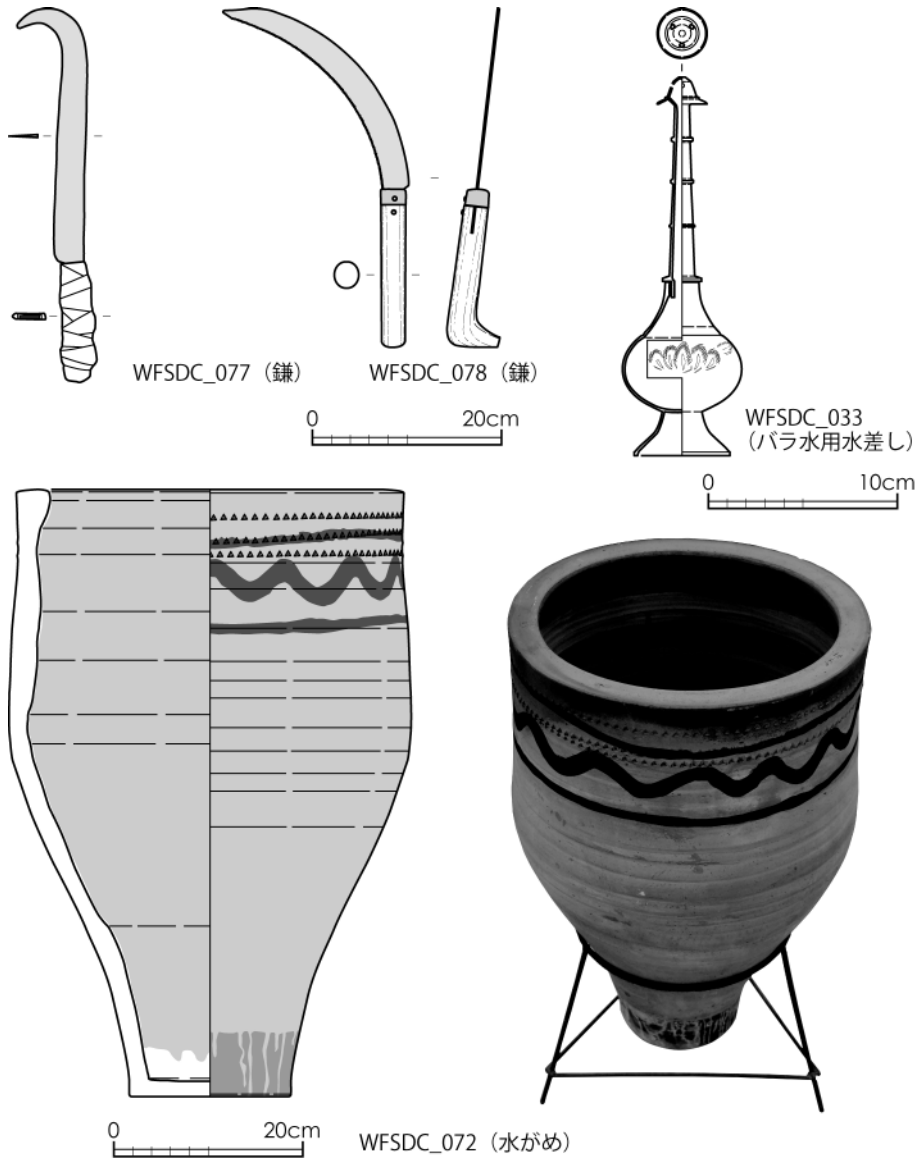


図6 ワーディ・ファーティマ社会開発センター所蔵の日用品，作図：遠藤仁



MKFDC 参考資料 (女性用飾面)



MKFDC-0003 (女性用飾面)



MKFDC-0002 (女性用飾面)



MKFDC-0001 (女性用飾面)



MKFDC 参考資料 (女性用晴れ着)



MKFDC 参考資料 (ふろしき)



MKFDC 参考資料 (女性用頭紐)

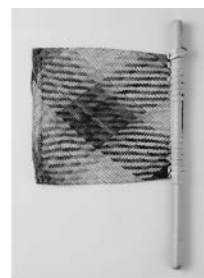
写真 1 片倉もとこ記念沙漠文化財団所蔵の物質文化資料 (2019年2月藤原一徳撮影)



MKFDC-0022 (ござ)



MKFDC-0185 (かご)



MKFDC-0133 (うちわ)



MKFDC-0011 (ポットつかみ)



MKFDC-0012 (ポットつかみ)



MKFDC-0013 (ポットつかみ)



MKFDC-0126 (携帯用コーヒーカップ入れ) MKFDC-0127-128 (コーヒーカップ)

写真2 片倉もとこ記念沙漠文化財団所蔵の物質文化資料 (2019年2月藤原一徳撮影)



G-C_048 (伝統花嫁衣裳)



G-C_021 (女性用外着・
内着セット)



G-C_007 (女性用内着)



G-C_020 (女性用内着)



G-C_008 (女性用内着)



G-C_006 (女性用内着)



G-C_004 (女性用内着)

写真3 参考資料：郡司みさお収集の衣類 (2019年2月藤原一徳撮影)



G-C_003 (女性用内着)



G-C_017 (女性用内着)



G-C_019 (女性用内着)



G-C_018 (女性用内着)



G-C_022 (女性用内着)



G-C_046 (女性用内着)

写真4 参考資料：郡司みさお収集の衣類 (2019年2月藤原一徳撮影)



G-A_019 (首飾り)



G-A_007 (首飾り)



G-A_008 (首飾り)



G-A_007、008 に用いられているコイン (縄田編 2019 の 116 頁の図を改変)



G-A_004 (首飾り)



G-A_005 (首飾り)



G-A_011 (首飾り)

写真 5 参考資料：郡司みさお収集の装身具 (2019年2月藤原一徳、遠藤仁撮影)

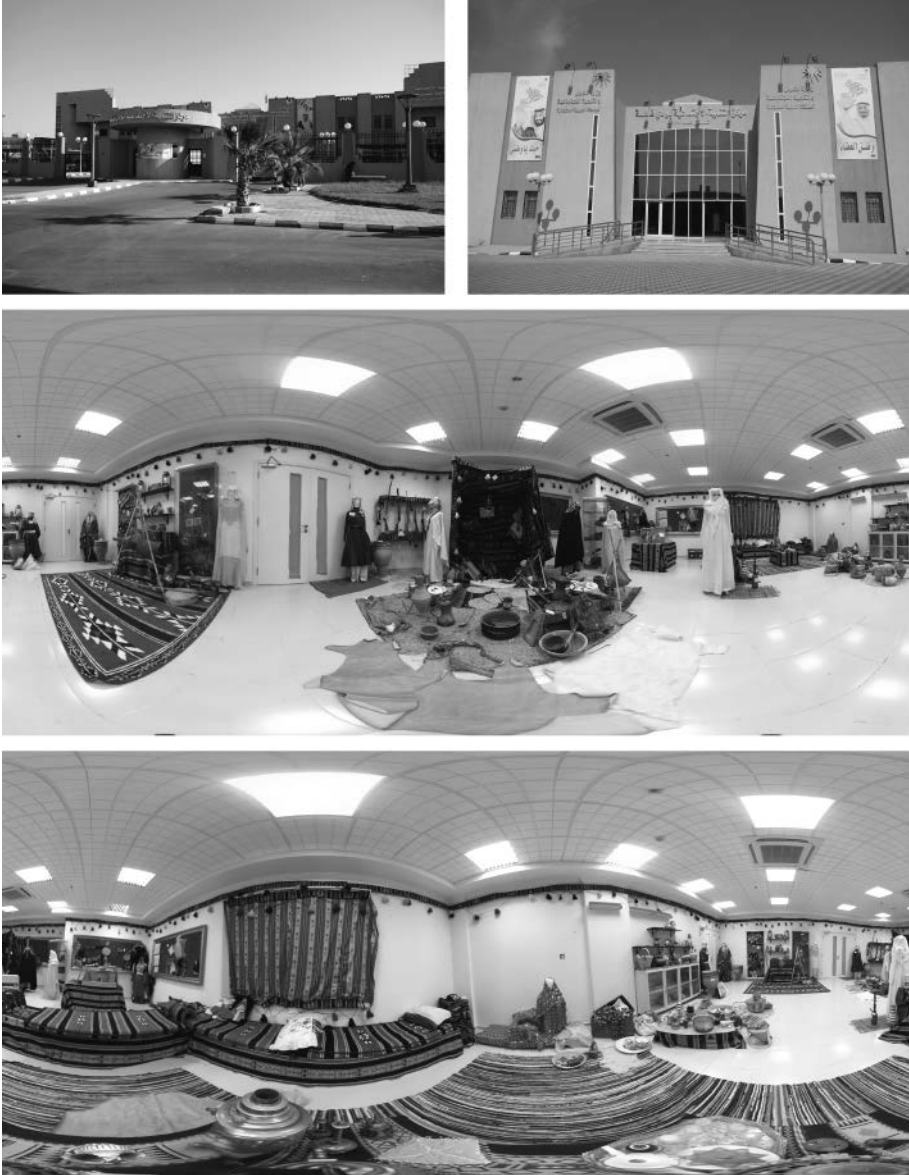


写真6 ワーディ・ファーティマ社会開発センターの外観および展示室のパノラマ合成写真
(2018年5月遠藤仁撮影)

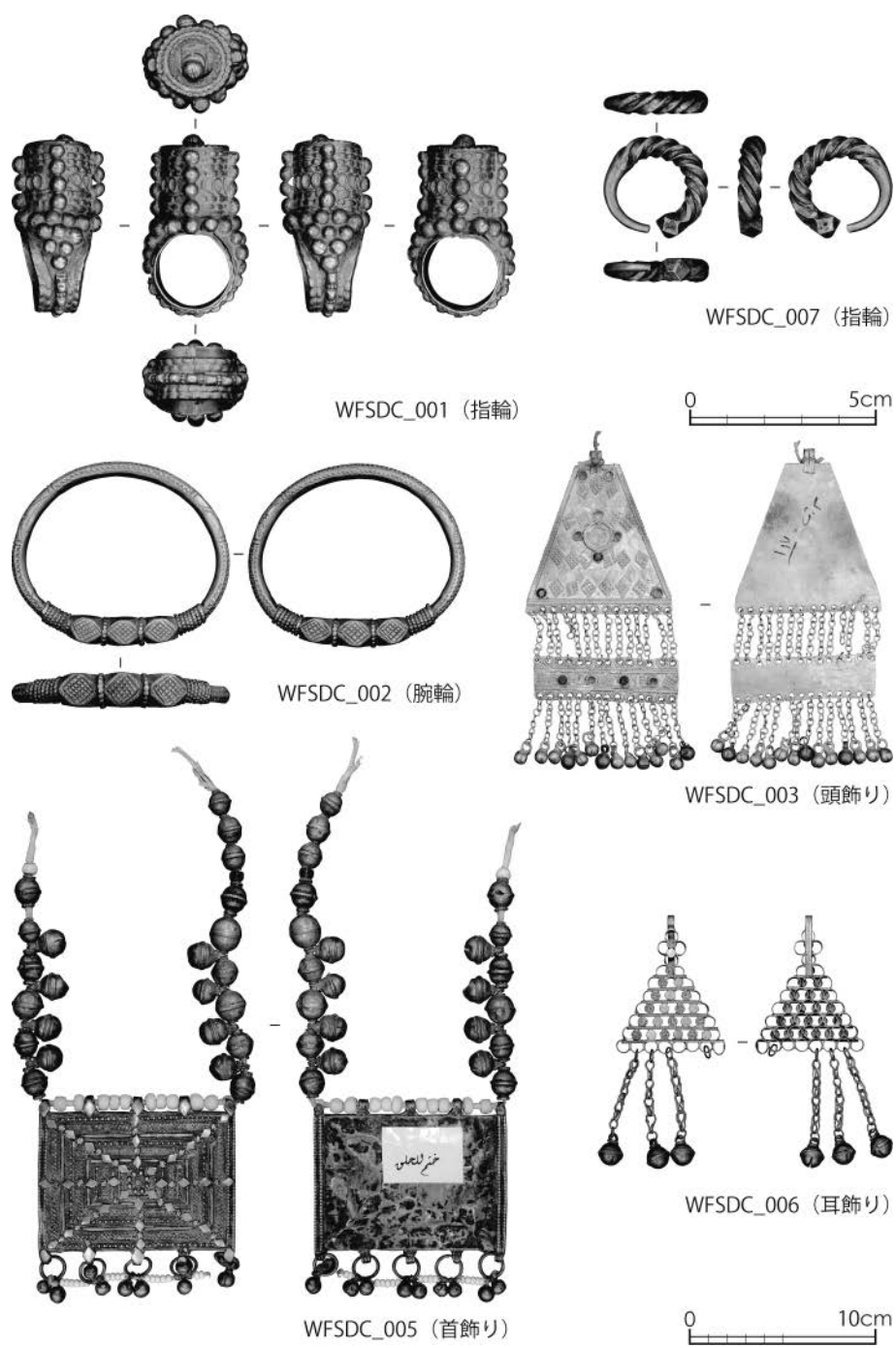


写真7 ワーディ・ファータイマ社会開発センター収蔵の装身具 (2018年5月遠藤仁撮影)



写真8 ワーディ・ファーティマ社会開発センター収蔵の男性用衣服 (2018年5月遠藤仁撮影)



WFSDC_115



WFSDC_114

0 40cm

写真9 ワーディ・ファーティマ社会開発センター収蔵の女性用衣服 (2018年5月遠藤仁撮影)



WFSDC_109



WFSDC_110

0 40cm

写真10 ワーディ・ファーティマ社会開発センター収蔵の男性用衣服 (2018年5月遠藤仁撮影)



WFSDC_117

0 40cm



WFSDC_125



WFSDC_118



WFSDC_119

0 40cm

写真11 ワーディ・ファーティマ社会開発センター収蔵の女性用衣服 (2018年5月遠藤仁撮影)

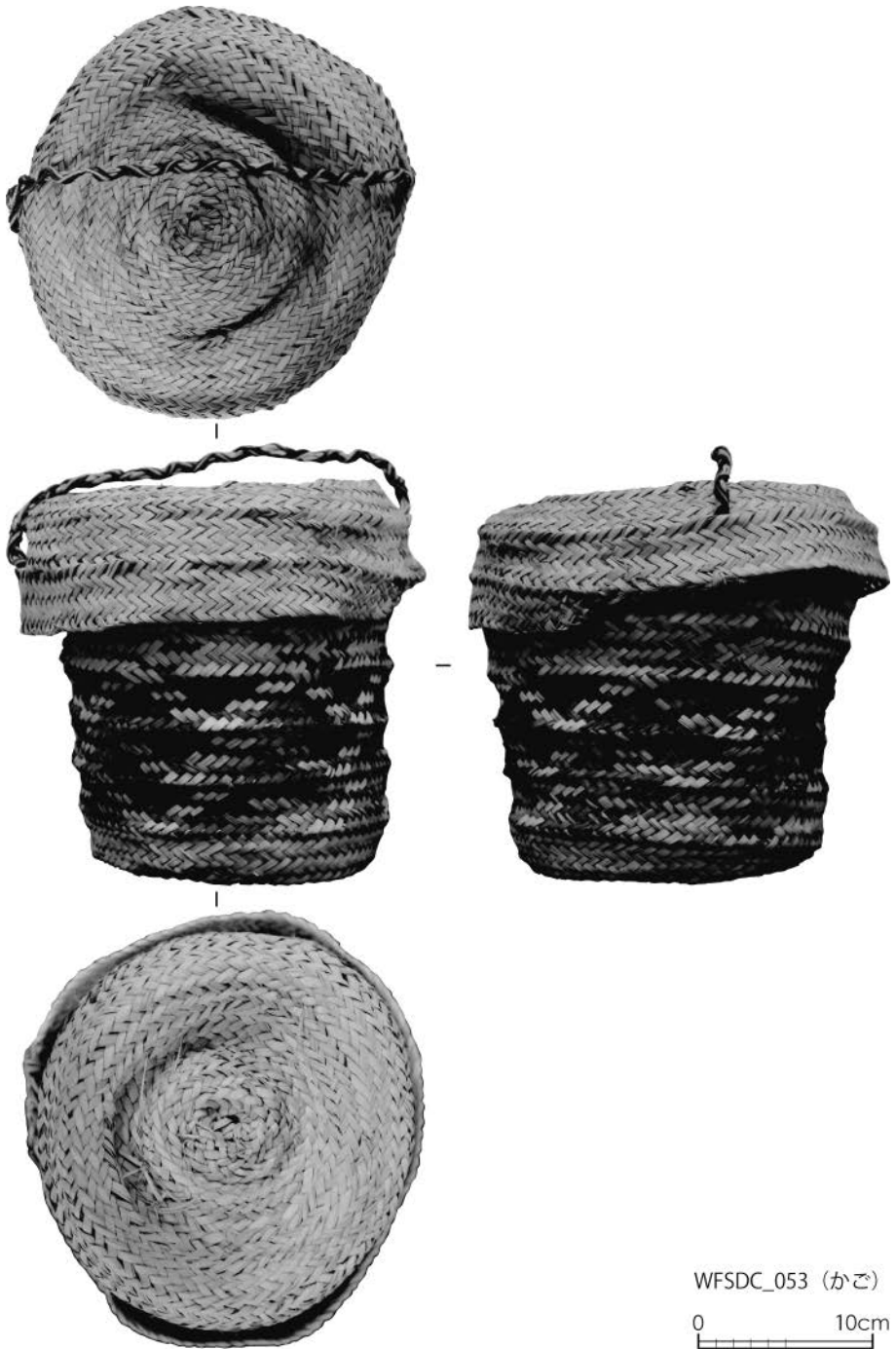
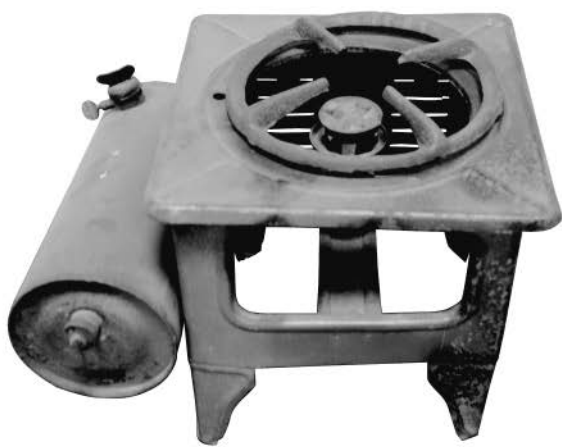


写真12 ワーディ・ファーティマ社会開発センター収蔵のかご (2018年5月遠藤仁撮影)



WFSDC_066 (オイルランタン)



WFSDC_067 (ガステーブル)



WFSDC_070 (炭火アイロン)



WFSDC_071 (回転ダイヤル式電話機)



WFSDC_069 (トランジスタラジオ)

写真13 ワーディ・ファーティマ社会開発センター收藏の日用品 (2018年5月遠藤仁撮影)

サウディ・アラビア，ワーディ・ファーティマ地域に おける衣服の変化とリバイバル

郡司みさお¹⁾・藤本悠子¹⁾・渡邊三津子¹⁾²⁾・遠藤 仁³⁾⁴⁾／
アナス・ムハンマド・メレー¹⁾⁵⁾／縄田浩志¹⁾⁴⁾

1) 片倉もとこ記念沙漠文化財団，2) 奈良女子大学，3) 人間文化研究機構，
4) 秋田大学，5) ムスリム世界連盟日本支部

1 片倉もとこによるサウディ・アラビアの衣服コレクションと その研究

片倉もとこによるサウディ・アラビア西部のワーディ・ファーティマ地域におけるフィールド調査は，人文地理学・文化人類学的観点から実施され，衣服については専門的かつ網羅的なレベルでの調査分析はなされなかった。しかし，地域に密着し，人々と共に生活するなかで，衣服の名称，機能やバリエーションの記録は記述，スケッチ，写真の形で残されている (Katakura 1977, 1996; 片倉 1979)。片倉もとこは，衣服の特徴として，まずは直射日光や砂嵐から身を守る，という気候的要因をあげ，続けて性的誘惑からお互いを守ることを指摘し，その根拠としてクルアーン24章30節，31節に言及している (片倉 1979: 65-66)。そのうえで，男性と女性の衣服の違いとして，男性はかつて衣服も髪型も部族ごとの個性があり，形状や色等が様々であったのが，画一的なものに徐々に取って代わられたとしている。それに比べて女性は，所属する集団，地域ごとに違いがあるとして，中東社会において血縁的要素のみでなく，地縁的要素も着目する必要を主張し，その表れとして衣服を考察した (Katakura 1977; 片倉 1979)。

片倉もとこが本格的にワーディ・ファーティマ地域において現地調査を開始した1968年には，国際的に活躍するサウディ・アラビアのジッダ (ジェッダ, Jiddah) 出身である画家サフィーヤ・ビンザグル (Safeya Binzagr, Şafīya Bin Zaqr) 氏が女子学校の教室を会場として初めて展示を開催した年でもあった。サウディ・アラビアにおいて1950年代後半から美術が学校の科目に加わり (Binzagr 1999: 35)，1960年代に入り国内の芸術運動が開花していったなかで，サフィーヤ・ビンザグルはエジプト，ロンドンにおいて絵画を学び，サウディ・アラビアの文化遺産を絵画として残す活動を志した (Binzagr 1979; 1999)。絵画の主題を決めるにあたり，古い写真をもとにスケッチし，参考文献，家族やとくにジッダを中心とした町・都市の年配の人々からの聞き取りをもとに，結婚，伝統衣服，建築，宗教，日常生活等を忠実に描くことを徹底した。そのいわば人類学的とも呼べる関心と手法をもとにした絵画にキャプションを加え，ワーディ・ファーティマ地域も含まれる紅海沿岸のヒジャーズ地方 (al-Hiāz) において，ベドウィン女性たち

が着用する顔覆いの形と装飾のパターンが部族ごとに異なることを提示した (Binzagr 1979: 56-59)。一方、彼女の代表作の一つである“al-Zabun” (Binzagr 1979: 49) は、ヒジャーズ地方の女性が着用する伝統的なドレスとして紹介されているが、片倉もこの調査資料には同じ衣服名称は登場しない。このように、同じ地方内でも衣服名称は多様であり、衣服に関する調査においては現地で村落ごとに確認する意義は大きいといえる。

衣服についてのコレクションは、首都アッリヤード (リヤド, al-Riyādh) のサウディ・アラビア国立博物館をはじめ、サファイヤ・ビンザグル氏が設立した Darat Safeya Binzagr, ジッダの Al Tayibat City Museum for International Civilization, ターイフ (al-Tā'if) の Al Sharif Museum 等の私立の博物館において豊かなコレクションが確認できる (遠藤他 2021)。ただし、サウディ・アラビア国内の博物館では図録等が出版されていないところもあり、国外のコレクションについても注視することは重要である。

さかのぼれば、19世紀のアラビアを訪問した旅行家による女性の衣服の記録は、残念ながら大変表層的なものであるか、大きな誤解を招くものが大半であった (Ross 1981; Topham et al. 1982)。しかし例外として、ライデン大学民族学博物館 (The Museum Volkenkunde in Leiden), ライデン大学図書館 (The Leiden University Library) におけるコレクションが挙げられる。1870年代初頭から1950年まで、オランダの植民地化にあったインドネシアからの巡礼者に対応するためジッダにオランダ領事館が置かれ、その間に収集された貴重な資料が収録されている。例えば、19世紀後半のマッカ (メッカ, Makkah) での結婚式の模様や衣服について記録され、また当時の女性は日常着として“sidiriya”と呼ばれるブラウス, “sirwal” と呼ばれるズボンに、薄い肌着を身に着け、外出時は服の上に薄く透明なシルクまたは綿のガウン “milaya” とベールを羽織り、冬は厚手になると記述されている (Mols and Vrolijk 2016: 143)。さらに中流階級の女性は「マッカのベール」と呼ばれる白い顔覆い “burqa” を身に着けていたという (Mols and Vrolijk 2016: 145)。これらのコレクションは、体系的な整理と公開展示が積極的に行われており、2013~2014年にはオランダで展示会が開催された。

それ以外にも、アラビアの特徴的な伝統衣服への強い関心をもって個人が収集した豊かなコレクションが存在する。オーストラリア人のインテリアデザイナーである H. C. Ross は1969年以降サウディ・アラビア各地で衣服や装飾品等を収集し、伝統衣服の多くが西洋服にとって代われ失われつつあることに危機感を覚え、文化遺産として保存研究されるように、その歴史の変遷および地域ごとの特徴を詳細に記録した (Ross 1981)。アラビアの女性の伝統衣服について Ross (1981) は、表面的な外観から女性がどの集団に属するのかすぐに判別できるが、決まった部族のスタイルがあるとしても、刺繍する個人が独自の解釈をもちうるため、デザインと糸の色の配置に関する伝統的ルールの中なかでも微妙な違いが生まれると指摘している。ヒジャーズ地方の特徴としては、巡礼者が集まるマッカをかかえ、イスラーム以前から国際的に繁栄してきたため、移民の文化

から少なからず影響を受け、多様性に富んだ衣服や装飾がみられる (Ross 1981: 86-88)。そのなかで、ワーディ・ファーティマ地域の衣服としては、非常に精巧な顔覆いが特徴的で、サウディ・アラビア西部で最も長い顔覆いはワーディ・ファーティマ地域に住むハルブ族のサブセクションに属する人々のものであると述べている (Ross 1981: 93)。ハルブ族は、サウディ・アラビア中央部のナジュド (Najd) と西部のヒジャーズの全体で最大の規模をもつ部族の1つであり、もともとは南アラビアまたはイエメンから移住したともいわれる。支族 (subtribe) の連合体であり、1917年に紅海沿岸からナジュド西部までの広い領土を占領したが、国家が統一された後、生活形態が遊牧と定住に分かれていった歴史をもつとされる (Saudi Arabesque 2016)。ハルブ族の女性の衣服は基本的な形は一定であるが、多くの装飾のバリエーションが存在すると言う (Ross 1981: 87)。

またアメリカ人の建築コンサルタントである J. Topham は、1970年代後半以降、とくに織物に着目してサウディ・アラビアの衣服を収集し、そのコレクションはアメリカのロチェスター大学記念美術館等で展示された。コレクションが収録された著作において (Topham et al. 1982)、女性の伝統衣服は男性に比べて刺繍およびアップリケの色彩に優れ、顔覆い・頭飾りに付された装飾はより重く、地域差も大きいと指摘される。なかでも、ベドウィンの女性衣服の装飾は、村や都市の女性のものとは比べてまばらであることが指摘されている (Topham et al. 1982: 92; 94)。

19世紀後半から西洋の影響力が増し、機械縫いが従来の刺繍に取って代わり、スタイルと装飾の標準化が進んだことにより、衣服における地域の違いが薄れていく傾向に拍車がかかっていった (Topham 1982: 94)。それに伴いアイテム (品目) のレベルで素材、形状、色、装飾の特徴に違いがみられる伝統衣服の学術的価値は高まり続けてきたといえる。1960年代末当時に片倉もところが行った調査の成果は、上記の研究においても引用され、衣服についての情報は、ある地域における人々の日常生活と衣服を紐づけた貴重な記録として評価されてきた (Ross 1981; Topham et al. 1982)。

Ross は、初版が出版された1981年前後のヒジャーズ地方では、大部分が農村地域であって、部族は伝統的な衣服にこだわり、何世紀も前と同じような生活を続けている地域がまだまだあるため、衣装の個々のデザイン要素を観察することで、外部の影響の度合いを測ることができる、と述べている (Ross 1981: 88)。一方、片倉もところは1960年代末当時すでに衣服の変化が進んでいたことをつぶさに観察していた。丹念に記録された衣服の変化は、急速に変化してきた社会における独自の様相を呈している可能性があり、そのバリエーションを記録することは重要である。

本稿では、片倉もところによるサウディ・アラビアの衣服コレクションについて、現地における再調査を含む再研究を進めた成果を報告する。なお、本稿で以降用いるアラビア語は、サウディ・アラビアとりわけワーディ・ファーティマ地域で話されている口語的アラビア語に準じる (縄田編 2019)。ワーディ・ファーティマ地域で話されるアラビ

ア語は、qをgと発音する以外は、古典アラビア語（正則アラビア語）に近い発音である（片倉 1974）。ただし、地名・人名・専門用語等で一般的に知られている名称がある場合は、括弧内にアラビア語のローマ字転写と共に明記する。

2 片倉もとこの衣服コレクションと関連資料

2.1 国立民族学博物館における片倉もとこが収集担当したサウディ・アラビアの衣服コレクション

片倉もとこは1981年より国立民族学博物館に所属していたが、1982（昭和57）年度の「海外標本資料等収集計画」における中東地域担当となった（片倉個人所有の辞令書）。そこで、サウディ・アラビアを含む西アジアに赴き、現地にて物質文化資料を収集した。その際、ワーディ・ファーティマ地域を再訪していることが片倉もとこの撮影写真記録から確認できる。収集された衣服（衣類・履物）としては、計63点が国立民族学博物館に収蔵されている（遠藤他 2021：表1）。

2.2 片倉もとこ個人の衣服コレクション

片倉もとこは、収集した衣服（衣類・履物）の一部を個人で所有していた。それらは現在、片倉もとこ記念沙漠文化財団の事務所において保管されており、計73点を数える（遠藤他 2021：表1）。衣服資料には、メモがほとんど付されておらず、なかには実際に使用された形跡が見られるもの、経年劣化の激しいもの、また製品として完成する前の生地や材料の段階にあるものも含まれている。

それらがサウディ・アラビアで収集されたものであるかどうかは、片倉もとこの著作内容および掲載写真との対照と、当時調査に同行することもあった夫の片倉邦雄へのヒアリングによってある程度確認することができた。ただし、ワーディ・ファーティマ地域で実際に使用されていたものであるのか、購入したのか、プレゼントとして片倉もとこが授与されたものなのかといった入手経緯、現地で使われている名称、使用方法等の詳細な情報は不足していた。したがって、新たな現地調査を通じて現地の人々の視点からの情報を得なければならないことがわかった。

2.3 郡司みさおの衣服コレクション

加えて、片倉もとこ記念沙漠文化財団の理事であり、建築家、インテリアデザイナーである郡司みさおが、かつて居住していたこともあるサウディ・アラビアにて収集し、所有している個人コレクション（以下、Gコレクション）がある。それらは、片倉もとこの衣服コレクションと対照し考察する資料として有用である。Gコレクションは、主に衣服や装身具で構成され、郡司が購入したものや、知人から譲り受けたもの等、入手

経緯は様々であり, 中には数十年前に使用されていたと考えられるものも含まれる。資料が整備されているものに関しては, 遠藤他 (2021) の表5および, 写真3~5として提示している (以下Gコレクションに関して言及する場合は参照)。

3 ワーディ・ファーティマ地域における衣服についての再調査

3.1 調査目的と方法

上記のとおり, 片倉もこの調査資料における衣服コレクションは, 学術資料としての価値が高く, 研究者本人による考察分析は十分に行われなかったことから, 再分析, 再調査する意義は大きいといえる。さらに, ワーディ・ファーティマ地域の社会変化を新たな軸からとらえられる可能性もあることから, 半世紀後の変化を追う現地調査において衣服に注目した。

伝統衣服についての調査の目的は, 国立民族学博物館, 片倉もこの記念沙漠文化財団のコレクションおよびGコレクションの衣服資料についての新たな情報, そして現地で保管もしくは現在も使用されている半世紀前の衣服についての情報を収集し, 半世紀の衣服の変化を人々の生活に即して考察することであった。

現地調査は, 2018~2019年にわたり計3回実施した (第1回: 2018年5月, 第2回: 2018年12月~2019年1月, 第3回: 2019年9月)。まず2018年5月の第1回調査では, 国立民族学博物館と片倉もこの記念沙漠文化財団が所蔵する片倉もこの衣服コレクションならびにGコレクションのサムネイル付リストを持参し, アイテム1点ごとに現地で情報を確認した。そこで得られた情報に加えて, 第2回・第3回調査では, 片倉もこの撮影した写真のなかで衣服の写っているものを現地の人々に確認してもらい, 人物や撮影地と共に衣服の特定を行った。そして, 現地で保管されていた半世紀前の衣服について, 実測採寸および写真撮影を行った (遠藤他 2021)。

調査地については, 片倉もこの地縁に着目した研究成果にもとづき, 世代による変化についての情報を得られる可能性のある村を選択し, 現地ではさらにバリエーションを広げて調査を実施した。具体的には, まず片倉もこの半世紀前に集約的に調査したブシュール村 (Bushūr), ブシュール村に隣接するものの両村の交流は限定されており社会的関係は薄いダフ・ザイニー村 (Daf Zayny), ブシュール村に多く住むハルブ族と親戚関係にある人々が住むシャミーヤ村 (Shāmīya, 片倉もこの結婚式に参加するため, 調査中に一度だけ訪問したことがあった), そして片倉もこの調査地に含まれていたもののブシュール村と距離的にも社会的にも離れたアイン・シャムス村 (‘Ain Shams), さらに片倉もこの調査地ではなかったが今回ワーディ・ファーティマ社会開発センターを通じて案内されたハルブ族が住むサムドゥ村 (Ṣamud) を対象とした (縄田他 2019: 21)。

調査対象者は、主に半世紀前から片倉もともと親交のあった女性とその親族・遺族であった。女性たちの家において、写真をもとに衣服の変化についてたずねるグループインタビューを実施した。現地から帰国した後も、SNSを通じて衣服の名称や発音についての情報の聞き取りを継続した。衣服の名称に関して現地の女性自身もしくは代理として親族の男性にアラビア語表記してもらおうと同時に、録音データにより発音を確認する方法をとった。

衣服の変化を探るためには、大きく分けて、性、アイテム、デザイン（色、素材を含む）、装飾に焦点をあてた。加えて、ブシュール村、ダフ・ザイニー村において、女性たちに半世紀の間の衣服の変化ならびに自身の人生における出来事（ライフイベント）と衣服の関係についてたずねた。

また情報を比較対照するため、ワーディ・ファーティマ社会開発センターの男女職員30名程度、サフィーヤ・ビンザグル氏、またAl Tayibat City Museum for International Civilization、ジッダ女子工業大学、ジッダ旧市街の市場にある衣服店においても聞き取りを行った。

本稿では以下、衣服の変化のバリエーションに着目して報告する。衣服の実測採寸および写真撮影した詳細の考察については、別稿にゆずる。

3.3 ワーディ・ファーティマ地域における半世紀前の衣服の特定

まず、半世紀前の衣服の特定にあたり、持参した衣服コレクションリストのサムネールを1点ずつ現地の人々に確認してもらい、当時ワーディ・ファーティマ地域で着ていた衣服があるかどうかをたずねた。結果、国立民族学博物館および片倉もともと記念沙漠文化財団が所蔵するものの中にある、と答えた人はいなかった。

一方、Gコレクションのリストから4点（G-C_046、G-C_004、G-C_003、G-C_015）が同地域で半世紀前に着用されていた衣服の同等品であるとの反応を得た（図1）。その内G-C_046は、当時とまったく同じのものであるとブシュール村、ダフ・ザイニー村での聞き取りにおいて指摘された。これは1989～1990年前半のアッリヤード市内の女子小学校にて、郡司がチャリティー・アンティークバザーを通じて入手し、ジッダ方面のアンティークだとの説明を受けたものである。G-C_004、G-C_003、G-C_015の3点については、2015年、在京サウディ・アラビア大使夫人より郡司に授与されたもので、ジッダあたりの古い伝統衣服であるとのことだった。



図1 ワーディ・ファーティマ地域で1960年代末に着用されていた衣服の同等品 (2019年2月藤原一徳撮影, G-C_015のみ2017年郡司みさお撮影)

3.4 ワーディ・ファーティマ地域における衣服名称の特定と分類

次に、片倉もとこフィールド調査写真をもとに被写体の衣服の名称についてたずねたところ、75枚の写真における衣服についての情報を得ることができた。地域別の枚数は、ダフ・ザイニー村 (49枚)、ブシュール村 (10枚)、アイン・シャムス村 (4枚)、シャーマーミーヤ村 (12枚) であった。具体的な衣服のアイテムの名称について系統立てて調査できたのはダフ・ザイニー村とブシュール村であった。サムドゥウ村は、片倉もとこの調査地ではなかったため、ハルブ族の多いブシュール村やシャーマーミーヤ村の写真をもとに衣服の変化について聞き取りを行った。

本稿では衣服の名称を整理するにあたり、片倉もとこが用いたアイテム別での分類を採用し、またRoss (1981) におけるアイテムの整理基準と順序を参考に一覧をまとめた (表1)。飾面や装身具類は、半世紀前シャーマーミーヤ村に住んでいたハルブ族の支族であるブシュリーの人々への聞き取りから得た名称を記載しているため、国立民族学博物館および片倉もとこ記念沙漠文化財団の所蔵資料一覧 (遠藤他 2021: 表2・3) には記載のないものもある。なお片倉もとこは、著作において分類の基準を異にしていることに注意が必要である。半世紀前の集約的調査を人文地理学の観点からまとめた『*Bedouin Village*』と文化人類学的観点からモノグラフとしてまとめた『アラビア・ノート』があるが、男性の衣服については、「町のアラブ」と「沙漠のアラブ」として、それぞれ一連のセットを説明している (Katakura 1977: 77-79; 片倉 1979: 54-57)。一方、女性の衣服は、前者は支族ごとにアイテムのセットを記述しているのに対し (Katakura 1977: 79-81)、後者ではアイテムごとに記述している (片倉 1979: 58-62)。本調査では、半世紀後の変化の考察を目的としており、50年前と同じ支族集団の変化を対象とすることは現実的ではないと考えたため、後者を採用した。

表1 ワーディ・ファーティマ地域における衣服および衣服部位の名称（アラビア語名称（カタカナ表記）は、ワーディ・ファーティマ地域で過去に使われていた名称（現在ワーディ・ファーティマ地域周辺で一般的に使われている名称）／古典アラビア語の順に示す。ただし過去と現在とで差がない場合は、ワーディ・ファーティマ地域とその周辺の名称／古典アラビア語の順、すべてが同じ場合は一語で示す）

日本語対訳	アラビア語名称 (原語表記)	アラビア語名称 (カタカナ表記)
頭覆い	شَرْشَف	シャルシャフ
頭覆い	مُصَوْن	ムスワン
頭覆い	مُصْنَر	ムスル
頭覆い	مَصْر	マサル
頭覆い（未婚女性用）	صُمَادَة	スマータ
頭覆い	طَرْحَة / طَرْحَة	タラハ（タルハ）／タルハ
頭覆い止め	مُتَوْرَة	ムダウワラ
頭覆い止め	وَقَايَة	ウイガーヤ
飾面	نِقَابُ	ニカーブ
飾面	بُرْفَع	ブルグア／ブルクア
貫頭型長衣	ثُوب / ثُوب	タウブ（トープ）／サウブ
長衣	فُسْتَان	フスターン
長衣	كُرْتَة	クルタ
外着	عَبَاءَة / عَبَاءَة	アバーヤ／アバーア
外着	مُسَدَّح	ムサッドフ
外着	مَخَارِيد	マハーリード
外着	ثُوبُ حَرَبِي	タウブ・ハルビー
外着	مُضْحَاة / مُضْحَى	ムドゥハー
袖	كُم	クム
胸前垂らし布	مِخْرَمَة	ミフラマ
上半身用肌着	صَنْدْرِيَة / صَنْدْرِيَة (سَنْدْرِيَة)	スドリヤー（シディーリーヤ）／スタイリーヤ
下半身用肌着	سُرْوَال / مِزْوَال	スルワール／シルワール
平銀糸入り組紐	تَلْ	ティッル／トウッル
飾面の鼻部分につけるコイン	فُرُوش	グルーシュ
飾面の鼻部分の部位	قَرْم	ガッルム／カッルム
飾面の飾り房の部位	مَطَاوِيح	ムターウィーフ
飾面のボタン飾り	صَنْف	サダフ
飾面下部の粒銀細工	رُوند	ズワンドゥ
飾面下部の中央や左右に取り付けられた三角形の細線細工を施した銀製装飾品	رِزَايِن النَزَق	ラザーイン・アル＝ブルグア
腕輪	الشَمِيْلَة	シミーラ
腕輪	بُنْجَرَة	ブンジャラ
指輪	خَاتِم	ハーティム
足指輪	خَاتِم الْبِهَام	ハーティム・イブハーム
四角いペンダントトップ	خَنْمَة	ハトゥマ
三日月型ペンダント	نِيشَان	ニーシャーン
	الهَلَال	アル＝ヒラール
首飾り	لَاژِم	ラージム
頭飾り	خُرْسَان	フルサーン
ベルト	حِزَام	ヒザーム
男性用上半身用肌着	فَانِيْلَة / فَنِيْلَة	ファニーラ（ファニーラ）／ファニーラ
男性用下半身用肌着	سُرْوَال / مِزْوَال	スルワール／シルワール
男性用腰ひも	دَكَّة	ダッカ
男性用腰布	فُوَطَة	フータ

日本語対訳	アラビア語名称 (原語表記)	アラビア語名称 (カタカナ表記)
男性用シャツと男性用スカートのセット	رُثِيَّة	ウドニーヤ
	عَدْنِيَّة	アダニーヤ
ガウン	مِشْلَح	ミシュラフ
ガウン	بِشْت	ビシュトゥウ
帽子	كُوفِيَّة	クーフィーヤ
帽子	طَاقِيَّة	ターギーヤ
男性用頭覆い (赤白チェック柄)	شِمَاغ	シマーグ
男性用頭覆い (模様がなく白地のみ)	غُثْرَة	グトゥラ
男性用頭覆い	أَخْرَام	アフラーム
頭紐	عَقَل	イガール/イカール
サンダル	شَيْبِب	シブシブ
サンダル	شَيْبِب شَرْقِيَّة	シブシブ・シャルギー

3.5 衣服名称の取扱いについて

本稿では、衣服名称において、ワーディ・ファーティマ地域で過去に使われていた名称、ワーディ・ファーティマ地域およびその周辺で現在一般的に使われている名称、古典アラビア語（正則アラビア語）の名称と、3つの名称を併記する必要がある場合には、ワーディ・ファーティマ地域で過去に使われていた名称（現在ワーディ・ファーティマ地域周辺で一般的に使われている名称）／古典アラビア語（正則アラビア語）の名称の順に示す（例：タウブ（トープ）／サウブ、タラハ（タルハ）／タルハ、スドリーヤ（シディリーヤ）／スダイリーヤ）。ただしワーディ・ファーティマ地域もしくはその周辺地域で過去と現在とで使われていた名称がとくに差がない場合は、ワーディ・ファーティマ地域もしくはその周辺地域で過去と現在とで使われていた名称／古典アラビア語（正則アラビア語）の順に示す（例：ブルグア／ブルクア、アバーヤ／アバーア）。

名称における半世紀の変化、現地発音と古典アラビア語の違いに加えて衣服の名称についての記録を解釈分析する際には、調査者と調査対象者（被調査者）の関係が反映されることに注意しなければならない。調査対象者が衣服の名称についてたずねられたとき、正式名称を答える場合もあれば、実際に使用している現地での通称を答える場合もある。また、専門的知識を持っていて専門用語を答えるときもあれば、よく知らず一般的な総称を答える場合も考えられる。調査対象者にとっては、質問してきた相手が研究者なのか、友人なのかによっても返答は異なりうる。

さらに、今回の現地調査は、片倉もとこが半世紀前に聞いた記録をもとに、新たな調査グループが聞き取りを行ったため、世代による違いも考慮する必要がある。同じ衣服に対して、過去に何と言われていたかたずねた場合でも、対象者の世代によってその通り過去の名称で答える人もいれば、それを知らず現在の名称で答える人もいる可能性がある。

表1の成果は、オリジナルの調査者、調査対象者、さらには新たな調査グループとその調査対象者という4つの存在があり、どのように質疑応答するかによって、またそれぞれの関係性によっても、得られる情報は異なるという実例である。つまり、聞き取りをした地域、人物や、調査者・調査対象者の知識の度合いや交流の深さによっても得られる情報は異なるといえるだろう。

そこで、名称を記録する際には、調査対象者についての情報も記録しておくことが重要である。また、得られた情報の検討も重ねていく必要がある。

4 ワーディ・ファーティマ地域における衣服の半世紀の変化

ワーディ・ファーティマ地域における男性と女性の衣服は、白を基調とした衣服は男性、黒や色柄を基調とした衣服は女性という点で差は明確である(縄田/メレー 2019)。ただし色合い以外の点では、男性用の衣服の形態や種類は同じく概して変わっていないのに対して、女性用の衣服は外着・内着・肌着、頭・髪覆い、飾面ともに変化した点が多い。

以下、表1(アラビア語名称の原語表記とカタカナ表記、その日本語対訳)をもとに、性別における衣服の半世紀の変化を性別に着目して具体的に記述する。なお衣服以外の飾面や装身具については、本稿では名称のみ表に記載し、別稿で考察する。

4.1 男性の衣服

男性は、体に合うようにあつらえた袖の長いゆったりとしたひとつなぎの貫頭型長衣タウブ(トープ)/サウブ(thaub/thoub ثوب/ثوب)を着る。白地がほとんどであるが、青や灰色のものもある。丸首ではなくスタンドカラー(もしくはワイシャツカラー)で襟止めもあり頸部まで覆えることが特徴である。タウブは内着と外着の兼用である。タウブの下に着用する肌着は、上シャツのファーニーラ(ファニーラ)/ファニーラ(fānīla/fanīla فنييلة/فانييلة)と下ズボンのスルワール/シルワール(surwāl/sirwāl سُرْوَال/سُرْوَال)があり、腰回りにはダッカ(dakka دَكَّة)というひもを巻いた。室内では、下ズボンとして巻スカート状のフータ(fūṭa فُوطَة)で過ごす人もいる(縄田・アナス 2019)。

山岳部ではなく平野部が多いため、それほど夜や冬季も冷え込まないワーディ・ファーティマ地域では、タウブの上に羽織る外衣ミシュラフ(mishulah مِشْلَح)もしくはビシュットウ(bishuttu بِيْشْت)をもっていない人が多かった。半世紀前には、ウドニーヤ(wdniya وَدْنِيَة)またはアダニーヤ(‘adaniya عَدْنِيَة)という外着を農作業用に着る人もいたが、当時すでに「オールドファッション」(片倉 1979: 56)とみなされていた。本調査では、着用する人に出会うことはなかったが、社会開発センターの職員が自宅に保管していることが判明した。なお、衣服の呼称について、アラビア語著作におい

て رُنْبِيَّة (Katakura 1996: 112; 113) と表記されているが、ローマ字転記では wdnīya (Katakura 1977: 77-78) また日本語著作ではウドニイヤ (片倉 1979: 54; 56) となっていることから考えると、アラビア語は誤植の可能性が高いと判断される。一方、アダニーヤ (‘adanīya عَدْنِيَّة) は、本調査にて、シャーミーヤ村の男性からアラビア語での呼称を聞き取り、ローマ字、日本語に転記した。よって、この衣服名称については比較対照を含めさらなる調査が必要と考えている。

また、ハルブ族の人々には、長く垂れさがる袖が特徴的なマハーリード (mahārīd مخاريد) という伝統的な衣服があり、女性にも同様の袖部分がある同じくマハーリードと呼ばれる外着・晴れ着があった。

頭部から頸部にかけては、クーフィーヤ (kūfīya كُوفِيَّة) もしくはターギーヤ (tāgīya طَاقِيَّة) と呼ばれる帽子をかぶり、正方形の布を対角線で折り込み三角形にしたもので覆う。どちらも色合いは白が基調である。布のうち、赤のチェック柄が入ったものはシマーグ (shimāgh شِمَاغْ) 模様がなく白地だけ (縁に刺繍・模様がつかう場合はある) のものはアフラム (ahrām أَحْرَام) もしくはグトゥラ (ghtra غُتْرَة) と呼ばれる。シマーグやグトゥラをしっかりと留めるために、当時はシャッターファ (shattāfa شَطَّافَة) と呼び (片倉 1979: 57)、現在ではイガール／イカール (‘igāl / ‘iqāl عِقَال / عِقَال) と呼ばれる輪状のヘアバンドをあてることが多い。外出時には、子供は帽子だけの場合も多くみられるが、成人男性はシマーグかグトラを着けることが普通である。

履物は、シブシブ (shibshib شِبْشِب) と総称されるかかとの部分がみえているサンダルを履く。そのうち、シブシブ・シャルギー (shibshib shargī شِبْشِبْ شَرْقِيَّة) と呼ばれる皮革製で足の甲の一部が覆われているタイプがある。

4.2 女性の衣服

ワーディ・ファーティマ地域において、女性の衣服は内と外、日常と非日常とで異なっていた。自宅内で常時着用する日常着としての「内着」、外出時にその上に羽織るよそゆきとしての「外着」、さらに年に数回の祭事や結婚披露宴に向くときに着用する「晴れ着」があった (郡司他 2019a)。

しかし、多様で色彩にあふれた伝統的な晴れ着や外着は、半世紀の間に衰退し、黒いアバーヤ／アバーアに一元化していった。頭や髪を覆う布も、ムスワン等は姿を消し、黒無地、長方形の一枚布タラハ (タルハ) ／タルハが用いられるようになった。顔の部分を隠す飾面ブルグア／ブルクアは、色とりどりで装飾が豊かであったものから、シンプルな黒い布製で目の穴が2箇所開いているブルグアや、両目部分が細長くひとつの穴になっただけのニカーブが使われるようになった。

外観からみた色合いはカラフルなものから黒単色になったといえる。しかし、アバーヤの下にはジーンズやワンピース等のカラフルな洋服を着ている人も多い。また、晴れ

着としての外着は衰退し、晴れ着はもっぱら内着となり、アバーヤの下に華やかな西洋風ドレスが着られるようになっていく。履物としては、半世紀前から使われていたサンダルに加え、ハイヒール、スニーカー等多様な履物が履かれるようになった(郡司他 2019e)。

片倉もこの著作や写真を参考に、2018～2019年にかけてブシュール村、ダフ・ザイニー村、シャーミーヤ村、サムドウ村、アル＝ジュムーム (al-Jumūm) 市等で改めて聞き取り調査を行ったところ、およそ半世紀前のワーディ・ファーティマ地域では、女性の衣服はより多様で多くの名称も存在したことが分かった。

そこで本稿では、調査後にまとめられた縄田編 (2019) をもとに、より詳細な情報を加えて記述する。

4.2.1 頭・髪覆い

シャルシャフ (sharshaf شَرْشَف)

大きな薄い生地一枚布で、正方形のショールである。ときには敷布くらいのももある。頭・髪覆いの上にさらに被る場合もあり、眼以外を覆う。ダフ・ザイニー村等の一部地域の女性が主に着るもので、カラフルなものや花柄が好まれた。礼拝のときに使用する場合もあれば、昼寝するときには身体に掛ける場合もある。

家の中庭に出るときは当然ながら、室内においても常にシャルシャフを身に着けてい



写真1 透ける生地の既婚女性用衣服ムサッダフの上にシャルシャフをかぶった片倉もこ
撮影：不明，1974年，ダフ・ザイニー村，KM_5570

る女性もいる。頭覆いの上にさらにシャルシャフを被る場合もある(写真1)。シャルシャフは現在でも存在し、同じ名称で呼ばれるが、外出時に着用はせず、室内において使われている。

また、シャルシャフをくるくると丸め、紐状の頭覆い止めとして、使用することもあり、この場合はウィガーヤと呼ばれていた(後述)。なお、シャルシャフは髪の毛から上半身を覆うものであるが、ダフ・ザイニー村ではかつて、成人女性が同じシャルシャフをくるりと顔にも巻いて、目だけを出す顔覆いとしての役割も担っていた。

ムスワン (muṣwan مَصْنُون)

晴れ着の頭・髪覆い。シャーミーヤ村の50才代の女性から、かつて着用していたものとして説明された。重量感のある黒い無地の布で作られ、縁取りにティッル／トゥッルという平銀糸入りの組紐ブロードテープを使用しているのが特徴である。また、貝ボタンまたはプラスチックボタンもたびたび、装飾に使用された。生地は細番手の綿をきつちりと織った、綾織の黒い先染め生地を使用している。名称は確認できなかったが、Al Tayibat City Museum for International Civilizationでも同等品が多く陳列されていた(図2)。



図2 ワーディ・ファーティマの振袖型晴れ着と頭・髪覆いのムスワン (イラスト：郡司みさお)

ムスル (muşur مُصْر)

ムスワンの下に、髪の毛をきっちりととめるための既婚女性用の頭覆い布。シャーマーヤ村において半世紀前に使用されていた。後述のスマーダと似たようなデザインだが、顎の下の縫い目がとても短く、あえて首飾りを見せられるようになっていた。

マサル (maşar مَصْر)

ムスルと同じく、既婚女性用の頭覆い布を指す。ブシュール村で半世紀前に使用されていた。

スマーダ (şumāda شُمَادَة)

およそ半世紀前、ダフ・ザイニー村等の一部地域の未婚女性が水くみ等の外出時に頭からかぶった布を指す。厚い生地で作られ、顔の部分のみ穴があいており、あごの下で縫い合わされている。裏地を付けて分厚くして使用される場合もあった。腰あたりまでのタイプからひきずるタイプもあり、中には背丈の3倍ほどの長さのものもあった (片倉 1979: 61)。

他の頭覆いとは違い、頭から被るだけで安定し、結び目がほどけてしまうことも、ずり落ちることもない。他の中東地域でも同様の形状のものが見られるが、いずれも未婚女性や学生がつけることが多い。色柄は、赤系の花柄が好まれた。井戸に水汲みに行く



写真2 スマーダをかぶった女性

撮影：片倉もとこ，1971-1974年，ダフ・ザイニー村，KM_5578

際や，外で遊ぶときに着用し，頭の上に折り上げる等する。

スマーダは，半世紀前にブシュール村，シャーミーヤ村，ダフ・ザイニー村で使用され，現在も名称は知られているが着用はされていないことが分かった（写真2・3）。サムドゥウ村では，スマーダを知っている女性はいなかった。

タラハ（タルハ）／タルハ（*ṭarāḥa / ṭarḥa طَرَّحَة / طَرَّحَة*）

薄地で長方形（通常60～80cm×150cm程度）の一枚布の頭・髪覆い。砂や風が鼻や口に入るのを防ぐ他，性的誘惑からお互いを守り，髪の毛を隠すためのものでもある。約半世紀前，多くはカラフルな色あいで，柄物等も多様に広く使用されていた（写真1）。現在までサウディ・アラビアにおいて一般に使用され，色は真黒なものが多い。

シャーミーヤ村では，カラフルなタルハを着用しているのは少女たちで，成人女性たちはムスワン（前述）で頭や髪を覆っていた。一方，ダフ・ザイニー村では，タラハ（タルハ）／タルハは成人女性も少女も着用し，タラハ（タルハ）／タルハとシャルシャフを重ね使いしている場合も多かった。

4.2.2 頭覆い止め

ムダウワラ（*mudawwara مُدَوِّرَة*）

女性が髪の毛の先の方にガーゼの紐を織り込んで三つ編みにし，それをくるくると巻



写真3 スマーダをかぶった少女たち

撮影：片倉もとこ，1969年，ブシュール村，KM_0644

きつけてマハルマと呼ばれる輪を作り、その上におでこからきっちりと髪の毛を隠すように載せる髪覆いの布、もしくは左右に紐のついた厚手または綿の入ったハチマキ状の布である。これを頭上で縛ることで、頭の上に置く水を運ぶ容器や荷物が安定し、また頭覆い布がずれ落ちないという利点があった。また、髪の毛を確実に隠すことができた。特に未婚者は絶対に髪の毛を見せないことがよしとされた（片倉 1979: 60-61）。

ダフ・ザイニー村で半世紀前に使用されていたが、現在も使っているという声は聞かれなかった。ジッダ都市部でも同じ名称で広く使用されていたと、2018年末にサウディアラビア国内で開かれたジャナドリーヤ祭（正式名称は「国家遺産と大衆文化の祭典」）のヒジャーズ館案内担当者から説明を受けた。

半世紀前のダフ・ザイニー村では、ムダウワラは他の衣服などと色を合わせることに意識され、鮮やかな色彩を特徴としていた。ムダウワラの上には、主に既婚者はシャルシャフ、未婚者はスマータ等の頭覆いを載せることが一般的であったが、女兒の場合はムダウワラをつけず、頭の上に直接スマータを付けている例も多かった（写真1・3）。

ウィガーヤ (wigāya وَفَايَا)

ダフ・ザイニー村において使用されていた、頭覆い布であるシャルシャフを頭覆い止めムダウワラの代用として使用したときの呼称。シャルシャフをくるくると円柱状に硬めに丸め、さらにそれを頭上で渦巻状にし、さらに最後の部分を渦巻の中央に押し込む。この状態でブリキ缶の一寸缶タナカ等の水を運ぶ容器を頭の上に置くと、安定したという。

同村での調査で、写真1を見せながら衣服の名称を確認した際、60才代と思われるある女性は、頭に被っている白地に花模様の布を指して、これはムダウワラだと言い、他の数名の女性は否定しウィガーヤだという、見解の相違があった。

この白地に花柄の生地は、他の写真でもたびたび登場しており、片倉もこのインフォーマントであった女性が好んで使用していた。ある写真の中では、彼女の頭の一番内側にムダウワラ代わりのウィガーヤとして、その花柄の布が巻かれ、その外側には別の大きなシャルシャフが2枚載っていた。つまり、日ごろムダウワラ（ハチマキ状の頭覆い止め）代わりのウィガーヤとして使用しているシャルシャフのことを、いつの間にか、ムダウワラと呼ぶようになったと推測できる。衣服には様々な側面、用途があり、ときには用途が変わると呼称が変化する例と考えられる。

4.2.3 顔覆い（飾面）

ニカーブ (niqāb نِقَاب)

黒い布の、両目部分だけを細長く長方形に切り抜いた形状の顔覆い。なお、同じ呼称でも、国や地域によって様々な色、形がある。

ただし、半世紀前のワーディ・ファーティマ地域での片倉もところによる調査ではニカーブへの言及はなく、再調査の聞き取りにおいても半世紀前に使用されていたものとして挙げられることはなかった。

一方、現在のサウディ・アラビア女性の多くは常用している。昨今は、ほとんど外から目が見えないように、目を覆う別布の付いたタイプや、または細長い1つの穴が目の部分に開いたものを指すことが多い。ドレープ性のあるとろりとした質感の、黒い薄手・無地の生地を使ったものがほとんどで、生地質はビスコース、ポリエステル等の合繊が主流である。顔面を隠す布の左右に紐がついていて、頭の後ろで結ぶようになっているが、21世紀に入ってからの若い女性の流行として、頭・髪覆いの布を掛けたあと、その上からニカーブの紐を後ろで結びしっかりとめるようになってきた。この方法だと頭・髪覆いの布がずり落ちるのを防げる上に、顔が小さく見えるという(図3)。



図3 過去と現在の衣服の種類の変化(作成:郡司みさお, 遠藤仁)

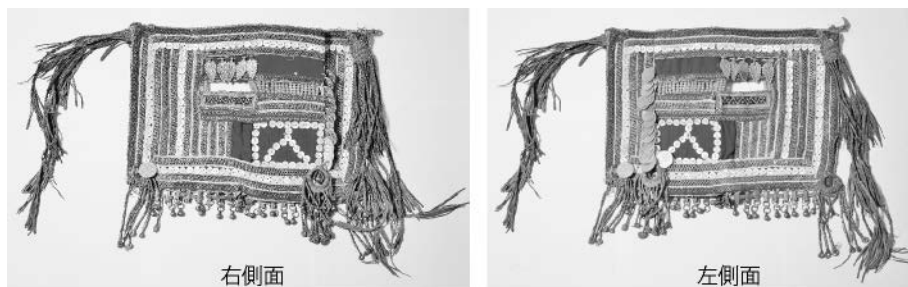


写真4 ブルグア (MKFDC_0003) の右側面と左側面 (2019年2月遠藤仁撮影)

ブルグア／ブルクア (burq'a بُرْقَة)

顔を覆う飾面で、この地域では主にプシュール村、シャーミーヤ村、サムドゥ村の女性たちが使用していた。一枚の布で目の部分だけ2箇所長方形の穴をあけ、頭の後ろで紐をしぼり固定する。約半世紀前頃に使用されていたハルブ族のブルグア／ブルクアには、大変個性豊かな装飾品やコイン、ボタン、刺繍が施され、頭の後ろで羊革の紐を縛るようになっていた(片倉 1979: 61-62)。穴は細めであるが、中から十分に外が見える。

女性たちは母親がつくってくれたものに加えて、自分でつくったり、新たに購入したりして複数所有し、日常用、結婚式用と用途に応じて使い分けていた(写真4)。現代において、一般的な女性を使用しているブルグア／ブルクアは、ニカーブと大変良く似た形状であり、生地質もニカーブと同様にビスコース、ポリエステル等の合繊が主流で、着け心地もほぼ同じである。しかし大きな違いとして、ニカーブの目の部分の穴は1つだけで、両目をカバーする細長い長方形であるのに対し、ブルグア／ブルクアは鼻筋部分に黒い細い生地が縦に付いているため、目の穴が2つになっている。このような形状のブルグア／ブルクアを、ベドウィン・スタイルだと説明する若い女性もいる。

4.2.4 内着

タウブ (トープ)／サウブ (thaub / thoub ثَوْب / ثَوْب)

既婚女性が主に着用する、直線裁ちのたっぷりとした貫頭型長衣。刺繍等が施される場合もある。半世紀前のプシュール村、ダフ・ザイニー村では、男性、既婚女性が各々着用する内着(外着として着る場合もあった)を総称していた(片倉 1979: 70; 74-75)。現在では、主に男性の白い貫頭型長衣を指すようになり、一部年配女性が着つけている状況である(図3)。

フスターン (fustān فُسْتَان)

主に未婚女性が着用する、ややハイウエストで切り替えがあり、スカートにはギャザ

ーが入った貫頭型長衣の内着（外着としても使用可）。裾にむかって広がる形をしている（図2）。フリルやレース，刺繍，ブロードテープ等が施され，華やかなデザインが多い。生地はプリントやジャガード織り等様々なタイプがあり，柄は花柄が人気であった。ブシュール村，ダフ・ザイニー村で使用され，8～9才くらいまでの女兒が外出する際，半世紀前も現在も，外着を着ずにフスターンのまま外出するのが通常である（図3）。

現在でもフスターンという言葉は一般的にワンピースを示す言葉として使用されており，未婚者のみが着用するものと限定されなくなっている。またかつては，くるぶしまでの丈の貫頭型長衣を指していたが，現在では，丈に限らずワンピースを指す場合もある。言葉としては残っているが，差し示す対象の幅が広がりつつある例である（郡司 2019d）。

クルタ (kurta كُرْتَا)

ハイウエストで切り替えがあり，スカート部分には控えめなギャザーが入った，シンプルな貫頭型長衣。礼装もしくは準礼装であるフスターンに対して，クルタは普段自宅にいるときの普段着である。フスターンとほぼ同様の形状のものもあるが，生地質がジャカード織りで金糸が入っていたり，光沢感のあり華やかな多色使いの大きな花柄だったり，高級感，豪華さが感じられるものをフスターンと呼び，平織の木綿生地で小柄やストライプ柄が入っている程度のもは，クルタと呼ぶ。衣服名称を聞き取る際，同じ衣服についてクルタかフスターンかで見解が分かれる場合もあった。

なお，クルタという呼称は現在も残っているが，若い女性の中には知らない人もいた。

4.2.5 外着

アバーヤ／アバーア ('abāya / 'abā'ah عِبَاءَة / عِبَائِيَّة)

黒い生地のできた，前開きの長衣。ブシュール村の女性からの聞き取りによると，約半世紀前は，それぞれの村，それぞれの部族が特有の伝統衣服を着ていたが，ジッダ等の町に出かけるときには，黒いアバーヤ／アバーアを被っていた，という（片倉 1979: 63）。

現在のサウディ・アラビアにおいて，ほぼすべての成人女性が外出時にアバーヤ／アバーアを着用している。半世紀前は，大きな布を生地巾いっぱいを使い，頭からすっぽりとかぶり足首までをしっかりと隠していたが，現在は，頭からではなく，肩にかけるコートタイプが主流となっている（図4）。袖がつくようになり，前開きの部分にはスナップボタンやファスナー等が付いて，活動しやすいデザインが増えている（郡司 2019c）。

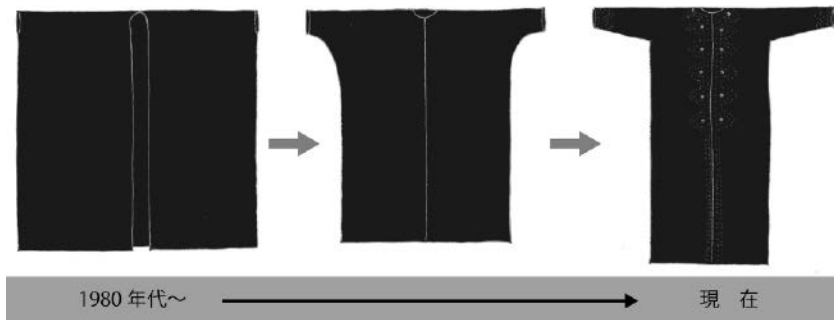


図4 黒い外着アバーヤの形の変遷（作成：郡司みさお，遠藤仁）

ムサッドフ (musaddah مُسَدَّح)

生地巾をそのまま使用し、四角く仕立てた、既婚女性用の重ね着・外着（貫頭型長衣）。オーガンジーのような透過性のある生地を使用することが多い。内着の上にもう1枚羽織るもので、外出時や結婚式等で着用された。ただ、現在のアバーヤ／アバーアのように、室内に入るとすぐに脱ぐのではなく、室内でも着用していた。夜会のときには母親が赤ん坊をあぐらをかいたひざの上のせてあやす光景がよくみられ、赤ん坊の上からふわっとかぶせて砂や風、虫等から守ったり、その中で授乳したりするのにも役立っていた。本調査にて聞き取りに参加したワーディ・ファーティマ地域の村々、ワーディ・ファーティマ社会開発センターの女性たち全員から、ムサッドフという呼称を使っていることを確認した。また世代を問わず、年配から20才代と思われる若い女性もこの呼称を知っていた。

ムサッドフに金色の刺繍を施したタイプは、サウディ・アラビア中央部のアッリヤードやアラブ首長国連邦等の湾岸地域でも広く使用されていた。ワーディ・ファーティマ地域のサムドゥ村では、現在でも結婚式のときには女兒たちが、金刺繍入りの赤や緑のオーガンジー生地のムサッドフを着用して踊るといふ。

なお、サフィヤー・ビンザグル氏から、写真1の衣服に対して、この四角い衣服の「形状」をダハーシミー (dahāshimy دَحَاشِيْمِي) と呼び、刺繍の種類によって呼称が異なる、との説明を受けた（たとえば綿ガーゼでできたタイプは、サウブ・アル＝ハーシミー (thaub al hāshimy ثَوْبُ الحَاشِيْمِي)）。しかしワーディ・ファーティマ地域での聞き取りでは、どの村においてもその呼称は挙げられなかった。

マハーリード (もしくはムドゥハー， タウブ・ハルビー)

(mahārīd, muḍhā, thaub ḥarbī مَحَارِيْد، مُضْحَاة / مُضْحَى، ثَوْبُ حَرْبِي)

細長い振袖状の袖が取り付けられた黒い貫頭型長衣で、晴れ着・外着である。刺繍，

アップリケ、キルトがたっぷりと施されており、それらはハルブ族の特徴的なデザインと考えられる。女性が結婚するときに実家から持参し、結婚式や祭りのときに着用した。マハーリードは、シャーミーヤ村での呼称であり、毎年1着、イード（断食明けの祭りイード・アル=フィトルと犠牲祭イード・アル=アドハー）に合わせて家族全員のために手縫いで新調したという（図1）。

また、同様の形状の衣服を、プシュール村ではムドゥハー、サムドゥ村ではタウブ・ハルビーと呼んでいた。ワーディ・ファーティマ社会開発センターに展示されていた衣服に同等品があるが、名称は記録されていない。

シャーミーヤ村、プシュール村では保管している人が見つからず、シャーミーヤ村では40年ほど前に使用されなくなったと説明を受けた。サムドゥ村では70才代の女性が、着用してはいないが保管していた。

4.2.6 胸前垂らし布

ミフラマ (miḥrama مِخْرَمَة)

胸の前あたりに垂らす布地で、外着のムサッダフと共布で作られることもある（写真1）。ダフ・ザイニー村において、半世紀前に使用し、ジッダでも使用されていたものと説明を受けた。よって、広範囲で使用されたものであると考えられるが、現在も着用しているという話は聞かれなかった。

4.2.7 上半身用肌着

スドリーヤ (シディーリーヤ) / スダイリーヤ

(ṣudrīya / sidīriya / ṣudayrīya / صُنْدْرِيَّة / سِيدِيرِيَّة / صُنْدْرِيَّة)

主に平織の綿生地、または綿のガーゼでできたブラウス兼ブラジャー。手作りの色付き普段着から、上等な白い薄手木綿（細番手のエジプト綿）製のものまでバリエーションがある。かつては上等なタイプの場合、ボタンに本物の金を使用し、女性が財産を持ち歩くことを意味した（片倉 1979: 59）。また、襟元、袖口のカフス回り、前開き部分等にカットワーク刺繍等の装飾が控えめに施されているものもある（写真1、図5）。本調査において、現在も使用しているという女性はいなかった。

衣服の呼称について、片倉の著作によればアラビア語およびその英語転写ではスドリーヤ (ṣudrīya صُنْدْرِيَّة) である (Katakura 1977; 1996) 一方、日本語ではスダイリーヤ (ṣudayrīya صُنْدْرِيَّة) となっている。なおシディーリーヤ (sidīriya سِيدِيرِيَّة) は本調査から得たシャーミーヤ村での呼称である。

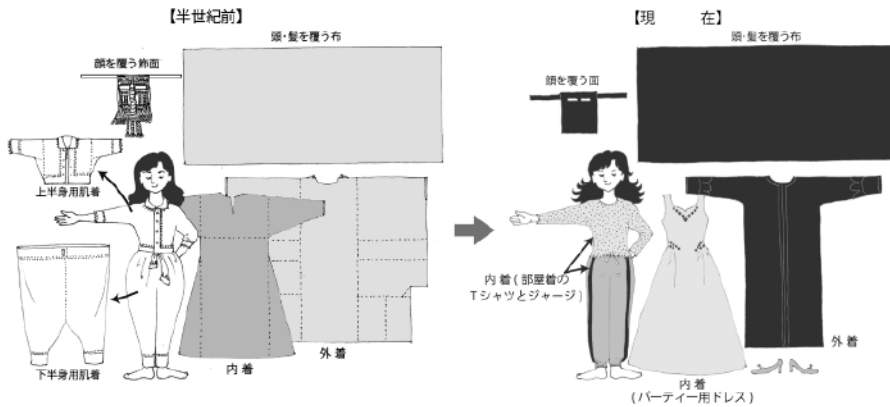


図5 女性の外着，内着，肌着の変化（作成：郡司みさお，遠藤仁）

4.2.8 下半身用肌着

スルワール／シルワール (sirwāl / surwāl / سِرْوَال / سِرْوَال)

腰から大腿部はたっぷりとしていて，足首が細く詰まった形状をしていることが特徴のズボン形肌着。腰回りは紐で縛られているため，細目の人から妊婦までフリーサイズといえる。片膝立ちのあぐらをかくとき，またはお祈りをするときにも動きやすい。

気温が高くなると，男性に比べて女性は生物学的に大腿部の皮下の血流が増えて，汗をあまりかかなくても，ここから伝導や輻射で熱を放出することができるような構造になっている。つまり，この肌着の形は，大腿部から出た熱をこもらせず逃がしやすいため，暑い時期を快適に過ごすためにも理にかなっている（郡司・坂田 2019）。さらに，虫や砂埃等の侵入を防ぐため，足首部分が細くすばまっている。

また，プシュール村とダフ・ザイニー村では，家庭内では内着を着ずに，上半身用のスドリーヤと下半身用のスルワール／シルワールのまま過ごすこともよくあったという。特に高齢の女性には多く見られたという。プシュール村では，スルワール／シルワールは着心地がよいので，現在も使っているという60才代の女性もいた（写真5）。



写真5 下半身用肌着スルワール

撮影：片倉もところ，撮影年月不明，ダフ・ザイニー村，KM_5015

5 ワーディ・ファーティマ地域の女性の衣服とライフコース

前節までの衣服の特定，名称の特定作業をもとに，本節では着用するシーンによる衣服の変化，そしてライフコース（個人が歩む人生の道すじ）における加齢に伴う衣服の変化について年齢段階ごとにまとめる。

5.1 晴れ着と日常着の変化

アイテム別の衣服変化を踏まえて，半世紀前のワーディ・ファーティマ地域におけるシーン別の衣服の変化について日常着と晴れ着の違いとしてまとめると，まず日常着は，色鮮やかな貫頭型長衣のフスターンや，タウブ（トープ）／サウブ等の上に，頭や髪を覆う布シャルシャフ，もしくはムスワンやスマダを被ることが一般的であった（郡司他 2019a）。

ワーディ・ファーティマ地域の振袖型晴れ着には多様なバリエーションがある。黒い生地には，振袖のような長い袖が付いたゆったりとした形状と，首から肩周り，胸の部分，裾の部分に施されたアップリケや刺し縫いの刺繍が，共通してみられる特徴である。

袖は一般的にクム（kum كُم）と呼ばれるが，この振袖のような長い袖はムドゥハーと呼ばれる。転じて，プシュール村では長い振袖状の袖をもつ衣服自体がムドゥハー

と呼ぶようになったと考えられる。この振袖型晴れ着は、すべて手縫いでつくられ、その呼称はムドゥハー以外にも村によって様々な名称が確認され、シャーミーヤ村ではマハーリード、サムドゥ村ではタウブ・ハルビー（ハルブ族の貫頭型長衣という意味）、ブシュール村ではムドゥハーと呼ばれていた。

5.2 女性の衣服とライフイベント、ライフコース

ワーディ・ファーティマ地域における半世紀前の女性の衣服を、ライフイベント（人生における出来事）との関係からみると、結婚が最も大きな転換点であったといえる（郡司他 2019b）。つまり、ワーディ・ファーティマ地域の女性の伝統衣服は、結婚しているか否かで、はっきりと分けられていた。ただし、結婚以前は年齢段階ごとに衣服の変化もみられる。

以下、ダフ・ザイニー村、ブシュール村において、ライフイベントを含むライフコースに即した衣服の変化についてまとめる。

5.2.1 乳児期（0～約1才）

市場（スーク）の洋品店等で売っている、上半身から下半身までがつながったパンツスタイル、いわゆるカバーオールの子着、またはパンツと被り物のTシャツのような、欧米スタイルの衣服を着ていた。

また、女の赤ん坊を外に連れ出す際には、多くの場合、布でできた帽子で日差しから守っていた。なお、肌着は、おむつの代用であった布のみである。ブシュール村では、おむつのような布として、赤等女の子らしい色を使用したと聞いた。

乳児期の衣服は、どの村でもほぼ上記のとおりであり、地域差はみられなかった。

5.2.2 幼児期（2～約4才）

2～3才くらいから、クルタやフスターンというワンピース型（貫頭）の衣服を着た。乳児期の赤ん坊と同様に、洋品店等で売っている輸入品が多かった。ブシュール村、ダフ・ザイニー村の両方とも、短い丈の衣服であっても、クルタやフスターンと呼んでいた。この2つの衣服名称に関しては、丈の長さはあまり関係ないようである。スタイルとしては、シンプルなクルタであることもあるが、多くの場合、フリルやレース等がついたフスターンである。

また、外出時も、頭に被り物はしていない。肌着は下半身用のスルワール／シルワールのみである。

幼児期の衣服についても、同村でほぼ共通であった。

5.2.3 児童期（約5～約9才）

5才ごろになると、衣服は足首まで隠れ、足の見えない丈の貫頭型長衣であるクルタやフスターンを着るようになった。ブシュール村では5才くらいから頭覆いのスマーダを着けたが、ダフ・ザイニー村では10才くらいからだったという。

外着は両村とも着用する必要がなく、肌着は下半身用のスルワール／シルワールのみであった。

5.2.4 未婚期（約10才～結婚するまで）

個人差はあるものの、初潮が始まったころから内着として長袖のフスターンやクルタを着て手首まで隠すようになる。外着は着用する必要がない。なお、肌着は共通して、下半身用のスルワールのみであった。

外出時、ダフ・ザイニー村では、スマーダやタラハ（タルハ）／タルハの他、10才くらいからシャルシャフで髪の毛と共に、顔も巻き込んで隠し始めた。髪の毛を覆う布として、ブシュール村ではタルハとスマーダが共に多いのに対し、ダフ・ザイニー村ではシャルシャフが主流で、次にスマーダが人気であったという。

ブシュール村では10～15才くらいになると、黒いブルグア／ブルクアで顔を隠し始めたという。コイン等装飾のついたブルグア／ブルクアは既婚者用であった。この時期に頭も顔も布で覆うようになる。また、村によって、あるいは部族によってそれら外着や顔覆いの名称、デザインが異なり、差異が見られた。

本調査では言及されなかったが、片倉もこの記述によれば（片倉 1979: 83）、12～13歳頃になると少女は日常的に柔らかい布でできた長方形の頭・髪覆いタラハ（タルハ）／タルハを着けはじめた。未婚の時期のほうが、衣服に対して気をつける。髪の毛はかたく三つ編みにし、頭の上に巻きあげるとめ、その上にタラハ（タルハ）／タルハをかぶった。

5.2.5 既婚期（結婚後）

内着として、タウブ（トープ）／サウブと呼ばれる直線的な貫頭型長衣を着用するようになった。胸のあたりや袖口、裾回りに刺繍等の模様が施されている場合が多かった。妊娠しても同じ衣服を着ることができくらいゆったりとしている。動きやすいため人気があり、現在でも50才代以上の女性にはタウブ（トープ）／サウブを着用している人もいる。また、結婚後もフスターンやクルタが着用されることもあった。結婚してから初めて使用する衣服のアイテムとして、上半身用肌着スドリーヤ（シディーリーヤ／スダイリーヤ）があった。これはブラジャーの役割も担っていた。

さらに、内着にはバリエーションがあり、ダフ・ザイニー村の60才代と思われる未婚女性がフスターンを着用していた。夫と離婚または死別した女性は、内着にタウブ（ト

ープ) / サウブを着ていた。

タウブ (トープ) / サウブの上には外出時は両村で外着として、ムサッダフ等を着用し、さらに頭覆いおよび顔覆いを身に着けた。また室内においてもムサッダフのまま過ごす場合もあった。

以上が、ブシュール村、ダフ・ザイニー村におけるライフイベントを含むライフコースと衣服の関係である。さらに、その他地域における頭・髪を覆って顔を隠す衣服についてもバリエーションがあった。日常生活でハルブ族やアタイバ族の女性たちは、飾面ブルグア / ブルクアをかぶっていた。またヒジャーズ地域で広くマッカ、ジッダ、そしてワーディ・ファーティマ地域の一部でも、シュユーフ族、アシュラーフ族等の女性は薄い大きな布 (ムダウワラ) で髪を隠し、その上にシャルシャフ等を眼だけのぞかせてかぶっていた。

以上のように、半世紀前のワーディ・ファーティマ地域の女性は、結婚という大きなライフイベントによる衣服の変化はありながら、その衣服やかぶり物の柄や色、巻き方等には一人ひとりの個性をも読みとることができるといえる。

6 ワーディ・ファーティマ地域の女性衣服の再評価

現在サウディ・アラビア国内では、伝統的な民族的モチーフや刺繍技術を現代服に生かす試みが、デザイナーのあいだで広く行われている。西洋文化に親しんだ後、自らの伝統を文化遺産として再評価 (リバイバル) する動きが高まっているといえる。2002年から女性ボランティアグループ「マンソージャット」は不定期に民族衣装展覧会を開催し、忘れられかけている手工芸技術を復興させるため、刺繍工房で若い女性たち、特に障害のある女性の採用に力を入れている (サウジ・アラムコ 2005)。

本調査においても、ワーディ・ファーティマ地域の伝統衣服にみられるデザイン・装飾とGコレクションに共通する部分が見つかった。以下、デザイン・装飾を具体的に比較検討していく。

6.1 女性の衣服のデザイン・装飾の変化

6.1.1 刺繍

ワーディ・ファーティマ社会開発センターに所蔵されている伝統衣服の刺繍には、一般的なウェイブステッチ、チェーンステッチ等が見られる (Ross 1981; Topham et al. 1982)。ウェイブステッチで連続した三角形の模様を柄の一番外側に施すのが特徴的であるが、刺繍には実に様々なステッチが使われていた (図6)。特筆すべき刺繍・アップリケ装飾として、三角錐のように盛りあがった丸いベドウィン・ピナクル (スパイダーズ・ウェイブステッチ) と呼ばれる刺繍、赤い毛糸を縦横にくくりつけるコーチングス



図6 (a) 振袖用晴れ着の胸部に施されたベドウィン・ピナクル
 (b) 振袖用晴れ着の胸部に施されたベドウィン・ピナクルの拡大
 (c) アップリケとコーティングステッチ (出典: 郡司 2019a)

テッチ, 紺色と白の千鳥格子生地を使用したアップリケの3点が確認される。これらはすべてハルブ族の衣装の特徴といわれる (Topham et al. 1982; Ross 1998)。

次に示すものは, 特に多用されていたステッチである。

(1) ボタンホールステッチ

この刺繍では, 幅5mmから10mmほどの太い線を, 一方向に描いている。ブランケットステッチとも呼ばれる刺繍だが, 詰めてきっちりと刺すことによって面での表現ができ, 力強さが増す。

(2) ストレートステッチ

刺繍部分の末端, 無地の生地と接するところにおいて, 三角形の連続模様を表現するために使用される。この三角形という形状の持つ意味について, ワーディ・ファーティマ地域でサムドゥ村とダフ・ザイニー村において確認したが, 誰も知らないという答えであった。

一方, Al Tayibat City Museum for International Civilizationのエジプト人学芸員の説明によれば, 三角形のデザインは家で使用されたり, 女性の衣服等に使用されていることが多く, 家庭内での女性の地位が安定していることを示す場合がある, という。

(3) チェーンステッチ

鎖状につながった線を表現するステッチ。多くの場合, 柄と柄の境目等に, 直線の表現として使用されている。チェーンステッチを3本続け, 白, 赤, 白と交互に色を変えているケースが見られた。

(4) ベドウィン・ピナクルステッチ

はじめに3本の線を交差させて星形を差し, その後中央から外周に向かって円を描くようにきつめに刺繍していく。すると刺繍部分は徐々に高さを帯び始め, 最終的には円錐のようにとんがった形状となる。伝統衣服の胸部に4つから6つ配置され, ハルブ族の女性の衣服の代表的な特徴を有している。

(5) コーティングステッチ

太目の糸で柄をつくり, それを別の細い糸で生地にとめつけていく刺繍だが, これも

ハルブ族の伝統衣服に見られる顕著な特徴のひとつとされる。ハルブ族の伝統衣服では、ダルトーンの深い赤色の糸を使用し、ストライプやチェックを表現している。なお、現在の日本のアパレル業界では、同様のテクニックで刺した刺繍がコードステッチと呼ばれるときもある。

6.1.2 アップリケ

アップリケとは、土台となる生地の上に小さな別の生地を置き、ステッチで縫い付けたものである。古くは当て布として、傷みかけた部分や破れたところを補修する意味で始まった。

アップリケはハルブ族の衣装にみられる特徴のひとつと考えられている。特に、アップリケの生地としてインディゴ、またはインディゴブルーと白の小さな千鳥格子の生地を使用することが、アラビア半島に広く分布するハルブ族の衣服の共通点である (Ross 1981)。Al Tayibat City Museum for International Civilization においても、ハルブ族の衣装とみられる衣服には、ほとんどこのインディゴブルーと白の小さな千鳥格子の生地を使用していた。このアップリケは衣服の裾や肩に使用されており、傷みやすい場所の補強としての意味合いもあったと考えられる。アップリケの上にさらにコーチングステッチを模様として、また補強として施している。

6.1.3 キルト

キルトとは、表布と裏布の間に布や綿をはさみ、細かいステッチで三重組織に仕立てたものである。古くは、十字軍が防護服としてキルティング生地で作った衣服を使用していた。小さな端切れを縫い合わせるにより頑丈さを増し、同時に模様としての演出もできる。その上、古くなった衣服等の小さな端切れを再利用することができるため、ものを大切に使うという精神にも即している (玉木 1992)。

ワーディ・ファーティマ社会開発センター所蔵の衣服 WFSDC_0115 (遠藤他 2021: 表 6, 写真10) を調査した際、伝統衣服の裾にキルトが取り付けられており、キルト部分の裏地には、ピルズベリー社の商標や「AUGUST 1966」, 「A. H. R. / DAMMAM」, 「PATENT XXXX Flour」という文字が読み取れた。ピルズベリー社とは、アメリカ合衆国ミネソタ州ミネアポリスに本社を置く、穀物や食品取り扱いの世界最大大手企業のひとつである。小麦粉袋に使用された綿100%の平織の薄手生地は、キルトの裏地とするのに適しており、衣服に再利用されたと推測できる。この衣服についての記録は残されていないが、キルトの情報から1966年8月以降に製作されたものであることは確かといえる (図7)。



図7 ワーディ・ファーティマ社会開発センター所蔵の振袖型晴れ着の背面裏地（出典：郡司・藤本・渡邊 2019を一部改変）

6.2 デザイン・装飾のリバイバル

6.2.1 プリント柄

GコレクションにおけるG-C_004女児用フスターンは、本調査によって半世紀前にワーディ・ファーティマ地域で着用されていた衣服と同等品であると判明し、ビスコース混素材と思われる平織のカラフルな花柄生地が使用されていた。生地は後染めの4～5版プリントで、緩い織りである。地色はビビッドトーンの緑、ターコイズブルー、赤みの青、黄色、茶色、白があり、その色の中にバラの小花が飛んでいるプリント柄である。それら6種の生地をパッチワークして、このフスターンは作られていた（図8）。

さらに、この生地とほぼ同じ柄、同じ色合いの生地が2018～2019年の調査中、ジッターの旧市街にある市場で数多く見受けられた。また、この生地を用いて製作された衣服、

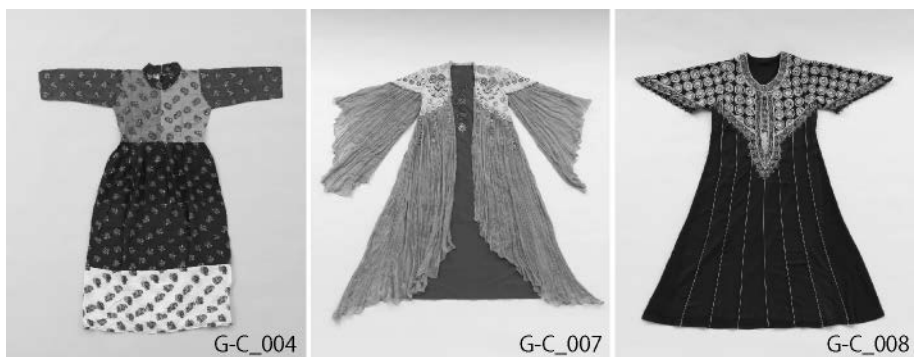


図8 伝統衣装のリバイバル（2019年2月藤原一徳撮影）

室内着、小物等が店先に出回っていた。ジッタ女子工業大学の学生が同じ生地を使用して、昔に流行した服をイメージして再現したというカラフルなパッチワークのフスターンを製作しており、同大学の服飾専門家によれば、近年花柄プリント生地は復刻版として非常に脚光を浴びているという。特に断食が行われるラマダーン月が近づくと、懐古趣味の高揚と共に人気が高まるということであった（郡司 2019b）。

6.2.2 デザインモチーフ

現代の衣服においても、コーチングステッチ、ベドウィン・ピナクル等の刺繍技術や、振袖状の長い袖がついた衣装の形状が、リバイバルされているものがある。

GコレクションのG-C_007やG-C_008は、サウディ・アラビアのデザイナーによる新しいコレクションであるが、「よみがえる伝統」がテーマとなっており、伝統的モチーフやイメージが現代的に加工されている。

G-C_007には、かつての伝統衣服のように三角形の袖が付いており、その肩回りには丸い形の渦巻刺繍が施され、ベドウィン・ピナクルステッチを思い出させる。刺繍そのものはベドウィン・ピナクルステッチではないが、イメージモチーフとして採用している。また、中央にはベドウィン・ジュエリーの一部を連想させるようなメタル製の装飾品がぶら下がり、胸元の左右にも、丸いビーズの飾りが下がっている。素材は現代的なものではあるが、かつての鉛ビーズや珊瑚ビーズを思い出させる。

G-C_008の胸元から肩、袖にもベドウィン・ピナクルステッチをイメージした丸い形の刺繍があり、袖口の端には小さなプラスチックビーズが縫い付けられている。中央に下がっているプラスチックビーズのタッセルは、おそらくかつての伝統衣装やブルグア／ブルクアに縫いとめられていた鉛ビーズや粒銀細工のイメージであろう。また、細いパイピングテープを使用して、伝統のコーチングステッチ風の演出をしていることも特徴である（図8）。

7 おわりに

本稿では、国立民族学博物館と片倉もとこ記念沙漠文化財団が所蔵する衣服コレクションならびにGコレクションにおいて、ワーディ・ファーティマ地域で半世紀前に着用されていたもの、もしくはその同等品とみなしうるものを特定した。そして、片倉もとこが半世紀前に撮影した写真をもとに現地の人々に聞き取りを行った結果、衣服とその名称のバリエーションと現在までの変化を示すことができた。とくに女性の衣服は、血縁・地縁の影響を受けながら、個人の人生と結びついて多様な変遷をたどっていることを明らかにした。

また、女性の伝統衣服において特徴的なデザイン・装飾に着目することで、表されて

いる民族的特徴や、再利用の精神と技術をすくいあげることができた。さらに、Gコレクションの現代衣服に用いられたデザイン・装飾と比較検討し、伝統的な民族的モチーフや刺繍技術が現代服に活用され、文化遺産として再評価（リバイバル）されている動きを確認できた。伝統衣服の多くは変化し失われてきた一方で、その特徴的部分は復刻し加工されて現在ものこり続けているといえる。

ただし、本調査において記録した衣服の名称や着用の実態について、さらなるバリエーションが存在することが予想され、今後も調査を重ねる必要がある。

具体的な課題としては、ワーディ・ファーティマ地域の衣服文化にみられる他地域の影響や交流をどう考えていくかという点がある。今回情報を得られなかった衣服写真について、人々は基本的に被写体の衣服が自分の村のものであるかどうか即答したが、南の地域のものではないか、と答えた写真が5枚あった。この「南」という表現には、注意が必要である。Rossが伝統衣服について調査した際、年配女性の貿易業者から、「南から」のものだと説明された衣服の多くが明らかにそうではなかった、と述懐している（Ross 1981: 9）。ただし一方で、人々の交流が盛んであった歴史から、ワーディ・ファーティマにおいて様々な地域の影響を受けた衣服文化が形成されたと推測されるため、衣服の名称や素材、デザイン等を対象として、具体的な事例を積み重ねて、考察を深めていきたい。

調査の成果のもととなった写真の被写体人物や撮影地の同定を進め、さらに被写体の親族関係・社会関係を明らかにしていくことで、衣服と人の関係についての新たな側面を浮き彫りにすることができる。背景に写った景観や家屋等、人物以外の被写体と衣服の関係についても今後、調査と分析を継続していきたい。

参考文献

〈日本語〉

遠藤仁・渡邊三津子・藤本悠子・古澤文・郡司みさお／アナス・ムハンマド・メレー／黒田賢治・西尾哲夫・縄田浩志

2021 「国立民族学博物館収蔵片倉もとこ収集資料とサウディ・アラビア, ワーディ・ファーティマ社会開発センター所蔵生活用具との比較研究」『片倉もとこフィールド調査資料の研究』西尾哲夫・縄田浩志編（国立民族学博物館調査報告153）pp. 87-138, 大阪：国立民族学博物館。

片倉もとこ

1974 「遊牧民集落の成立とその態容：サウジアラビア, ウサイダの事例」『東洋文化』54: 130-164。

1979 『アラビア・ノート——アラブの原像を求めて』東京：NHK出版。

郡司みさお

- 2019a 「刺繍とアップリケ——リバイバル」 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.86-87, 東京：河出書房新社。
- 2019b 「生地と柄——リバイバル」 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.88-89, 東京：河出書房新社。
- 2019c 「外着アバーヤの変遷」 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.90-91, 東京：河出書房新社。
- 2019d 「現代によみがえる内着フスターン」 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.92-93, 東京：河出書房新社。
- 2019e 「現代女性の装い」 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.94-95, 東京：河出書房新社。

郡司みさお・坂田隆

- 2019 「肌着——暑熱を逃がし、肌を守る工夫」 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.80-81, 東京：河出書房新社。

郡司みさお・藤本悠子

- 2019 「飾面の材料とつくり方」 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.98-99, 東京：河出書房新社。

郡司みさお・藤本悠子／アナス・ムハンマド・メレー

- 2019a 「女性の晴れ着と日常着」 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.74-75, 東京：河出書房新社。
- 2019b 「未婚女性と既婚女性の衣服」 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.76-77, 東京：河出書房新社。
- 2019c 「女性の外着、内着、肌着」 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.78-79, 東京：河出書房新社。

郡司みさお・藤本悠子／アナス・ムハンマド・メレー／縄田浩志

- 2019 「女性の衣服——半世紀前と現在」 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.70-73, 東京：河出書房新社。

郡司みさお・藤本悠子・遠藤仁／アナス・ムハンマド・メレー

- 2019 「飾面のデザインと飾り」 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.96-97, 東京：河出書房新社。

郡司みさお・藤本悠子・渡邊三津子

- 2019 「縫製——リサイクル」 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.84-85, 東京：河出書房新社。

サウジ・アラムコ

- 2005 『サウジアラビア——アラビア文化の諸相』 ザフラーン：サウジ・アラムコ。

坂田隆

- 2019 「暑熱と寒暖差への対応」 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私』』 pp.50-51, 東京：河出書房新社。

玉木真紀

- 1992 「キルティングとパッチワークの文化」 共立女子大学所属アメリカン・アンティークキルトコレクション編集委員会編『共立女子大学所蔵 アメリカン・アンティークキルト

コレクション』 pp. 153-157, 東京：日本ヴォーグ社。

縄田浩志編

2019 『サウジアラビア, オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」』
東京：河出書房新社。

縄田浩志／アナス・ムハンマド・メレー

2019 「男性の衣服」縄田浩志編『サウジアラビア, オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」』 pp. 68-69, 東京：河出書房新社。

縄田浩志・渡邊三津子／アナス・ムハンマド・メレー

2019 「オアシス, ワーディ・ファーティマの歴史」縄田浩志編『サウジアラビア, オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」』 pp. 20-21, 東京：河出書房新社。

〈外国語〉

Awlad, 'A.

2016 Modesty, Gender, and Sexuality. In Abu-Lughod, L. (eds.) *Veiled Sentiments: Honor and Poetry in a Bedouin Society*, pp. 118-168. Berkeley, CA: University of California Press.

Binzagr, S.

1979 *Saudi Arabia: An Artist's View of the Past*. Lausanne: Three Continents Publishers.

1999 *A Three-Decade Jorney with Saudi Arabia*. Jiddah: Darat Safeya Binzagr.

Katakura, M.

1977 *Bedouin Village, A Study of a Saudi Arabian People in Transition*. Tokyo: University of Tokyo Press.

1996 *Ahal al-Wādī, Dār al-Qārī al-'Arabī*. (in Arabic)

Mols, L. and A. Vrolijk

2016 *Western Arabia in the Leiden Collection: Traces of a Colourful Past*. Leiden: Leiden University Press.

Topham, J.

1982 *Traditional Crafts of Saudi Arabia*. London: Stacey International.

Ross, H.

1994 *The Art of Bedouin Jewellery*. Clarens-Montreux: Arabesque Commercial SA.

1998 *The Art of Arabian Costume*. Clarens-Montreux: Arabesque Commercial SA.

参考ウェブサイト

Saudi Arabesque

2016 Traditional woman dress of Harb tribe, Saudi Arabia.

<http://saudiarabesque.com/traditional-woman-dress-of-harb-tribe-saudi-arabia/> (2020年10月15日最終閲覧)

片倉もとこフィールド調査写真によるレポート写真撮影 と新旧比較写真の作成

渡邊三津子¹⁾²⁾・古澤 文²⁾・遠藤 仁³⁾⁴⁾・片倉邦雄²⁾・藤本悠子²⁾・
河田尚子²⁾／アナス・ムハンマド・メレー²⁾⁵⁾／石山 俊⁶⁾・縄田浩志²⁾⁴⁾

1) 奈良女子大学, 2) 片倉もとこ記念沙漠文化財団, 3) 人間文化研究機構,
4) 秋田大学, 5) ムスリム世界連盟日本支部, 6) 国立民族学博物館

1 はじめに

1.1 リポート写真撮影 (repeat photography) とは

リポート写真撮影 (“repeat photography” または “rephotography”) とは、ある写真が撮影された場所を再訪し、被写体や景観を、同じ地点から、同じ方向、同じ角度で、異なった時期・時間に撮影することを指す。過去の写真は、繰り返し撮影されることで、時間の経過とともに変化していく記録の一部となり (Rogers et al. 1984: xii)、作成された新旧比較写真の被写体や風景の判読を通して景観変化を検討することができる。

歴史的には、バイエルンの数学者 Sebastian Finsterwalder が、東アルプスの Vernagtferner 氷河において、氷河の後退を確認するために1888年と1889年に、定点で繰り返し写真撮影を行ったのが最初の試みとされている (Hattersley-Smith 1966)。以降、地理学、地質学、植物学等の分野において、自然景観の変化を質的・量的に評価するためのツールとして活用されてきた (Rogers et al. 1984; Webb et al. 2010)。

人文社会学的文脈における利用は、“repeat photography” の考え方や技術を下敷きとして、“rephotography” の造語を生み出した写真家の Mark Klett らが1970年代に実施した “Rephotographic Survey Project” (RSP プロジェクト) が最も初期のものとして挙げられる。Klett らは、19世紀の写真家たちが撮影したアメリカ西部の沙漠と都市の風景について、地図やメモ等を参考に可能な限り撮影地点を特定し、アングルや光の加減までオリジナル写真を再現した (Klett et al. 1984)。Klett らによる RSP プロジェクトとしては、写真家 Eadweard Muybridge が1878年に撮影したサンフランシスコのパノラマ風景写真を同様の手法で再撮影した Muybridge and Klett (1990)、1906年に発生したサンフランシスコ地震と火災の後に撮影された写真を再撮影した Klett *et al.* (2006) 等がある。一連の RSP プロジェクトは、人文社会学分野の研究手法としてリポート写真撮影が広く使われる契機となった。近年では、落書きをめぐる都市的景観の変遷や、落書きを規制する政策やそのプロセスとの関連性の考察等にもリポート写真撮影が用いられている (Andron 2016)。

こうした研究の成果は、論文や書籍だけでなくインターネットアーカイブとして公開されるようになっており、例えば、バーモント大学の [The Landscape Change Program]

では、約200年間のバーモントの景観変化を、誰でも気軽に無料で楽しむことができる (University of Vermont 2020)。

日本国内においては、“repeat photography”という言葉こそ使われていないものの、景観変化を読み解くためのツールとして新旧写真を比較するという手法は広く用いられてきた。例えば平岡 (2005) は、国土交通省天竜川上流工事事務所が発行した写真集の中から撮影地点が同定可能な170枚の写真について、同じ視点場から同じアングルで写真を撮影し、明治42 (1909) 年以降の景観変化を明らかにしている。また、浜田 (2007) は、民俗学者・濹澤敬三らが昭和初期に撮影した写真の中から、韓国の蔚山村で撮影されたものを用いて、撮影当時と現在の比較を通して景観変化を読み取ろうとしている。

このように、国内外で景観変化に関する研究手法として用いられているリピート写真撮影であるが、この手法を採用するにあたって最も重要なのは過去の写真の存在である。この場合の「過去の写真」は、「分析の対象となる期間の起点」と言い換えてもよい。例えば、Finsterwalderらのように氷河の定点カメラによるリピート写真撮影を開始する場合には、その開始時点がデータ蓄積の起点となる。Andron (2016) のように、都市部で短期間に作成と消去が繰り返されるような落書きを対象とする場合にも、自ら分析の開始期間を設定し、時には自らリピート写真撮影の起点となる写真を撮影することができる。しかし、Klett *et al.* (1984) や、平岡 (2005)、浜田 (2007) らのように、半世紀から1世紀あるいはそれ以上といったスパンで過去と現在を比較しようとする試みの場合は、その時代の写真がなければ研究をスタートさせることもできない。逆に言えば、ある程度過去の時代の写真があり、その写真の撮影地点を同定できる可能性があるならば、リピート写真撮影により過去から現在、さらには現在から未来へとつながる景観変化に関するデータセットを作成できる可能性がある。この点で、国内外でフィールドワークを実施してきた先人たちが遺したフィールド調査写真は、過去の景観と現在の景観、過去と現在の間に起こった変化を知るための貴重な歴史的資料になりうる。

1.2 歴史資料としての写真とメタ情報の重要性

一方、完全な撮影場所の一致ができない場合でも、過去の景観や人々の生活を知るための材料として古い写真のもつ歴史資料的価値はいささかも失われることはない。むしろ、過去の写真の中であって場所が特定できないもののほうが圧倒的に多くを占めるが、そこから読み取れることは多い。例えば、東京国立博物館の「古写真データベース」(東京国立博物館 2020) や、長崎大学附属図書館の「幕末・明治期日本古写真メタデータ・データベース」(長崎大学附属図書館 2020) 等は、インターネットを通して自由に閲覧が可能となっており、写真を通して撮影当時の風景や人々の暮らしの変化を視覚的に示そうとする試みの好例である。

しかし、リピート写真撮影を試みる場合も、そうでない場合でも、過去の写真を歴史

資料として活用する場合には、少なくともその写真の風景が、「いつ」の「どこ」のものであるかぐらいは分かっているなければならない。しかし、過去の写真資料の中には撮影場所や時期といったメタ情報が十分でないものも多い。いずれにしても、青山（2017）が指摘するように、写真を歴史資料として利用しようとする際には、写真の風景が「いつ」と「どこ」のものであるかを確定することが出発点となるのである。

1.3 片倉もとこフィールド調査写真を用いた景観変化の検証の可能性

片倉もとこ（1937～2013）は、文化人類学者・人文地理学者として、サウディ・アラビアをはじめとする中東地域の遊牧民やイスラーム文化の研究に従事した。多くの地理学者がそうであるように、片倉もともまた、調査記録として多くの写真を撮影している。片倉もとこフィールド調査写真の原本には、35mmのネガティブ・フィルム、リバーサル・フィルム（ポジティブ・フィルム）の他に、120mmフィルム（ブローニー版）、紙焼き写真、コンタクトプリント等があり、2020年3月現在で61,989シーン分の存在が確認されている。その内訳は、ネガティブ・フィルム18,890シーン、リバーサル・フィルム30,410シーン、ブローニー版11シーン、紙焼き10,508シーン、コンタクトプリント2,170シーンである（縄田・藤本他 2021）。

最終的にはネガティブ・フィルム5,316シーン、リバーサル・フィルム9,707シーン、ブローニー版4シーン、紙焼き写真401シーンの合計15,428点のデジタルファイルを「片倉もとこ中東コレクション（The Motoko Katakura Middle East Collection）」という名のもと国立民族学博物館が運営する「地域研究画像デジタルライブラリ」（略称DiPLAS）において、デジタル写真の保存・活用を目的としてアーカイブ登録された。登録に際してのID番号は「KM」として、その後5桁の番号をふった（縄田・西尾他 2021）。なお、本研究では、片倉もとこフィールド調査写真の中から、この「片倉もとこ中東コレクション」に登録された写真を利用して、リピート写真撮影および新旧比較写真を作成した。

写真の歴史資料的価値という点では、ワーディ・ファーティマ地域をはじめとした中東地域の非都市部において1960年代から2000年代まで継続的に撮影されていること、ムスリム社会において女性の日常生活を撮影した貴重な資料であること等の点からその価値は非常に高いといえる。加えて、景観変化の復元という観点からは、1960年代から2000年代まで継続的に撮影されているという点も非常に大きい。もし、片倉もとこフィールド調査の撮影地点を再訪し、リピート写真撮影を行うことができるならば、過去半世紀の景観変化を明らかにすることができるだけでなく、将来にわたってより長期の景観変化を追跡できる可能性が期待できる。

そこで、私たち調査グループの研究プロジェクトでは、サウディ・アラビア、マッカ州、ワーディ・ファーティマ地域の過去半世紀にわたる景観変化の検証を目的として2018

年から2019年にかけて実施した3回の再調査によって、片倉もとこフィールド調査写真の撮影地点の同定とリピート写真撮影を試みた。実際に、リピート写真撮影にこぎつけるまでには、低くはないハードルがあったが、現在までに、パノラマ合成写真を含めて50点の新旧比較写真を作成することができた。

本稿では、撮影地点の同定とリピート写真撮影のプロセスを概説するとともに、撮影地点の位置情報を加えて追跡可能な形で作成した新旧比較写真とその一覧表を提示する。

2 撮影地点の同定作業とリピート写真撮影

2.1 撮影地点の同定作業

リピート写真撮影を行う際には、その写真が「どこで」撮影されたかを示す情報が不可欠であることに加え、景観変化の復元という観点では「いつ」撮影されたかが重要になる。しかし、片倉もとこフィールド調査写真は、そもそも第三者が研究を引き継ぐことを想定していなかったと考えられるため（縄田・藤本他 2021）、撮影順あるいはテーマ別等写真群によって整理・保管方法が異なること、著作や講演等に利用するために収納ケースから抜き取られている場合があること、著作等での記述はあるものの、野帳等から撮影当時の状況と対応できる資料が少なく、写真自体に附随するメモが多い写真と少ない写真の差も顕著である（縄田・西尾他 2021）。このような点が、いざリピート写真撮影をしようとする場合には低くはないハードルとなった。

リピート写真撮影を行う前に、片倉もとこ自身がフィールド調査写真の保存ケースや写真の裏面等に遺した自筆のメモや著作等の分析を踏まえて、撮影地点を絞り込み、現地調査を経て撮影地点を同定する必要があった。以下、片倉もとこフィールド調査写真における、撮影地点の同定プロセス（図1）を概説する。

撮影地点の同定作業は、整理・保管状況の確認から始まった（図1A：整理・保管状況の確認）。その際、ワーディ・ファーティマ地域調査時（1968～1970年）に撮影された写真のフィルムについて、写真の内容に対応する詳細なメモが書かれた封筒が見つかった（写真1）。このような自筆のメモや著作の分析を通して、撮影場所が、ブシュール（Bushūr）、ダフ・ザイニー（Daf Zayny）両集落もしくはワーディ・ファーティマ地域周辺の集落のいくつかではないか、というレベルまでの絞り込みは可能と見込まれた。そこで、はじめに「片倉もとこ中東コレクション」に登録された約16,000シーンの写真資料群の中の個別の写真について、メモや当該写真が掲載されている著作の内容を精査し、ブシュール村、ダフ・ザイニー村を中心としたいくつかの集落で撮影したと推測される写真130シーンを選定した（図1B：撮影場所の推定（第1段階））。2018年5月に実施した現地調査では、選定した130シーンの写真を印刷して持参し、聞き取り調査を試みた（図1C：現地調査（第1回））。

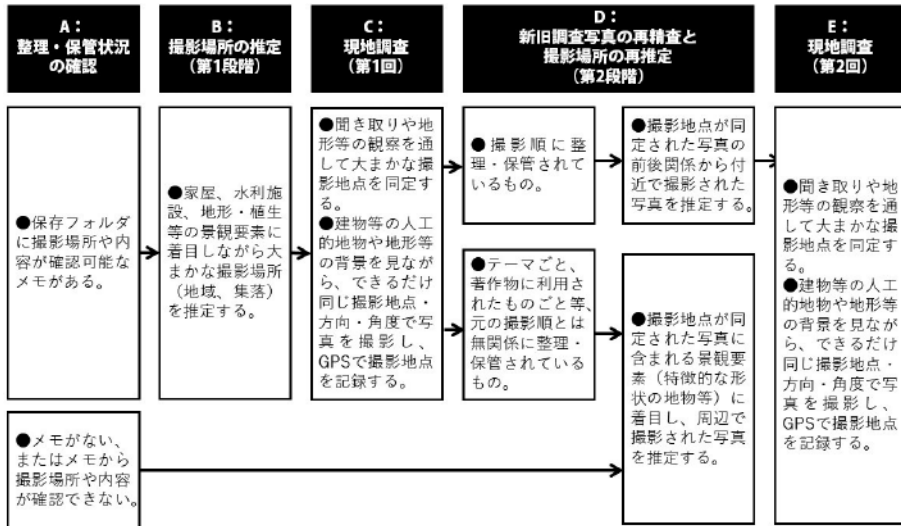


図1 片倉もとこフィールド調査写真の撮影地点同定のフロー
(出典：渡邊他 (印刷中) を和訳し、一部修正)



写真1 片倉もとこフィールド調査写真に残されたメモ
(出典：渡邊他 (2019: 32-33) を一部修正)

2018年5月の現地調査時の聞き取り調査において、現地カウンターパートであるワーディ・ファーティマ社会開発センター職員や、片倉もとこの調査時のことを知る住民に写真を見せながら、それぞれの写真の場所に見覚えがあるか否かを確認してもらったところ、持参した130シーンの写真のうち、15シーンの撮影地点を同定することができた。撮影地点が同定された15シーンについては、後述するようにリピート写真撮影を行うとともに、位置情報をGPSで記録した。

第1回目の調査から帰国した後、現地調査で撮影地点が判明した写真を起点として、写真の前後関係や、特徴的な地物に着目しながら被写体の再精査を行い、さらなる撮影地点の推定を進めた(図1D:新旧調査写真の再精査と撮影場所の再推定(第2段階))。例えば、撮影の前後関係が明らかでない一連の写真に関しては、調査地点が確認された写真の前後に同じ人物や建物が写り込んでいれば同一集落内で撮影された可能性が高いと判断されるため、比較的容易に同定することができた。現地調査である程度の集落の絞り込みができた後であれば、被写体を丹念に比較対照させることで、情報が少ない別のケースに保管されている写真群についても、撮影集落の推定が十分に可能であった。

第2回目以降の調査については、第1回目の調査後に撮影集落や撮影地点が推定されたものを中心に、地域住民への聞き取りや地形観察を行った。非常に地道な作業ではあるが、この作業を繰り返すことによって、撮影地点同定とリピート写真撮影の作業は少しずつ進展した。結果、2018年5月、2018年12月~2019年1月、2019年9月の3回の調査を経て、2020年9月現在までの間に、パノラマ合成写真を含む240シーンの写真撮影地点が同定され、うちパノラマ合成写真を含む50シーンについてはリピート写真撮影を行うことができた。なお、詳細な撮影地点の同定プロセスについては、別稿(渡邊他 印刷中)を参照されたい。

2.2 本研究におけるリピート写真撮影の方法

Finsterwalder が東アルプスで実施した事例や、植生調査等で用いられるリピート写真撮影は、定点カメラを用いた撮影が行われることが多い。また、KlettらのRSPプロジェクトは、撮影地点やアングルだけでなく、光の加減、つまり時期、天気、時間等も考慮した厳密なものである。平岡(2005)のように、新旧写真をデジタル処理し、定量的に比較するような場合にも、厳密な場所の特定が求められる。こうした方法論については、Webb *et al.* (2010)、Rogers *et al.* (1984)、Klett *et al.* (2006)、Klett (2011) 等で、カメラを適切な位置に配置し、適切な焦点距離のレンズを使用し、同じポイントを狙って、一日の同じ時間に、一年の同じ時間に撮影する(太陽光の入射角が同じになるようにする)こと、等の方法が示されている。また、撮影時の状況や、最初の写真を撮影した撮影者が研究者である場合は、その研究上の興味や関心に基づいて風景が切り取られている可能性があること、写真家の場合は、レンズの使い分けによる遠近感の変化や陰影の強調等被写体の写真の外観がコントロールされている可能性があること等、最初の写真を選択する際のバイアスが事実上避けられないことを認識し、そのバイアスが新旧の写真と比較した際に見られる変化の解釈に影響を及ぼすことを認識しておくことが必要であること(Rogers *et al.* 1984) 等、考慮すべき点についても論じられている。

これらの既に蓄積された手法を参考としてリピート写真撮影を行えば、分野を問わず利用可能な新旧比較写真が作成できる。しかし、現実問題として、上述の条件を満たし

たりレポート写真撮影を行うためには、膨大な現地調査の時間と熟練の技術が必要となる。特に現地調査にかけられる時間の制約という観点から、本研究においては、できるだけ厳密さを心がけつつ、以下の方法でレポート写真撮影を行った。

まず、聞き取り調査により撮影地である可能性が高いとされた地域を訪れ、被写体となっている人工物、例えば Masjid (モスク) 等の建物や山地を探した。目当ての人工物や地形が見つかった場合、片倉もとこフィールド調査写真とカメラのファインダーを見比べながら具体的な撮影地点を探った。この際に重視したのは、手前の人工物と背後の地形との位置関係で、これらの要素の位置関係が片倉もとこフィールド調査写真と、カメラのファインダーの中の風景とで重なれば (写真2)、その写真はそこで撮影されたと判断した。厳密な特定ではないものの、出来上がった新旧比較写真を見る限り、景観の変化を読み解くには十分な解像度であると判断した。なお、家屋の増加等により、厳密に同じアングルで撮影することが難しい場合等も多々あり、若干の場所のずれがあるものもある。その場合には写真の撮影情報と合わせて、データセット一覧表の備考欄にその旨を記載した。

しかし、農地と背後の山地しか目印がない場合には、遠景になればなるほど特定は困難であった。その場合は、衛星画像を参考にしながら慎重に特定を進めた。その結果、何枚かの写真については、候補地が数か所にしか絞れなかったものもある。この場合に



写真2 リポート写真撮影の様子
(撮影：遠藤仁，2019年1月，プシュール)

については、候補となる場所の位置情報と写真を並列し、データセット一覧表の備考欄にその旨を記載した。

2.3 残された課題

現地調査と調査後の被写体の再精査を通じた撮影場所の推定を繰り返すことで、片倉もとこフィールド調査写真の撮影地点同定は、少しずつ進展してきた。しかし、実際にリピート写真撮影を行うのは現地調査の際であるが、場所の推定に関しては、調査後に被写体を再精査する中で分かることが多い。調査後に、自分たちの調査写真と片倉もとこフィールド調査写真とを比較する中で、思わぬ場所で同じ被写体が発見されることがあるからである（渡邊他 印刷中）。こうした「偶然の一致」については、Smith がリピート写真撮影を行うきっかけとなった心打たれた体験として紹介しているように（Smith 2007: 180-181）、完全なる偶然というわけではなく、しばしば起りうる現象である。

具体的には、撮影した写真の一部分が、片倉もとこフィールド調査写真と一致する、という場合が多い。このため、これまで作成した新旧比較写真の中には、撮影地点が既に確定しているものについては、オリジナルの写真から切り抜いた写真で仮にマッチングを作成しているものもある。これらの写真については、次回以降の調査の際にその場所を再訪してリピート写真撮影を行い、正式な新旧比較写真を撮影する必要がある。また、この経験から、リピート写真撮影を行うプロジェクトでは、古い写真の撮影者が訪れた場所では、全方位の写真を撮影しておくことが提案できる。

3 本研究プロジェクトで作成されたワーディ・ファーティマ地域の新旧比較写真

既述のように本研究プロジェクトでは、現在までに、パノラマ合成写真を含めて50点の新旧比較写真を作成することができた。以下、被写体が女性であったこと等から現時点では非公開とした写真群を除く、ワーディ・ファーティマ地域で撮影された新旧比較写真のメタ情報の一覧（表1）と新旧比較写真46組（写真3～48）を示す。

一覧表の記載内容は以下のとおりである。

- ①ID 番号：片倉もとこフィールド調査写真を整理・デジタル化した際に付与したKM から始まる番号（縄田・西尾他 2021）。パノラマ合成を行った場合には、使用した写真全ての番号を記載した。
- ②片倉もとこフィールド調査写真：縮小画像
- ③撮影者：当該の片倉もとこフィールド調査写真の撮影者。基本的には片倉もとこが撮影者であるが、片倉が被写体となっている場合には「不明」とした。

- ④撮影時期：保存ケースまたは個別の写真に付与された情報から撮影時期が分かるものについて記載し、分からないものについては「不明」とした。書籍や講演等で利用するために他のケースに移されて、一連の写真の連続性が崩れてしまった結果、撮影時期が確実に判断できない場合にも「不明」とした。
- ⑤リピート写真 (1)：私たちの調査グループが新たに撮影した写真の縮小画像
- ⑥リピート写真 (2)：私たちの調査グループが新たに撮影した写真の縮小画像で、季節が違う場合や、撮影地点が絞り切れなかった場合にこの欄に示した。
- ⑦リピート写真の撮影時期：私たちの調査グループが新たに撮影した写真の撮影時期。複数ある場合には、「リピート写真 (1)」を「(1) YYYY年M月」, 「リピート写真 (2)」を「(2) YYYY年M月」とした。
- ⑧リピート写真の撮影者：私たちの調査グループが新たに撮影した写真の撮影者。複数ある場合には、「リピート写真 (1)」を「(1) 氏名」, 「リピート写真 (2)」を「(2) 氏名」とした。
- ⑨場所：新旧の写真が撮影された場所を示した。現段階では、行政区分図等が確認できていないため厳密な集落の領域が不明である。本稿では、現在の衛星画像を判読し、住居が途切れずに密集している地域を、仮に「集落の中心をなす範囲」とみなした。集落の名称に関しては、『Bedouin Village』(Katakura 1977) 等、片倉の著作に見られる名称を参考に現地調査で確認がとれたものを採用した。上述のように、農地や沙漠を含めたその集落の領域がどこまで及ぶのかについては、現段階では不明であるため、農地や沙漠で撮影された写真の場所については、聞き取りで確認された地名または、最寄りの「集落の中心をなす範囲」の地名を仮に記載している。このため、ここで記載している地名は、農地や井戸等の帰属関係を表すものではなく、今後の確認が必要である。なお、表1や写真に記載されている地名は、縄田・藤本他 (2021) の図2を参照されたい。
- ⑩⑪緯度・経度：新旧の写真の撮影地点の位置情報を10進経緯度で示した。
- ⑫確度：私たちの調査グループが新たに撮影した写真が、どの程度、片倉もとこフィールド調査写真と一致しているかを、以下の基準で示した。
- 「確度の表記基準」
- A：同じ場所、同じアングルで撮影できたもの
- A'：撮影地点とアングルは判明しているが、再撮影が必要なもの
- B：撮影地点は分かったが、風景が変わり完全に同じ場所で撮影できなかったり、比較写真から完全に同じ場所、同じ向き、同じアングルであるかが確認できないもの、もしくは地形等から、場所が推定できるが遠景であるために完全に同じ場所であるかが確認できないもの
- C：だいたい同じ場所で撮影されたと推定されるもの

D：場所は違うが、被写体の建造物が特定されているもの

E：別の場所である可能性が残されているもの

- ⑬備考：特記事項があれば備考欄に記載した。備考欄に「オリジナル写真からのクローズアップ」という表記があるものについては、「2.3 残された課題」で触れたように、次回以降の調査の際にレポート写真撮影を行い、正式な新旧比較写真を撮影することを予定している。

4 おわりに——ワーディ・ファーティマ地域の景観研究におけるレポート写真撮影の意義

本研究では、サウディ・アラビア、マッカ州、ワーディ・ファーティマ地域の過去半世紀にわたる景観変化の検証を目的として、片倉もとこフィールド調査写真の撮影地点の同定およびレポート写真撮影を実施した。その結果、パノラマ合成写真を含む240シーンの写真の撮影地点が同定され、うちパノラマ合成写真を含む50シーンについてはレポート写真撮影を行うことができた。

このうち本稿では、撮影地点同定作業およびレポート写真撮影のプロセスを概説するとともに、作成した新旧比較写真の中から、被写体が女性であったこと等から現時点では非公開とした写真群を除く、ワーディ・ファーティマ地域で撮影された新旧比較写真46組を提示した。

実際に、レポート写真撮影にこぎつけるまでには、低くはないハードルがあったが、サウディ・アラビアの非都市部における半世紀の変化を視覚的に表示することができるという意味で、非常に貴重なデータセットを作成することができたと考える。

本研究においては、衛星画像との比較や、現地での聞き取り調査も踏まえて、対象地域におけるおよそ半世紀の景観変化の検証を試みているが、今回作成した新旧比較写真の一覧表は、位置情報も含み、追跡的に調査することが可能な形で提示した。片倉もとこフィールド調査写真に限らず、先人の研究者が遺したフィールド調査写真についても、レポート写真撮影により追跡可能なデータセットを作成することができれば、後世の研究者によって長期的な景観変化の検証が可能となるであろう。

本研究で作成したデータセットが私たち調査グループによる新たな研究のための基礎的資料群となると同時に、より多くの人々がアクセス可能な、現在から未来に向けた景観研究の資料となっていくことを期待したい。

参考文献

〈日本語〉

青山宏夫

2017 「博物館資料を多角的に読む——風景写真を事例に」国立歴史民俗博物館編『〈総合資料学〉の挑戦——異分野融合研究の最前線』 pp. 120-135, 東京：吉川弘文館。

縄田浩志・西尾哲夫・片倉邦雄・藤本悠子・河田尚子・古澤文・渡邊三津子・遠藤仁・石山俊
2021 「片倉もとこによるサウディ・アラビア, ワーディ・ファーティマ地域を対象とするフィールド調査写真のアーカイブ登録について」『片倉もとこフィールド調査資料の研究』西尾哲夫・縄田浩志編(国立民族学博物館調査報告153) pp. 63-86, 大阪：国立民族学博物館。

縄田浩志・藤本悠子・河田尚子・片倉邦雄・古澤文・渡邊三津子・遠藤仁・石山俊

2021 「片倉もとこによるサウディ・アラビア, ワーディ・ファーティマ地域を対象とするフィールド調査資料の学術的特徴について」『片倉もとこフィールド調査資料の研究』西尾哲夫・縄田浩志編(国立民族学博物館調査報告153) pp. 1-30, 大阪：国立民族学博物館。

浜田弘明

2007 「景観研究資料としての『渋沢フィルム』の今日的意義——韓国南部を例に」『第2回国際シンポジウム報告書「図像・民具・景観 非文字資料から人類文化を読み解く」』 pp. 220-230, 神奈川：神奈川大学。

平岡直樹

2005 「天竜川沿川における新旧写真比較からみる景観の変容に関する研究」『ランドスケープ研究』68(5): 791-794。

渡邊三津子・古澤文・遠藤仁・縄田浩志

2019 「片倉もとこのフィールド資料を読み解く」縄田浩志編『サウジアラビア, オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」』 pp. 32-33, 東京：河出書房新社。

渡邊三津子・古澤文・遠藤仁・藤本悠子・Anas Mohammed Melih・河田尚子・縄田浩志

印刷中「片倉もとこフィールド調査写真の撮影地点の同定——サウディ・アラビア, ワーディ・ファーティマ地域の景観変遷復元を目的とした写真の研究活用に向けて」『沙漠研究』。

〈外国語〉

Andron, S.

2016 Paint, Buff, Shoot, Repeat: Rephotographing Graffiti in London, In B. Campkin and G. Duijzings (eds.) *Engaged Urbanism: Cities and Methodologies*, London and New York: I. B. Tauris, pp. 139-144.

Hattersley-Smith, G.

1966 The Symposium on Glacier Mapping, *Canadian Journal of Earth Sciences* 3(6): 737-743.

Katakura, M.

1977 *Bedouin Village, A Study of a Saudi Arabian People in Transition*, Tokyo: University of Tokyo Press.

- Klett, M., E. Manchester, and J. Verburg
1984 *Second View: The Rephotographic Survey Project*. Albuquerque: University of New Mexico Press.
- Klett, M., M. Lundgren, R. Solnit, and K. Breuer
2006 *After the Ruins, 1906 and 2006: Rephotographing the San Francisco Earthquake and Fire*. Berkeley: University of California Press.
- Klett, M.
2011 Repeat Photography in Landscape Research. In E. Margolis and L. Pauwels (eds.) *The SAGE Handbook of Visual Research Methods*. London: SAGE Publications.
- Muybridge, E. and M. Klett
1990 *One City Two Visions: San Francisco Panoramas, 1878 and 1990*. Bedford: Bedford Arts.
- Rogers, G. F., H. E. Malde, and R. M. Turner
1984 *Bibliography of Repeat Photography for Evaluating Landscape Change*. Salt Lake City: University of Utah Press.
- Smith, T.
2007 Repeat Photography as a Method in Visual Anthropology. *Visual Anthropology* 20(2-3): 179-200.
- Webb, R. H., D. E. Boyer, and R. M. Turner
2010 *Repeat Photography: Methods and Applications in the Natural Sciences*. Washington, D.C.: Island Press.

参考ウェブサイト

東京国立博物館

- 2020 「古写真データベース」 https://webarchives.tnm.jp/infolib/meta_pub/G0000002070607HP
(2020年9月30日最終閲覧)











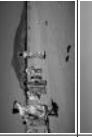


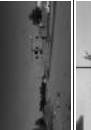




長崎大学附属図書館





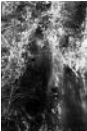
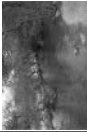












- 2020 「幕末・明治期日本古写真メタデータ・データベース」 <http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/>
(2020年9月30日最終閲覧)

University of Vermont


- 2020 The Landscape Change Program. <https://www.uvm.edu/landscape/> (accessed September 30, 2020)

表1 ワーディ・ファアティマ地域におけるリビート撮影写真の一覧



①ID 番号	②片倉もどこ フィールド調査写真	③撮影者	④撮影時期	⑤リビート写真 (1)	⑥リビート写真 (2)	⑦リビート写真の 撮影時期	⑧リビート 写真の撮影者	⑨場所	⑩緯度*	⑪経度*	⑫ 確度**	⑬備考
KM_0003		片倉もどこ	1968-1970年			2018年5月	渡邊三津子	アブ・シャイブ National Water Company が管理するタンク。地下水と湧水が淡水を混ぜて Jumm に給水する。	21.588680°N	39.699741°E	C	
KM_0435		不明	1968-1970年			2018年5月	遠藤仁	ダフ・ザイニー、ビイル・シャヒル、放棄された井戸	21.560860°N	39.679950°E	A	
KM_1201		片倉もどこ	1982年11月			2018年5月	渡邊三津子	ダフ・ザイニー、共用の水場	21.558545°N	39.680843°E	B	
KM_1225		片倉もどこ	1982年11月			2018年5月	渡邊三津子	Wadi Fatimah Poultry Farm Co.	21.572278°N	39.675479°E	C	
KM_1552		片倉もどこ	1983年			2018年5月	遠藤仁	ダフ・ザイニー	21.559471°N	39.682385°E	A	
KM_1621		片倉もどこ	1983年			2019年1月	遠藤仁	ダフ・ザイニー、学校前のグラウンド	21.560525°N	39.680939°E	A	
KM_1624		片倉もどこ	1983年			2018年5月	渡邊三津子	プシムール、泥レンガの製造場	21.568570°N	39.684620°E	C	
KM_1652		片倉もどこ	1983年			2019年1月	渡邊三津子	ダフ・ザイニー、学校の外壁	21.560525°N	39.680939°E	B	
KM_1664		片倉もどこ	1983年			2019年1月	渡邊三津子	ダフ・ザイニー、学校の外壁	21.560525°N	39.680939°E	A	

① ID 番号	②片倉もところ フィールド調査写真	③撮影者	④撮影時期	⑤レポート写真 (1)	⑥レポート写真 (2)	⑦レポート写真の 撮影時期	⑧レポート 写真の撮影者	⑨場所	⑩緯度*	⑪経度*	⑫ 精度**	⑬備考
KM_1838		片倉もところ	不明			2018年12月	遠藤仁	アル=ハイフ、 アイン・ アル=ハイフ (ハイフ の泉)	21.711686°N	39.746099°E	A	
KM_1850		片倉もところ	不明			2019年1月	渡邊三洋子	アル=ハイフ、 アイン・ アル=ハイフ (ハイフ の泉)	21.711686°N	39.746099°E	A	オリジナル写真から のクロースアップ
KM_1851		片倉もところ	不明			2018年12月	遠藤仁	アル=ハイフ、 アイン・ アル=ハイフ (ハイフ の泉)	21.711686°N	39.746099°E	B	
KM_1858		片倉もところ	不明			2018年5月	遠藤仁	アル=ハイフ、 アイン・ アル=ハイフ (ハイフ の泉)	21.711686°N	39.746099°E	A	
KM_2268, KM_2269, KM_2271		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371308°N	40.266617°E	C	オリジナル写真から のクロースアップ
KM_2270		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371308°N	40.266617°E	C	オリジナル写真から のクロースアップ
KM_2272, KM_2273, KM_2274		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371850°N	40.256800°E	A'	オリジナル写真から のクロースアップ、 シーシヤカアェ (跡) から
KM_2275, KM_2276		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371850°N	40.256800°E	A'	オリジナル写真から のクロースアップ、 シーシヤカアェ (跡) から
KM_2277, KM_2278, KM_2279, KM_2280		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371850°N	40.256800°E	A'	オリジナル写真から のクロースアップ、 シーシヤカアェ (跡) から

① ID 番号	②片倉もどこフィールド調査写真	③撮影者	④撮影時期	⑤リポート写真(1)	⑥リポート写真(2)	⑦リポート写真の撮影時期	⑧リポート写真の撮影者	⑨場所	⑩緯度*	⑪経度*	⑫精度**	⑬備考
KM_2282		片倉もどこ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371850°N	40.256800°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ、シーシヤカアフェ(跡)から
KM_2283, KM_2284		片倉もどこ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371850°N	40.256800°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ、シーシヤカアフェ(跡)から
KM_2292		片倉もどこ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371850°N	40.256800°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ、シーシヤカアフェ(跡)から
KM_2301		不明	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371850°N	40.256800°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ、シーシヤカアフェ(跡)から
KM_2302		片倉もどこ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371850°N	40.256800°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ、シーシヤカアフェ(跡)から
KM_2628		片倉もどこ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	アル=ジユムーム、フーティ・フアーティマ 社会開発センターの屋上	21.613975°N	39.698828°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ
KM_2629		片倉もどこ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	アル=ジユムーム、フーティ・フアーティマ 社会開発センターの屋上	21.613975°N	39.698828°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ
KM_2634		片倉もどこ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	アル=ジユムーム、フーティ・フアーティマ 社会開発センターの屋上	21.613975°N	39.698828°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ
KM_2994		片倉もどこ	1968-1970年			1) 2018年5月9日 2) 2018年5月	1) 渡邊三津子 2) 遠藤仁	農地	21.576250°N	39.680340°E	C	

① ID 番号	②片倉もところ フィールド調査写真	③撮影者	④撮影時期	⑤レポート写真 (1)	⑥レポート写真 (2)	⑦レポート写真の 撮影時期	⑧レポート 写真の撮影者	⑨場所	⑩緯度*	⑪経度*	⑫ 精度**	⑬備考
KM_3231		片倉もところ	1968-1970年			2018年5月	遠藤仁	ダブ・ザイニー	21.559110°N	39.681830°E	B	
KM_3234		片倉もところ	1) 1968-1970年 2) 2003年			2018年5月	遠藤仁	ダブ・ザイニー	21.558820°N	39.681530°E	B	
KM_3305		片倉もところ	1968-1970年			2019年12月	遠藤仁	アル=ハイフ、アイン・ アル=ハイフ (ハイフ の泉)	21.711629°N	39.745968°E	A'	
KM_3306		片倉もところ	1968-1970年			1) 2018年5月 2) 2018年12月	1) 遠藤仁 2) 渡邊三津子	アル=ハイフ、アイン・ アル=ハイフ (ハイフ の泉)	21.711629°N	39.745968°E	A	
KM_3307		片倉もところ	1968-1970年			1) 2019年9月 2) 2020年9月	1) 遠藤仁 2) 渡邊三津子	アル=ハイフ、アイン・ アル=ハイフ (ハイフ の泉)	21.711629°N	39.745968°E	A	
KM_3308		片倉もところ	1968-1970年			2018年5月	遠藤仁	アル=ハイフ、アイン・ アル=ハイフ (ハイフ の泉)	21.711629°N	39.745968°E	A	
KM_3309		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月	遠藤仁	アル=ハイフ、アイン・ アル=ハイフ (ハイフ の泉)	21.711629°N	39.745968°E	A	
KM_3363		片倉もところ	1968-1970年			1) 2019年9月19日 2) 2019年9月19日	1), 2) 遠藤仁	アル=ジュムーム、市 庁舎の玄関前	21.613436°N	39.699778°E	B	
KM_4806		片倉もところ	1969年			2019年9月	遠藤仁	アル=ジュムーム、ワ ーディ・フアーティマ 社会開発センターの屋 上	21.613975°N	39.698828°E	B	

①ID 番号	②片倉もどこ フィールド調査写真	③撮影者	④撮影時期	⑤リポート写真 (1)	⑥リポート写真 (2)	⑦リポート写真の 撮影時期	⑧リポート 写真の撮影者	⑨場所	⑩緯度*	⑪経度*	⑫ 精度**	⑬備考
KM_4808		片倉もどこ	1969年			2019年9月	遠藤仁	アル=ジュムーム、フ ーティ・フアーティマ 社会開発センターの屋 上	21.613975°N	39.698828°E	B	
KM_5409		片倉もどこ	1988年2月20日			2018年5月	遠藤仁	アル=ジュムーム、フ ーティ・フアーティマ 社会開発センターの正 門前	21.613300°N	39.699100°E	A	
KM_5466		片倉もどこ	1988年2月			2018年5月	渡邊三津子	アル=ジュムーム、ハ ッタ道路脇のセントビ ット	21.549036°N	39.647891°E	C	
KM_5509		片倉もどこ	1988年2月			2019年1月	遠藤仁	プシユール、マズジド (モスク) 前の商店	21.569847°N	39.688205°E	B	
KM_5519		片倉もどこ	1988年2月			2019年1月	遠藤仁	プシユール、マズジド (モスク) 前の通り	21.569490°N	39.686650°E	A	
KM_5522		片倉もどこ	1988年2月			2019年1月	渡邊三津子	プシユール、マズジド (モスク) 前の通り	21.569490°N	39.686650°E	C	
KM_5526		片倉もどこ	1988年2月			2019年1月	遠藤仁	プシユール、マズジド (モスク) 前の通り	21.569490°N	39.686650°E	C	
KM_5579		不明	1968-1970年			2018年5月	遠藤仁	ダフ・ザイニー、放棄 された井戸	21.560860°N	39.679950°E	A	
KM_6761		片倉もどこ	不明			2018年5月	遠藤仁	プシユール、墓地	21.573310°N	39.695410°E	C	要再確認

① ID 番号	②片倉もところ フィールド調査写真	③撮影者	④撮影時期	⑤リポート写真 (1)	⑥リポート写真 (2)	⑦リポート写真の 撮影時期	⑧リポート 写真の撮影者	⑨場所	⑩緯度*	⑪経度*	⑫ 精度**	⑬備考
KM_14442		片倉もところ	1983年			2019年	遠藤仁	ダフ・ザイニー	21.558820°N	39.681530°E	A	

*位置情報 (緯度・経度)

位置情報は、GARMIN 社の GPS (Oregon 550, eTrex 20x) を用いて取得した。これらの精度は、約 3m となっている。現地で位置情報が取得できなかった、KM_0003, KM_1652, KM_1664, KM_2628, KM_2629, KM_2634, KM_4806, KM_4808) に関しては、Google Earth を用いて撮影地を割り出し、緯度・経度情報を取得した。なお、これらの位置情報の表記は、国土交通省等が提供する国土数値情報に準拠して、10進経緯度、小数点以下 6 桁で統一した。

**精度の判定基準

A: 同じ場所同じアングルで撮影できたもの

B: 撮影地点とアングルは判明しているが、再撮影が必要なもの

C: 撮影地点は分かっているが、風景が変わり完全に同じ場所であるか確認できないもの
D: 撮影地点は完全に同じ場所であるか確認できないもの

E: 別の場所である可能性が残されているもの

A: 同じ場所同じアングルで撮影できたもの、もしくは地形などから、場所が確定でき



(a) 撮影：片倉もところ、1968-1970年、アブー・シャイブ、KM_0003 (b) 撮影：渡邊三津子、2018年5月、アブー・シャイブ

写真3 アブー・シャイブの地下水と海水淡水化水の混合タンク



(a) 撮影：不明、1968-1970年、ダフ・ザイニー、KM_0435 (b) 撮影：遠藤仁、2018年5月、ダフ・ザイニー

写真4 ダフ・ザイニー村のはずれに位置する井戸（ビル・シャーヒル）

タナカ（一斗缶）を頭に乗せて井戸に歩み寄る後ろ姿の女性は片倉もところ。写真46のカラー写真のモノクロ版。なお、この場合の「ダフ・ザイニー村」とは、この井戸から最寄りの「集落の中心をなす範囲」（181頁参照）の名称を示しており、被写体（井戸）の帰属関係を示すものではない。



(a) 撮影：片倉もところ、1982年11月、ダフ・ザイニー、KM_1201 (b) 撮影：渡邊三津子、2018年5月、ダフ・ザイニー

写真5 ダフ・ザイニー村の共用水場



(a) 撮影：片倉もところ，1982年11月，ダフ・ザイニー，KM_1225 (b) 撮影：渡邊三津子，2018年5月，ダフ・ザイニー

写真6 養鶏場

敷地の外から撮影したため、厳密な場所の特定ができていない



(a) 撮影：片倉もところ，1983年，ダフ・ザイニー，KM_1552

(b) 撮影：遠藤仁，2018年5月，ダフ・ザイニー

写真7 ダフ・ザイニー村の道



(a) 撮影：片倉もところ，1983年，ダフ・ザイニー，KM_1621

(b) 撮影：遠藤仁，2019年1月，ダフ・ザイニー

写真8 ダフ・ザイニー村の学校前のグラウンド



(a) 撮影：片倉もとこ，1983年，ブシュール，KM_1624
写真9 ブシュール村のはずれの泥レンガ製造場



(b) 撮影：渡邊三津子，2018年5月，ブシュール



(a) 撮影：片倉もとこ，1983年，ダフ・ザイニー，
KM_1652

写真10 ダフ・ザイニー村の学校の外壁



(b) 撮影：渡邊三津子，2019年1月，ダフ・ザイニー



(a) 撮影：片倉もとこ，1983年，ダフ・ザイニー，
KM_1664

写真11 ダフ・ザイニー村の学校の外壁



(b) 撮影：渡邊三津子，2019年1月，ダフ・ザイニー



(a) 撮影：片倉もとこ，不明，アル＝ハイフ，KM_1838
写真12 アイン・アル＝ハイフ（アル＝ハイフ村の泉）

(b) 撮影：遠藤仁，2018年12月，アル＝ハイフ



(a) 撮影：片倉もとこ，不明，アル＝ハイフ，KM_1850

(b) 撮影：遠藤仁，2018年12月，アル＝ハイフ

写真13 アイン・アル＝ハイフ（アル＝ハイフ村の泉）



(a) 撮影：片倉もとこ，不明，アル＝ハイフ，KM_1851
写真14 アイン・アル＝ハイフ（アル＝ハイフ村の泉）

(b) 撮影：遠藤仁，2018年12月，アル＝ハイフ



(a) 撮影：片倉もとこ，不明，アル=ハイフ，KM_1858
写真15 アイン・アルハイフ（アル=ハイフ村の泉）

(b) 撮影：遠藤仁，2018年5月，アル=ハイフ



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ターイフ，KM_2268・KM_2269・KM_2271



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ
写真16 ターイフ市のはずれの道路から
写真17と同じ場所から撮影されたもの



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ターイフ，KM_2270



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ

写真17 ターイフ市のはずれの道路から
写真16と同じ場所から撮影されたもの



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ターイフ，
KM_2272・KM_2273・KM_2274



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ

写真18 ターイフ市のシーシャカフェ（跡）から

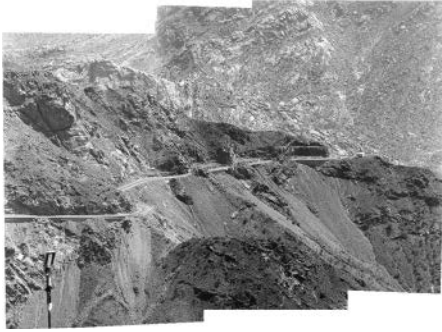


(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ター
イフ，KM_2275・KM_2276



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ

写真19 ターイフ市のシーシャカフェ（跡）から



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ターイフ，
KM_2277・KM_2278・KM_2279・KM_2280
写真20 ターイフ市のシーシャカフェ（跡）から



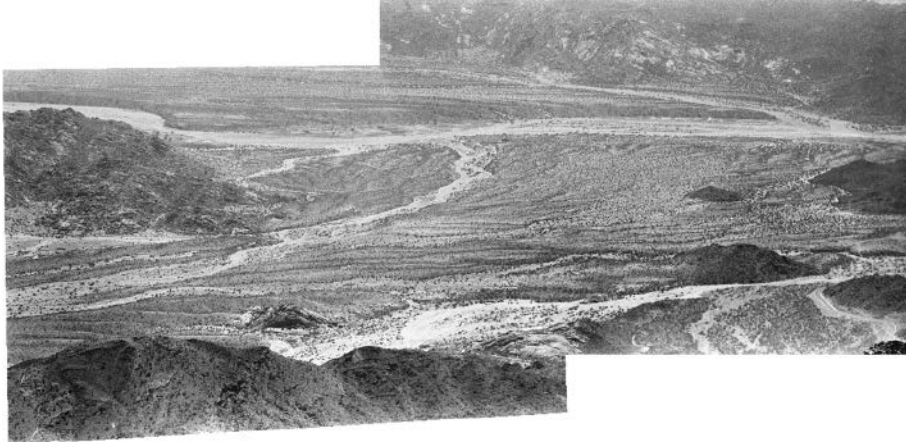
(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ターイフ，
KM_2282
写真21 ターイフ市のシーシャカフェ（跡）から



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ターイフ，KM_2283・KM_2284



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ
写真22 ターイフ市のシーシャカフェ（跡）から



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ターイフ，
KM_2292
写真23 ターイフ市のシーシャカフェ（跡）から



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ



(a) 撮影：不明，1968-1970年，ターイフ，KM_2301
写真24 ターイフ市のシーシャカフェ（跡）から
(a) の写真の左は片倉邦雄，右は片倉もとこ



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ターイフ，
KM_2302
写真25 ターイフ市のシーシャカフェ（跡）から



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，アル＝ジュムーム，
KM_2628



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル＝ジュムーム
写真26 アル＝ジュムーム，ワーディ・ファーティマ社会開発センターの屋上から



(a) 撮影：片倉もところ，1968-1970年，アル=ジュムーム，KM_2629 (b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル=ジュムーム

写真27 アル=ジュムーム，ワーディ・ファーティマ社会開発センターの屋上から



(a) 撮影：片倉もところ，1968-1970年，アル=ジュムーム，KM_2634 (b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル=ジュムーム

写真28 アル=ジュムーム，ワーディ・ファーティマ社会開発センターの屋上から



(a) 撮影：片倉もところ，1968-1970年，ダフ・ザイニー付近，KM_2994



(b) 撮影：遠藤仁，2018年5月，ダフ・ザイニー付近



(b') 撮影：渡邊三津子，2018年5月，ダフ・ザイニー付近

写真29 ダフ・ザイニー村付近の農地

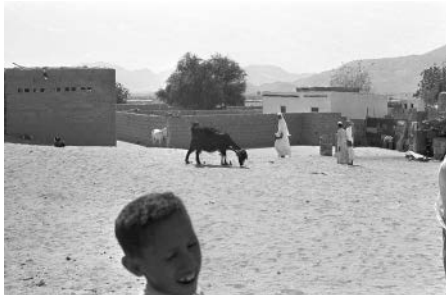


(a) 撮影：片倉もところ，1968-1970年，ダフ・ザイニー，KM_3231



(b) 撮影：遠藤仁，2018年5月，ダフ・ザイニー

写真30 ダフ・ザイニー村の道路



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ダフ・ザイニー，KM_3234



(b) 撮影：片倉もとこ，2003年，ダフ・ザイニー，KM_14442



(c) 撮影：遠藤仁，2018年5月，ダフ・ザイニー

写真31 ダフ・ザイニー村にて

(a) の写真の少年と (c) の写真の男性は同一人物 (アリー・ザイニー氏)



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，アル＝ハイフ，KM_3305



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル＝ハイフ

写真32 アイン・アル＝ハイフ (アル＝ハイフ村の泉)



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，アル=ハイフ，
KM_3306



(b) 撮影：遠藤仁，2018年5月，アル=ハイフ



(b') 撮影：渡邊三津子，2018年12月，アル=ハイフ

写真33 アイン・アル=ハイフ（アル=ハイフ村の泉）



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，アル=ハイフ，
KM_3307



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル=ハイフ

写真34 アイン・アル=ハイフ（アル=ハイフ村の泉）



(a) 撮影：片倉もところ、1968-1970年、アル=ハイフ、
KM_3308



(b) 撮影：遠藤仁、2019年9月、アル=ハイフ

写真35 アイン・アル=ハイフ (アル=ハイフ村の泉)



(a) 撮影：片倉もところ、1968-1970年、アル=ハイフ、
KM_3309



(b) 撮影：遠藤仁、2019年9月、アル=ハイフ

写真36 アイン・アル=ハイフ (アル=ハイフ村の泉)



(a) 撮影：片倉もところ、1968-1970年、アル=ジュムーム、
KM_3363



(b) 撮影：遠藤仁、2019年9月、アル=ジュムーム

写真37 アル=ジュムーム市庁舎の玄関前



(a) 撮影：片倉もところ，1969年，アル＝ジウムーム，KM_4806 (b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル＝ジウムーム

写真38 アル＝ジウムーム，ワーディ・ファーティマ社会開発センターの屋上から



(a) 撮影：片倉もところ，1969年，アル＝ジウムーム，KM_4808 (b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル＝ジウムーム

写真39 アル＝ジウムーム，ワーディ・ファーティマ社会開発センターの屋上から



(a) 撮影：片倉もところ，1988年2月，アル＝ジウムーム，KM_5409 (b) 撮影：遠藤仁，2018年5月，アル＝ジウムーム

写真40 アル＝ジウムーム，ワーディ・ファーティマ社会開発センターの正門



(a) 撮影：片倉もところ，1988年2月，アル＝ジュムームとハッダの間の道路脇，KM_5466



(b) 撮影：渡邊三津子，2018年5月，アル＝ジュムームとハッダの間の道路脇

写真41 アル＝ジュムームとハッダ間の道路脇のサンドピット



(a) 撮影：片倉もところ，1988年2月，ブシュール，KM_5509



(b) 撮影：遠藤仁，2019年1月，ブシュール

写真42 ブシュール村の masjid (モスク) 前の商店



(a) 撮影：片倉もところ，1988年2月，ブシュール，KM_5519



(b) 撮影：遠藤仁，2019年1月，ブシュール

写真43 ブシュール村の masjid (モスク) 前の通り



(a) 撮影：片倉もとこ，1988年2月，ブシュール，
KM_5522



(b) 撮影：渡邊三津子，2019年1月，ブシュール

写真44 ブシュール村のマスジド（モスク）前の通り



(a) 撮影：片倉もとこ，1988年2月，ブシュール，
KM_5526



(b) 撮影：遠藤仁，2019年1月，ブシュール

写真45 ブシュール村のマスジド（モスク）前の通り



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ダフ・ザイニ
ー，KM_5579



(b) 撮影：遠藤仁，2018年5月，ダフ・ザイニ
ー

写真46 ダフ・ザイニー村のはずれに位置する井戸（ビイル・シャーヒル）

タナカ（一斗缶）を頭に乘せて井戸に歩み寄る後ろ姿の女性は片倉もとこ。写真4のモノクロ写真のカラー版（オリジナルの写真はカラー）。なお、この場合の「ダフ・ザイニー村」とは、この井戸から最寄りの「集落の中心をなす範囲」（181頁参照）の名称を示しており、被写体（井戸）の帰属関係を示すものではない。



(a) 撮影：片倉もところ、不明、ブシュール、KM_6761
写真47 ブシュール村の墓地



(b) 撮影：遠藤仁、2018年5月、ブシュール



(a) 撮影：片倉もところ、1983年、ダフ・ザイニー、KM_14442

写真48 ダフ・ザイニー村

写真31とほぼ同じ地点で撮影されたもの



(b) 撮影：遠藤仁、2019年1月、ダフ・ザイニー

ワーディ・ファーティマ 8 mm 映像と 片倉もとこインタビュー

藤本悠子¹⁾・渡邊三津子¹⁾²⁾・縄田浩志¹⁾³⁾

1) 片倉もとこ記念沙漠文化財団, 2) 奈良女子大学, 3) 秋田大学

1 半世紀前のサウディ・アラビアにおける写真映像とその取扱い

人類学者による映像撮影という表現は、近代人類学の誕生とともに試みられてきたが、その制作方法や形式について、撮影者と被撮影者の非対称的な関係等、評価と批判が重ねられてきた(田沼 2018)。

2018年に35年ぶりに映画館が解禁されたばかりのサウディ・アラビアにおいても、過去の民族誌的映像を文化遺産として評価する動きは今後さらに加速していくであろう。その流れをふまえ、片倉もとこがおよそ半世紀前に記録した映像に着目することは有意義であると考えられる。

当時の社会において、現地の人々がカメラをむけられることは、以下の片倉の記述からも、大変希少なことであったと推測される。

…写真を喜ぶ人が多いところでは、ポラロイド等で、一家の写真を、各々の住居の前で撮って、すぐその写真をみせて喜ばせるというような方法もとれる。住居とそこに住む家族の顔を一挙に憶えられるから、こちらとしても有難い。しかし、アラビア半島では、この方法はとれなかった。写真に対するインヒビションは強く、仮に、写真をとらせてくれる者がいても、家族一緒にということは絶対ない。妻と夫が共に写真をとらないのは、一時代昔の日本以上である。女の写真はほとんどタブーである(片倉他 1977: 40)。

2 片倉もとこのワーディ・ファーティマにおけるフィールド調査映像資料

半世紀前のサウディ・アラビア、ワーディ・ファーティマ地域を記録した片倉もとこの資料のなかで、映像は1点しか確認されていない(2020年9月現在)。8 mm フィルムで4,842フレーム分あり、音声はないが、動きがある貴重な研究資料である。何より写真と比較して、片倉の調査の様子や人々との交流を感じ取ることができる点で価値が高い。片倉自筆のメモから1960年代末に撮影されたことがわかる。

アラムコ・片倉沙漠文化協賛金の事業として、フィルム映像を東京光音株式会社を通じてプレスキャンしたところ、メモの通り、エジプト、サウディ・アラビア、日本で撮影された映像が記録されていることが確認でき、正式にスキャン・色補正を行った。

その結果、サウディ・アラビアに関する映像も、いくつかのシーンが繋ぎ合わされていることが分かった。シーンは大別すると、①ブシュール村の井戸と景観、②ナツメヤシの農地と水路、③農地の脇のロバヤトリの巣、④農業従事者に聞き取りをする片倉もとこの様子、⑤ワーディ・ファーティマ社会開発センターから見た風景、⑥タンクに水を貯める配水車、である。

2.1 映像と写真の対照による撮影地・被写体の特定

この映像と片倉の撮影写真を対照することにより、個々の撮影地や被写体を特定することができた。

写真1は、(a) 8mmビデオの1分19秒～1分21秒にかけて写り込んでいるブシュール村、ダフ・ザイニー村近郊のハッダとアル＝ジュムーム間の道路の北側付近の農地の映像と、ほぼ同地点でレポート写真撮影（渡邊他 2021）を行った現在の写真（b）である。新旧の写真を比較してみると、1960年代には農地があったが、現在放棄されてしまっていることが分かる。

写真2は、8mmビデオの(a) 0分54秒と(b) 1分45秒に写り込んでいる水利施設と、フィールド調査写真を対照させたものである。同地点、同アングルの写真はなかったものの、写真2aの水利施設で聞き取り調査を行う片倉もとこ（写真2d）等、いくつかの被写体に共通点を見出すことができ、ビデオ映像とフィールド調査写真が、ハッダとアル＝ジュムーム間の道路北側付近の農地（1968～1970年当時）で撮影されたものである可能性が高いと推定される。

写真3は、ワーディ・ファーティマ社会開発センターの屋上から撮影された1970年頃の8mm映像（写真3a）と、ほぼ同じアングル、同じスピードで撮影した現在の映像（写真3b）をパノラマ画像に加工して、比較したものである。新旧の映像の比較から、



(a) 8mmビデオ映像から作成したパノラマ合成画像（撮影：片倉もとこ、1968-1970年、ブシュール、ダフ・ザイニー近郊、8mmビデオ1分19秒～1分21秒）



(b) 新たに撮影した(a)のレポート撮影写真（撮影：遠藤仁、2019年9月、ブシュール、ダフ・ザイニー近郊）

写真1 ブシュール、ダフ・ザイニー近郊のハッダとアル＝ジュムームを結ぶ道路北側の農地跡の新旧比較画像
8mmビデオ映像から作成したパノラマ合成画像と、私たちの調査グループが新たに撮影した写真の
新旧比較画像。ただし、フィールド調査写真の撮影地点は、現在私有地となっていたため立ち入るこ
とが出来ず、厳密には同じ場所ではないが、新旧の景観を比較する際に支障はないと判断した。



(a) 8mmビデオ映像から抽出した1コマ（撮影：不明，1968-1970年，ブシュール，ダフ・ザイニー近郊，8mmビデオ0分54秒）



(b) 8mmビデオ映像から抽出した1コマ（撮影：不明，1968-1970年，ブシュール，ダフ・ザイニー近郊，8mmビデオ1分45秒）



(c) 灌漑水利利用の水管（撮影：片倉もとこ，不明，ブシュール，ダフ・ザイニー近郊，KM_2048）



(d) 水利施設について聞き取りをする片倉もとこ（撮影：不明，1968-1970年，ブシュール，ダフ・ザイニー近郊，KM_2548）



(e) 農地と灌漑水利施設の遠景（撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ブシュール，ダフ・ザイニー近郊，KM_2556）

写真2 ブシュール，ダフ・ザイニー近郊のハッタとアル＝ジュムームを結ぶ道路北側付近のビデオ映像と片倉フィールド調査写真の比較

(c) ~ (e) 片倉もとこ，もしくは同行者が撮影したフィールド調査写真



(a) 8mmビデオ映像から作成したパノラマ合成画像（撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ワーディ・ファータマ社会開発センター屋上）



(b) デジタルビデオ映像から作成したパノラマ合成画像（撮影：遠藤仁・渡邊三津子，2019年9月，ワーディ・ファータマ社会開発センター屋上）

写真3 ワーディ・ファータマ社会開発センター屋上から撮影された8mmビデオ映像と現在のデジタルビデオ映像の比較（作成：渡邊三津子）

アル＝ジュムームの街並みの変化を読み取ることが出来る。また、同地点から撮影された何枚かの写真の撮影範囲を特定し、新旧比較写真のセットを作成することができた（渡邊他 2021）。

2.2 映像と写真の対照による被写体人物の特定

フィルム映像の撮影者について、片倉もとこ自身が調査している様子が写りこんでいることから、現地調査に随行していったこともあった夫・片倉邦雄である可能性が考えられるが、確定はできなかった。なお、片倉邦雄によれば、映像のなかで確認できる車は現地の農林水産省のもので、調査において支援を受けていたことがうかがえる。

3 片倉もとこのインタビュー映像と調査映像との対照

もう一つの映像資料として、2006年に片倉もとこがサウジアラムコから受けたインタビュー映像がある（写真4、サウジアラムコ 2006）。以下はインタビューにおける語りを書き起こしたものである。なお、【 】は製作者がつけたタイトルで、（ ）は筆者らによる補足内容である。

【サウディ・アラビアとの出会い】

うちのおっちゃんがね、ハズバンド（husband）だけど、あの人が外務省に入っていましたから、外務省からサウディ・アラビア勤務を命じられたんですよ。それでみんな、「わー、気の毒に、サウディ・アラビアだって」って感じだったんだけど、私はもう、「わー



写真4 インタビューに答える片倉もとこ（出典：サウジアラムコ 2006）

い、まあうれしい！」と思ってね。私たちはなんか異国っていうとアメリカとかヨーロッパとか思ってたんだけど、ここが異国じゃないの、ほんとにエキゾチックじゃないかと思いました。

【サウディ・アラビアの女性】

サウディ・アラビアに行って現地調査をしたいとか、そんなことを言ったら、そんなことは物理的に無理だってみんなに言われた。だいたい女がそんなことできるわけない、っていうんでね。サウディ・アラビアに行って、私は女に生まれてよかったって初めて思ったの。なぜかっていうとね、女だから中に入れてくれたんですよ。その調査に行ったときもね。もちろん私この黒いの（外着アバーヤのこと）をかぶって。

【もてなしと思いやり】

やさしいっていうか、「みんなで分け合いましょう」って、そういう風な感じが人々の間にあるっていうことね。これ、ものすごい私は魅力だと思うわね。

【イスラーム】

とってもそういう（宗教という）点ではおおらか。私のような異教徒を受け入れてくれて。それでね、断食の時なんかね、私一人だけ食べるっていうのね、,, だったから、いま断食月だけどね、いやー、私も一緒に断食するなんていって、ちょっとしたりしたんですよ。そしたらね、はじめ「あんたは別にイスラーム教徒じゃないんだから、食べないよね。それでなんかお勉強とやらっていうのをしてるんだから、ちゃんとやってないと倒れるよ」なんていって（食べ物）持ってきてくれたりね。

イスラーム教徒の人が日本に来てね、日本人はイスラームを「分からない」とか「イスラームなんか」って言っているんだけど、見て、こうやってる（生活している）のをみたらとてもイスラーム的だよね、なんていう人もいますよ。敬うっていうかね、儒教的な、そういう感じもありますしね。結構思いきって中に入って（暮らして）みれば、同じようになっているか、共通点みたいなのがずいぶんあるんですよ。

【二都物語～日本とサウディ・アラビア～】

アラビアっていうのは、アフリカ大陸、それからヨーロッパ大陸、アジア大陸、その3つの大きな大陸の結節点のあたりにいる人だから、人間っていうのはみんな違って、顔形も違ってするように考え方も違うし、いろんなことが違うのが当たり前だと思うわけね。そこが日本人は、私もあなたと同じようにします、っていうんで受け入れてもらおうと思っちゃったりするんだけど。違ってることが当然だっていう。

（サウディ・アラビアの人々の特徴は）とても情が深いこと。私ね、日本人もね、情の豊かな国民だと思っているんですよ。理屈抜きの方がどっちかっていえば好きでね。理詰めでイエス、ノー、こう、っていうよりは、まあまあまあ、そこらへんでまあちょっと手を打とうじゃありませんか、とかね。まあそれは水に流して、ってところがあるでしょ。

【礎】

(日本とサウディ・アラビアの礎になるのは、) 一言でいえば文化ですよね。文化の力をもっとあげていくっていうか、お互いにお互いの文化を知ってということなんだけど。日本の方は、向こうの人たちにも、人々のレベルでだけれども、いろんなものを持って行ったりして、よく努めていると思うんですよね。

【未来への架け橋】

でも、(サウディ・アラビアは) もうちょっと愛嬌を振りまいてもらってもいいんじゃないかと、私は思いますよね (笑)。まあ、日本の方だってもっと努力しなくちゃいけないと思いますけどね。

以上の通り、サウディ・アラビアに入り現地調査を実施するまでの困難を率直に振り返っており、現地の女性に受け入れられた理由として、「サウディ・アラビアに行って、私は女に生まれてよかったって初めて思ったの。なぜかっていうとね、女だから中に入れてくれたんですよ。その調査に行ったときもね。もちろん私この黒いのかぶって」と語っている。「女性の世界」と彼女たちのたくましさを肌で感じたことにより、生きいきと日常の文化を記述することができたと推測できる。

また、現地のもてなしの文化や異文化に対する姿勢についても触れられている。日本人の異文化への同調性とアラビアの異文化への姿勢との相違点をとらえつつ、双方の他者を敬う文化の共通点についても指摘する等、比較文明としての考察の一端が理解できる(藤本・渡邊 2019)。

半世紀前の調査映像からは、その映像を記録した意図や片倉自身の考えは明示されていないが、本インタビュー映像と対照することで、被調査者と全人的にかかわりながら、調査者として客観的にみつめる視点をもって調査にあたっていたといえるだろう。

4 画像・映像資料の公開と一般社会の反響

企画展示で披露された画像・映像資料を、一般社会はどのように受けとめたのか。国立民族学博物館が回収しているアンケートの「印象に残った展示や資料がありましたら、コーナー名や展示資料名、理由を述べてください」という設問には、以下のような内容があった：「数々の貴重な写真と半世紀前の映像」、「写真(遊ぶ子供たち)」、「民族衣装をつけた女子たちの写真」、「顔を隠している写真」、「女性の服や写真」、「1970年代の写真は大変貴重だと思う」、「写真の使用に関する承諾について細かく説明にあったことに感心しました」。他にも特に映像が印象的であったという回答が7件あった(写真5)。

このように、本企画展示において、初公開された片倉もとこフィールド調査資料のうち、画像・映像資料は、日本の一般社会の興味を引き出すことに成功したと考えられる。



写真5 国立民族学博物館企画展示会場の映像展示の様子（2019年6月遠藤仁撮影）

参考文献

片倉もとこ・佐藤信行・青柳清孝

1977 『文化人類学——遊牧・農耕・都市』東京：八千代出版。

田沼幸子

2018 「映像と人類学」桑山敬己・綾部真雄編著『詳論 文化人類学』pp. 313-329, 京都：ミネルヴァ書房。

藤本悠子・渡邊三津子

2019 「ワーディ・ファーティマ 8mm 映像と片倉もとこインタビュー」縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」』p. 164, 東京：河出書房新社。

渡邊三津子・古澤文・遠藤仁・片倉邦雄・藤本悠子・河田尚子／アナス・ムハンマド・メレー／石山俊・縄田浩志

2021 「片倉もとこフィールド調査写真によるリピート写真撮影と新旧比較写真の作成」『片倉もとこフィールド調査資料の研究』西尾哲夫・縄田浩志編（国立民族学博物館調査報告153）pp. 173-208, 大阪：国立民族学博物館。

映像資料

サウジアラムコ

2006 『架け橋』 (DVD)

Senri Ethnological Reports (最新号)

当館のウェブサイトにてバックナンバーのPDFをダウンロードすることができます。

<https://minpaku.repo.nii.ac.jp/>

- No.152 Sur la notion de culture populaire au Moyen-Orient: Approches franco-japonaises croisées (2020; eds. Dominique Casajus, Tetsuo Nishio, François Pouillon and Tsuyoshi Saito; フランス語)
- No.151 Исследователь Монголии А.Д.Симуков: письма, дневники, документы (2021; Сост. Юки Коанага, Наталия Симуко; ロシア語)
- No.150 客家族群與全球現象——華僑華人在「南側地域」的離散與現況 (2020; 河合洋尚・張維安編; 中国語)
- No.149 世界の捕鯨文化——現状・歴史・地域性 (2019; 岸上伸啓編; 日本語)
- No.148 カクチケル年代記 (2019; 八杉佳穂著; 日本語・英語・スペイン語・カクチケル語)
- No.147 台湾原住民の姓名と身分登録 (2019; 野林厚志・松岡 格編; 日本語・中国語)
- No.146 *Satawalese Cultural Dictionary* (2018; comp. Sauchomal Sabino, Tomoya Akimichi, Shuzo Ishimori, Ken'ichi Sudo, Hiroshi Sugita, and Ritsuko Kikusawa, ed. Lawrence A. Reid; 英語・サタワル語)
- No.145 展覧会の研究「ラテンアメリカの音楽と楽器」展 アンケート調査を中心として (2018; 山本紀夫著; 日本語)
- No.144 社会主义制度下的中国饮食文化与日常生活 (2018; 河合洋尚・刘 征宇編; 中国語・日本語・英語)
- No.143 *How Do Biomedicines Shape People's Lives, Socialities and Landscapes?* (2017; eds. Akinori Hamada and Mikako Toda; 英語)
- No.142 中国における歴史の資源化の現状と課題 (2017; 塚田誠之・河合洋尚編; 日本語・中国語)
- No.141 アーミッシュたちの生き方——エイジ・フレンドリー・コミュニティの探求 (2017; 鈴木七美; 日本語)
- No.140 国立民族学博物館収蔵「ホビ製」木彫人形資料熟覧 ソースコミュニティと博物館資料との「再会」1 (2017; 伊藤敦規編; 日本語・英語)
- No.139 財団法人日本民族学協会附属民族学博物館 (保谷民博) 旧蔵資料の研究 (2017; 飯田 卓・朝倉徹夫編; 日本語)
- No.138 学校と博物館でつくる国際理解教育のワークショップ (2016; 上羽陽子・中牧弘允・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄編; 日本語)

[国立民族学博物館刊行物審査委員会]

吉田 憲司 館長
平井京之介 副館長
關 雄二 副館長
園田 直子 人類基礎理論研究部
宇田川妙子 超域フィールド科学研究部
福岡 正太 人類文明誌研究部
三尾 稔 グローバル現象研究部
野林 厚志 学術資源研究開発センター (研究出版委員長)

令和 3 年10月29日発行

国立民族学博物館調査報告 153

編 著 西 尾 哲 夫
繩 田 浩 志

発 行 大学共同利用機関法人
人間文化研究機構
国立民族学博物館
〒565-8511 吹田市千里万博公園10-1
TEL.06(6876)2151(代表)

印 刷 株式会社 遊文舎
〒532-0012 大阪市淀川区木川東4-17-31
TEL.06(6304)9325(代表)
